法ニヨリコノ所ニテ行ハルヘシ。マタ浴室ノ他患者待合所研究及ヒ治療ニ關スル一室、手術室、及ヒラボラトリーヲ必要トシ、コヽニテ凡テ必要ナル物品ヲ貯フル事トス。上記ノ諸室ハ病院ノ大サ即チ收容患者ノ數ニヨリテ、增加又ハ擴張スヘキ事明也。コレラノ室ニ於テハ、又死亡者ノ病理解剖研究ノ設備ヲナス事必要ナルヘシ。而シテ之レニ相應スル解剖室、及ヒ顯微鏡的診斷ニ對スルラボラトリーモ必要トス又如何ナル場合ニモ死體ノ保存室ハ設ケラレサルヘカラス。

病院ノ多少大ナル場合ニ常ニ缺クヘカラスサル一家屋ハ指揮及ヒ管理ノタメノ一局ニシテ普通本館ト名ツケラル、モノ之也。コノ中ニハ必要ニ應シ多數ノ醫員及ヒ事務員ノ住宅設ケラルヘク、コノ建物ニ已ニ述ヘシ治療所ト共ニカ、若クハ、必要ノ場合ニハ庖厨、洗濯場、又ハ機械館ト共ニ一ツノ合成建物ニ聯合セラレ得ヘシ。病院附屬ノ工場、雇勞働者ノ住所及ヒ自己農業ヲ行フ場合ニ於テ之レニ必要ナル建物等ハ、病院ノ建物ヲトリマキテ存在スルヲ可トス。

若シ慢性結核ニシテコノ病院ニ收容スヘシトセハ、特別ノ家屋ヲ要スヘシト雖モ必スシモ別個ノ敷地ヲ必要トセス。只凡テノ帶菌物ハ消毒ノ後、屋外ニ搬出スル樣ノ注意ヲトレハ可ナリ。如何ナル場合ニ於テモ慢性結核ハ慢性病中ニ入ルヘク、決シテ輕患者中ニ數フヘカラス。

建物ヲ患者ノ男女ニヨリ特ニ最モ嚴重ニ分ツ事ハ、缺クヘカラス。カヽル種類ノ患者ニ在リテハ、特ニ風紀問題上割然タル區別ヲ要スルナリ。

大ナル病院、及ヒ己ニ二百乃至四百ノ病床ヲ有スル病院ニアリテハ、最近ノ癲狂院ノナス所ニ倣ヒ、一ノ娯樂室ヲ設クルヲ可トス。コレ單ニ社會的人道的ノ願望ニスキシ。勿論高價ナル建物ヲ要セス。只容易ク舞臺トナシ得ヘキ高段ヲ有スル大室ト二三ノ附屬室トアレハ足レリ、コノ建物ハ病院內ニ住居スル人々ニシテ運動ノ自由ヲ有スル者ニ對シ、祝祭ノ際ニオケル集會所トナリ、宗教的儀式ノ行ハル、場所トナリ、又興味アリ、教訓ニ富ム講演並ニ演奏會場トナル也。思慮アル病院長ハ、コノ設備ヲ缺ク事ヲ敢テセサルヘシ。特ニコノ病院ノ淋シキ田舍ニ存スル場合ニ於テ然ルヘキ也。マタコノ室ハ、或ハ運動シ得ヘキ患者ノ食堂トモナルヘクコノ建物ニシテ庖厨ノ附近ニ存セサラムニハ、カノ附屬室ハマタコノ目的ニ使用セラレテ利アルヘシ。

各建物內ニ於ケル室ノ區分ヲ假定セムニ、建物ハ三層ヨリナリ、各層ニ二個宛ノ病室ヲ設ケ各三十個ノ病床ヲ收容シ得ヘカラシム。慢性病患者室ニアリテハ、之レニ加フルニ、晝間室及ヒ二三人ノ重病者ヲ收容シ得ヘキ一室常設庖厨、看護婦室、及ヒ前室ヲ有スル便所ノ必要アリ。各建物ノ中央ハ昇降室トシ、コヽニ食物運搬ノタメニ起重機ヲ置クモ可ナレト、絕對的ニ必要ナリトハ云フヘカラス。輕症患者ニアリテハ屋根ヲ有スル休憩室、及ヒ娯樂室中ニ大廣間アルヘケレハ、晝間室ハ省キ得ヘシ。又隔離室モ省クヲ得レト、便所及ヒ看護婦室ハ必要ナリ。

建設物存在地以外ニ庭園ヲ設クル事ハ予ハ絕對ニソノ價値ヲ認メス。庭園ニシテ大ナラハ、大ナル程必要缺クヘカラサル患者ノ監督ヲナスノ困難ヲ增加ス。病院ノ敷地ノ周圍ニ一帶ノ林地ヲ設ケントスル事モ、監督容易ナラサルニ於テハ、タトヘ患者ノ精神ニハ如何ニコノ種ノ設備ハ爽快ナルヘキモ、余ハ斷乎トシ

テ反對セムトス。――又余自身ノ經驗ニヨリ廣大ナル公園ノ設備ニ於テモ然リ。――余ノ計畫ニヨリテ撰ハレタル病院ノ敷地ハ他ノ事情ニシテ良好ナラハ、コノ點ニ於テ已ニ充分ナリ。コノ問題ト關連セルハカノ患者カ好ムテ得ントスル教會參拜、散歩等ニ對スル外出許可ノ問題也。コレラハ大抵健康ニ害ヲ及ホスモノナレハ、ソノ許可ハ必要缺クヘカラサル者ニ限ラルヘク、而カモ能フ限リ酒精飲料ヲ遠ケンカタメニ、有効ナル監督ヲ施サヽルヘカラス。

カクノ如キ病院ノ利益ハ種々アルヘシト雖、ソノ一ハ後ヨリノ建築ニ由リテ、頗ル容易ニ補充スルヲ得ヘキ事ナリ。若シ各建物ニシテ專用ノ庖厨ヲ有セリトセハ、ソノ擴張ハ更ラニ容易ナルヘシ。サレトコハ如何ナル場合ニ於テモ建築並ニ經營費ニ著大ノ增加ヲ來スモノニシテ營理技術上不可能ノ事トセサルヘカラス。

次ニ予ハカクノ如キ病院ノ組織ニ關シ述フル所アルヘシ。

最初ニ從事人員ノ數ヨリ述ヘン。但シ純粹ナル管理及ヒ經營人員ハ之レヲ論セサルヘシ何トナレハ、コレ病院ノ大サニヨリテ差アル者ニシテ、而カモ普通病院ノソレト大差ナケレハ也。之レニ反シ予ノ考フル所ニ由レハ醫師ノ數ハ頗ル少數ニテ足ルヘシ。百人ノ輕性及ヒ慢性病患者ニ對シ一人ノ助手ヲ以テ充分ニ世話シ監督シテ治療ニ差支ナキヲ得ヘシ、而シテ各五乃至六人ノ助手ニ付キ一人ノ醫長ヲ以テ足ルヘクサレハ大病院ニ於テモ普通病院ニオケルヨリモ著シク少數ノ醫師ヲ以テ管理セラルヘシ。輕患者及ヒ恢復期ニアル患者ノミニアリテハ、恐ラク各週二回ノ診察ニテ足ルヘキヲ以テ更ラニ醫師ノ數ヲ減シ得ヘシ。

カノ看護人即チ看護婦モ亦輕患者ニ於テハ少數ニテ足ルヘシ。ソノ職務タルヤ寧ロ事務管理等ニアリテ病室ノ秩序ニ關スル者タリ、二個ノ輕患者室ハ一人ノ看護婦ニテ監督セラルヘシ。慢性病患者ニテハヤ、之ト異リ、病氣ノ種類ニヨリ一人ノ年長看護婦ニ一人又ハ二人ノ若年看護婦ヲ付シテ三十個ノ病床ヲ有スル一室ヲ監督セシムヘシ。重症慢性病患者ニアリテハ婦人ノ看護ノ方最モヨロシ。サレハ病院ヲシテ看護婦ノ養成ニ資セシムル事希望スヘク、ココニ看護婦學校ヲ設ケテ可ナルヘシ。

看護婦ノ數ニ從ヒ、給仕寧ロ使丁ノ數ヲ定ムヘシ。輕患者收容室ハ、簡便ニ作リテ患者自ラソノ清潔及ヒ秩序ヲ保チ得ヘカラシムヘシ。慢性病患者トイヘトモ、運動シ得ルモノハ然リ。

有用ナル勞働ヲナサシムルノ必要ナルハ、寧ロ說明ヲ要セサル者トシテカカル病院ニ於テハ殊更余ハ重モヲ置クナリ。コノ事タルヤ患者ハソノ價値ヲ認識セサルモ頗ル患者ニ有効ナルモノニシテ又病院ノ利益ニ關スル事モ大ナリ。ソノ己カ肉体的幸福ヲ世話セラルル患者カ自己ノ有セル勞力又ハ恢復シ得タル勞力ヲ使用シテ感謝ノ意ヲ表シカクシテ得タル報酬ヲソノ病院ノ所用者タル市ナリ町ナリ個人ナリニ支拂フハ醫師ノ同意アル場合當然何等ノ反對スヘキ事ナシ――コノ際醫師ハ之ヲ同意ストイフヨリモ寧ロ之ヲ希望スルナリ。――マタ地方疾病金庫支拂ノ多數ノ恢復患者療養所カ未タ財政上シカク恐怖スヘキ狀態ニ陷ラストイフハ余カ他ノ事實上重要ナラサル點ヲ顧ミサルニ於テハ不可解ノ事トイフヘキ也。スウイツル及ヒオースリアニ於テハ余ハ屢々勞働要求ノタメニ下ノ文章アルヲ見タリ。曰、患者ニ對シテ支出セラルル金額ハソノ維持ニ足ラス、病院ノ所有者ハ之レニ拂ヒ足シヲセサルヘカラス、各患者ハコノ拂ヒ足シ金ヲ自己

ノ勞働ニヨリテ減少セシムルヲ各幸トセサルヘカラスト。コレ實ニ模倣ニ價スル文章ナル也。

屋内勞働並ニ農業經營ハ患者ヲ使役スル多クノ機會ヲ與フヘシ。カクノ如キ病院ノ周圍ニ農業ヲ行ヒ、ソノ收利ヲ得ンコトニ就キ余ハ切言セムトス。農業ナル意味ハ穀物ノ栽培、家畜ノ飼養、及ヒ果樹、野菜ノ栽培ヲ稱スルナリ。勿論各種ノ農業ハソノ地質ニ適シタル者ナラサルヘカラス。ソノ生産物ハ先ツソノ病院ノ需用ヲ充スヘク、次テ同一院主ニ屬スル他ノ建物ノ需用ヲ充スヘシ。一般自由競爭ノ禍中ニ投スルハ、一般的社會的見地ヨリシテ排斥スヘキモノナリ。但シ主義トシテ之レヲ禁スルモ愚ナルニ似タリ。

患者ノ間ニハ各種ノ職業ニ從事セルモノアルヘキヲ以テ各種ノ家事並ニ農業經營ニ必要ナル手工ヲ簡單ナル工場ニ於テナサム事少シノ困難モナカルヘシ。

カクノ如クニシテコノ種ノ病院發展セハ、ソノ中ニ自ヅト一個ノ社會的組織成立スヘク、一度獨立シテハソノ需用ノ大部ヲ自充シ得ルニ至ルヘキナリ。少クトモ危急ナル場合ニ於テモ尙ソノ經營ニ狼狽セサル程度ニ外界ノ狀態ヨリ獨立セルヲ要ス。コノ理想タル已ニコノ危急ノ場合ニ陷レル多クノ普通病院ニ對シ更ラニ嚴格ニ切言セシムルモノナリ。

諸君、更ラニ乞フ余ヲシテ重要ナル醫學上ノ問題ニ關シ語ラシメヨ。カクノ如キ病院ニ於テ慢性病患者ハ頗ル多大ノ死亡ヲ出スヘキ事明也。慢性病患者ハソノ器官ニ於テ屢々多方面ノ異リタル變化ヲ示スモノナリ。故ニ死亡者ノ病理解剖的研究ハ病氣ノ存在局所並ニソノ原因ノ探求上ニ多大ノ効果アルヘクソノ豫防並ニ治療上ニ根本的基礎ヲ形成スル者ナリ。サレハ余ハカカル死體ヲ必ス解剖ニ附シ、顯微鏡的檢査ヲ施スヲ以テ必要缺クヘカラサル事トナス。大病院ニテハコノ事タルヤ治療所中ニ存スル治療室ニ於テ特殊ノ解剖家ニヨリテナサルヘク、小病院ニ於テハ之ト連絡ヲ有スル普通病院ニ於テナサルヘキ也。上記ノ所說ハ一般公衆ニ對テモ定メラルヘクソノ一般的衞生上ノ重要ナルハ、諸君ノ前ニ今更喋々ヲ要セシ。

今ヤ更ラニソノ組織ノ問題ヲヤヤ詳細ニ論センニ普通病院トノ連絡ハ缺クヘカラス。而シテコノ連絡ハ醫師的方面ニ於テモ管理的方面ニ於テモ出來得ル限リ密接ナルヲ要ス。指揮者カ兩病院ヲ兼任スルハ、大ナル効アリ。諸君ノ多クカ了解セラルル如ク、余ハ一病院ノ全指揮ハ只一人ノ醫師ニ隷屬セシムヘキヲ主張スル者ナリ。サレト世人ハ往々余ヲ責メテ曰ク、院長ノ醫學的職務ハ、以テヨク全指揮ニ要スル時間ヲ餘スマシト故ニ余ハ一言ヲ逃ヘン、固ヨリ一般ニ凡テノ醫師カカカル最モ面倒ナル事業ニ適セリト云フヘカラス、只特別ニ管理的材能アル人ニシテ務メテ能フヘシ。而シテカクノ如キ人々ニ對シテハ、コノ醫師トシテ缺クヘカラサル病室又ハ分科ノ指揮者タル醫學的職務ハ、出來得ヘクンハ、ソノ分科ヲ縮少スルカ、若クハ助手ノ力ニヨリテ輕減セラルヘキナリ、醫學的專門智識最廣ノ衞生學的敎育、同僚並ニ雇員ノ撰充及ヒ判斷ニ關スル注意、速カニ四圍ノ事情ヲ察スルノ明、管理的事務ヲ成就スルノ精力、カカル病院ノ財政狀態並ニ職務ニ對スル理解、及ヒ自已ノ職業ニ對スル愛好心等ハカクノ如キ指揮者ニ於テハ缺クヘカラサル性質ナリトス、カクノ如キ病院ノ指揮者ニ醫師ヲ任シ、特ニコレヲ、ソノ附屬スル普通病院ノ院長ヲ以テスル事ニ由テノミ、患者ノ紹介、診斷、治療、退院等ノ際ニ必然生スル困難ニ打チ勝ツ事ヲ得ルナリ。

若シ輕症患者トシテ交附セラレタル者カ、コノ簡易病院ニ於テ重症ナリト判斷セラレ再ヒ普通病院ニ復歸

セサルヘカラサルニ至ラハ、如何ニ患者ニヨリテ苦痛ナルヘキカ、マタ患者カ一病院ニ於テ慢性患者トシテ入院セサルヘカラスト判斷セラルル事ノ如何ニ彼レ將來ノ生涯ニ對シ、關係多カルヘキカ、異リタル醫師カ同一ノ患者ニ對シ異リタル判斷ヲ下スヘキ事到底免ルルモノニ非シ。

輕症並ニ慢性病患病院ニオケル一人若シクハ數人ノ醫長ハ、兩病院兼務院長ノ下ニ、部醫トシテ立テル者ナルカ、已ニ地方癲狂院ニ於テ、ソノ例アルカ如ク一個若シクハ數個ノ他ノ病院ヨリ補充セラルルモノ也

余ノ一般ニ信スル如ク次第ニコノ種ノ醫務ニ特ニ適シ、之レニ從事セントスル醫師ハ、コノ種ノ醫務ヲ以テ自己カ特殊ノ活働地ト見做スヘク、コレラノ醫師ハソノ素質ソノ傾向、ソノ熟練、並ニカシコニ於テ專門的ニシテ而カモ廣大ナル問題ニ關シ熱心ニ活働シ自習シ得ル事ニヨリ願ル好果ヲアケ得ヘシ。

然リトイヘトモ如何ナル際ニ於テモ輕症患者並ニ慣性病患者ノ衞生的醫學的治療ヲ以テ本院第一ノ務トナササルヘカラス。然ラサレハ療養所ト化スルノ危險頗ル大トナル也。コレカクノ如キ建設物ニアリテハ容易ニ生シ得ヘキモノナリ。簡易病院建設ニ關スルコノ報告ハ徒ラニナサレタル者ニ非ラス。吾人ハココニ强制療養所、貧民收容所又ハ役所ヲ成立セシメントスルニ非ス、シカモコノ事タルヤカカル病院ノ管理ヲ行政官吏、又ハ敎會組合ノ監督ニ任ス時ハ屢々生シ易キモノナリ。患者ヲ忠實ニ看護スル事、コノ病院ノ最大唯一ノ目的ニシテコノ目的ヲ中心トシテ他ノ問題ヲ論シタルナリ。勿論他ノ點ハソノ建設ノ理由トシテ許容セラルヘキ者ニ非ス、而シテコノ目的ヲ達センタメニハ、病院ハ醫師ニヨリテ指揮セラレサルヘカラス。

患者ヲコノ種ノ病院ニ入院セシムルハ、ソノ設立地及ヒ設立法ノイツレナルニモセヨ、コレト連絡的組織ヲ有スル普通病院ヨリセシムルヲ最良トス。最モ簡單ナル塲合ヲ假定セムニ一市ニシテ兩病院ヲ併有セル塲合コレ也。先ツ凡テノ患者ハ普通病院ニ導カルヘシ。ココニモシ良好ナル患者運搬車ノアルアリトセハ外來診察後直チニコレラ患者ノ普通病院又ハ簡易病院ニ適セルカヲ定メ得ヘシ。然レトモ患者ニシテ普通病院ノ外來部ニ收容セラレタリトセン乎、各患者ハ、ココヲ以テ一時收容所トシテ數日間ヲ費スヘク、ココニテ診斷定マルヤ、多數ノ患者ヲ簡易病院ニ導クノ機會ヲ生スヘシ。終リニ普通病院ニ於テ治療セラル、者モ早カレ遲カレ重輕患ニ區別セラルヘク、高價ニシテ經費多大ナル普通病院ノ設備ハ只眞ニ之ヲ要スル者ノミニ使用セラルヘシ。カクノ如クニシテ必然輕症並ニ慢性病患者ノ多數ハ、一方ヨリシテ他方ニ流入スヘク、コノ際余ノ述ヘシ兩院指揮者ヲ同一人ニ兼務セシムルハ、患者轉置必要ノ判斷、及ヒ患者ノ熟練ナル分配ニヨリテ現存ノ病床ヲ遺憾ナク利用セシメ、兩院ノ間ニ堪エス均勢ヲ維持セシムルニ利アリ。

カクノ如キ病院ヲ建設センニハ町村ハソノ面積一定度ノ大サヲ有シ、相當數ノ患者ニ對シ、收容所ヲ要スル者タラサルヘカラス、余ノ已ニ述ヘシ如ク、カ、ル病院ハ任意ノ大サヨリシテ已ニ開始スルヲ得ヘシ。サレト、ソノ事業ニシテ利アルハ、一定度ノ大サニ達シテ後ノ事ナリ。若シカク大ナル設備ヲ一町村ニシテナシ能ハストセハ、數個ノ町村ノ組合ヲ作リ協同シテ建設シ、共同ノ費用ヲ以テ、協同ニ使用スルヲ可トスヘシ。殊ニ田舍ノ町村、若シクハ工業地ナルカタメ、多數ノ移住民ヲ有スル町ニテハ、カクノ如キ設備ハ少額ノ費用ヲ以テ大ナル目的ヲ達シ得ヘキ有望ナル方法ト云フヘシ。コノ病院ノ擴張ハ勿論無限ニ之ヲ許スヘキモ、食品供給ノ困難及ヒ監督ノ甚タシク困難トナルニ由リテ、自ラ一定限ヲ有ス。コレ已ニ述

ヘシ如ク、最モ良好ナル場合トイヘトモ、收容患者數一千五百名ヲ超ユル事、不可能ト見テ可ナリ、最後ニ多少ノ障害トモナルヘキハ、アル一定ノ撰定セラレタル土地ニ於テカクノ如キ病院ヲ數個置ク時ハ、遂ニ一個ノ病院市街ノ如キモノヲ現出スルノ恐コレ也。思フニ人ハ最初ハカクノ如キヲ歡迎セサルヘシ。如何トナレハ、カヽル活動不自由ナル患者ノ集マレルヲ見ルハ、決シテ喜ハシキ事ニアラサレハナリ。然レトモ若シ人ニシテ市中若クハ州中各所ニ散在スル小病院ノ代リニ、カク大規模ノ病院ニ收容シテ經濟上ノ利益アルヲ知ラハ、特ニ現下ノ如ク人口增加ノ最中ニ於テハ、カク共同的ニ建設セラレタル患者町モ決シテ嫌忌スヘキ者ニ非ラサルヲ知ルニ至ルヘシ。加之、經濟上利益アルヲ以テ人ハ次第ニ類似目的ヲ有スル建設物ヲ之ニ併置スルニ至ルヘシ。即チ飲酒矯正所、小兒療養所、不具者收容所及ヒ、コレコレラノ問題ニ於テ甚タマ、子扱ヒニセラル、勞働者ニ對スル恢復療院コレ也。

之レニ必要ナル資金ノ調達ニ就テハ次ノ如ク述フヘキ必要アリ。即チカクノ如キ病院ノ建設ニ就テハ、國庫及ヒ地方廳ノミナラス、又一段保險業者モ之ヲナスヘシ又特ニ凡テノ三種ノ者、共ニ力ヲ合スノ必要アルヘシ。蓋シコノ種ノ病院ノ建設ハ一般ニ彼等ノ利トスル所ナレハ也。疾病、養老、虛弱、危難保險ハ共ニ輕病患者ニ對シ、利害關係ヲ有シ、最後ノ二者ハ、慢性病患者部ニ關係ヲ有スルナリ。己ニチユーリンゲンニ於テコノ指揮者エレ氏ノ下ニアル數個ノ保險會社ハ、專用ノ虛弱病院ヲ建テン事ヲ務メタリコノ病院ニテハ虛弱者ハ相當ノ費用ヲ拂ヒテ看護セラル、也、又個人的ノ慈善事業モ亦慢性病者ニ對スル病院建設ヲ歡迎セントスルハ、ヨク知ラレタル事實也、而シテ尙コノ種ノ多クノ寄附金ノ集合ニヨリテ個人ノ金額モ亦有力ニ使用セラレ得ヘシ。

カクノ如キ病院ノ費用タルヤ一般ニ普通病院ノ費用ニ比シテ著シク低下セルモノタルヘシ、土地ノ買收ヨリ一切ノ設備ニ至ルマテ、即チ買收ノ約束ヨリ、病院開始ニ至ル迄ノ費用ヲ合シ、高クトモ一病床ニ付、三千乃至四千マルクヲ以テ完備セル病院ヲ作ラン事、確カニ困難ナリト云フヘカラス。日々ノ看護費用——コノ中ニハ勿論建物内ニオケル一切ノ費用ヲフクム——ノ一人一日幾許宛ヲ要スヘキカヲ算定スルハヤ、困難ナリ。コハ勿論病院ノ大サ、患者ノ數及ヒ、食糧品ノ價格ニヨリテ左右セラル、者ナリ。病院大ナルニ從ヒテソノ一日ノ看護費用並ニ全體ノ費用モ少トナリ得ヘシ。使用人員ハ、普通病院ニ於テ必要ナルヨリモ少數ナリト見ルヲ得ヘシ。食糧品ノ價格ハ同一量ノ品ヲ多額ニ購入スル事ノ、コノ病院ニテハ可能ナルヲ以テ、他ニオケルヨリモ廉價ナルヘク、特ニ支出ハ自園ニ於テ農產物ヲ製產シ得ルニ由リテ減少スヘシ、商人ノ手ヲ經ヘキ物資モ經營管理ヲ行フ際ニハ、カヽル病院ニテハ普通病院ニオケルヨリモ、ハルカニ少額ニテ足ルヘシ。予ハコノ看護並ニ經營費用ハ、一般病院ノ五十乃至六十パーセントニテ足ルヘシト信ス。更ラニ著シキ費用ノ節約ハ患者ノ一般ニ平均セル事ニヨリテ得ヘシ。コノ病院ニテハ特別食事ノ要ナシ。即チ普通病院ニオケル如キ献立札ノ面倒ナシ、カノ同一ニ取リ扱ハレサル如キ特殊ノ患者ハ凡テコノ病院ニハ存セサル也。各種ノ物質ノ購入ニ就テハ、普通病院ト協同シテ行ハル、事、最モヨシトスルヲ以テ、コノ契約モ亦大トナルヘク、從ツテ病院ニ大利益ヲ來スヘキヤ否ヤハ、コヽニ働ク人ノ事務的才能ニ由ルコトヽナルヘシ。

若シコノ病院ニシテ未開ノ地、又ハ多少開墾セラレタル地方ニ建設セラレタラン乎、コレニヨリテ地價ノ騰貴ヲ來スヘクコノ附近ノ者ハ種々ノ收入ヲ得ヘキ機會ヲ與ヘラルヘシ。他方ニ於テハ、病院ノ廢棄物其他ノ不用物ノ賣却ニヨリ、ソノ地方ノ金融狀態ノ改良ヲ促スヘシ。

諸君、余カコノ問題ニ關スル報告ノ調査ニ着手スルニ當リ已ニソノ問題ノ將來ニ關スル者ナル事ヲ知リシカソノ調査ノ進ムヤ、更ニ痛切ニソノ然ルヲ感シタリキ。蓋シ吾人カ今日使用スル意味ニ於テハ、輕病並ニ慢性病患者ニ對スル病院ハイツ國ニ於テモ、歐州中部ニ於テモ存在スル事ナシ。只コレヲ建設セントスルノ傾向ノ存スルノミ。之ヲ以テ、予ハ多少現存セル病院ニ說キ及ホシタリト雖、主トシテ諸君ニ將來ノ計畫ヲモタラシ、試明ヲ試ミタルニスキス。予ハ諸君ニ對シ、カクノ如キ病院ニ於テ醫師並ニ衞生學者ハ如何ナル設備ヲ省略シ得ルカヲ述ヘシノミナラス、醫師タル病院ノ指揮者ノ職務ニ付キ、余ノ了解スル所ニ從ヒ、諸君ニコレラノ病院ノ發展ノ可能力並ニアラユル方面ニ向ヒ、ソノ好都合、不都合ナル豫想ヲ解明セント試ミタリキ。

自ラ大ナル普通病院ノ指揮者ニテアリナカラ、余自身ニテ設備セラレシ「エッセン」ノ高價ナル病院設備——ト云ヒ得ヘクンハ——カ餘分ニスキスト云フカ如キ論ヲ立ツルハ、ヤヽ奇異ナル感ヲ起サヽルヲ得サルヘシ然レトモ諸君カクノ如キヨリ予カ本旨ヲ誤解セルハナシ。諸君ハ已ニ御聞取ラレシ如ク、予ハ普通病院ヲ廢止シ、又ハ縮少セントスルカ如キ希望少シモナシ。否、普通病院ヲ以テ其一分枝タル簡易病院ニ對シテ缺クヘカラサル設備ヲナシ、之レト密接ナル關係ニ立タシメ、只普通病院ヲシテ、輕性並ニ慢性病患者病院ノ建設ニヨリテ其重且困難ナル務ヲ輕減セシメント試ミントスルノミ。予ハ自身ノ經驗ニヨリ下ノ如ク信シ且ツ假定セントス。曰ク、輕性並ニ慢性病患者ニ對スル病院ノ建設ニ付テ喜フ者ハ、自ラ普通病院ノ醫師トシテ劇務ニ從ヒ、彼等患者ニヨリテ驅使セラルヽ者ニ若クハナカルヘシ」ト。患者ノ種類ニ從ヒテソノ病院ヲ分ツハ、高價ナル普通病院ヲ建設スル費用ヲ大ニ省クモノナリ。而シテ諸君余ハ之ニヨリテ單ニ醫師ノ願望ト利益ノミナラス、同時ニ今ヤ病院費用ノ增加ニヨリテ費用ノ調達ニ苦シム、國庫並ニ市町村ノ行政上ノ願望利益、及ヒ最後ニ少カラス、患者自身ノ利益ニ付、如何ナル方面ニ對シテモ利益ノ生スルヲ確信ス。カクノ如キ種々ノ利害關係アル一般ノ注意問題ノ調査ヲ正ニカヽル方面ニ於テ予ノ擔任スルニ至リシ事ハ予ノ衷心ヨリ喜フ所也。

茲ニ於テ議長ハ討論ヲ開始セシム。

帝國貧民病院長樞密顧問ブッター氏（ベルリン）

貴女紳士諸君、吾人ハ調査委員ノ考案ニ贊スヘキカ疑ナキヲ得ス。カノ病院建築術ナルモノハ、吾人カ建築術ニ於テハ未タ孤々タル幼兒ト云ヒ得ヘシ。吾人カ今日見ルコノ建築術タルヤ僅ニ三四十年來ノモノニシテ衞生學並ニ科學ノ版圖內ニ於テ醫學者ノ莫大ナル要求ノ下ニ、急速ニ進步シツヽアル者也。建築技師ハコノ三四十年以來、生シ來レル醫學上ノ要求ニ應シ得ルトイヘトモ、只頗ル巨額ヲ費シテ初メテ然ルヲ得ル也。以前ニハ一個ノ病床ニ之レニ附隨スル各種ノ設備ヲフクミ、平均二千マルクニテ構造セラレタリ。次テ三千乃至六千ヲ要セシ時代アリシカ、今ヤ吾人ハ一病床八千乃至一萬マルクヲ要スル也。

同時ニ之ニ入院セントスル人數モ亦往時ニ比シテ著シク增加セリ。コレ二個ノ理由ニ基ク。一ハ現今ノ病院タルヤマタ昔時ノ如キ、ソノ不足勝ニ看護セラレ治療セラレシ貧民病院ニ非スシテ今ヤ立派ナル設備ヲ有シ、能力アル醫師ヲ有スル建設場ナレハ也。二ハ彼ノ高價ナル入院ヲ甫メテ可能トナシタル社會的保險制度ニ基ツク也。吾人ニシテ若シカノ疾病金庫、危難保險費、皇室貧民救助費等ヲ有セサラン乎、吾人ノ高價ナル病院ハ今日空虛ナルヘク、或ハ吾人ハカノ壯大ニシテ美麗ナル病院ヲ作リ能ハサルヘシ。蓋シタシカニ、今日ノ手職人及ヒ小ナル中等階級ノ人々ハ、何人ト雖モ毎日病院ニ於テ看護ニ要スル費用ヲ支拂フ事能ハサルヘケレハ也。コノ費用タル病院ニ於テニ平均一日四マルクニ上ル。大都市ニ於テハ看護ノタメ二乃至三マルクヲ支拂ハルヘク、行政廳ヨリシテ少クトモ二マルク多クハ三マルクヲ拂ヒ足サル、モノ也。

予ハ最近病院財政ヲ調査シ、ドイツ國並ニオーストリアニ於テ如何ナル大病院トイヘトモ一日一病床四マルク以下ニテ活動シ得ルモノニ非ラサルヲ知レリ。多クノ病院ニ在リテハ是以上ヲ要ス。而シテ主ニ是等ハ、八百個以上ノ病床ヲ有スル大病院ニ付テ然ル也。多クノ現今ノ小病院ノ經營ハ之ト等シキ高價ニ上ル已ニコノ費用ヲ減セントスル努力ハ、種々行ハレタルカ、不成功ニ終リキ。結果ハアラユル方法ニ於テ同一タリシノミ。患者ノ良食等ヲ供給スルハ、一日一病床平均〇、九〇乃至一、三〇マルクナリシカ管理費用ハ平均一、八〇乃至二、五〇マルクニ上レリ。コノ最後ノ事情ハ特ニ注意スヘキモノ也。余ハ今コヽニ詳細ヲ論スルヲ得ストイヘトモ、コノ管理費用ヲ減セントスル企圖ハ無効ナリシ也。而シテコノ事タル余カ自ラナセシ實驗ニヨリ予ノ考フル所ニヨレハ、家屋ノ構造、建築物ノ散在セル事及之レニ要スル莫大ノ人員ニヨル也。余ハ確信ス、病院大ナレハ。大ナル程ソノ經營費用モ大ナリト。

種々統計材料中、ドクトル、グロートヤーンカ彼レノ貴重ナル著書中ニ揭ケシ者ニヨルニ、病院ハ、百乃至百五十個ノ病床ヲ有スル者最モ廉價ニ經營セラルヽヲ見ル。コレラハカノ大病院ニ見ル如キ巨大ナル庖厨ヲ要セス。監督ハ只醫師ノミニテナサルヘク監督官ヲ要セス。本局ハ、患者ノ出入大病院ニオケルカ如ク甚タシカラサル故頗ル少ニテ足ル、サレハ、タトヘハ九百個ノ病床ヲ有スル大病院一個ヲ建設スル代リニ百五十個ノ病床ヲ有スル六個ノ小病院ヲ建設スル方利益ナラスヤト感スル事切也。吾人ハ實ニ內科患者ヲ第一病院ニ、外科患者ヲ第二病院ニ、傳染病患者ヲ第三病院ニ收容スル如クニシ又男子、婦人、小兒等ノ區別ヲナスヘシ。若シ大經營ノ場合ニ於テハ一個ノ中央洗濯場ヲ設ケサルヘカラス、又一個ノ中央局ヲ設ケテヨリシテ市中ニオケル各患者ハ、各個ノ病院ニ分配セラル、如クスヘシ。シカレトモコノ際ニモ尙困難アリ。若シ吾人ニシテ今日ノ病院建築型即チ廊下式、蛾屋式又ハ兩式ノ混合ニヨリテ建築センカ、吾人ノ考フル所ニヨレハ多ク利スル所ハナカルヘキナリ。カヽル病院ハ餘リニ高價ナリ。サレト今ヤ吾人ノ利用シ得ヘキ一型アリ。コレ已ニ調査委員モ述ヘラレタル一種ノ蛾屋ニシテドクトル、ドスケツト氏カ「ベルリン」ノ「ノルドエンド」ニ新ラシク建築シ、今マサニ、移轉セントスル者之レ也。コノ家屋タルヤ、六年間カシコニ於テ二十個ノ病床ヲ有スル小病院ヲ經營シ居タル同氏ノ考案ニナル者ニシテ余カ親シク調査セシ所ニ由リテ考フルニ今日吾人カ病院ニ要求スル凡テノ衞生設備ニ應シテ遺憾ナシ、彼ハ今日迄コノ新家屋

ノ傍ラニ數個ノバラックヲ有シタリ。而シテ彼ハコレラ建物全部ニ輕症患者ヲ收容セント目論ミタリ。シカルニ此處ニ成可多數ノ重病患者ヲ收容シ看護スルモ妨ケナク寧ロ好結果ヲ得ルヲ知レリ。予ノ考ヘニヨレハ、コノ家屋中ニ重病患者ヲ收容シテモ妨ケナク、外科患者、內科患者、小兒、男子、婦人、皆收容シ得ヘシ。彼ノ作リシコノ型ノ家屋ハ勿論精神病患者ヲ收容スル事ハ除外ナリ。

簡單ニソノ構造ヲ述ヘンニ、病者ハソノ病床ヨリシテ、直接ニ野外ヲ展望シ得ルカ如クニ構成セラル。彼レハ現今ノ病院ニ多ク應用セラル、休憩室ヲ次ノ如クニシテ省略シタリ。即チガラス戸ニシテ、上下ニ推シテ開閉シ得ル二重窓ヲ床ヨリ天井ニ達スル迄ニ作リ、患者ハ何時ニテモ自已ノ寢臺ノ高サ又ハ天井ノ近傍ニ於テ空氣ヲ流通セシムル事ヲ得。又何時ニテモ野外ヲ展望シ得ルヲ以テ病者ノ精神上ニ著大ノ好影響ヲ及ホスヘシ。コノ家屋ノ建築費用ハ、凡テノ他ノ副費用ヲ加ヘテ各床約二千マルクニ上ル。彼レハ又余ノ以テ頗ル巧妙ト信スル設備ヲ施セリ。即チ彼ハ、アル特別ノ塲合ニ各患者ヲ別々ノ室ニ收容セントスル際ニ之ヲ個々ノ室ニ收容セスシテサキニ述ヘラレタルオランダ式ヲ採用シ、否寧ロ自ラ發明シタリ。即チカレハ美シキ高キ廣間ヲ作リコノ中ニ九乃至十個ノ病床ヲ設ケ、各床ハ障壁ニヨリテ隔離セシム。コノ障壁ハ板ニテ作リ、コノ下部ハ地上二〇センチメートルヲ距テタリ。カクノ如キ室ニハ、各一個ノ寢臺ト、寢臺用机トヲ有シ、後部ハ窓掛ニヨリテ閉ス樣ニス。コノ窓掛ヲ引キ上クルハ些々タル勞力ニシテ、コレニ由リテ人ハ全室ヲ眺メ渡スヲ得。カヽル室ニ於テハ他ノ多クノ小室ニオケルヨリモ少數ノ人數ヲ以テ看病スル事ヲ得ヘシ。更ラニ起立シ得ル患者ハ互ニ多少ノ手助ヲナス事ヲ得ヘク、コレ頗ル價値アル事也。



復之ニ由リテカノ屢々患者ノ欲セサル全然タル孤獨ノ感ヲ除ク事ヲ得。ドスケット氏ハ二マルク半又ハ三マルクノ治療費ヲ以テシテ尙餘裕ヲ生ス得ルナリ。若シ吾人ニシテ各市ニ於テ普通行ハル、入院費ヲ以テ獨立シ行カルヘキ病院ヲ建設シ得タリトセハ、滿足スヘキモノナラム、余ハ余ノ觀察ニ依リ特ニ次ノ事ヲ切言セサルヘカラス。彼レノ病院ニ於テ各患者ノ自覺ハ著シク良好ナリケレハ也。

サテ予ハ以上ニ述フル所ヲ以テ現在ノ特殊同題ニ及ハサルヘカラス。予ハ思フ、モシ吾人ニシテ獨立經營モシクハ殆獨立經營シ得ル廉價ナル病院ヲ建設シ得タトセハ、吾人ハ一ツノ所謂簡易病院ヲ要セス、一ツノ恢復期病院ヲ要セス只少數ノ痼疾病院ヲ要セン而已。兎ニモ角ニモ、吾人ハ慢性病患者ニ對シ痼疾病院ヲ要セサルナリ。抑モ慢性病トハ何ソヤ。慢性病患者タルヤ、ソノ疾患吾人カ今日癒シ得サルヲ云フノミサレト將來醫術ノ進歩、ソノ慢性病患者ヲ一部分治療シ再ヒ活動シ得ル如クナシ能ハサランヤ、サレハ、所謂慢性病患者ヲ痼疾病院ニ轉置セントスルニハ、吾人ハ甚大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラサル也。若シ人ニシテカノ新計畫ノ病院ヲ都市ノ郊外即チ曲野外ニ建設セントセハ、肺患者モ亦コヽニ收容スルナルヘシ。コノ際庭園ヲ充分ニ利用スルハ、余ニ取リテハ大効アルヲ覺ユ。何トナレハ、吾人ノ經驗ニ由レハ露臺及ヒ廊下ニ於テハ庭園自身ニオケルヨリモ、ハルカニ溫度低ケレハ也。近來都市ニヨリ疾病金庫ニヨリ、建設セラレタル療養所ハ、コノ建築及ヒ經營ニ於テハ、殆ント病院ト同一ノ費用ヲ要スル也。

余ノ所論ハ下ニ歸ス。吾人ハ先ツ獨立シ獨立シテ經營セラレ、現今ノ如ク雜費ヲ多ク要セサル病院ヲ作ラント試ミサルヘカラスト。

市會議員、サニテーツラート、ドクトル、ラブノー氏(シエーンベルヒ)

諸君、予ハ前討論者ニ反シ、調査委員ノ所論ノ根本觀念ニ同意セルヲ述ヘント欲ス。吾人ガ普通病院ノ負擔ヲ輕減セントスルハ大都市ニ於テ主トシテ財政上ノ點ヨリシテ火急ノ問題トナリ來レリ。樞密顧問ブッター氏モ亦病院經營ハ各患者ニ付一日四マルクヲ要スト述ヘラレタリ。余ハ諸君ニ述ヘン。ワカシエーンベルヒニ於テハ三等ニ於テ市ノ看護費用補助金ハ一患者一日平均六マルクニ上レリ。コレ市民一年一人約三マルクノ支出ニ相當スル也。

調査委員ハ啻ニ財政問題ヲ述ヘラレシノミナラス。又治療並ニ看護ノ方法ニ就テ述ヘラレシハ感謝ニ堪エサル所也。下ノ點ニ付テモ余ハ氏ニ同意セントス。治療並ニ看護ノ方法ニ關シ負擔ノ輕減ハ一般ニ必要缺クヘカラス。而シテ若シ吾人ノ科學ニシテ絶エス、分科セラレ、組織的トナランカ、コレ吾人ノ望ム所ナリ而シテ組織的トナルトキハ益病院ノ事業タルヤ更ニ更ニ大ニナルヘク、病院指揮ノ方法タル、更ラニ大困難ヲ來スニ至ルト假定セサルヘカラス。

樞密顧問ブッター氏ノナサレタル考案、即チ病院ヲ所謂各分院ニ分チ之レニ應シ組織ノ簡單トナル事ニヨリテ費用ヲ最少限ニ減セントスルハ予ノ全然的ニハ贊成スル事能ハサルナリ。諸君、吾人ハカヽル問題ヲ議スルニ當リ、只財政上ヨリ、科學上ヨリ、管理方法上ヨリスルノ不可ナルヲ忘ルヘカラス。吾人ハ病院ヲ建設スルニ又人道ノ精神ヲ以テスルヲ忘ルヘカラス。而シテ現今一般國民ノ生活ニ慰安アル如ク、病院ニテモ贅澤ニ走ラサル限リ相當ノ慰安ヲ必要トス。コレ衞生學ノ求ムル所ニシテ吾人ノ缺如シ能ハサル所ナリ。

然レトモ、二三ノ點ニ關シテハ予ハ調査委員ノ所說ニ反スル考案ヲ述ヘント欲ス。

先ツ、ソノ輕患者及ヒ慢性病患者ニ分ツノ點ニ於テハ、人々惑ナキヲ得サルヘシ。諸君、吾人醫師ニ取リテハ初期ノ肺炎カタルヲ有スル結核患者ハ一方ニ於テ慢性病患者ニシテ他方ニ於テハ輕症患者ナル事明也而カモコレ同一ノ患者ニ非スヤ。

調査委員ハ、輕症患者ニ對シテハ恢復期療院ヲ設ケントシ、之ヲ恢復患者療養所ト同一親セラレタリ。而シテ重病患者即慢性病患者ニ對シテハ痼疾療院ヲ設ケントセラレタリ。若シ吾人ニシテ吾人カ贊成スル如ク、病院ノ入院患者減少ヲ實行セントセハ之レ以上ニ病院ヲ分類シ能フヘク否、セサルヘカラサル也。コノ點ニ關シ余ハ實ニ樞密顧問ブッター氏ト反對セルヲ覺ユ。余ハ調査委員ノ述ヘシ如キ恢復期療院ト、恢復患者療養所トハ同一ノモノタルヘカラスト思フ。コレ單純ナル理論ニ非ス。チフス恢復期患者ハ、數週乃至數月間病毒保有者ニシテ、病院看護上痿黃病ノ女兒ト全ク取リ扱ヲ異ニセサルヘカラサル也。カクノ如クニシテ吾人ハ輕性患者ノ意味ヲ概活スル事、並ニ恢後期療院設置ノ考案ニ反スル種々ノ考ヘ——ト云ヒ得ヘクンハ——ヲ生スヘシ。

更ラニ疑ハシキハ慢性病患者ニ對スル考コレ也。調査委員ハ慢性病患者ナルモノ、如何ナルモノナルカハ別ニ說明セラレサリキ。永久ニ虛弱トナレル者ハ疑モナク、慢性病患者ナリ、然リト雖、多數然リ、恐ラク最大多數ノ患者ハ、吾人カ醫學上ノ見地ニ在リテハ、慢性病患者ナリトハイヘトモ、ソノ活動不能ハ只一時的ノモノナリ。吾人ハ實際カヽル患者ヲモ、共ニ痼疾療院ニ入院センメントスル乎、吾人ハ彼等ニ向

ヒ汝等ハ一生涯健康者並ニ働キ得ヘキ者ト隔離セラレサルヘカラスト云フヘキ乎、否、諸君カクノ如キハ患者モ亦欲セサル所ナルヘク、吾人ト雖、希望スル者ニ非ス、コレ然ルヘカラサル也。吾人ハ調査委員カ論セントシテシカモ詳細ニ亘ラサリシカノ方法ニヨラサルヘカラス。即チ吾人ハ種々ノ患者ニ對シ、特殊ノ病院ヲ建設スル事、吾人カ今日已ニ肺患療養所、肺結核病院、及保養所ヲ有スル如クスヘシ。吾人ハカクノ如キ病院ヲ比較的廉價ニ作リ廉價ニ經營スル事ヲ得ル也。吾人ハ只經費ヲ節減セントシテ飲食品ヲ自家ニテ製産セントスルノ危險ヲ注意セントス。

尚諸君二三ノ小事ヲ述ヘン。

調査委員ハ、コノ病院ニ一ノ解剖室ヲ設ケン事ヲ欲シタリ。コレ勿論痼疾療院ニ於テノミナルヘシ。何トナレハ、恢復期療院ニテカヽル設備ノ不相應ナルハ明ナレハ也。而シテ痼疾病院ニ解剖室ヲ置ク事ニ關シテモ予ハ二三ノ考案ヲ述ヘサルヘカラス。吾人ニヨリテ痼疾療院ニ入院セシメラレシ患者ハ、吾人カ出來得ル限リソノ感情ヲ尊重セン事ヲ望ムヤ當然ナルヘシ。科學上ノ必要ハ普通病院ニ於テ充サルヘク、カシコニ於テ解剖スヘキ充分ノ材料アリ。カノ慢性病患者カ、ソノ晩年ヲ能フ限リ愉快ニ送ラントスル痼疾病院ニアリテハ吾人ハ一ツノ解剖室ヲモ有セサル事ヲ望ム。トモ角モ余ハソノ必要ヲ認メサル也。

第二ノ問題タルヤ、凡テコノ專門病院即チ姉妹病院ニ送ラルヘキ患者ハ、樞密顧問ブツター氏ノ述ヘラレシ如ク、通過病院又ハ視察病院トシテ普通病院ヲ通過セサルヘカラサルカノ問題ニアリ。コハ余ノ考フル所ニヨレハ、必スシモ絶對的ニ必要ナルモノニハ非スシテ、反ツテ入院費用ヲ減セントスル考ニ障害ヲ與フル者ニ非スヤト信ス。余ハ諸君ニ述ヘン。カノ樞密顧問ブツター氏ノ首唱ニヨリテ設立セラルヽニ至リシ結核患者周旋所、救護所等ハ、良好ニ指導セラル、ニ於テハ、コノ種ノ多數ノ患者ニ對シ、外來所又ハ撰拔所トシテ全然充分ナルヘシト信ス。コノ問題ヲ一般的ニ論セントスルハ余ノ欲スル所ニ非サレトモ、凡コノ場合ニ於テ、ソノ指揮ノ揆ヲ一ニセン事ヲ期セサルヘカラス。

尚、諸君余ヲシテ二語ヲ述ヘシメヨ。吾人ハ吾人ノ地方的職務ヲ充ス點ニ於テハ、市町村ノ財政ニ關シ責任ヲ負ハサルヘカラス。更ラニ醫師トシテハ患者ニ責任ヲ負ハサルヘカラス。コノ方更ラニ重大ナリ。廉價ノミカカヽル問題ヲ決スヘキ要點ニ非ス。吾人ノ欲スル所ハ人道ナル意義ニ於テ科學ノ敎フル所ニ基ツキ凡テノ患者即チ輕性患者、重症患者共ニ之ヲ救濟セントスルニ在リ。何等ノ贅澤何等ノ冗費ヲ許スヘキニ非ストイヘトモ、醫師トシテ——特ニ余ニ之ヲ切言ス——患者ニ負フ所ノモノハ、完全ニ之ヲ滿足セシメサルヘカラザルナリ。

ゲハイメル、メジチナルラート、ドクトル、ボルントレーカー氏(ヂユッセルドルフ)

調査委員ハコノ報告ヲ初ムルニ當リ現今ノ普通病院ノ費用ノ莫大ナル事ヨリ初メラレタリ。余ハコノ場合ニ於テ下ノ事情ハ更ラニ特述スルノ價アルヘシト信ス。即チコノ莫大ノ費用ハ、凡テノ場合ニ患者ノ利益トナルモノニ非ス。又衞生學ニヨリテ要求セラル、所ニモ非ラサル事是也。多クノ雜費ト患者ニ何等ノ利益ナキ費用トハ支出セラル、也。

タトヘハ今地價ヲ論セム。コレ即チ因テ以テ病院ノ價ヲ高ムル自然的原因也。然リトイヘトモ亦カノ宏大

ナル建物、給仕及ヒ女給仕ノ社會的要求及ヒ其他ハ病院ノ費用ヲ增ス事大ニシテ患者之レ自身ニハ殆何等ノ役ニ立ツモノニ非ス。

次ニ予ハ調査委員ハ勿論大病院ニ付テ報告セラレシモノナルベキヲ信ス。蓋シ、諸君、多數ノ小病院カ衞生的設備ト稱スル者、屢々吾人カ滿足ト信ジ得ル程度以下ニ在リテ、余ハ次ノ如ク述フルノ至當ナルヲ信セント欲ス。即チ吾人ハ決シテ恰モ吾人カ病院ニ對スル衞生的設備ヲ一般ニ減少シ得ヘキカ如キ考ヲ生セシムヘカラサル事也。小病院ニオケル事情ヲ知レル人ハ余ノ所見ニ一致スヘシ。

近々ワカ縣ヨリシテ一ノ報告公表ヲ致スヘシ。コノ中ニハ、一巡視醫師カ全プロシヤ王國ニ於ケル病院ノ不良ナル狀態ヲ報告セルモノニシテ全然信スヘカラサル狀態ハ暴露セラルヘシ。タトヘハ便所ニ至ル道ノ手術室ヲ通セル、或ハ手術室ニ至ル一般浴場ヲ通セル、マタ傳染室ノ厩中ニ存スル等コレ也。カクノ如クニシテ予ハ斷シテ衞生設備ノ減少ヲ欲シ能フモノニ非ス。

調査委員ノ云ハント欲セシ事ニ就テハ、予ハ前述者トヤヽ異レル了解ヲ得タリ。余ハ氏ノ意ヲ以テ、恢復患者、輕患者並ニ慢性患者ヲ收容スヘキ建物ヲ建ツルニ在リト信セリ。然レトモ余ノ考フル所ニヨレハ、コヽニ又大ナル危險アリ。余ハ下ノ問題ニ困難ヲ感ス。即チ慢性病トハ何ソヤ。又コレニ屬スル者ハ何々ソヤトコレ也。人道ノ要求ヲ蔑如スルヲ避クヘシトノ前述者ノ言ニハ余ハ全ク贊成セントス。若シ恢復期療院ト痼疾療院トヲカク密接ニ連絡セシメン乎。予ハカノ憐ムヘキ者ノ中ノ最大ナル者即、病院ニ最モ長ク在リテ最モ周到ナル看護、治療ヲ受ケサルヘカラサル慢性病患者ノ得テ損失ヲ來スヘキヲ恐ル、也。調査委員ハ恐ラク百人ノ患者ニ對シハ一名ノ助手ヲ以テ足ラント云ハレタルカ、コハ只百名中八十名ハ恢復患者ニシテ、特別ノ治療ヲ要セサル時ニ於テ然ルノミ。然ラサレハ實際慢性病患者ハ苦痛ヲ感スヘシ。又時ニ人ハ玆ニ看護婦學校ヲ設ケ得ヘシトイヘルモ、カクノ如キハ眞ニ疑ナキヲ得ス。若シ一人ノ助手ニシテ百人ノ患者ヲ取リ扱フトセハ、彼等ハ何ヲ學ヒ得ヘキソ。又誰カ彼等ヲ敎ヘキソ。予ハコノ實現セラレサルヘキヲ信ス。而シテ余ハ調査委員ノ言ニ同シテアル程ノ患者ヲ普通病院ヨリ取リ去ルノ可ヲ思フモノナレトモ、サリトテ、コレニ付キテ、サキニ少クトモ可能トシテ述ヘラレシ程ニ、深ク立チ入リ得ヘキカニハ、信ヲ置ク能ハス。又コノ種類ノ全然輕重病患者ヲ共ニ收容シ、即チ重病慢性患者ヲモ共ニ收容セントスル病院ヲ建設センニハ多クノ困難アルヘキヲ思フ也、又慢性病ノ意味如何ヲ區別スル事モ困難ナリトス又タトヘ、ソノタメ特殊ノ病院ヲ建設セムトスルモ所屬不確ナル病其他ニアリテハ、患者ノ病院相互間ニオケル轉換ハサクヘカラサル者ナラム。故ニ余ハ一般ニ先ツ特殊ノ簡易ナル建物又ハバラツクヲ殊ニ良好ナル位置ニテ大病院ニ附屬セシムル策ヲ取ルヲ可ト信ス。カクノ如キ設備ハ已ニ存スル者ニシテ已ニ述ヘラレシ「ベルリン」ノ「シャリテ」ニ於ケル之也。カシコニ於テハ已ニ永ク輕症患者ニ對スルバラツクノ設備アリ。而シテ吾人ハ、コノ縣ニ於テモカヽルバラツクヲ有スル多クノ病院ヲ有スル也。エツセンニ於テハ今ヤカトリツク敎ノ一病院建設セラレタリ予モ亦カヽル病院ノ建設ヲ長官ニ建言シ、ソノ設置ヲ見ントス。兎ニモ角ニモ余ハ大病院ニシテ良好ナル位置ニバラツクヲ作リ得テ、コヽニ多クノ手術ヲ要セサル人ヲ轉置シ得ヘシトセハ、之ニヨリテ尨大ニスキタル病院ヲ現出セサル限リ採用スヘキモノナラムト

信ス。

之トヤ、關聯セル事ヲ述ヘントス。輕症患者並ニ恢復期患者ハ容易ニ外出ヲ停メ得サル者也ト云ハレシカ

余ハモシ病院ニシテ良好ナル圖書館ヲ有セリトセハ、各種ノ方面ニ利益アルヘシト信ス。又野外ニオケル遊戯ニモ缺如スル所多シ、若シ人屢々病院ヲ視察セムカ。彼等ノ遊戯スル所只カルタ遊ヒヲナシ得ルニ止マルヲ知ルヘク、ソノ運動遊戯トイヘトモ最モ簡單ナルモノナルヲ知ルヘシ。若シ諸君ニシテ彼等ヲ適當ニ仕事セシメン乎。之ニヨリテ頗ル利益ヲ與ヘ得ヘキ也。而シテ慢性病患者ニオケル如ク、及恢復期患者ニ對シテモカ、ル仕事ノ存在ハ特別ノ價アルモノ也。

バイゲオルドネテル、ドクトル、クラウトウイツヒ(ケルン)

諸君、吾人ハ今ヤケルンニ於テグローバー博士カ根本的ニ且、具體的ニ述ヘラレシ如キ考ヲ抱キ今ヤ直チニ實行セムトシツ、アリ。只之ニ於テ吾人ハグローバー博士及ヒソノ所說ノ樂天的ナルト少シク所見ヲ異ニス。吾人ハカ、ル恢復期療院——名ハ何トテモヨケレト——ハ實際ソノ建築及ヒソノ經營今日良好ニシテ質素ナル病院ニ比シ、決シテ廉價ナルモノニ非ラサルヲ知レリ。

先ツ敷地ニ關シテハ吾人ハ、恢復期病院ヲ都市ノ郊內ニ於テ建築セサルヘカラサルモコ、ニハ又普通病院ノ建設ヲ見ルヘシ。然レトモ、恢復期病院ニシテモ、慢性病院ニシテモ普通病院ニ比シ、土地ハ更ラニ多クヲ占領スヘシ。余ハカノグローバー博士ノ述フルカ如ク、多クノ森林地ヲ要求スル者ニ非ストイヘトモ自由散步ヲ得ヘキ庭園ノタメ更ラニ廣大ナル地積ヲ要スヘキハ述ヘ置カサルヘカラス。



建築ニ關シテハ吾人ハ曾ニ恢復期病院ニ於テノミナラス、又他ノ病院ニ於テモ次第ニカノ過大ナル要求ヲ去ラントシツ、アリ。吾人ハ必スシモ凡テノ場合ニ於テ廊下式ヤ時ニカノ混合建築ヲ嫌忌スルヲ要セス。又凡テノ事情ノ下ニ於テソノ一階建タルヲ要セス。二階又ハ三階ヲ以テシテモ可ナルヘキ也。然レトモ恢復期療院ニ於テハ確カニ一ノ省略シ得ヘキモノアリ。コレ即チ多數ノ醫員室コレ也。普通病院ニ於テモ、果シテカノ醫員室ノ幾分ハ省キ得サル者ナルカ。カノ大ナルラボラトリーヤレントゲン室ノ如キ各科共ニ有セサルヘカラサルカ考慮ニ價スベシ。

又余ハ云ハン、コノ種ノ建設物ニアリテハ、醫室ヲ省略スル事ヲ得ヘシト。然リトイヘトモ、一點ニ於テ余ハグローバー博士ト異ル異見ヲ有ス。余ハカ、ル建設場ニアリテハ約三十個モ病床ヲ有スル大室ヲ設ケ得ヘシト信セス。諸君ニハタシカニ退步ナルヘシ。諸君ハ近來タトヘ一人ニ一室ヲ給サストモ、一室五六人宛ヲ收容スル住ミ心地ヨキ室ヲ建設スルノ習慣ナルヲ考ヘラレヨ。諸君ハ恢復期患者ヲ三十人モ一室ニ收容シテ如何ニシテ病院內ノ秩序ヲ保タントスルカ。吾人、モトヨリ云ハン。コハ醫師及ヒ看護婦ニハヤ、氣樂ニシテ而モヤ、費用少クシテ可ナルヘシト。然レトモ如何ニシテ患者ハ、天候不良ノ際ニ安靜ナルヘキ。如何ニシテ諸君ハ、グローバー博士モ云ハレシ如キ、コレラノ愉快ヲ好ミ、精氣ニ富メル患者ノ同ニ嚴格ナル秩序ヲ保タントスルカ。肺療養所ニオケル經驗ヲ考ヘラレヨ。コノ問題タルヤシカク簡單ナルモノニ非ラサルナリ。

諸君、サレバ室ハ小ナラサルヘカラス。又痼疾病ニ於テモ、小室ナルヲ要ス。實ニ痼疾病院ニ於テハ患者

ハ已ニ離レサル身體上ノ缺點ヲ有スレハ、ナホ〳〵相當ノ住ミ心地ヨサヲ求ムル也。

予ハ尙云ハントス。余ハ只理論上ノ根本的研究ヲナセシニ止マラス、又トリ調フヘキ事ハトリ調ヘタリト。獨逸國ニ於テハソノ例ニ乏シ。余ハ諸外國ノ報告ヲ調ヘタルカ、又余ハ危險ニ富メル醫師タトヘハシヤロツテンブルグノ市醫ノ如キ——氏ハ自ラ語リ呉レシヲ感謝ス——ト談話セシカ吾人ハ皆、恢復期療院、痼疾病院ハ肺結核療養ト等シク時ニ廉價ニ建設シ得ル者ニ非スト信セリ。

ソノ經營ハ吾人ノ考フル所ニヨレハ、醫師的方面ニ於テハ疑モナク廉價ナリ。予ハ助手モ省キ得ヘク、藥品其他ノ者ニ於テモ省キ得ヘシト信セリ。サレト、コハ余ノ考フル所ニヨレハ、看病日數ニ換算シテ現今ノ病院ニ比シ、最大三〇——四〇ペンニツヒニスキシ。

食物ニ關シ痼疾病院ニテハ多少ノ節約ヲナシ得ル事正當ナルヘシ。但シ恢復患者ニアリテハ、普通病院ニオケルヨリモ、食品費ヲ著シク要スル事モ疑ナシ。余ハ諸君ニ、吾人ハケルンニ於テ平均一マルクヲ食糧費ニ支出シ、吾人ノ森林療養所ニテハ少クトモ一・八マルクヲ要セシカ、近來ハヤ、經濟的盡力ノ結果、一・六マルクニテ足ルニ至レル事ヲ告ケントス。而シテ恢復期患者ニアリテハ、食慾ノ大ニ進ム事當然ニシテ且希望スヘク、只コレト共ニ藥品費ヲ減シ得ヘキモ、トニ角食費ノ著シク增加スルハ事實也。

勞働ニ關シテハ、コノ論理的見地ヨリ、將又、醫師的見地ヨリ、コノ必要ナルハ論ヲ俟タス。只ロブノー氏モ曰ハレシ如ク予モ亦勞働ニヨリテ經濟的ニ何等、得ル所ナカルヘキヲ信ス、吾人ハ園圃ノ勞働ニ多分其他ノ工場勞働ヲナサシメントスヘキモ、之ニ由リテ何等金錢上利スル處ナカルヘキハ悉知セリ。



諸君、吾人ハ多分、多少省畧スル所アルヘシ。然レトモ多クトモ、建設並ニ經營費ノ半ヲ減セントスル事ハ能ハス。只五分ノ一乃至六分ノ一ヲ減シ得ハ充分、滿足スヘシ。然レトモ余ハ曰ハン、吾人ハコノ問題ヲ眞面目ニ考ヘ且調査委員ノ欲スル意味ニ於テ歩ヲ進メサルヘカラスト。コレ單ニ財政上ノ理由ニ於テノミナラス。又具體的ノ理由ニ於テモ然リ。何トナレハ、醫術ノ經營及ヒ患者ノ治療ハ、共ニヨク且實際的ニ分類スヘケレハ也。予ハ病院ノ更ラニ高價ナルニ至ラサラム事ヲ望ム。コノ廉價ナルニ至ラン如キハ余ノ信セサル所也。

ドクトル、ポール、クローナー、エリサベス孤兒院代表醫師（ベルリン）

諸君、グローバー博士及ヒ前討論者ハ盡ク成人ニ就テ語ラレタルカ、余ハ同一ノ輕患者病院ヲ小兒ニ對シテモ、建設スルノ必要アルヲ信セント欲ス。

公設並ニ私設病院ニ於テ、已ニ哺乳期ヲ過キタル小兒ヲ收容スヘキ病床數ハ可ナリ制限セラレタルヲ以テ只重症ニ惱ム者、若クハ、手術ヲ受クヘキ者ノミ收容シ得ヘシ。若シ吾人是等病院ノ管理報告ヲ一讀セムカ、重症ト稱スルハ主トシテ肺炎、心臟病腎臟炎ノ如キヲ患フル者若シクハ多數ノ傳染病患者ナルヲ知ルヘシ。之ニ反シ大都會ニ於ケル害惡ニ基ツクモノ即、ラヒチス、腺病、及慢性的氣管枝炎ヲ患フル多數ノ小兒ハ收容セラルヘキ場所ヲ有セサルヲ普通トス。カクノ如クニシテ、ケー、ケー、エフ、ケーノ內科ニ於テ千九百〇七年ニハ二千九百三十九人、千九百〇八年ニハ二千六百四十六人ノ小兒ヲ取リ扱ヒタルカ、是等ノ中千九百〇七年ニハ六人ノ腺病患者、六人ノラヒチス患者、十人ノ痿黃病患者、若クハ貧血患者ア

リ。千九百〇八年ニハ十七人ノ腺病患者、八人ノラヒチス患者、十四人ノ痿黄患者、若クハ貧血患者アリキ。サレハ是等ノ患者ニシテ入院セシメラルヽ者ハ殆零ニ近キ少數ナリト云フヘシ。

然レトモ如何ニ甚タシク是等ノ疾患カ、小兒ノ間ニ蔓延セルカハ下ノ事情ヨリシテ知ルヲ得ヘシ。即チ千九百〇八年ニコノ病院ノ外來ニ於テ取リ扱ハレタル三千九百人ノ小兒ノ中、百八十八人ハ痿黄病ヲ、百九十六人ハ眞正ノラヒチスヲ患ヒ居タリシ也。他ニ疾患アル小兒ニ在リテハ、ラヒチストシテノ診斷ハ行フヘキニ非サルモ。都會ニオケル各小兒科醫師ハソノ治療ヲ受ル者ノ中ハナバーセントハラヒチス症狀ヲ呈セル小兒ナルナラント信スヘシト云フモ、余ハ誇大ニ失セリト思ハス。

就學兒童ニシテ貧血症、若クハ腺病結核ヲ患フル者ノタメニ吾人ハ多クノ田舍、山中若クハ、海岸ニ於ケル小兒療養所及ヒ恢復患者療養所ニ於テ、夏期轉地所又ハ半年轉地所ニオイテ、種々ノ設備ヲ有シ、是等ノ設備ハ、多クノ惠ヲ施シ幾千ノ小兒ヲ恢復セシメタリ。

只、開放結核ヲ有スル不幸ナル患者ニ對シテハ、是等ノ病院ハ使用セラルヘカラス。コレニ對シテハホーヘンリーヘンニオケルツエシリエンハイムノ如キ病院建設セラレタリ。

之ニ反シ一歳乃至五歳ノ小兒ニシテ特ニラヒチス腺病ヲ患フル者、特ニ彼等ニアリテハ、其發汗的病素質ハ屢々戰慄スヘキ形狀ヲ呈スルモノナルカ、是等ニ對シテハ殆、施サレタル所ナシ。是等ノ小兒ヲ看護スル事ノ如何ニ必要ナルカハ茲ニ切言スルノ要ヲ見ス。唯余ハ次ノ經驗ヲ指摘セムト欲ス。即吾人ハビルケツト氏反應ニヨリ四歳ニ至ル迄ノ小兒ノ六十乃至七十五パーセントハ未タ結核菌ノ侵入ヲ受ケス。之レニ反シ四歳以上ニテハ侵入ノ百分率急速ニ增加スルニ至レリ。是等ノ小兒ヲ未タ結核菌ノ侵入セサル前ニ強壯ナラシメ、其營養狀態ヲ良好ニスルハ、我國民ノ最難ナル敵ニ對シ武裝ヲ調フルヲ意味スル也。

而シテ如何ナル小兒カラヒチス患者及發汗性病素質ヲ有スル者トシテ、コノ敵ニ暴露セラル、カ、彼等ニ在リテハ呼吸作用ニ由リ、小肋骨、彎曲シ、胸廓ハ狹少トナリ、酸素吸入ノ困難ヲ感シ、肺臟ノ血液循環ハ妨ケラレ、胃腸管內ノ醱酵ハ營養ヲ障害シ、濕疹ノ滲出液ニヒタサレタル組織及變質セル腺ハ傳染ニ對シテ門戸ヲ開放ス。

カ、ル場合ニハ其手段ヲ取ルヘク、救助ハ出來得ル限リ速カニナサレサルヘカラス。結核ノ初期ニ於テ、即ラヒチス及ヒ滲出性素質ノ旺盛期ニ於テ小兒ハ其居住地ヨリ轉シテ、病院ニ入ラシメサルヘカラサル也。是等ノ病院ノ都會ノ外部ニ存スヘク、且元來ノ療養所又ハ恢復患者療養所タルヘカラスシテ、病院ノ設備ト其權利トヲ有セサルヘカラサル也。

是等ノ小兒ヲ普通病院ニ入院セシムル事ニ不充分ナルハ明カ也。普通病院ニ於テハ彼等ヲ醫スヘキ主ナル設備ヲ缺ケリ。即チ森林空氣並ニ海氣ヲ缺キ、且カノ煤煙ニ富ミ、細菌多ク酸素ニ乏シキ空氣並ニ神經ヲ捩動セシムル絶エサル大市街ノ喧囂ヨリ直接ニ隔離セシムル力ナキ事ナリ。又是等ノ患者ハ病院ノ經濟ヲ困難ナラシムヘキ特別ノ取リ扱ヲ要ス。コノ處ニ於テハ、小仕事(マヽ、ゴト)ナサシメサルヘカラス、各小兒ハソノ食事、水療法、服裝、マッサージ、野外運動、ノイマン、ノイローデノ改良法ニヨル小體操法等凡テ各個人ノ嗜好ニ適セシメサルヘカラス。開放結果患者ハ他ノ小兒ヨリ嚴格ニ隔離セラレサルヘカラス。又長期入

院ニ由リ初メテソノ結果ヲ保證シ得ル彼等ノ治療ハ病院ニ在リテハ時間及場所ノ缺乏ヨリ豫期スヘカラス又他ノ點ヨリシテ普通ノ小兒療養所ハコノ目的ニ適セス。彼等ハ小兒ノ夏期滯在ノタメニ作ラレタルヲ以テ、冬期ノ養生ヲ行フヘキ能力ヲ缺ク、已ニ春秋ノ清涼アル日ニ於テハ喜フヘカラサル室ノ過冷ヲ來ス。幼兒ニ對スル病院ノ困難タル傳染病ニハ特別ノ健康診斷的設備ヲ要シ、夏期ニ開催スル病院ニテハ、殆執行スル能ハサルナリ、

市外ニ於ケル此等ノ病院ハカクノ如ク病院的ニ建設セラレサルヘカラス。彼等ハ地下室上ニ建テラレ、良好ニ温メラレサルヘカラス。尙一般ニ云ヘハ、建築警察ノ命令ニ滿足セサルヘカラス。只各兒童ニ對スル空氣ノ容積ハ二十五立方メートルノ代リニ十五立方メートルニテ可ナリ。マタ充分ノ隔離室ヲ有シ、各兒童ヲシテ健康診斷ヲ受ケシムルノ設備ヲ要ス。而シテカタル若シクハ疑ハシキ病ノ際ニハ、速カニコノ室中ニ閉チ込メサルヘカラス。ガラス天井ヲ有スル椽側ヲ作リ不良ナル天候ノ下ニ於テモ、一般ニ空氣療法ヲ行フニ適セシムヘク、一區ノ草原及森林ヲ置キ、日蔭ニテモ、日向ニテモ休息シ得ル機會ヲ與フヘシ。是等ノ要求ハ甚大ニ似タリトイヘトモ、ソノ費用ハ病院ニオケルヨリモ反ツテ少ナリ。ケー、ケー、エフ、ケーニアリテ、千九百〇八年ニ、都會ニ於ケル小兒ハ毎日五●三四マルクノ費用ヲ要シ、其八九●四パーセントハ不足ヲツケシトイヘトモ、多數ノ患者ト共ニ存在セシ自費患者ノ二十六人ノ者ハ節儉シテ二マルクニテ足リシカコノ費用ハ全ク充分ナリキ。

余ハ諸君ニ理論ヲ語ルニ非スシテ實際ノ經驗ヨリ述フル也。コノ種ノ小兒輕症病院ハ、已ニ行ハレツヽアリ。コレ余ニヨリテ建設セラレ指揮セラレタルベルリン郊外ボルグスドルフニオケルエリサヘス孤兒院コレ也。余ハカシコニ於テ九ケ月ノ小兒ニ對シ、冬期經營ヲナサムトシタル最初ノ者ニシテ、上記ノ如キ根本觀念ニ基ツキテ之ヲ施行セリ。其結果タルヤ是等ノ最モ幼弱ナル年齡ニ於ケル不健康ナル小兒ニ於テモ多クヲ成就シ得ヘク、而シテ彼等ハ殊ニ冬期ノ滯在ニ堪エシノミナラス、其冬期ニ於ケル血液ノヘモグロビン含量ハ、夏期ノソレニ比シテ著シク增加シタリ。萬端病院的ニ施設セラレシカ、――其經營法ノ詳細ハ時間不足ノタメ述フルヲ得サレトモ――次ノ點ニ於テ費用ヲ算スルヲ得タリ。即チ土地ノ安直ナリシ事之レ也。又凡テノ重病患者ニ必要ナル設備及ヒ複雜セル研究治療用具、手術及雜菌室、牛乳調理所、ハ要セサリキ。從事人員ノ數モ亦少數ニテ足レリ。他所ニ於テニ四人ノ病兒ニ對シ一人ノ看護婦ヲ要セルニ反シ、此處ニ於テハ、六人ノ病兒ニ對シ一人ノ看護婦ニテ足リ、十二人ノ病兒ニ對シ一人ノ上級看護婦ヲ置キコノ下ニ、自費看護生トシテ若キ娘ヲ働カシム、不寢番ハ不要ニシテ只各寢室內又ハ、ソノ隣室ニ一人ノ看護婦ヲ臥セシメ、小兒ノ不靜ノ際ニ世話ヲ燒カシムル樣ニセリ。是等ノ當直ハ順番ニ行ハシム。又洗濯ノ必要モ甚タ少シ。

カクノ如クニシテ二十六人ノ小兒ニ於テハ、ソノ經濟圓滿ニ償フヲ得。コレニ由リテ余ノ實驗セルコノ種ノ輕患者病院ハヨク生命ヲ維持シ行カルヘキ事ヲ證セリ。

サレトコノ種ノ病院ニハ尙病院權ノ缺乏セルアリ。病院權ノ療養所ニ對スル根本的差異タルヤ下ニ存ス。即療養所ハ許可ノ指令ヲ待ツテ初メテ患者ヲ收容シ得ル者ニシテ、ソノ上申タルヤ數個ノ官廳ヲ經サルヘ

カラス而シテコノ上申ト小兒收容トノ間ニハ平均四ケ月ヲ要シ、フロリツド期ノラヒチスノモノ、若クハ發汗性病素質(例之顏面濕疹)ヲ有スル小兒若クハ、初期結核患者ニアリテハ、コハ、頗ル長キ遷延ト云フヘシ。蓋シコレラノ疾患ニ於テ。吾人ノ好結果ヲアケ得ルハ、病氣ノ進渉ヲ止ムルニ存スレハ也。サレハ肺炎ノ如キ即刻收容シ、ソノ許可ノ指命ハ後ニ之ヲ致スヘク、カクシテコノ種小兒收容ノ時ヲ失バサルヲ得ヘキナリ。コノ他、下ノ事ハ最モ必要ナルヘシ。即救濟局ノ費用ハ之ヲ療養所ニ費サスシテ、當該局ノ病院費用ヲ以テ支辨スル事之レ也。

國家ハ之レニヨリテ好結果ヲ得ヘシ。吾人ハ吾人ノ集中セラレシ經驗及方法ニヨリ是等小兒ニ對シ眞直ナル四肢、廣大ナル胸廓良好ナル組職ノ身體ヲ有セシムヘク、初期疾患ヲ其萠芽ノ中ニ壓服スヘクカクノ如クニシテ慢性病若シクハ、不具カソノ看病、藥劑、副木、器具及ヒ手術ニ由リテ要スヘキ凡テノ費用ヲ節減スル事ヲ得ルナリ。

サニテーツ、ラート、ドクトル、クラインシミツト氏(エルバーフエルト)

諸君、彼ノ調査委員ノ述ヘラレシ考ハ新ラシキ者ニハ、非ストスルモ、コノ考ヲ明瞭ニ、系統的ニ、云ヒ表ハセシ大効ニ至リテハ、調査委員ニ歸スヘキモノナリ。サレト調査委員ノナサレシ考案ノ果シテ實行セラレ得ルヤニ至リテハ多クノ理由ニヨリ疑ナキ能ハス。

多數ノ町村及特ニ市ハ、已ニ普通病院ノ負擔ヲ輕減セムカタメニ特別ノ用意並ニ設備ヲナセル事人ノ知ル所也。而シテ是等ノ設備タルヤ實ニ調査委員ノ報告ト全然同一ナル者ニハ非スト雖、ソノ事實ニ於テハ頗ル適切ナルモノ也。之レ、予ハ輕症患者ニ對スル恢復患者療養所ヲ意味シ、慢性患者ニ對スル看療所ヲ意味スルナリ。

カクノ如クニシテ、我エルバーフエルトニ於テハ、カノ其ノ一部ハ漸ク最近ニ於テ設立セラレ試驗ヲ經タル設備ヲ廢セントスルカ如キ傾向全然ナシ。尙エルバーフエルドニハ、森林療養所アリテ容易ニ、擴張スル事ヲ得ヘク、轉地療養ヲ要スル人ノタメニ完全ニ適當ス、又近來ニ至リ一ツノ看病所ヲ設ケコ、ニ痼疾ト稱セラル、慢性病患者ヲ收容スル事トセルカ、コハ未タ一部分ノ入院患者ヲ有スルニスキス。

余ハ近來病院ノ大ナル分科ノ長トシ是等ノ病院ニ入院セシムヘキ患者ノ撰擇ニ從事シタルカ、ソノ之ニ適スル者ノ少數ナルニハ、一驚ヲ喫シタリ。已ニ前述者ノ述ヘシ如ク、慢性神經病患者、若シクハ慢性痛風患者及老衰患者ハ、固ヨリ之レニ適當ナル者トシテ定ムヘキ也。傳染病患者ハ當然除外スヘク、之レト共ニ結核患者モ亦除カサルヘカラス。蓋シ吾人ハ彼等ヲ以テ當然傳染病患者ト見做スヘキナレハ也。然レトモ、コノ看療所ニ入院セシムヘキ病者ノ百分率ハ下ノ如クニシテ頗ル增加セシメ得。即チ彼ノ慢性結核患者末期結核患者ニシテ勞働スル事ヲ得ス、且充分ノ住屋ヲ有セス。サレト、直接不斷ノ醫師ノ監督ヲ要セサル病菌呼出者ニシテ、彼等ノ住居ヨリ隔離セラルヘキモノヲ是等看療所ノ特別室ニ收容スレハ可也。モシコノ事ニシテ實行セラレ得ヘシトセハ結核豫防上、著大ナル進歩ト云ハサルヘカラズ。カノ「結核傳染ノ際ニハ結核患者カ最モ注意スヘキモノ也」トノコツポノ言ハ明カニ眞ナリ。而シテ結核豫防ニ於テ眞ニ住居問題カソノ中心點ナリトセハ、吾人ハ吾人ノナシ得ル限リ傳染ノ減少ニ對シテ、總テノ他ノ設備ヲ喜

ンテナスヘキナリ。

余ハ看學學校長トシテ樞密醫事顧問ボルトレーガー氏ノ意見ニ贊同シ、カノ調査委員カ、慢性病患者病院ニ看護學校ノ設備ヲ設ケントスル意見ニ贊成シ能ハサル事ヲ述ヘント欲ス。慢性病患者ノ看護ハ看護婦ノ力ヲ要スル事著シク多大ニ、又看護婦ハ慢性病患者ノ看護ニヨリテ多ク學フ所アルヲ得ヘシトイヘトモカノ多クノ傳染病及ヒ急性病ヲ以テ是等看護婦ノ教材ニ資スルノ絶對的ニ必要ナルヲ信スルナリ。

尚一事ニ就テ觀察スヘシ。討論者ノ一員ハ看病所ニテ解剖ヲ行フヲ以テ人道ニ背反ストナセリ。サラハ、諸君、又大學臨床講義及一般病院ニテ解剖ヲ行フモ亦著シク役人道的ナルヘキニ非スヤ。予ハ解剖ヲ以テ醫術ノ科學的進歩ニ有用ナルモノニシ、看病所並ニ痼疾病院ニ於テモ之カ施行ヲ止ムヘキニ非ラサルヲ信ス。

市長ヘルト(ツアーブルツエ)

諸君、カヽル會議ノ性質上、醫師諸君ハ普通進歩主義者ニシテ、行政官吏ハ云ハヾ保守黨トシテ、疑ヲ抱ケル者也。其理由タルヤ簡單ナリ。曰ク、彼等ハ其事業ニ關シ稅金ヲ徵集セサルヘカラサルヲ以テ也。今コヽニ述ヘラレタル提案ノ如キニモ吾人ハ凡テ勿論贊成ス。然レトモ漸ク最近ニ一病院ヲ建設セル者ニアリテハ、ソノ境遇困難ナリト云フヘシ。彼等ハ復近々ニ町村又ハ市ニ向ヒテ更ラニ輕病患者ニ對シテ特殊病院ヲ建設セム事ヲ求ムルハ不可能ナルヘシ。コレ行ハルヘキ事ニ非ス。又ナスヘカラサル事也。サレハ余ハ次ノ問題ヲ提出スルノ不條理ニアラサルヲ信セント欲ス。曰ク、吾人今日迄病院トシテ共用セラレタル、痼疾病院ヲ以テ茲ニ提案セラレタル目的ノタメニ又共用スルモ醫師ノ見地ヨリシテ全然許スヘキモノナルヘキ事是也。

コノ問題ハ實際的也。吾人ハアル急速ニ發展シツヽアル町村、又ハ特ニ急速ニ發展シツヽアル町村ニ於テ善カレ、惡カレ、中大ノ一病院ヲ有セリトセム、而シテ今ヤ更ラニ、一新病院ヲ建設スルノ必要ニ迫リ、一病院建設セラレ且、舊病院モ保存セラレテ痼疾病院トシテ更ニ、使用ヲ續ケラレタリトセム。而シテ、コヽニ空場所アリトセムニ、カシコニ輕症患者ヲ收容スヘカラサルカノ問題生スヘシ。若シコノ事ニシテ可能ナリトセハ、ソハ自ラ經費ノ節減ナルヘク、又醫師諸君ノ大部贊成セラレシ調査委員ノ提案モ實現セラレシ事トナルヘシ。トニ角吾人ハソノ過渡期ヲ利用シ、後ニ輕症患者ニ對シ、蛾屋ヲ建設スルヲ得ヘシサレハ、コノ事タル費用節減ニ至ル一過渡期ニシテ、本會議ニ存スル二個ノ立脚地ヨリシテ推薦ニ價スル中庸ヲ得タル方法ト云ヒ得ヘケム乎。

市會議員、ドクトル、ゴットシタイン(シヤロッテンブルヒ)

諸君、グローバー博士ハ、ソノ結論ニ於テ述ヘラレテ曰ク、氏ハ實際只將來ノ計畫ヲ述ヘシニスキスト、病院組織ニ關シ多大ノ經驗アルコノ人ニシテ、コノ言葉アルハ、誠ニ注目スヘキ事トイフヘシ。予ハ下ノ如ク云フモ恐ラク氏ノ首肯スル所ナラム。即チ彼レノ計畫ノ主要ナル點ハ、ソノ主ナル部分ニ於テ、彼レノ引用セシ予ノ千九百〇五年ノ著書ニアル提案ニ一致スルニ過ス。蓋シコノ全問題ハ最近五ケ年ニ於テ些少ノ解決ヲモ來サヾリケレハ也。サレハ、今コヽニ詳細ナル事項ハ之ヲ論セサルヲ可トス。何トナレハ未タ

コノ詳細ニ論シ得ル程度ニ達セサレハ也。

予ハ二個ノ例即チ調査委員及ヒ同僚クラウトウツヒ氏ヨリシヤロッテンブルグニ於ケル計畫、即チ輕症病院ヲウエスト、エントノ病院敷地上ニ建設セントスル事ニ付、演說スヘク希望セラレタリ。

コノ輕症病院ヲ建設セントスル考ハ主任醫師ベッセルハーゲン博士、並ニグラーウッツ博士ノ奬勵ニ出ツ

予自身ハ只一委員トシテ共ニ働キシノミ。

コノ場合ニ於テハ、已ニ主治病院ノ治療ヲ要セサル恢復患者又ハ輕症患者ヲ轉置セントスルニハ非スシテグローバー博士カソノ演說ノ初メニ於テエネンスノ病院ニ就テ述ヘラレシ如ク、毎日、診察並ニ注意ヲ受クル事ハ要セサレトモ、絶對的ニ最初ノ診療ヲ受ケシ、醫師ノ取扱ノ下ニアルヲ必要トシ、外科患者ニセヨ、內科患者ニセヨ、手術(治療カ)ヲ行ヒシ醫師ノ下ニアルヲ最良トシ、入浴其他ニ於テモ、全處方ヲ立テタル醫師ノ取リ扱ヲ受クルヲ最モ可トスル場合ニ就テ述フル也。

コレコノ患者ハ簡單ナル狀況ノ下ニ收容スルヲ得ヘキ也。ソノ家屋タルヤ主トシテ寢室ヲ以テ足レリトスヘク、特殊ノ治療設備等ヲ要セス。蓋シ患者ハ自ラ醫師ヲ訪問スヘク醫師ノ來診ヲ要セサレハ也。吾人ハ同僚クラウチツヒ氏ニ向ヒ、コノ處ニオケル病床ハウエストエントニ於ケル主分科ヨリハ數千マルク廉價ニ作リ得ヘキヲ告ケ得ヘシ。

コノ設備ニ對シテ報告者ハ三個ノ批難スヘキ點ヲ擧ケラレタリ。一ハ病院カ過大ノ大サニ達セントスル事也。コノ危險タルヤ他所ニハ之アラムモ吾人ノ場合ニハコレナカルヘシ。蓋シ吾人ハ病床壹千個以上ニ上ラ



ン事ハ企テサレハ也。コノ輕症患者收容ノ蛾屋(バビロン)ハ最初ノ計畫內ニテハ一千個ノ病床ヲ有スヘカリシ也。

第二ノ批難タルヤ、之レ等ノ病室タル流行病ノ際ニ傳染病ニ對シ利用セラレスヤトイフ事ニ在リ。サレド全構造上、小室多ク、廊下狹キニヨリテ督監官吏ハ之ヲ許可セサルヘク、吾人モ亦傳染病ノ全然コノ病院ヨリ除外セラレタル點ヨリシテカク利用セラレ、得ヘキヲ信セサル也。

予ハ何等ノ危險ヲ覺エサレト、更ラニ他ノ道ニ利用セラル、恐アリ。即コノ蛾屋(バビロン)ハ流行病ノ際ニ、他ノ蛾屋(バビロン)ヲシテ自由ニ傳染病患者ヲ收容シ得ヘカラシメンカタメ、重症ナル患者ノタメニ利用セラレン事也。サレトコレニ對シテハ衞生上ノ顧慮スヘキ點ハ存セシ。

第三ノ批難タル、營養ノ區別カ患者間ニ異論ヲ起サヾルヤノ問題ハ予ニ取リテハ理論的ニ構成セラレタルカ如クニ見ユル故、之ヲ深ク論セサルヘシ。

ソノ他、シヤロッテンブルヒ自治體ハ決シテ患者ノ轉置ヲ阻マントスルカ如キ、何等ノ事ヲ考ヘス。何トナレハカノ樞密顧問ブッター氏ノ語ラレシ、同僚ドスケー氏ニヨリテノルド、エンドニ建テラレシ、蛾屋(バビロン)ハシヤロッテンブルガー自治體ノ奬勵ニヨリテ建テラレシ者ニシテコ、ニ結核患者ヲ置カントスル者ナハレ也。

更ラニ最後ノ點ヲ述ヘン。グローバー博士ハ彼ノ語ラレシ患者ノ種類中ニ、又第三期結核患者ヲ擧ケラレタリ。余ハ更ラニコノ事ニ就テ述ヘ第三期結核患者ヲ除外セム事ヲ氏ニ求メントス。コレラノ患者ハ、已ニサニテーフ、ラート、クライン、シミット氏ノ言外セラレシ如ク醫學的見地ヨリモ寧ロ社會的見地ヨリ

シテ、病院ニ收容セラルルナリ。多數ノ經驗ニヨルニ彼等ハソノ癈疾トナリシ後、即チ勞働不能トナリ困苦ノ狀ニ陷レル後、尙殆千日間生活スルヲ示セリ。コレラノ期間ニ於テ彼等ハ一般ニアル時ハ入院スルノ必要ヲ有セス、他時ニハ數週又ハ數月間病床ニ横ハレル也。サレト彼等ハ貧民管理上ノ困難並ニ他人口ニ對シ、危險ナルヲ以テ、ソノ住所ヨリ遠クル事、頗ル必要也。若シ吾人ニシテ之レ等ノ病者ヲ彼等ノ洞窟――ト云ヒ得ヘクンハ――ヨリ引キ出サントセハ、四週間後ニモ彼等ノ再ヒソノ洞窟ニ返ル事ナク、彼等カ住ミヨキホームヲ有セムカタメニ、彼等ニ多少ノ與フル所ナカルヘカフス。蓋シ彼等ハ吾人カ彼等ニ犧牲ヲ强フル如クニ、彼等モ亦自己カ忍耐シ得ヘキ住ミ心地ヨキ狀態ヲ吾人ニ要求シ得ヘケレハ也。

田舍ニ轉地シ、多少ノ寂寥ヲ甘受スル醫師ニ就テモ同樣ニシテ、彼等ハ心地ヨキ室及ヒ圖書館ノ設備等ニヨリ科學的研究ニ奬勵ヲ受ケサルヘカラス。第三期ノ結核患者ニ對シテハ――余ハソノ設備ヲ出來ル限リ廉價ニナサムトスル見地ヲ代表ス――吾人ハソノ退院並ニ收容ニ關シテハ醫師ノ說ノミニ重キヲ置ク事ナクシテグローバー博士ニヨリテ指摘セラレシ患者ニ對スルヨリモヤヤ範圍ヲ廣クナササルヘカラスト信スグローバー博士ハ、數ケ月前ニ大都市ニオケル病床ノ事ニ關シ、演說ヲナサレタルカ、コノ演說ニ於テ氏ハソノ數字ヲ確定スル事能ハスシテ壹千名ノ住民ニ對シ五六個ヲ設クヘシト云フコトモ當ヲ得スト申サレタルカ、余ハ氏ニ乞ハントス。余ハ敢テ病床ノ事ニ關シ、一般ニ確定セム事ヲ求メス、只コノ場合ニ於テ下ノ如ク云ヒ得ヘシ、即チ吾人ハ氏ノ所說ノ如クナシ得ヘク、又アル事情ノ下ニ於テハ、之ト異ニナシ得ヘク、又ナササルヘカラサルヘク、彼レノ述ヘシ數モアル種ノ病人ニ對シテハ多少變更セサルヘカラス。

就中、コハ第三期ノ結核患者ニ對シテ然リト。

政府並ニ樞密醫事顧問ロート氏（ポストダルム）

諸君。余ハ主要ナル點ニ於テ調査委員ノ議論ニ贊成ノ意ヲ表セムトス。但シ余ハ萬事ニ贊成スル者ニ非ス。タトヘハ小房ノ代リニ大室ヲ設ケムトスルカ如キハ、贊成セス。吾人ハ今ヤ殊ニ、勞働者救護費ニ關シ、寧ロ少數ノ患者ヲ收容スル病院ノ損失ヲ論セサルヘカラサル地位ニアリ。カカル病院タルヤ大病院程ニ、指導醫師ノ個人性ヲ沒却スル事ナキニ於テ利益アリ。

前論者ノ意見タルヤ就中如何ナル患者カ、コノ姉妹病院ニ入院スヘキカノ點ニ於テ區々タリ。一部ハ慢性病患者ト、結核患者ヲモ收容スヘシトナシ、他ハ結核患者ヲ除外セムトス。余ノ考案ニヨレハ、コレラノ病院ハ第一ニ、輕症患者及ヒ慢性病患者ヲ收容スヘク、精神病患者並ニ傳染性患者ヲ除外スヘキ也。コレラノ病院ニ癈疾病院ノ特質ヲ與ヘントスルカ如キハ、報告者ノ欲セサル所也、特ニセマキ意味ニオケルカクノ如キ癈疾病院ニ對スル要求ハ、カノ特殊病院、不具療院。療養所ノ增加ト共ニ減少スヘキ也。サテ再ヒカクノ如キ姉妹病院ニ入院セシメラルヘキ輕症並ニ慢性病患者ヲ見出スヘキ標準ニ就テ語ラム。余ハコノ標準タル主トシテ病床ニ臥ササル病者ヲコレラノ病院ニ收容スヘシト信スル也。コハ特殊ノ理由ニ基ツク者ニシテ實ニ管理法律上ノ理由ニヨル者也。コノ種ノ病院開設許可ノ指令ヲ與フル如キ際ニ於テハ、監督官廳ハ病院設立ニ關スル警察令ニ拘束セラレサルヘカラス而シテ是等ノ警察令ニシテ私立病院ニ關スル上級行政法律ニヨリテ無効トセラル、モ尙許可ニ關スル縣委員ニ對シ、コノ警察令ニ相應シ、且縣委員

ヲ拘來スヘキ命令與ヘラレルヘシ。恢復期療院並ニ小病院ノ設立ニ關シ、幾回モ之レ等病院ニ對スル現存命令ノ輕減ヲ要求スルノ必要アリタリキ。予ハ前述者並ニ尊敬スル同僚ボルントレーガー氏ニ反對シ、コノ種ノ病院ニ對シ命令ノ輕減ヲ望ミテ一言ヲ述ヘサルヘカラス。

人或ハ曰ン。警察令ニヨリテ定メラレタル條件ハ最モ緩和ナル者ナルノミト空氣容積ニ關シテハ予モ亦ソノ然ルヘキヲ信ス。然レトモ亦タトヘハ警察令ニ在リテハ、廊下ハ一般ニ外側ニ設ケラルヘキヲ規定ス。而シテアル縣委員ノ如キハ嚴重ニコノ規定ニ準據セリ。サテ屢々生スル如ク小ナル地方疾病金庫、又ハ小町村ニ於テ適當ナル既存建物ヲ病院トシテ利用セムトスルヤ、只中央廊下ノ現存スルタメニ屢々ソノ障害ヲ來ス也。衞生上ノ見地ヨリシテハ、着床患者ニ非ラサル時ニ於テノミ、中央廊下ハ許可セラルヘキ也。主トシテ着床患者ヲ取リ扱フ病院ニ於テハ、如何ナル狀態ノ下ニ於テモ中央廊下ハ許サルヘキ者ニ非ス。何トナレハ、コノ際、空氣通シトシテ役立ツヘキ廊下ハソノ用ヲナサヽレハ也。

カクノ如ニシテ、是等ノ見地ニ由リ廊下並ニ其他ニ關スル規定(室ノ位置、特別ノ管理家屋ノ建設)ノ輕減ヲ期シ得ヘケンカタメ、余ハ主トシテ、コノ種ノ病院ニ傳染病患者及ヒ精神病患者ヲ除ク、非着床患者ヲ收容セント欲ス。余ノ考ニ由レハ、カクノ如キ病院ニ對シテハ、カノ凡テ五十個以上ノ病床ヲ有スル病院ハ特別ノ管理家屋ヲ有セサルヘカラストノ要求モ實行セラルヘキニ非シ。

サレハ、余ノ考フル所ニヨレハ、カヽル小病院ニ關シテハ命令ノ輕減ヲ期スル事必要ナリトス。

モシ不斷一醫師ヲ有セサル時ハ、ソノ秩序維持ノ困難ヲ來スヘシトノ配慮ニ關シテハ、余ハ自身ノ經驗ニヨリ寧ロ患者ノ自治並ニ相互監督ニ重キヲ置クノ可ヲ信セントス。余ハ經驗ニヨリテ、モシ相當ノ屋內規則ノ存スルアラハ、多クノ病院ニ於テ、相互監督ノ行ハル、事ヲ知レリ。

余ハ管理的、社會衞生的ノ要求ハ主トシテ、非着床患者ニ對シ、カクノ如キ病院ヲ建設スルニ在リトシ、次ニコノ種ノ病院ニ對シテハ現存ノ命令ノ輕減ヲ期スルノ必要ヲ認ムル也。

バイゲオルドネター、シタツトバウラート、シエーンフエルダー氏(エルバーフエルド)

諸君、余ハ醫學上ノ範圍ニ深ク立チ入ル事ナカルヘシ。コレ明カニ余ノナスヘキ事ニ非サレハ也。サレト他方ニ於テ調査委員ノ演說要旨ハ建築上ニ於テ最モ重要ナル條項ヲ含メル者ナルヲ指摘スルノ必要ヲ感ス實際慢性病院ハ一般病院ヨリモ廉價ニ建築シ得ヘキ事余ノ信スル所也。

今ヤ吾人ハエルバーフエルドニ於テ一ノ例ヲ有シ、諸君自ラ之ヲ視察スルヲ得ヘキ也。吾人ハ一ツノ病疾病院ヲ作レリ。然レトモ是單ニ病病患者ノミヲ收容セントスルニ非ス。中後ノ都會ニ於テハ自明ナルカ如ク又他ノ患者ヲモ收用セムト欲ス。一部分ハ老廢者並ニ安靜ナル精神的患者ヲモ收容セムト欲ス。トニ角コノ病院タルヤ、ホヽ調査委員ノ意味スル者ニ適應シ、ソノ一病床建設費モ亦此ノ假定スル所ニホヽ正確ニ一致スル者ナルヲ述ヘ得ヘシ。諸君ハ自ラ之ヲ視察スレハ、知ラルヘキカ如ク、三千乃至四千マルクヲ以テ患者收容ニ關シ病院ニ必要ナル一切ノ設備ニ應セル病院ヲ作リ、後ニ困難ヲ生セサル事可能也。諸君ニシテ大病院ニ於テ手術室ノ費用幾許ヲ要スルカ、而シテ今ヤソノ一ツノミナラス、能フヘクンハ、三個ノ存在ヲ必要トスルヲ考ヘ、又更ラニカノ細別セラレタル分科ヲ有シ、ソノ分科毎ニ個々ノ洗濯並ニ入浴設備

ヲ有シ、洗濯物ノ消毒室ヲ有スル蛾屋式傳染病室カ幾何ヲ要スルカ、並ニ已ニ疑モナク發生スヘキ贅澤ニシテ、患者ノ支拂フ金ノミニテ到底支辨スルニ足ラサル贅澤ヲ有スル私費患者ノ蛾屋式建物カ幾許ヲ要スルカ、又最後ニ諸君ニシテ大病院ニ於テ中央消毒所、鑛泉、解剖室等カ幾許ノ費用ヲ要スルカヲ考ヘナハ諸君ハ一病院ノ全費用ノ二十乃至二十五パーセントハコレラノ必要物ニ、取リ去ラルヽヲ知ルヘシ。若シ諸君ニシテ今日ノ病院建築ニ於テ一床ノ平均價ヲ五千乃至五千五百マルクト假定セハ、若シコノ中ヨリ上ニ計算セラレタル二十乃至二十五パーセントヲ減少スル時ハコノ費用ヲ三千乃至四千マルク若クハ四千マルク强ニ減スル事ヲ得ヘシ。

余ハ判然次ノ如クニ述フルモ不遜ナラサルヘシ。余ハ各方面ノ病院建築ノ經驗ニヨリテ、一般ニカヽル種類ノ病院ヲ建築スル事ニヨリテ主トシテ病床費ヲ減少シ得ヘキ確信ヲ有スト。

ゲハイメル、オーバーメヂチナルラート、ドクトル、アーベル氏(ベルリン)

諸君、討論者諸君ノ述ヘラレシ所ヲ見ルニ、調査委員ノ提案ノ如何ニ、注意ト考慮トニ價スルカノ點ニ於テハ、可成一般ニ意見一致スル者ノ如シ。凡テノ詳細ナル部分カ氏ノ提案スル如キ方法ニテ實行セラルヘキカ否カハ疑フヘシ。サレト、之ハ多少ノ修正ヲ經テ實施セラルヽヲ得ル問題ナリ。

新病院ノ多クヲ見タル人ハ下ノ印象ヲ有スヘシ。即チ吾人ハアル程度ノ贅澤ヲ以テ病院建築ニ臨マントシ又患者ノ利益ノタメ、絶對的ニ必要ナルヨリ多クノ設備ヲナシツヽアリト。余ハ特ニ余カ大都市ノ病院、地方保險會社ノ病院ヲ見ル毎ニ、コノ意見ノ胸ニ湧クヲ覺ユルヲ述ヘサルヘカラス。

諸君、大部分下層階級ノ人民ヨリナル患者ヲカヽル贅澤ナル病院ニ收容スルカ多少ノ危險ヲ含ム。吾人ハ屢ニ之レ等ノ人ニソノ病院ヲ出テ、定業ニ歸ラントスルニ當リ幾分ノ不安心ヲ感スルヲ經驗セリ。彼等ハ再ヒ彼等ノ缺乏セル狀態中ニ安ンシテ生活スル能ハサルナリ。

重病患者ニシテ充分滿足ナル醫師、其他ノ取リ扱ヲ要スル人々ハ最良ノ設備アル病院ニ收容セラルヘカラサルハ明也。サレト病院ニ收容セラルヘキ凡テノ人カ盡ク重病患者ニ非ラサルハ豫メ心得サルヘカラス。マタ必要ニセマラレテ急性重病患者ト、慢性重病患者トヲ、同一室ニ收容スルカ如キハヨロシカラス。輕症患者ハ靜蕭ナラスシテ重病患者ノ妨害ヲナスヘシ。而シテ輕症患者ニ在リテハ、實際、衞生的ニ最完全シタル設備ハ必要ヲ見サルナリ。病院設置ニ關シ官廳側ヨリナサル、要求ハプロシアニ於テハ命令ニヨリテ定メラレタリ。コノ事ニ就テハ已ニ玆ニ論セシ人アリキ。予ハ下ノ事ヲ述ヘテ可ナルヘシト考フ。即チプロシア地方議會ニテ與ヘラレタル勳議ニヨリテ、是等ノ命令ハ今ヤ再考ヲ見ルヘク、コレ實ニ之ヲ嚴重ニセンカタメニ非ス。反ツテ緩和セシメンタメナリト。人ハ已ニ今日迄ナサレタルヨリモ少數ノ要求ヲ以テ足ルヘキ事ヲ知レリ。新ニ建築セラレタル多數ノ病院ニ於テハ、已ニ人ハコノ緩和セラルヘキ命令ニヨリテ希望セラル、以上ニ走レリ。先ツ吾人ハコノ關係ニ就テ再ヒ吾人ノ意見ヲ再査セサルヘカラスト信ス。

輕症患者並ニ特別ニ周密ナル看護ヲ要セサル慢性病患者ニ向ヒテハ、吾人ハ先ツ、重病患者ヲ收容スル病院ト直接ニ連絡シテ比較的粗末ニ、比較的衞生設備不完全ナル室ヲ建設スル事ヲ得ヘク、又病院ノ負擔ヲ輕減セムタメニハ、輕症患者、慢性疾患者、恢復期患者ニ對シ、善良且、健康ナル場所ニ簡單ナル設備ヲ設

クルヲ考ヘ得ヘシ。カヽル屋内ニテハ患者ハ再ヒ勞働ニナラサルル事ヲ得ヘシ、而シテ已ニ討論者ノ一氏カ述ヘラレシ如ク、吾人ハカヽル勞働ニヨリテ病院ニ對シ經濟的利益ノ生セン事ヲ望ムヘキニ非ス。コレソノ目的ニ非ス、只彼自身ノ利益ノタメニ、患者ハ次第ニ再ヒ簡易ナル勞働ニナラサレサルヘカラサル也。サテ不治患者ノ收容ニ付テハ、予ハ是等ノ患者ヲ、根本的ニ恢復期患者及ヒ輕患者トヨリ分ツヘキニ非スト信ス。已ニ述ヘラレシ如クカノ不治患者ノミヲ一ケ所ニ集メ、救濟モ講セスシテ、只ソノ一人一人ガ死去シ行クヲ見シムルハ、沒人道的ナルヘシ。予ハコノ意見ニ同シ、之レト關聯シテ論セント欲ス。即チ特ニ不治患者收容ノタメニ建テラレタル病院ニ於テモ、ソノ人道ヲ重ンスル指揮者ハ、コレラ不治患者ノ外ニ又他ノ患者ヲモ收容シ、同院者カ時ニ健康ヲ恢復シ、輕易トナリテ出院スルヲ知ラシメ、以テ生活ノ氣力ヲ失ハシメサル樣ニ注意スヘシト、予ハ、痼疾患者ヲ以テ恢復患者並ニ輕患者ト共ニ特別簡易ナル病院ニ收容スルハ吾人ノ取リ得ヘキ最良策ナリト信ス。コノ際傳染ノ生スル事ナキ樣注意スヘキハ、自ラ明也。タトヘハ第三期ノ結核患者ハ他人ニ之ヲ傳染セシメサル樣ニ收容スヘク、傳染病患者ノ恢復期ニアル者モ、ソノ傳染力アル以上ハ隔離セラルヘキナリ。

之レニテ討論ヲ終リ結論ニ移ツル。

調査委員ドクトル、グローバー博士

諸君、乞フ先ツ予ヲシテ諸君ニ對シ、諸君カ予ノ調査報告ニ對シテ拂ハレシ熱心ナル注意、及ヒ之ニ關スル周密ナル討論ニ付キ、深厚ナル感謝ノ意ヲ表セシメヨ。予ハ是等討論タル各討論演說者諸君ノ經驗ノ進ムニ從ヒ報告ノ要旨ヲ更ラニ改良進步セシムヘキヲ信ス。

予ハ先ツ樞密顧問フツター氏ニ對シテ答フヘシ、即チ予ハ氏カ考ナル一大病院ノ代リニ、四五ノ小病院ヲ建設スルハ、ソノ全額ヲ考フル時ハ、或ハ甚タシク或ハ幾分安價ニ作業シ得ヘシトイフ事ニ對シ、同意シ能ハサルヲ述ヘント欲ス。若シ氏ニシテ小建物ニ於テハ、ソノ使用人員ノ少數ナルヨリシテ管理費用少ニテ足レリト云ハヽ、マタコレラノ費用タル氏ノ擧ケシ例ニ於テ大病院ニオケルト同一使用ヲ達セントセハ、六倍ニ增加スルヲ思ハサルヘカラス。フツター氏自身モ亦中央洗濯所並ニ中央分配所ヲ建設スル推薦ニヨリテ氏モ亦個々ノ小病院ニテ作業スルヨリ中央集中ヲ以テ利アリトスルノ意ヲ表明セラレタリ。予ノ見ル所ニシテ正シカラン乎。吾人カ有スル現今ノ大病院即チ蛾屋式ニヨリテ建築セラレソノ各種ノ分科ヲ有スル所ノモノハ、出來得ル限リ醫學的管理的方面ニ於テ已ニ集中セラレタル多數ノ病院ノ集合ヲ意味スルナリ。予ノ經驗ニ基ツキ、予ハカクノ如クニシテ病院費節減ヲ期スルノ不可能ナルヲ信ス。建築費ノ小建築ニ於テ少額ナルハ、事實ナルヘシ。サレト予ハ又大建築ニ於テモ適切ニシテ且節約ナル方法ニ由リ常ニ現時ノ普通價格ニ對シ著シキ節減ヲ見ルヲ得ヘシト信ス。只予ハ極メテ近時ハムブルヒ、セントゲオルグノ病院ニ於テ一層蛾屋式建物ヲ一病床四千六百マルクノ割ニテ建設セラレタルヲ指摘セムトス。コノ中ニテハ凡テノ不用ナル事物ヲ省キタレトモ而カモ衞生上ノ要求並ニ著シク良好ナル醫學的經營ニハ充分滿足スヘキモノナリシ也。

カヽル散在病院ニオケル經營ハ只普通病院ニ於テ重病者ヤ、傳染病患者ノ要スルカ如キ經營上ノ大要求ヲ

ナサヽル病者ノミヲ收容スル時ニ於テノミ廉價ナル也。若シ吾人ニシテコノ小病院ニ輕患者並ニ慢性病患者、即チソノ治療ニ多額ノ費用ヲ要セサル人々ノミヲ收容セン乎。――コノ點ニ於テ予ハブッター氏ト同歩調ヲ取ル――彼レノ算定スル所或ハ眞ナルヲ得ヘシ。若シ吾人ニシテ小病院ニモ尙大病院ニ於ケルト等シキ治療ヲ行ハシメ、而カモソノ職務ニシテソノ病院特有ノモノナラシメン乎。ソノ建設並ニ經營ハ各種ノ設備並ニ要求ニヨリテ高價ヲ來シ、大家屋ノ方更ラニ經濟的ナルニ至ルヘシ。ドスクエット氏ノ病院ノ事ハ予モ亦之レカ注意ヲ促シタリ。予ハ自ラ親シク之レヲ知ラストイヘトモ速カニ參觀ノ榮ヲ得ヘシ。然レトモ同僚ドスクエット氏ハカノ注意スヘキ常ニ多少シマリノ惡キ。押シ上ケ窓ヲ有スル室ニ於テ肺炎、關節リウマチス、心臟病、チフス患者等ニ治療シ得ヘキカ、又腹部、胸部、頭部、四肢等ニオケル手術ヲ行ヒ得ヘキ乎、疑ナキヲ得ス。氏ノ家屋ハ輕症患者ノタメ建設セラレタル者ニシテコノ點ニ於テハ、有用ナル務ヲ果シ得ル事、ブッター氏ノ意見ニ一致ス。

其他ノ點ニ於テ予ハブッター氏ノ欲スル如キ散在制ニ於テハ輕患者並ニ重病患者ヲ共同ニ收容スル事ニ關シ今日ノ病院ニオケルト同樣ノ喜ハシカラサル經驗ヲ生スヘキヲ信ス。輕患者ヲ轉置セントスル努力ハ依然タルヘク又同樣ノ理由ヲ有スヘシ。

慢性病患者並ニソノ將來治療シ得ラルヘキ事ニ關シテハ、予ハ勿論、ソノ疾患將來醫術ノ進歩ニヨリ治療シ得ヘキ者ヲ、痼疾病院ノミナラス、寧ロ普通病院ニ收容セントスルニ就テ人后ニ落チサルヘキヲ信ス。

予ハ吾人カ今日迄ナシタルヨリモ更ラニ廉價ナル病院ヲ建設スヘシテフ事ニ關シテハブッター氏ト同一立場ニ立ツモノナレトモ、而カモ輕病者並ニ重病患者ニ對シ、特殊病院ヲ建ツルノ必要ハ信スル者也。同僚ラブノー氏ニ對シテハ答ヘテ曰ハン、吾人ノ考ニヨレハ、初期肺結核ハ如何ナル際ニテモ輕症並ニ慢性病患者ニ屬セスシテソノ療病院ニ入院セシメラルヘキ者ナリト、予カ結核患者ヲ以テコノ種ノ病院ニ入院セシメサルヘキ患者ナリト云フハ只第三期ノ着床患者ニシテタトヘ連續的ナリト然ラストモ數年ノ間普通病院ニ入院シテソノ一般經營ヲ困難ナラシムル者ヲ云フ也。

チブス恢復患者ニ關シテハソノ未タ、細菌ヲ排出スル間ハ傳染病患者トシテ取リ扱フヘク、一般病院ノ傳染病部ニ收容セラルヘキ事明也。彼等ヲ恢復室又ハ非傳染病室ニ置カム事ハ、不可能ト云ハサルヘカラス。カクノ如キ患者ト痰黃病患者トヲ同一ニ收容シ取リ扱ハントスル如キハ予ノ云ハサル所ナリシ也。

今日ノ報告ニ於テ慢性病患者カ如何ナル意味ヲ有スルカハ次ノ如クニ答ヘントス。

予ハ慢性病患者トイフモ、同僚ラブノー氏ノ意味スル如キ老廢借屋人ヲ意味スルニ非ス。予ハ彼等ノ大部ヲ以テ病院ノ取リ扱ヲ要セスト考フ。予ノ意味スル所ノモノハ、最早自ラ已レヲ處スル事能ハス。ソノ病患ヲ以テ彼等家族ノ重荷トナリ、ヤヽ大規模ノ看護ヲ要スル所ノモノヲ云フ也。是等ノ患者カ自ラ好ムテ痼疾病院ニ入院セサルヘキハ予モ亦知ル所ニシテ前回ノ所說中ニ於テ述ヘシ所也。之ヲ以テ予ハ輕患者病院ヲ慢性病者病院ニ連絡セシメン事ヲ推薦セシ也。

病症ニヨリテ吾人ノ病院ヲ更ラニ分類セントスルハ、如何ナル事情ノ下ニ於テモ予ノ贊成スル能ハサル所也。醫學ハ已ニ各小分科カ獨立セントスル事ニ於テ多クノ苦痛ヲ感シタリ。若シ吾人カ種々ノ患者ヲ種々

ノ病院ニ入院セシメントスル乎、タトヘハ頭部患者ヲ北方ノ病院ニ、外科患者ヲ西方ノ病院ニ内科患者ヲ南方ニ收容セムトスル乎。然ラハ普通病院ノ主要ナル利益即チ各分科カ互ニ補充シ補助セントスル利益ハ失ハル、ニ至ルヘシ。予ハコノ事情ヲ判斷スルニ下ノ例ヲ引カム。若シ予ノ指揮スル病院ニシテ凡テ他ノ分科ヲ有シ、若クハ最近ニ於テ之ヲ完成セントスルモ、只一外科ヲ缺キタリトセム乎。コレニ由リテ醫術作業並ニ患者ニ對シテ生スル不利益ハ各衞生學者並ニ醫師ニ對シ說明ヲ要セスシテ明ナルヘシ。

終リニ諸君、解剖室ノ問題ナルカ、コノ點ニ於テハ予ハ同僚クラインシミット君ノ所說ニ全然贊成セントス。解剖事業ハ痼疾病院ニアリテハ全然廢止セラルヘキ者ニ非ス。解剖ハ科學ノ進步ニ對シテ効アルノミナラス、マタ、就中、同病ニ惱ム者ニ對シテ特別ノ意味アル也。予ハ只カノ結核死屍ノ剖檢ニヨレル發見ノタメ、他患者ノ豫防並ニ注意上ニ生シタル利益ヲ述フルニ止メン。吾人カ現代ノ病院ニオケル解剖施行法ハ、モシソノ方法ニシテ一般世人ノ熟知スル所トナラン乎。公衆ハ決シテ之ヲ嫌忌セサルヘキナリ。エナニ於テ、予ノ尊敬スル敎師、ウイルレム、ミユラー氏ハソノ死者ノ九十五パーセントヲ、而カモソノ大部ハ死者家族ノ望ニヨリテ解剖スルノ域ニ達シタリ。

樞密顧問ボルントレーガー氏ニ對シテハ、氏カソノ病院建築ニ關スル衞生上ノ要求ヲカク熱心ニ推薦セラレタルハ喜ニ堪エス。氏ハ主トシテ小病院ニ就テ述ヘラレタルカ、予ハ已ニ予ノ報告ニ述ヘタルカ如クソノ建築法ニ就テ古代ノ痼疾病院タラントスル危險ハ頗ル大也。予ハ予ノ所說中ニ於テ予カ是等病院設立ノ際簡單ノ他、尙充分ノ設備制限並ニ節儉ヲ以テ必要ト見做ス事ヲ示セリ。而シテ又當該行政並ニ警察令ニシテ、傳染病患者ヲ入院セシメサル病院ニ關スル者ハ、予ノ考ニヨレハ、頗ル溫和ニシテカ、ル病院ハ、簡單ナル材料ヲ以テ建設シ得ヘキヲ信ス。若シ樞密顧問アーベル氏ニシテ、後ニ、之レ等ノ命令ヲ幾分制限スヘキ事、官廳側ニ對シテ望ムヘキコトナリト云ハレシトセハ、予ハ下ノ如クニ考ヘ且ツ同氏トアル範圍内ニ於テハ贊成セントス。即チソハ病院ノ傳染病部ニ關スル者ニシテ、之レニ對シテハ少クトモ、ヨリ簡單ナル事情ヲ以テ滿足スヘキモノナルヘシ。思フニ是等ノ點ニ付テハ下ノ事情ヲ述フルモ可ナルヘシ。即チ吾人ハ最近二三十年ニ於テ前時ヨリモ餘程容易ニ傳染病ヲ豫防シ得ト信スルニ至レリト。吾人ハ已ニ長キ間大流行ヲ經驗セス。而シテ予ハ信ス、モシカクノ如キ流行ニシテ一度生セン乎。一般公衆ハ是等命令ノ能フ限リ嚴格ナラン事ヲ望ミ、コレニ必要ナル費用ヲ支出スルニ躊躇セサルヘシト、吾人ハコレラ流行後ニ於ケルハンブルヒノ狀態ヲ想起ス。

樞密顧問ボルントレーガー氏ノ顧慮セラル、普通病院ト輕性及ヒ慢性病院ニオケル患者ノ相互間移動ニ關シテハ、余ハ已ニ述ヘシ如ク其病院長ヲ兼務ニスル事ニ由リテ避ケ得ヘシト信ス。普通病院ニ於テ患者ニ對シ運動遊戲ヲ奬勵スヘシトノ氏ノ動議ニ關シテハ、余ノ同情スル所也。

同僚クラウトウイヒ氏ニ對シテハ、余ハ、已ニゴットシタイン氏ノナセシ如クニ答ヘムトス。カクノ如キ病院ノ建設ハ疑モナク普通病院ヨリモ廉價ナリト。サレト氏ニシテ廊下式病院ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ廉價ナリト云ハルレハ、予ハ之ニ反對セサルヘカラス。コノ問題タルヤ、人ガ蛾屋式ヲ採用スル乎、廊下式ヲ採用スル乎、又ハ混合式ヲ採用スル乎ニ由ラスシテ副室ノ數、並ニ建築上、技術上ノ設備ニ由ル問

題ナリ。上ニ述ヘラレシハンブルヒ、セント、ゲオルグノ例ハ最モ明也。蛾屋式ノ衛生的利益タルヤ、實ニ他ノ病院ノ利益ヲ凌駕スル事明カニシテ經營上ノ困難ヲ明カニ征服スルニ足ルモノ也。ソノ他ニ於テハ多クノ甚タ經驗アル病院長ニ由リテ垂直的經營ハ、平面的經營ヨリモ高價ナル事確定セラレタリ。

恢復患者ニ對スル食品費用ハ、普通病院ニオケルカ如キ特殊、食品ヲ用フル事ナク、平等ニシテ自然的力ヲ與フル食品ヲ供給シ得ル事ニ由リテ、廉價ナラシメ得ヘシ、食品ニ要スル費用ノ點ニ付テハ、ソノ量ハソノ調理法ノ複雜ナル程ニ、關係アル者ニ非ス。

同僚クラウトウツヒ氏ノ結論ニ答ヘテ曰ン。予ハ病院建築ハアル事情ノ下ニ於テハ廉價ナラシメ得ヘシトソノ經營カ廉價ニ至ルヘキカ否カニ付テハ、實ニ疑ハシト云フヘシ。コノ事タルヤ一部分、吾人カ如何トモナシ能ハサル事情ニ基ク也。

同僚クロナー氏ハ、輕症並ニ慢性病小兒ニ特別ナル病院ヲ建設セン事ヲ述ヘラレタルカ、コハ大都市ニ於テハ、ヤ、コノ種ノ病院ノ要求ヲ感スル事アルヘシ。ソノ他ニ於テハ、予カ今、病院分業ニ關シ意見ニアル如ク、一般ニ賛成シ能ハス。

同僚クラインシミツト氏カ予ニヨリテ提案セラレシ如キ病院ニ於テ看護婦ノ完全ナル養成ハ不可能ナリトノ意見ニハ賛成ス。予ノ欲スル所ハ只特ニ彼等ノ看護ヲ要スル慢性病患者ニ對シ、他所ニテ得ラレタル能力ヲ短時間ナリ、長時間ナリ、實用スルニ熟練セシメントスルニ在リ。

市長ベルト君ハ予ニ對シ、果シテ吾人ハ新病院ノ建設ニヨリ不用ニ歸セル舊病院ニ輕症患者ヲ收容スルノ可能ナラサルヘキカヲ質問セラレタリ。予ハ之ニ對シ全然只條件付ニテ答ヘ得ルニスキス。予ハ實ニ下ノ確信ヲ有ス。即チ人ハ白亞王並ニ油色ヲ充分ニ用ヰ多數ノ小室ヲ癒合セシメテ大室トナシ、晝間ハ多少野外ニ出テ、只夜間ノミ寢室トシテ之ヲ利用セントスル輕症患者ヲカク收容シテ利益アリテ害ナキコノ方更ラニ重要ナリ―ヲ得ヘシト信ス。只天井ノ餘リニ低キニスクル時ハ、輕患者ヲ收容スルヲ望ムヘカラザルノミ。

重病患者ノ收容ニ關シテハ地方ノ事情ヲヨク調査セサルヘカラス。

同僚ゴツトシタイン氏ノ賛成ハ予ノ感謝スル所ナリ。吾人カ要旨ノ根本概念ヲ實行スルカタメ、シヤロッテンブルヒニ於テ撰定セラレ採用セラレタル方法ハ一般ニ實用可能ナリト信ス。サレト又特別ニ慢性病ニ對スル需用ハ次第ニ大トナリテ、人ハタトヘ今日ナラストスルモ遂ニハ特別ナル病院ヲ建テサルヘカラサルニ至ルヘシト信ス。

予ハ流行病ノ際普通病院ノ患者數ヲ減センカタメ、輕病患者ヲ收容セント定メラレタル部門ニ、重病患者ヲ收容スルハ、實ニ一危險ナリト信ス。コノ危險タルヤ病院衛生ノ歴史ニ於テ屢々繰リ返サレ、常ニ病院並ニ患者ニ損害ヲ及ホシタルモノ也。予ハ切ニ之レカ其然ルヘカラサラム事ヲ勸告ス。

予ハカノ普通病院ノ輕性並ニ慢性病患者部門ニ收容セラレタル患者ハ速カニ、カレラニ取リテ殆ント變化ナキ食事ニ不平ヲ述フルヲ豫期スト云ヒシカ、コレ理論的ニ考ヘツキタル者ニ非スシテドイツ國各地方ニ於ケル少カラサル予ノ經驗ニ基ヅクモノ也。

第三期結核患者ヲシテ、コノ周圍ニ對スル傳染ノ危險ヲ少クスルタメ、出來得ル限リソノ居室ヨリ連レ出シ

且病院ニ於テモ他ノ慢性患者ト取リ扱ヲ異ニセントスル同僚ゴットシタイン氏ノ希望ニハ予ノ好ムデ賛成スル所也。予ハ又彼等ノ居室ハ他ノ患者ニ對スルヨリモ、住ミ心地ヨクナスヘシトノ事ニモ何等反對セス。但シ普通病院ニコノ種ノ患者カ、長期間滯留スル事ニハ賛成スト述ヘ難シ、蓋シ彼等ハ、予カ前ニ述ヘタル普通病院ヨリ慢性病患者ヲ轉置スヘシトノ條項ニ正シク適合スル者ニシテ特ニ都市ノ病院ニ於テハ、彼等ハ屢々急性患者並ニ入院ヲ要スル患者ノ塲所フサケヲナス而已。予ハ信ス。若シベルリン病院ニシテ、内ニ收容セラレタル第三期結核患者ヲ以テ予カ提案セル方法ニ由リテ建テラレタル市外病院ニ收容セハ、ソノ狹少難ハ根本的ニ減少スヘシト。予ハ其他重症ノ肺結核患者ニ對シ一特別家屋ヲ有スルブレーメンノ國立病院ヲ指摘セント欲ス。コヽニ於テ已ニ予ノ意味スル如キ患者隔離法ノ行ハレタル也。予ハコノ例ヲ以テ他病院ニ對シ切ニ推薦ス。

同僚ロート氏カ如何ナル患者ヲ氏ノ所謂姉妹病院ニ入院セシムヘキカ實ニ困難也トノ御話ニハ予ノ同意スル所ニシテ已ニ又之ヲ述ベタル所也。予ハ着床患者ニ對シ一方開放セラレシ廊下ノ必要ナリトスル彼ノ意見ニハ賛成スル者ナリ、而シテ予ニヨリテ提案セラレタル輕症並ニ慢性病患者病院ノ建設ニアリテハ、全ク彼レノ意味ノ相違ヲ來シ、反ツテ建設費ノ低減ヲ來ス者也。蓋シ予ハ大病室ノ建設ヲ主張セシヲ以テ廊下ハ殆ント全ク之レヲ缺クヘキヲ以テ也。

予ハコノ際少シク後ニ戻リ、同僚クラウチツヒ氏カ患者ニ對シ、個々ノ室ヲ作ラムトスル所說ヲ短カク精査セムト欲ス。



予ハ氏ノ意見ヲ以テ衞生的、醫學的又經營上ノ見地ヨシテ希望スヘカラサル者トシ、重病患者ニハ、約十六個ノ病床、輕症並ニ慢性病患者ニハ已ニ述ヘシ如キ大室ヲ作ルコトヲ以テ種々ノ理由ニヨリ利益アリトス。

シエンフエルダー氏ノ賛成所說ハ予ノ欣喜スル所ニシテ予ハ再ヒコノ事ニ付キ予ノ考ヲ述ベント欲ス。即共同的勸告並ニ要求ノ制限ニヨリテ建築上普通病院ニ於テモ、ソノ一病床建築費ヲ今日殆ント行ハル、約一萬マルク以下ニ減セン事可能ナルヘシトイフ事也。

樞密顧問アーベル氏ノ友誼アル勸告ハ予ノ感謝シ之ニ從フ所也。殊ニ氏ノ重病患者並ニ急性病患者ニ對シ輕性並ニ慢性病患者以外ノ病室ヲ必要ナリトスル彼ノ意見ハ予ノ面白ク考フル所也。予ハ特ニ輕性並ニ慢性病患者ニアリテハ、各種ノ點ニ於テ今日迄行ハレシヨリ、少數ノ要求ヲ以テ足ルヘシトノ意見ニ賛同スル者也。重病患者並ニ傳染病患者ニ對シテハ、予ハ實ニ餘リ節減スル事能ハサルヘシト考フ。

議長、オーベル、ブルグルマイスター、ドクトル、フオンボルシト氏

予ハ調査委員ニ向ヒ氏ノ詳細ニシテ卓越セル報告ニ對シ、一同ノ名ヲ以テ深厚ナル感謝ノ意ヲ表セムト欲ス。

# ○火葬ニ關スル調査書

序

本書ハ偶々墺國フォイエル協會長ホーフアドヴオカート、ドクトル、バレスター氏ヨリ野田內務師技師ニ書ヲ寄セ依囑スルニ我國ニ於ケル火葬並ニ葬事ニ關スル調査ヲ以テセルニ答フル爲ニ作爲セルモノニレテ此制度ノ沿革ノ詳細ヲ盡サス尙修正增補ヲ要スルモノ尠ナカラスト雖近來火葬爐ノ設備其他ニ關シ屢々問ハル、コトアル現下ノ情況ニ鑑ミ茲ニ本書ヲ編纂シ我國ニ於ケル火葬ノ概況ニ關シ其一瑞ヲ周知セシムルト同時ニ墓地ノ管理其他ニ關スル內外ノ實例ヲ追補シ以テ衞生施設上ノ集考ニ資セン

年　月　日

內務省衞生局

目次


一、歷史
二、行政
三、統計
四、技術
五、經濟ニ關スル事項
六、殘灰ノ埋葬




附

墓地及其他ニ關スル注意事項

## 火葬ニ關スル調査書

### 緒言

夫レ葬法ノ種類甚多シ曰ク土葬曰ク火葬曰ク水葬曰ク風葬曰ク林葬之ナリ而シテ印度ノ Vischnu 宗ヲ信スルモノ火葬シ Siwu 宗ヲ信スルモノハ (Siwuiten) ハ水葬シ Buddha宗ヲ信スルモノ (佛教信徒Buddhister) ハ土葬ヲ主トスト雖亦火葬ヲ厭マス希臘人ハ火葬土葬共ニ用ヰ羅馬人ハ專ラ火葬ヲ取レリ波斯人ハ又ハ一種ノ寄葬ヲ行ヘリ地上ニ一ノ高塔ヲ築キ死骸ヲ之ニ投シテ群鳥ノ食フニ委ネタリ朝鮮ノ僧侶ニモ類似ノ葬式アリ而シテ同國一般ノ葬法ハ風葬（國俗土葬ト唱フ）ヲ用ヰ白骨ヲ見ルニ及ンテ始メテ埋葬ス又古ノ埃及人ハ木乃用法ヲ用ヰ今ノ以太利及西班牙人中ニハ往々地上ノ鳩巢葬（又洞窟葬）ヲ目擊ス其他屍體ノ鹽藏法稍子棺若クハ石鹽棺ノ貯藏法等アリ而シテ其中目下ノ問題ニ入ルモノハ火葬トス。

火葬ハ獨リ日本及印度ニ於テ行ハル、ノミナラス歐國ニモ行ハレタルコト叙上ノ如シ即チ羅馬ニハ第二世紀マテ索遜ニハ第九世紀洪牙利ニハ第十世紀亞細西峨羅ニハ第十二及第十三世紀マテ火葬ヲ見タリ以太利ノ Mdine 市ニハ一千二百九十八年尙火葬塲ヲ存セリ爾來此葬法ハ全ク歐州ノ地ヲ掃ヒタリシニ近來其再興ヲ謀ルモノ曰方ニ燃揚レリ我國ニ於テハ初メ單獨ノ方法ヲ以テ荼毘ヲナセリト雖今ヤ一ノ火葬爐ヲ設ケ熱氣ヲ用ヰテ燔クコト、ナレリ以下其沿革ヲ略述セン。

## 一、日本ニ於ケル火葬ノ一般歴史

### 日本火葬ノ起原及沿革

日本ニ於テ人屍ヲ火葬ニ附スル習慣ノ行ハレタル其ノ起原ヲ記述スルニ先チ聊カ我國ニ火葬ノ風習ノ行ハル、ニ至リタル經路ニ就キ一言セントス

火葬ハ其ノ起原蓋シ南印度ニ存シ其ノ紀年悠遠遼邈ニシテ殆ト知ルヘカラスト雖モ西暦紀元前四百八十年印度ニ於テ佛陀教ノ教祖釋迦牟尼悉達多ノ屍體ヲ火葬ニ付セシヲ以テ歴史上最モ顯著ナル事蹟トスヘシ而シテ印度ノ火葬ノ起原ハ夐カニ釋迦以前ニ存セシモノタルハ史家ノ承認スル所ナリ而シテ印度ニ於テハ古代ヨリ火葬、水葬、土葬、林葬等ノ各種ノ葬法行ハレタリト雖モ最モ廣ク行ハレ而シテアリヤン人種ノ公葬ト認メラレタルハ火葬、土葬ノ二法ニシテ印度最古ノ文學理具吠陀經ニ於テ既ニ此二葬法ノ行ハレタル形跡アリト云フ、西暦一千八百四十九年獨逸ノヤゴブ、クリム氏モ伯林學士會院雜誌ニ於テ印度日耳曼人種ノ大部分及日耳曼人種中ニハ古代ヨリ火葬土葬相並ヒテ行ハレタルコトヲ證明セリ印度古代ニ於テ良人ノ死シタルトキ其妻カ殉死スルノ例アリ之レ良人ノ火葬ト共ニ焚死スルモノニシテ紀元前三百十七年亞歴山大帝印度遠征ノ時既ニ此例アリタルハ希臘歴史ノ證スル所ナリ此以前西暦紀元前四百八十年ニ於テ既ニ釋迦如來火葬ノ禮アリタルコトハ前ニ述ヘタルカ如クナルモ麻奴法典第五章第六十九節ニ於テハ兒童ハ郊外清淨ノ地ヲ穿チテ葬ムルヘキヲ命スノ條アリ要スルニ印度ノ最古ニ於テハ火葬土行並ヒ行ハレ後世ニ至リテ一般ニ火葬ヲ主トシ唯兒童ノミ土葬スルニ至リタリ今釋迦ノ葬法ヲ叙シ火葬ノ一例ヲ記サンニ佛將ニ涅槃ニ入ラントス遊歴說法ノ途上ニアリ往ヒテ俱尸那伽羅(クシナガラ)市ノ附近ニ至リ濫連(ヒラヤヅー)ノ堤上沙羅林ノ雙樹ノ間ニ憩フ病重クシテ起ツヘカラサルヲ知リ隨從者阿羅陀ニ向ヒ遺敎ノ旨ヲ傳フ其葬禮ニ關スル者左ノ如シ

巴利語涅槃經(第五章第二十五節)

阿難問テ曰ク佛ノ遺骸ヲ如何ニ葬ムルヘキヤ

佛曰ク轉輪聖王(皇帝ノ義)ノ葬法ニ依ルヘシ

阿難曰ク其葬法如何

佛曰ク新白衣ヲ以テ遺體ヲ掩ヒ更ラニ之ヲ纏フニ綿毛布ヲ以テシ如此スルコト五百層之ヲ鐵製ノ油棺ニ藏メ更ラニ之ヲ鐵槨ニ入レ衆香木ヨリ成レル大積ノ中ニ奉置シ火ヲ點シテ之ヲ茶毘ス(焚燒ノ義)大道ノ傍ニ於テ塔廟ヲ作リ其遺骨ヲ安置シ供養ス之ヲ轉輪聖王ノ葬法ト云フ如來涅槃ノ後之ヲ葬ムル宜シク如是スヘシ如來ノ塔廟ニ對シ香華ヲ奉シ禮拜供養シ信念ニ任センモノハ永世ノ福利ヲ受クヘシト

是ニ依テ之ヲ見ルニ火葬ノ法タル遠ク釋迦以前ニ存シ印度上古ニ於ケル帝王ノ屍體ハ常ニ叙上ノ方法ニ依リテ處分セラレタルモノナルコトヲ知ルヘキナリ

斯ノ如ク印度地方ニ周ク行ハレタル火葬ハ傳道ノ佛教僧徒ニ依リテ中央亞細亞ヲ經テ支那ニ傳ヘラレ而シテ更ラニ高麗半島ニ入リ而シテ漸次我國ニモ稍々其ニ亞キ其片影ヲ見ルニ至リタルモノナリ

日本ニ於ケル火葬ノ風習ノ行ハル、ニ至リタル其源トシテ之ヲ南印度ニ受ケ中央亞細亞高麗半島ヲ經テ我

國ニ及ヒタルコト前述ノ如シ然リト雖モ支那及朝鮮ニ於テハ是レヨリ先前歴代ノ制度ニ依リ修葬ノ典禮ヲ定メ人屍ヲ毀損スルヲ嚴禁シ國民ノ習俗トシテ遂ニ屍體ニ對スル處分ハ土葬ヲ確守スルニ至レリ政ニ佛教僧徒ノ火葬ノ式ヲ輸入セルニ際シテモ一般ニ國民ハ猶ホ之ヲ行フコトナク加之刑餘ノ屍體ヲ燔棄スルノ制存セシカ故ニ人類ノ死シテ其屍體ヲ焚燒スルコトハ蠻族ノ行爲ナリトシ甚シク之ヲ厭忌セル故ニ火葬ハ獨リ佛教僧徒ノ一部ニ止リ之ヲ一般國民ノ修葬上ニ現スル能ハサリシナリ而シテ高麗半島ニ於テハ其制度教育常ニ軌範ヲ支那ニ採リ國民ノ習俗モ亦支那ニ私淑セルカ故ニ火葬ヲ排斥スルコト毫モ彼ノ支那民俗ト異ルコトナク其普及ヲ來ス能ハサリシナリ而シテ支那ニ於テ火葬ノ盛行ヲ記セルモノ(病間長話卷ノ二)アリト雖トモ多クハ佛教僧ノ臆想ヨリ布教上ノ方略トシテ傳鳴セルモノヽ如シ確乎タル表徵ヲ得ル能ハサリシナリ

日本ノ古代ニ於テ高麗半島ヲ征服スルヤ亞細亞大陸ノ文明ハ皆此領土ヲ經由シテ本邦ニ移入セラレタルハ克ク世人ノ通曉セル所ナリ而シテ我欽明天皇(西暦紀元五百四十年)ノ朝高麗半島ノ一屬邦タリシ百濟王初メテ佛教、僧尼、經卷等ヲ献シ印度地方ノ宗教茲ニ其端ヲ開キ其教法ニ伴ナヒ各種ノ儀式隨テ行ハル、ニ至レリ而シテ火葬ハ實ニ是ノ時代ニ於テ始メテ其葬法ヲ輸入セラレタルモノナリ、爾來佛法ノ布行ハ一瀉千里ノ速力ヲ以テ進ミ百年ナラスシテ非常ノ勢力ヲ有シ堂塔寺院ノ建築盛ニ起リ各種ノ法會佛式ト稱スルモノ屢々施行セラレ一般國民ハ各種ノ佛式ヲ排斥セスシテ却テ之ヲ好尚スルニ至レリ然リ而シテ日本ニ於ケル最始ノ火葬ヲ斷行セルモノハ蓋シ推古天皇ノ皇子タル豐聰皇子ナリトス皇子ハ實ニ推古天皇二十九年即チ西暦紀元六百二十一年二月二十二日其王居タリシ大和國斑鳩宮(イルカノミヤ)ニ薨ス皇子ハ本邦佛教ニ於テ最勢力アリシ最初ノ布教者ニシテ其佛教ニ通シ佛教ヲ信シ佛法ノ普及ニ對シ偉大ナル施設ヲ以テ其普及ヲ奬勵盡力セラレタル事蹟ハ歴史上著名ノ事實タルコト世人ノ承認スル所ナリ而シテ豐聰皇太子カ其薨逝ノ後火葬ヲ修メラレシ事實ハ史家ノ明記セサル所ナリト雖モ皇太子カ佛教ニ於テ非常ノ篤信家タリシト各種ノ法式ヲ設定セラレシ處ヨリ推定スルトキハ其葬儀ハ火葬ニ依リタリシコトハ蓋シ疑フヘカラサルカ如シ左ノ記事ハ以テ推定ヲ承認スルニ足ラン

二十九年辛巳二月二十二日聖德太子薨于斑鳩宮(イルカノミヤ)中畧一云葬送之儀同於乘輿陪從人各擊雜花、釋衆讃唄道之左右、百姓各擊時花、或失聲大哭、或佛歌連鈎不待官告、素服皆著、荼毘之後、諸國百姓、遠來回墓、相聚叫哭、日夜不絶

而シテ之ニ亞キテ火葬ノ事蹟トシテ最モ著名ナルハ釋道照トス道照ハ河内國元興寺ノ僧職ニシテ文武天皇四年三月巳未日死ス其弟子等遺言ヲ奉シテ之ヲ山城栗原ニ火葬セリ是レ西暦七百年ノ事ナリトス道照ハ當時有名ナル高僧ニシテ歸信スル者頗ル盛ナリシカ故ニ之レヨリ火葬大ニ行ハル、ト云ヘリ而シテ西暦七百三年文武天皇大寶三年十二月癸酉大上天皇持統帝ヲ大和國飛鳥岡ニ火葬セシヲ以テ我國ニ於ケル至尊火葬ノ原始ナリトス是ヨリ以降歴代ノ帝王貴族ニシテ火葬ヲ行フモノ頗ル多ク漸次其普及ヲ來タシ遂ニ一般國民ニ及ヒ流行セル事千有餘年以テ現時ニ達ス其間ニ於テ火葬ノ反對論者輩出セリト雖トモ一般民俗ノ火葬ヲ排斥スル能ハス而シテ彼ノ淨土眞宗ノ開祖タリシ佛教僧徒親鸞其死後火葬ヲ行ヒシヨリ同宗ノ信徒ハ悉

ク火葬ヲ世襲セルカ故ニ其普及益々進歩シ道照ノ火葬ニヨリ即チ大正二年ニ至ル其間實ニ一千二百十三年多少ノ消長アリタリト雖モ連綿トシテ絶ユルコトナク行ハレツヽアリ持統天皇ヲ飛鳥岡ニ火葬シ奉リテヨリ以來慶雲四年(西暦七百七年)十一月文武天皇ヲ火葬シ養老五年(西暦七百二十一年)十月元明天皇ノ遺詔ニヨリテ藏寶山雍良岑ニ竈ヲ造リテ火葬シ天平二十年(西暦七百四十八年)四月元正天皇ヲ佐保山陵ニ火葬シ奉リシ事等何レモ續日本紀ニ見ユ爾來歴代天皇火葬ノ儀ヲ行ヒ給フ事少ナカラス終ニハ中世ヲ經テ殆ト恒例ノ義トナルニ至レリ而シテ當時ノ火葬ハ豫メ地ヲ點シテ火爐ヲ築キ或ハ柴薪ヲ地ニ敷キ柩ヲ其上ニ載セテ焚燒スルヲ例トセリ、白河天皇ノ葬送ノ時御柩ヲ竈所ニ移シ棺蓋ヲ開キテ御體ノ周圍ニ折松柴薪ヲ積ミ其上ニ藁ヲ置キ蓋ヲ覆ハスシテ火ヲ點シ奉リシ事長秋記ニ見ユ又當時ノ習俗トシテ火葬ニ當リ故ニ薪ヲ用キスシテ藁ヲ以テ燒料トスルモアリシ事玉葉等ニ見ヘタリ焚燒終リテ後拾骨ノ式ヲ行ヒ遺骨又ハ灰ヲ壺ニ容レ埋葬シ或ハ各所ニ頒チ納ムル等ノ事モアリキ分骨所灰塚ナト稱スルハ即チ其分歛セル箇所ヲ云ヘルナリ中世後歴朝火葬ノ儀ヲ採ラセラル、事漸ク多ク貴族等ニシテ火葬ヲ行フ者亦多キニ及ヒ漸次國民ニモ此風行ハレタルコト前ニ述ヘタルカ如シ、寛平三年(西暦八百九十一年)正月藤原基經ヲ深草山ニ火葬シタリシコト大鏡ニ見ユ、萬壽四年(西暦千二十七年)十二月藤原道長ヲ鳥部野ニ火葬シタリシコト榮華物語ニ見ヘタリ此ノ如ク年ヲ追フニ隨ヒ貴賤ニ通シテ此儀式益々行ハルヽニ至リタルト共ニ其火葬塲等モ亦自然一定スルニ至レリ、火葬所ニ就キテハ最初一定ノ箇所ナク各便宜ノ地ヲ點シテ行ヒシニ過キサリシカ中古以降歴代天皇ノ御荼毘所ニハ清和天皇ヲ中野ニ圓融天皇ヲ柴野ニ火葬シ奉リ後一條天皇崩御ノ時ハ神樂岡ノ東邊ヲ檢定シテ御荼毘所トナシ又後冷泉天皇崩御ノ時ハ船岡乾原ヲ以テ御荼毘所トナシ白河天皇及堀河天皇崩御ノトキハ高隆寺附近ノ地ヲ以テ之ニ充テラレ又近衞天皇崩御ノ時ハ船岡西野ニ後光嚴天皇崩御ノトキハ泉涌寺ニ後花園天皇崩御ノトキハ悲田院ニ於テ何レモ火葬シ奉リシ事等屢々國記錄ニ散見スルトコロニシテ其箇所必シモ一定ナラサリキ又京都一般人民ノ荼毘所ハ鳥部野、船岡、柴野、嵯峨野、臺野、深草、日野、木幡等ニシテ其箇所少ナカラサリシカ何レモ幽邃ナル岡野ヲ點シテ之ニ充テタリ中ニモ鳥部野ノ如キハ慶長年中ノ頃マテ荼毘竈散在シ遠房ト稱スル葬戸之ヲ管シタルヨシ山淵名跡誌等ニ見ユ後光明天皇崩御ノ時ニ至リ火葬ヲ改メ土葬ノ舊制ニ復セラレテヨリ以後歴朝火葬ノ事絶ヘ德川歴代將軍及諸國藩主ノ如キモ亦土葬ノ儀ヲ用フルコト、ナリシカ一般庶民ニハ猶火葬ヲ行フモノ多カリキ東京ヲ江戸ト稱ヘシ當時ニハ千住、小塚原、千駄谷、澁谷、炮樣新田等ニ各火葬所ヲ設ケ各葬戸アリテ專ラ諸人ノ火葬ヲ取扱ヒタリ正保應安ノ頃マテハ淺草、下谷ノ寺院ノ境内ニ各竈堂ヲ設ケテ火葬ヲ行ヒシカ將軍ノ上野東叡山(現在ノ上野公園内ニアリテ、淺草中心マテ約二哩下谷ノ寺院ハ上野公園ノ四圍附近ニ存在ス)ニ御成リニ當リ其臭氣ノ傳播セン事ヲ憚リ命シテ五箇寺或ハ七箇寺ヲ一區トナシテ各々方一町ノ地ヲ賜テ葬塲ヲ移サシメ晝間ハ葬事ヲ行フコトヲ禁シ日沒ノ點鐘ト共各所同時ニ點火セシメタリシ事等江戸沙子及續江戸沙子等ニ見ユ日本ニ於ケル火葬ノ沿革大凡叙上ノ如クニシテ即チ一般國民ノ宗教信徒ノ中佛教信徒ニ最モ早ク行ハレ從テ其數ノ增加又急激ナリシモノアリシモ佛教信徒ノ中ニ於テモ其宗派ニ依リ死體ヲ火葬スルコトヲ厭忌スルモノナキニアラサルモ年々之レカ風習流布スルト同時ニ火葬塲ノ數及火葬人員其數ヲ增加シツヽアルハ

後表ニ就テ見ルモ明カナルヘシ現今當該行政官ニ於テモ舊來ノ風習ヲ持續セシメ尙衞生上並ニ經濟上ノ見地ヨリシテ着々之レカ風習ヲシテ一般國民ノ好尙スルニ至ラシメント力メツヽアリ

今前述セル豐聰皇子ノ火葬セラレシ以來帝王后妃並ニ貴族ニシテ此例ニ習ヒシモノヲ列擧スレハ左表ニ示スカ如シ

## 日本帝王后妃火葬年表

| 諡條 | 崩殂年月日 | 火葬年月日 | 葬地 | 西暦紀元 |
|---|---|---|---|---|
| 聖德皇太子 | 推古帝二十九年二月二十三日 | 不詳 | 大和國斑鳩宮法隆寺 | 六二一 |
| 持統天皇 | 大寶二年十二月庚寅日 | 大寶三年十二月癸酉日 | 大和國飛鳥岡 | 七〇二 |
| 文武天皇 | 慶雲四年六月辛己日 | 慶雲四年十一月丙午日 | 大和國檜隈安古山陵 | 七〇七 |
| 元明天皇 | 養老五年十二月己卯日 | 養老五年十二月庚辰日 | 大和國藏寶山 | 七二一 |
| 元正天皇 | 天平二十年四月庚申日 | 天平二十年四月丁卯日 | 大和國佐保山陵 | 七四八 |
| 文武皇后 | | 天平勝寶六歲 | 大和國檜隈安古 | 七五四 |
| 聖武天皇 | 天平勝寶八歲五月乙卯日 | 天平勝寶八歲五月壬申日 | 大和國佐保山陵 | 七五六 |
| 淳和天皇 | 承和七年五月辛巳日 | 承和七年五月戊子日 | 山城國物集村 | 八四〇 |
| 清和天皇 | 元慶四年十二月四日 | 元慶四年十二月七日 | 山城國上粟田村 | 八八〇 |
| 宇田天皇 | 承平元年七月十九日 | 承平元年八月五日 | 山城國 | 九三一 |
| 朱雀天皇 | 天曆六年八月十五日 | 天曆六年八月二十日 | 山城國 | 九五二 |
| 一條皇后定子 | 長保二年十二月一日 | 長保二年十二月十五日 | 山城國 | 一〇〇〇 |
| 一條天皇 | 寬弘八年六月二十二日 | 寬弘八年七月八日 | 山城國 | 一〇一一 |
| 三條皇后娍子 | 萬壽二年三月二十九日 | 萬壽二年四月十四日 | 山城國 | 一〇二五 |
| 後朱雀皇妃嬉子 | 萬壽二年八月五日 | 萬壽二年八月十五日 | 山城國 | 一〇二五 |
| 三條皇后妍子 | 萬壽四年九月十四日 | 萬壽四年九月十五日 | 山城國 | 一〇二七 |
| 後一條天皇 | 長元九年四月十七日 | 長元九年五月十九日 | 山城國淨土寺 | 一〇三八 |
| 後冷泉天皇 | 治曆四年 | 治曆四年五月五日 | 山城國船岡乾原 | 一〇六八 |
| 鳥羽皇后得子 | | 永曆元年十二月二日 | 紀伊國高野山 | 一一〇一 |
| 堀河天皇 | | 天永四年三月二十二日 | 山城國仁和寺 | 一一一三 |
| 白河天皇 | 大治四年七月十五日 | 大治四年七月十六日 | 山城國 | 一一二九 |
| 後堀河皇后藤子 | 元福元年 | 元福元年九月二十六日 | 山城國 | 一二三三 |
| 後鳥羽天皇 | 延應元年二月二十六日 | 同日 | 山城國 | 一二三九 |
| 後嵯峨天皇 | | 文永十年六月二十一日 | 山城國天龍寺 | 一二七二 |
| 龜山天皇 | | 嘉元三年九月十五日 | 山城國龜山 | 一三〇五 |
| 伏見天皇 | | 文保元年九月五日 | 山城國 | 一三一七 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 後光嚴天皇 | — | 應安七年二月二日 | 山城國泉涌寺 | 一三七四 | |
| 崇光天皇 | — | 應永五年正月二十二日 | 山城國 | 一三九九 | |
| 後花園天皇 | 文明二年十二月二十六日 | 文明三年正月三日 | 山城國悲田院 | 一四七〇 | |
| 後土御門天皇 | 明應九年九月二十八日 | 明應九年十一月十二日 | 山城國 | 一五〇〇 | |
| 後柏原天皇 | 大永六年四月七日 | 大永六年五月三日 | 山城國 | 一五二八 | |
| 後奈良天皇 | 弘治元年九月五日 | 弘治年十一月二十五日 | 山城國泉涌寺 | 一五五七 | |
| 正親町天皇 | — | 文祿二年正月六日 | 山城國泉涌寺 | 一五九三 | |
| 後陽成天皇 | — | 元和三年八月二十日 | 山城國泉涌寺 | 一六一七 | |
| 後水尾天皇 | — | 延寶八年八月十九日 | 山城國泉涌寺 | 一六八〇 | |
| 土御門皇太后信子 | — | — | — | 嘉樂門院ト號ス | |
| 後奈良皇太后藤子 | — | — | — | 豐樂門院ト號ス | |
| 後水尾皇太后前子 | — | — | — | 中和門院ト號ス | |

註ニ曰ク嘉樂、中和、豐樂、三門院崩殂年月記スヘカラス其火葬セラレシ事實ハ藤原俊方ノ記錄中延寶八年後水尾上皇崩御ノ際葬式ニ關シ僧般舟院陽空ヨリ提出セル口上書中ニ記セルモノニ係ル該口上書中ニハ後土御門、後柏原、後奈良、正親町、後陽成ノ諸帝モ其例トシテ記載セリ然レトモ其年月ノ記載ナシ



| 人名 | 薨逝年月日 | 火葬年月日 | 葬地 | 西曆紀元 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 元興寺道照 | 文武帝四年三月己未日 | 文武帝四年三月己未日 | 山城國栗原 | 七〇〇 | |
| 律師隆海 | — | 仁和二年七月二十二日 | — | 八八六 | |
| 天臺座主圓珍 | 寛平三年十月二十八日 | 寛平三年十月二十九日 | 山城國比叡山 | 八九一 | 智證大師 |
| 天臺座主尊意 | — | 天慶三年二月二十四日 | 山城國比叡山 | 九四〇 | |
| 大僧正慈惠 | — | 天祿三年五月三日 | 山城國比叡山 | 九七二 | |
| 藤原道長 | 萬壽四年十二月四日 | 萬壽四年十二月十一日 | — | 一〇二七 | 關白太政大臣 |
| 藤原倫子 | 天喜元年六月十一日 | 天喜元年六月二十二日 | 山城國仁和寺 | 一〇五六 | 前關白道長妻 |
| 僧文豪 | — | 治曆二年 | 山城國鳥羽野 | 一〇六六 | |
| 藤原麗子 | — | 永久二年四月二十二日 | — | 一一一四 | 關白師實妻 |
| 藤原顯賴 | 久安四年正月五日 | 久安四年正月十三日 | 山城國嵯峨野 | 一一四八 | 正二位民部卿 |
| 平清盛 | 治承五年閏二月四日 | 治承五年閏二月十日 | 播磨國山田 | 一一八一 | 大相國 |
| 藤原良通 | — | 文治四年二月二十八日 | 山城國 | 一一八八 | 內大臣 |
| 淨土宗祖源空 | — | 安貞二年正月二十五日 | 山城國栗生野 | 一二一八 | 法然上人諡圓光大師 |
| 一向宗祖親鸞 | — | 弘長二年十一月廿八日 | 山城國黑谷 | 一二六八 | 京都本願寺祖諡見眞大師 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 日蓮宗祖日蓮 | — | 弘安五年九月 | 信濃國身延山 | 一二八二 |
| 足利義詮 | 貞治六年十二月七日 | 貞治六年十二月十二日 | 山城國衣笠山 | 一三六七 |
| 足利義滿 | 應永十五年五月六日 | 應永十五年五月十日 | 山城國鹿苑院 | 一四〇七 |
| 勝智院尼 | — | 寛正四年八月八日 | 山城國 | 一四六三 |
| 足利義尚 | — | 延德元年四月九日 | 山城國 | 一四八九 |
| 足利義晴 | 天文十九年五月四日 | 天文十九年五月廿一日 | 攝津國多田院 紀伊國高野山 | 一五五〇 |
| 豐臣秀吉 | 慶長三年八月十八日 | 慶長三年八月二十九日 | 山城國 阿彌陀峰 | 一五九八 |
| 細川藤孝 | — | 慶長十五年九月十八日 | 豐前國小倉 | 一六一〇 |
| 淺井崇源院 | — | 寛永三年十月十八日 | 武藏國江戸 | 一六二六 |

是ノ表ニ依レハ皇族及貴族ノ火葬ハ種々ナル儀式ヲ具フルカ爲メ其崩薨ヨリ火葬ニ附セラルヽノ時間頗ル長キ者アルヲ發見スヘシ而カモ有名ナル君主及貴族ニシテ火葬セラレタルモノニ對シテ曾テ異議ヲ唱フルモノナカリシノミナラス火葬ヲ以テ殆ト一種ノ典禮ナリトセルカ如キ觀アルニ至リテハ實ニ世界萬國ニ通シテ比類ナキ特殊ノ事例ナリトス

二、歴史ノ特別事項

(イ) 日本ニ於ケル最初ノ埋葬ハ勿論土葬ナリ、前項一般歴史中ニ記述セルカ如ク佛敎ノ傳來ト共ニ火葬ヲ行ハル、ニ至レリ



(ロ) 火葬法ノ日本ニ行ハレシ以來今日ニ至ル約千二百有十三年殆ト連綿トシテ絶ヘシコトナシ然リト雖其間ニ於テ佛敎信者又ハ儒敎ヲ尊信スル者ノ間ニ於テ多少其風習ノ消長アリシヲ見或ハ法律ヲ以テ之ヲ禁止セルノ事實ナキニアラサルモ之等ハ日本ノ或一部ニ限リ又ハ其期間極メテ短カク忽チニシテ之カ禁令ヲ解キ一般ニ火葬ヲ公許スルニ至レリ今左ニ其消長廢絶ニ就キ詳述セントス

佛敎ノ日本ニ傳來セル當時ハ漸ク火葬ノ風習其片影ヲ見ルニ止マリシカ越テ推古天皇二十九年（西暦六百二十一年）其皇子豐聰皇子ノ火葬セラレシヨリ稍々一般ニ其風習ノ流布セルモノアルモ次テ佛敎ノ傳播熾ンナルニ伴ヒ文武天皇四年（西暦七百年）ノ頃ニ至リ一層火葬ノ風習盛ニ行ハレタルモノトス而シテ歴代ノ天皇又其例ニ習ハレタルハ前記一般歴史中ニ掲ケタル表ニ於テ之ヲ認メ得ル所ナリ又古代法中是ニ關スル法令サヘ制定セラレタルヲ見ル

(一) 大寶令第二十六（西暦七百一年制定ノ法律）

喪葬令第十條　凡三位以上、及別祖氏宗並得營墓以外不合雖得營墓若欲大藏聽

大藏ノ意義　考古家伊勢貞丈等之ヲ以テ火藏ノ誤寫ト爲シ火藏トハ屍體ヲ火葬シテ後骨骼ヲ藏スルノ意トナセリ諸家多ク之ニ從フ此ノ說ニ依レハ本令ハ日本ニ於ケル火葬公許ノ起原ナリト云フヘシ

(二) 令義解

凡丁匠赴役身死者、依棺在道亡者、所在國司以官物爲給並於路次埋殯謂殯謂殯者劍也言殯假

藏待家人至也立碑並告本貫若無家人來取者燒之謂凶問既告、道路有程、徐徐其來接過限不來者即於當處燒也

本令ハ中古ノ制凡ソ國ニ工事若クハ公役アルトキハ其工匠壯丁ヲ徵發シテ役務ニ服セシムルモノナリシカ故ニ是等ノ匠丁(徵發セラレタル職工工夫等ヲ云フ)ニシテ役務中ニ死亡セシモノハ棺ヲ給與ス途中ニアリテ死亡セルトキハ地方官之ヲ支給シ且埋葬ヲナシ碑ヲ立テ其本籍地ヲ表記ス而シテ一定期間內ニ於テ其家族來リテ死體ヲ引取ラサル場合ハ之ヲ火葬ニ付スルコト、定メタルモノナリ

(三) 令義解

凡行軍兵士以上若有身病及死者其屍當處燒埋本令ハ前條ト同シク軍士行軍中ニ於テ死亡セルトキハ其屍體ヲ火葬ニ付シテ埋葬スヘキコト、定メタルナリ

後光明天皇崩御ニ際シ承應三年(西暦千六百五十四年)十月十五日歷代ノ火葬例ヲ廢止セラレ是ヨリ以後至尊ノ葬式ニ火葬ヲ行フコトヲ止メラル然リト雖モ一般國民ニ對シテハ別ニ火葬ヲ禁止セシニモアラス少ナクモ佛敎信徒ニアラテハ依然トシテ火葬スルコトヲ世襲セルコトハ明カナルコトナルヘシト雖モ偶々儒敎尊信者ニシテ火葬禁止主義ヲ主張シ所謂地方的禁止令ヲ下シタル例少ナカラスト即チ西暦千六百五十四年野中良繼兼山ト號ス土佐侯山內氏ノ國老ナリ土佐ノ民俗葬ルニ茶毘ヲ以テス令ヲ下シテ數々之ヲ禁ス然レトモ習慣ノ久シキ之ヲ止ムルコト能ハス是ニ於テカ兼山更ニ命令ヲ發シテ曰ク今後ハ有罪者ニシテ死スルトキハ其屍體ヲ焚キテ其遺骨ノミヲ葬ラシムヘシト是ヨリ土民其火葬ヲ行ヒテ有罪者ノ死ト同視セラレンコトヲ恥チテ自ラ火葬ヲ廢止スルニ至レリ

寛文三年(西暦千六百六十三年)七月十三日會津侯保科正之其臣佐藤勘十郎ヲ其封土會津ニ派遣シテ會津藩ノ奉行菅勝兵衞赤羽市右衞門ニ命シテ封內ヲ巡回シテ其管內ノ人民一般ニ人ノ子トシテ火葬ヲ行フハ不孝ノ至リタルコトヲ告諭シ葬禮ニ火葬ヲ用ユヘカラサル旨ヲ敎戒セシメタリ寛文十一年(西暦千六百七十一年)十二月十八日正之卒ス遺命シテ火葬ヲ禁シ日本固有ノ土葬式ニ依リテ葬ラシム正之ノ會津ヲ治ムルヤ人倫ニ基キ風俗ヲ正シクス土民從來焚屍ヲ尙ヒ習慣シテ常事トナス敎諭シテ之ヲ禁止セリ然レトモ又寺院地域ノ狹隘ニシテ瘞埋ニ不便ナルコトヲ慮リ更ラニ葬地三箇所ヲ諸人ニ賜ヒテ志ヲ遂ケシム是ニ依テ諸人自ラ火葬ノ非ナルヲ知リ又碑表ヲ立ツルコトヲ知レリト云フ

元治元年(西暦千八百六十四年)夏萩藩主毛利敬親其管內周防長門二州ノ境內ニ於テ火葬ヲ行フコトヲ禁止スルノ命令ヲ發シタリ當時佛敎淨土眞宗ノ僧徒島地默雷送葬論ヲ著ハシ大ニ此ノ命令ニ反對ヲ唱ヘタリ敬親ハ近世勤王家ノ泰斗ニシテ其藩立大學明倫館敎頭山縣禎ハ純粹ナル朱子派ノ儒敎主義者タリ是ヲ以テ尊儒排佛ノ思想ヲ鼓吹シ佛敎的禮典ヲ否認シ一藩ノ子弟ヲ感化セシメシ力頗ル大ナリト云フ

慶應二年(西暦千八百六十七年)十二月山陵奉行戸田大和守長久建言シテ火葬ヲ行フコトヲ止ム長久ハ下野國宇都宮城主戸田越前守忠恕ノ國老ニシテ忠恕ヲ助ケテ帝室歷代山陵ノ荒廢セルヲ修理シ功ヲ以テ從五位下大和守ニ叙セラレタル人ナリ勤王論者蒲生秀實山陵志ヲ著スヤ戸田忠恕之ヲ讀ミテ感激シ

山陵修築ノコトヲ德川政府ニ建言シテ自ラ其役ニ任スルヤ長久之ヲ輔佐シテ其事業ヲ成功セシメタリ又火葬ヲ以テ蠻夷ノ禮式トナシ日本古來ノ正禮ニアラストシテ排斥セシモノナリ蓋シ忠恕長久ハ儒教朱子派ノ信徒ニシテ其勤王論ヲ主張スルト同時ニ佛教ヲ排斥セル事ハ尙他ノ儒教徒ト其主旨ヲ同クスモノナリ

以上述ヘタル如ク西暦千六百五十四年ヨリ同千八百六十七年ニ至ル二百有十三年間ニ於テハ地方的火葬禁止令ヲ發シタル實例アルヲ以テ見レハ日本全土ニ普及セル火葬ノ風習ハ之レカ爲メ幾部消滅セルコト確認シ得ル處ナリト雖トモ是ヨリ前既ニ西暦七百一年ノ當時ニ於テ火葬公許ノ令ヲ發シタルヲ見レハ一般國民ノ殆ト依然トシテ之レカ風習ヲ持續セルモノナルヘシ然レトモ明治六年七月十八日帝國政府ハ一般國民ニ對シ火葬ヲ禁止セリ其後一年有半ニシテ政府ハ古來火葬ノ習慣ニ對シ甚シキ不便ヲ與フル事實アルヲ認メ其禁令ヲ取消シ明治八年五月二十三日更ニ大政官布告ヲ以テ國民ノ自由火葬ヲ公許セリ

是ニ依テ日本ニ於ケル火葬ノ消長ヲ觀察スルニ其原ヲ乃チ佛教ノ傳來ニ起シ漸次佛教ノ普及スルニ伴ヒ其風習モ亦一般國民ニ及ホシ推古天皇二十九年(西暦六百二十一年)二月頃ヨリ稍々隆盛ナリシカ文武天皇四年(西暦七百年)三月ニ至リテ一層熾ンナルヲ見ル承應三年(西暦千六百五十四年)三月頃ヨリ從來ノ火葬ノ風習稍々薄ラキ明治六年(西暦千八百七十三年)七月ニ至リ全ク一般國民ノ火葬ニ關シテ禁止シ明治八年(西暦千八百七十五年)五月ニ至リ其禁令ヲ取消シ以テ今日ニ及ヒシモノニシテ現今ノ火葬ニ關スル狀況ハ後頁ニ添付セル統計表ニ就キ察スルヲ得ヘシ

(ハ) 日本ニ於ケル火葬ノ起原及其消長ニ關シテハ其期日ノ大要前項ニ述ヘタル如クニシテ即チ火葬ノ習慣ノ一般國民ノ上ニ傳布セシ以來推古天皇二十九年(西暦六百二十一年)稍々之カ進歩セルヲ見ルモ最モ進歩セルハ文武天皇四年(西暦七百年)ノ當時ニシテ其後佛教派儒教派ノ教派ノ論爭ヨリ多少ノ消長アリシコトハ既ニ述ヘシ如シ今前項ニ述ヘシ時期ニ於ケル進歩セシ動機ノ大要ヲ述フルコト左ノ如シ

佛教ノ本邦ニ傳來セル當時ニ於テハ漸ク其片影ヲ見ルタニ過キサリシヲ西暦六百二十一年ニ至リ稍其布行ヲ見ルニ至リタルハ既ニ一般歷史中ニ於テ述ヘシ如ク推古天皇ノ皇子ニシテ熱心ナル佛教信者ナル豐聰皇子ノ火葬ニ附セラレタルハ有力ナル動機ナルヘク次テ文武天皇四年(西暦七百年)三月ニ至リ一層ノ進歩ヲ見シハ河内國元興寺ノ住職僧道照ナルモノアリ僧ハ有名ナル高僧ニシテ歸信スルモノ頗ル多ク僧ノ死シテ火葬セラルヽヤ一般ノ信衆ノ之ニ倣フ者亦盛ニシテ加フルニ西暦七百一年ニ於テ火葬公許ノ寶令ヲ布キ西暦七百三年至尊火葬ノ原始タル持統帝ノ大和國飛鳥岡ニ火葬セラレ剩ヘ當時彼ノ淨土眞宗ノ開祖タリシ佛教僧徒親鸞ノ死後火葬ヲ行ヒシヨリ同宗ノ信徒ハ悉ク火葬ヲ世襲スルニ至リタルカ故ニ其普及益々進歩シ爾來國民ノ全階級ヲ通シテ火葬ヲ行フモノアルニ至レリ。

(ニ) 特ニ火葬奬勵ノ目的ヲ有スル會、組合ノ如キモノナシ近時私立衞生會又ハ醫師團體等ニ於テ一般衞生又ハ防疫ニ關スル講話ヲ爲ス傍衞生上及土地ノ經濟上ヨリ火葬普及ノ必要ヲ唱導シツヽアリ。

(ホ) 往時ニ於ケル火葬ハ一ニ佛教ノ典禮タリ是ヲ唱導セシモノハ悉ク佛教徒ナリ而シテ火葬ノ形式ハ渾

ヘテ宗教ノ儀禮ニ依リテ行ヘルモノナルカ故ニ火葬ニ關スル概念ハ全然宗教的範圍ニ屬シ之ヲ以テ公衆衞生上ノ必要ヨリ起レルモノト爲スヘキ意見ハ認ム（カラスト雖トモ之カ施行ハ自ラ公衆衞生上ノ利便ニ適合シ遂ニ他國ニ於テ殆ト其類例ヲ見ル可カラサル至便至當ノ習慣ヲ養成シ來レルモノナリトス是レ實ニ深ク本邦佛教ノ禮式ニ對シ感謝スヘキ處ナリトス而シテ火葬ノ茲ニ千有余年其法式ヲ存シテ遍ク繼續セラル所以ノモノハ之ヲ保持スル所ノ贊否兩論者ノ陶冶研究ニ依リテ益々其根據ヲ明確ナラシムルモノナクンハアラス今本問題ニ關シ質問アルニ對シ反對論ヲ記錄スルト共ニ贊否兩論者ノ概念ノ存スル所並ニ兩論者ノ持論ノ理由トスル所ヲ次ニ述ヘントス蓋シ往時ニ於ケル火葬贊否ノ論議ハ一ニ宗教的心理的ノ爭議ニ屬シ未タ曾テ衞生的科學的ノ研究ニ涉ルモノ殆ト是アラサリシハ既ニ記載セル處ノ如シ而シテ往時ニ於ケル火葬ノ贊成論者ハ常ニ佛教徒ナリキ否佛教徒ハ實ニ火葬法ノ提出者ナリ而シテ之カ反對論者ハ佛教徒ノ反對者タリシ儒教徒ナリ然レトモ佛教徒ノ之ヲ宗教的ニ唱導モルカ如ク儒教徒モ亦道德論ヲ以テ之ニ反對シタリシナリ而シテ贊成論者ハ佛祖ノ葬法ニ一致スルカ故ニ宗教上崇高ノ意味ヲ有スト爲シテ稱贊シ反對論者ハ道德的感情ニ背戻セル處置ナリトシテ攻擊シ甚タシキニ到リテハ之ヲ以テ人生ノ冥福ヲ毀損スルモノナリト爲シテ排斥セリ

### 火葬ノ反對論

一、抑モ屍體ノ處分ニ關シテハ必ス一定ノ典禮ヲ要ス而シテ所謂典禮ナルモノハ宗教及民俗ノ異ナルニ從ヒ又其習慣形式ヲ異ニス是ニ於テカ普通屍體ノ處分ヲ名ツケテ葬禮ト稱セリ人生ノ最モ大ナル禮典ノ一ハ葬禮ナリトナスハ何レノ宗教ニ於テモ殆ト異議ナキ所ナリトス然レトモ葬禮ノ形式ヲ以テ火葬ニ關係ヲ有スルモノハ佛教ヲ主トス而シテ火葬ヲ以テ絶對ニ排斥シテ之ヲ葬禮ニ關係セシムルコトヲ拒絶セルモノハ儒教徒ナリ。

抑モ儒教ナルモノハ其本性的起原宗教ニアラスト雖支那古代ニ於ケル倫理道德ヲ唱導セルノ學者孔子（西曆紀元前五百五十一年）孟子（紀元前三百三十六年）二氏ノ遺教ヲ祖述シ以テ佛教其他ノ宗教ヲ排擊シ相抗抵論難シ自ラ對立ノ地歩ヲ占ムルニ至リテ遂ニ宗教タルノ觀ヲ呈セリ彼ノ唐代ニ於ケル韓愈（紀元八百十九年）宋代ニ於ケル歐陽修（紀元千六十年）周惇頤（紀元千七十二年）程顥（紀元千八十五年）朱熹（紀元千百十八九年）ノ如キハ絶對的ニ佛教ヲ攻擊シ之ヲ論定スルニ異端邪說ヲ以テシ其教義教法ハ人倫ヲ破壞シ國家ヲ荼毒スル者ナリト爲シテ極力之ヲ排斥セリ屍體ノ處分法トシテ火葬ヲ用ユルハ罪惡ナリト爲セリ其論旨ニ曰ク葬禮ハ人生終焉ノ大禮ニシテ最モ愼重ナルヲ要ス古ノ聖人葬祭ノ禮ヲ定ムルヤ死ニ事フルコト猶ホ生ニ事フルカ如クナルヘシト云ヘリ故ニ死シテ之ヲ葬ムルモノハ棺槨ヲ具ヘテ以テ屍體ヲ保容シ之ヲ墓穴ニ收藏シテ其屍體ノ保存ヲ圖リ之レカ毀損スルコトヲ防クハ即チ屍體ニ對スルノ敬意ヲ表シ生前ノ親密ナル感情ヲ示ス所以ナリ然ルニ之ヲ焚燒シテ其肢體膚肉ヲ灰燼ト爲スカ如キハ實ニ慘酷ナル處置ニシテ啻ニ屍體ノ保存ヲ毀損ヲ受クルノミナラス此ノ如キ處分ハ眞ニ人道ノ感情ヲ破壞スルモノニシテ野蠻的習俗ナリトス故ニ吾人聖人ノ遺教ヲ奉スルモノハ其愼終追遠ノ思想ヨリシテ屍體ヲ滅却スルカ如キ葬法ヲ排斥セサルヘカラスト云フニ在リ

此ノ主張ハ儒教主義ノ教徒ノ千古一貫シテ信奉スル所ニシテ昔ヨリ今ニ至ル迄依然トシテ存在スル處ナリ然リト雖モ日本帝國ニ於テハ儒教ヲ傳ヘタリト雖モ佛教ノ勢力比較的偉大ナリシカ故ニ支那ノ如キ現象ヲ呈セス只其純然タル儒教徒殊ニ彼ノ程朱氏ノ儒學ヲ信奉スル教徒ハ之ヲ排斥スルコト毫モ支那國民ト異ナルコトナク火葬ノ採用ニ對シテ絶對的ニ反對ヲ唱ヘ國家ノ主權者ニシテ儒教ヲ信奉セシモノアリシトキニ於テ屢々命令ヲ發シテ之ヲ禁止セルノ事例少ナカラストス。

二、既ニ記述セル後光明天皇崩御ニ際シ歴代ノ火葬例ヲ廢セラレタルハ之レ等シク帝モ亦等シク儒教朱子派ノ信奉ニ屬ス而テ帝ノ崩殂後ニ於テ宮庭ノ議ハ前朝ノ例ニ依リテ火葬ト爲スニアリシト雖モ帝ノ信用ヲ得タル帝室ノ膳部用達魚屋八郎兵衞ナル者之ニ反對シ熱心ニ諸公卿ニ說キ且ツ當時ノ後宮ニ奏スルニ火葬ハ皇室ノ世嗣ヲ泯絶セシムルノ宿因ヲ來スモノナリトノ說ヲ以テシ大ニ宮庭ノ議ヲ動カシ遂ニ天皇ノ故例ヲ止メラルヽニ至レリ（然レトモ火葬式ニ依リテ葬禮ヲ行ハレ屍體ヲ焚燒スルコトノ外ハ火葬ニ用ユル如キ形式ヲ用キテ執行セラレタリト云フ）

三、前項並ニ本項ニ於テ列記セル野中兼山、保科正之、戸田大和守長久等ノ如キ反對論者ハ凡テ儒教信奉者ニシテ其論究スル所佛教ヲ排斥スルニ因シ古代ニ於ケル神祇官吉田、白川ノ二家絶對ニ火葬ノ執行ヲ否定セリト雖トモ之ヲ要スルニ神祇官トシテ日本固有ノ禮典ヲ保存スルニ勉メタルモノニシテ敢テ一般ノ火葬執行ニ反對ヲ試ミタルニアラサルナル此ノ如キ有力ナル反對論ノ現出ハ實ニ近古ニアリ德川家康日本帝國ヲ統一スルヤ首トシテ平安（京都）ノ儒學者ニシテ朱子派ノ儒教主義者藤原肅ヲ招キテ儒學ノ講習ヲ興シ尋テ肅ノ弟子林道春ヲ擧ケテ大學頭ニ任シ以テ全國教育ノ宗師タラシム是ヨリ以來儒教大ニ振ヒ儒教主義ノ禮典亦大ニ興リ而シテ佛教的禮典ニ反對ヲ主張スルモノ漸ク現ハルヽニ至レリ儒教ノ孝悌忠信主義ハ「火葬ヲ以テ人情ニ杆格スルモノト爲シ佛教ヲ以テ異端トナシ之レカ禮典ハ蠻夷ノ習慣ナリト爲シ絶對ニ否定セル故ニ前述ノ如キ火葬禁止令ノ發布屢々施行セラレタルモノナリトス明治ノ初年現政府ニ於テモ亦一時火葬反對論者ニ同意セシカ直ニ之カ禁ヲ解除セリ。

### 火葬賛成論

僧道照ノ火葬セラレシ以來日本ニ於ケル火葬ハ殆ント無異議ニ發達シ苟シクモ佛教ノ信徒ニシテ火葬ノ反對論者タルハ極メテ稀ナリ是レ火葬ハ佛祖ノ葬式ニ一致スル葬法ナリトシテ敢テ其可否得失ヲ論スルヲ俟タス殆ト信仰的ニ執行セラレタルモノナレハナリ故ニ近古儒教徒ノ有力ナル反對論ヲ提出セサル以前ニ於テハ特ニ稱スヘキ賛成論ナルモノアルニアラス然リト雖トモ儒教徒ノ反對論其旺盛ヲ極ムルニ至リテ茲ニ始メテ有力ナル賛成論者出テ火葬禁止ノ必要ナキヲ論辨シテ古來火葬ノ習慣ヲ維持スルニ努メタリ而シテ火葬ノ反對論者カ多ク儒教徒ナリシト同時ニ火葬ノ賛成論者ハ常ニ佛教徒ナリ就中其最モ熱心ナル火葬賛成論者ハ佛教淨土眞宗派ニ屬スル僧徒ナリトス抑モ淨土眞宗派ノ信徒ハ宗祖親鸞ノ遺教ニ依リ其葬法ハ必ス火葬ニ依ルヲ常トセリ而シテ本邦ニ於ケル火葬ノ發達普及ハ實ニ該宗徒ニ依リテ增進セラレタル事實ハ爭フヘカラサル處ナリ。

元治元年(西暦千八百六十四年)長藩主毛利氏封内ニ於ケル火葬禁止令ヲ發布セルコト前述ノ如シ之ニ對シ佛敎淨土眞宗ノ高僧故島地默雷(生存中ハ本派本願寺一等巡敎師ニシテ同派第一ノ長老タリシナリ)送論葬ヲ著ハシ大ニ該法令ヲ攻擊シ火葬ノ必要ヲ主張セリ是實ニ近世ニ於ケル火葬反對論ニ對スル最モ有力ナル火葬贊成論文ナリトス今左ニ其ノ要ヲ摘記セン。

(前畧)凡ソ人ノ父子兄弟ノ恩愛アルモ魂神ノ形體ニ存スルカ故ナリ魂神一回去レハ形體ハ只是レ四大(地水火風之ヲ四大ト稱ス)ノ成ス所ニシテ愛ノ加フヘキモノナク恩ノ蒙ムルヘキモノナシ但シ生來血肉ヲ同クスルノ恩情止ミ難クシテ餘愛死屍ニ及フモノ凡情ヨリセハ忍フヘカラスト雖理ヲ以テ論スレハ豈必スシモ然リトセンヤ夫レ生前父子兄弟ノ恩情アルモ形體ヲ以テスルニアラスシテ唯魂神ノ形體ニ存スルカ故ナリ彼ノ酒肉飯饌ヲ供スルモ神ノ安逸ナランコトヲ欲シ毀傷損害ヲ恐ルヽモ神ノ勞懿ナカランコトヲ希ヘハナリ假令不幸不悌ノ人ト雖トモ生前ニ於テ父兄ノ土中ニ埋ムルハ忍ヒサル所ニシテ原慈深愛ノ人ト雖トモ死後ニ至リテ子弟ヲ泉下ニ送ルハ堪ユヘキ所ナリ心之ヲ怪マサルモノハ判然魂神ノ有無ニ從ヒ其行ヲ處ノ混同スヘカラサルヲ見ルニ足レハナリ而カモ獨リ死後ニ於テ之ヲ火化スルハ殘忍ニ過キタルモノト爲シ之ヲ土中ニ埋ムルハ忍フヘシト云フハ其理由何レニカアル豈怪シカラスヤ凡ソ人生ノ無窮ナル又從テ死亡ス若シ棺槨一回埋メテ悉ク之ヲ千戴ニ傳ヘハ天下廣シト雖トモ恐ラクハ死屍ヲ埋ムルニ地ナカラムトス。

火化(火葬ヲ云フ)土埋(土葬ヲ云フ)形體ノ消滅スルニ至リテ不同ナキコトハ其遲速別アリト雖トモ理ニ於テ異ナルナシ五十歩百歩ノ論ノミ之ヲ焚クヲ以テ不仁不義ナリトセハ之ヲ埋ムルモ亦不仁不義ナリト云フヘシ今不仁不義ノ名ヲ以テ獨リ火葬ニ蒙ラシムルモノハ豈誣ユルノ甚シキニアラスヤ。

佛及輪王ノ火葬ニ限レルハ舍利ノ功德ヲシテ萬世ノ末ニ止メシメンカ爲ナリ。

火葬ヲ非トシ土葬ヲ是トスルニハ確實ナル理由ヲ存セストセハ何ヲ極度トシテ其是非ヲ定メン宜シ其時代ノ風俗習慣ニ委シテ不可ナカルヘシ又何ソ煩鑛ナル法令ヲ下シテ之カ改作ヲ强制スルノ必要アランヤト云フニ在リ。

而シテ其他ノ火葬贊成論者ニシテ淨土眞宗ノ佛敎徒渥美契緣、舟橋振等モ亦大ニ火葬施行ノ理由アルコトヲ鼓吹セリ政府ニ於テモ明治六年火葬ヲ禁シタリシモ同八年遂ニ火葬廢止ノ禁令ヲ解キ火葬贊成論者ノ主張ヲ貫徹セシメタリ之ヨリ以後火葬ニ關スル贊否ノ議論遂ニ消滅スルニ至レリ。

以上ノ如ク火葬ニ關シ其贊否兩論者ノ時々輩出セリト雖トモ之レカ爲メニ別ニ火葬ニ關シテ防害的行動ヲ採リシ事例ナキカ如シ。

(〜) 火葬ニ關スル「リチラツール」ノ主ナルモノ左ノ如シ。

山根氏ノ日本火葬論　(非賣品)

島地默雷氏ノ送葬論

英國トムソン氏著火葬論

王文錄之葬度

## 二　行　政

一、現在日本ニ於ケル一般ノ火葬ハ別ニ法令又ハ規定ニ依テ强行スルモノアラサルモ唯法定傳染病患者ノ死體ハ傳染病豫防法ニ於テ火葬スヘキコトヲ命令シ特別ノ理由アリテ土葬セントスル時ハ當該吏員ノ許可ヲ受ケシムルコトヽシ又癩患者ノ死體モ可成火葬セシムル主旨ヲ以テ當該吏員ニ於テ之ヲ勸告シ公立癩療養所ニ於テハ各火葬場ヲ設ケ引取人ナキ者又ハ引取人ノ反對ナキ者ハ悉ク之ヲ火葬ニ付セリ其他ハ宗教ノ關係其他從來ノ習慣トシテ之ヲ行ヒツヽアリ今左ニ古代ヨリ火葬ニ關シ制定セラレタル法文ヲ列記セン。

(一)　大寶令第二十六(西暦七百一年制定ノ法令)

喪葬令第十條　凡三位以上及別祖氏宗並ニ得レ營レ墓以外不合雖得營墓若欲ニ大藏一者聽ス
(但シ大藏ハ火藏ノ誤リナルコトハ前述セリ)

明治六年七月十八日太政官布告第二百五十三號
火葬ノ儀自今禁止候條此旨布達候事

明治八年五月二十三日太政官布告第八十九號
明治六年七月第二百五十三號火葬禁止ノ布告ハ自今廢シ候條此旨布告候事



明治三十年三月法律第三十六號
傳染病豫防法中
第十二條　傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ
但所轄警察署ノ許可ヲ經タルトキハ此限ニ在ラス

明治三十二年三月法律第九十三號
行旅病人及行旅死亡人取扱法中
第七條　行旅死亡人アルトキハ其所在地市町村長ハ其狀況相貌遺留物件其他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ記錄シ其死體ヲ假葬スヘシ但法令ニ別段ノ規定アル場合ニ於テ之ヲ火葬スルコトヲ妨ケス

明治四十年七月二十日內務省令第十九號
癩豫防ニ關スル法施行規則
第八條　療養所ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得

明治四十三年六月省令第二十四號ニテ追加ス

二、日本ニ於ケル火葬ハ法令ニ別段ノ規定アル場合ノ外各自ノ任意ニ之ヲ行フモノニシテ火葬場ノ設立管理ハ公營(市區町村立)部落營及私營ノ三種トス

三、各火葬場ハ大概規定ヲ設ケアリ一例トシテ別冊東京博善株式會社ノ定款、定價表及最近半年季ノ報告ヲ添付ス本會社ハ東京市外町屋及五ケ所ニ火葬場ヲ設ケ其ノ資產ハ約五十萬圓ニシテ東京市及其附近町村

ノ火葬大部ヲ引受ケ毎年相當ノ利益ヲ收メツヽアリ。

四、市町村ハ貧民ヲ火葬スル權利ヲ有セス但シ傳染病死體ノ如キ法令ニ火葬ノ規定アル場合ハ此限ニアラサルモノトス

五、死體ノ埋葬ハ土葬、火葬共ニ死後二十四時間ヲ經過セサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス其ノ他埋葬ニ關シテハ左ノ手續ヲ爲スモノトス

死體ヲ埋葬セントスルニハ先ツ市役所、區役所又ハ町村役場ニ至リ埋葬認許證ノ下附ヲ申請スルコトヲ要ス而シテ其申請書ニハ

(一) 死亡者ノ本藉、住所、族稱及氏名、出生ノ年月日
(二) 戸主ト死亡者トノ續柄及職業
(三) 病名
(四) 死亡ノ年月日時
(五) 死亡ノ場所
(六) 埋葬ノ場所
(七) 醫師ノ死亡診斷書

右ノ七ケ條件ヲ具備スルノ必要アリ而シテ申請人ノ住所姓名ヲ記入シ捺印ノ上之ヲ提出スルトキハ市町村長ハ不都合ナキコトヲ認メタルトキハ其申請人ニ向テ死亡埋葬認許證ヲ下附ス而シテ認許證ニハ



(一) 下附番號
(二) 死亡者ノ住所
(三) 死亡者ノ氏名
(四) 男女ノ別
(五) 生年月日
(六) 族稱
(七) 死亡者ノ職業及家計ノ重ナル職業
(八) 病名
(九) 死亡年月日時
(十) 死亡ノ場所
(十一) 埋葬ノ場所
(十二) 申請人ノ氏名

右十二ケ條件ヲ記入シ市町村長ノ捺印シタルモノヲ下附ス該認許證ハ土葬及火葬ニ共通シタル認許證書ナリ故ニ火葬セントスル場合ニ於テハ右ノ認許證ヲ火葬場管理者ニ提示シ一定ノ料金ヲ支拂ヒ火葬ヲ依賴スルモノトス

六、死體ヲ火葬スルニ當リテ遺族中ニ反對論ヲ提出スルカ如キ例ハ我國ニ於テ之ヲ聞カス萬一之レアリト

セハ家長及親族間ニテ之ヲ解決スヘシ

七、火葬土葬其ノ他葬儀ノ方法等ニ關シ本人ノ遺言アレハ遺族ハ之ヲ尊重スルコト勿論ナルモ若シ本人ノ遺言等ナキ場合ニ於テハ喪主又ハ施主ノ意志ニ依リ之ヲ決スルノ風習ナリ從テ火葬ハ遺言ニ依リ又ハ遺族ノ意思ニモ依リテ之ヲ行ヒ得ルモノトス

八、火葬ニ關スル遺志表示ノ方式、内容トシテ格別ノコトナシ、單ニ本人生前ニ家族ニ對シ口述シ若ハ筆記シ置クヲ例トス

## 三　統　計

一、日本ニ於ケル火葬場ノ數ハ公私設合計三萬六千七百二十三ヶ所明治四十四年現在ニシテ其所在地ハ一々玆ニ記載シ難シ道府縣別ノ數第一表ノ如シ

二、毎年ノ火葬數ハ最近五ヶ年ノ平均ヲ擧クレハ三十六萬三千四百九十二、土葬數ハ同七十一萬七千九百二十七ニシテ全葬數ノ三分一以上ハ火葬ナリ第二表ニ最近五ヶ年間ノ土葬火葬數合計ヲ、又第三表ニハ毎年ノ比較表ヲ掲ク

三、火葬場ハ市以下町村ニ在リ但シ市ニ屬スル火葬場ノ多クハ市外ノ村落ニ設置セラレアルコト東京市外ノ町屋、日暮里、桐ケ谷等ニ於ケルカ如シ

四、日本ニ於ケル火葬ハ歴史中ニ詳記シタルカ如ク佛教ニ依リ傳播シ且人民ノ大多數ハ佛教信者ナレハ身分ノ上下貧富ノ如何ヲ問ハス各階級ヲ通シテ行ハル就中眞宗一向宗ニ屬スルモノハ殆ント火葬ニ付スルヲ例トス又東京市ノ如キ朱引内(市ノ中央部ナリ)ノ寺院ニハ土葬ヲ禁セラレタルヲ以テ朱引内ニ菩提寺ヲ有スル者ハ宗旨ノ如何ニ拘ハラス火葬セサルヘカラス但シ大體ニ於テ上流ノ葬儀ハ神葬ニ依ルモノ其ノ他ニ在リテモ土葬ニ付スルモノ多キカ如シ東京市内青山共同墓地(朱引外ナレハ土葬シ得ル場所ナリ)ニハ上流者ノ墓標尠カラス

五、近代ノ例ニ依レハ　皇帝、皇族ノ葬儀ハ殆ント總テ土葬ニシテ京都附近ノ村落ニ陵ヲ設置スルヲ例トス即チ最近ニ於ケル明治天皇ノ御陵ヲ桃山ニ定メタル其一例ナリトス

六、最近ノ日露戰役ニ於テ火葬シタル數ハ不明ナリ戰地ノ便宜ニ依リテ之ヲ決定スルモ大體ニ於テ可成我軍隊所屬者ノ死體ハ火葬、敵國軍隊所屬者ノ死體ハ土葬ニ付スルヲ原則トセリ

第一表　火葬場數　(明治四十二年六月末日現在)

| 道府縣 | 公設 | 私設 | 計 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | 六六五 | — | 六六五 |
| 東京 | 一四二 | 七 | 一四九 |
| 京都 | 八三 | 三二 | 一一五 |
| 大阪 | 五七三 | 二四 | 五九七 |
| 神奈川 | 三七九 | 五六 | 四三五 |
| 兵庫 | 二、〇一五 | 四 | 二、〇一九 |
| 長崎 | 三五九 | 三二四 | 六八三 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 新潟 | 三、〇九九 | 一一〇 | 三、二〇九 | | |
| 埼玉 | 七九五 | — | 七九五 | | |
| 群馬 | 四三七 | 一四七 | 五八四 | | |
| 千葉 | 四四〇 | 二五二 | 六九二 | | |
| 茨城 | 二一六 | 一八一 | 三九七 | | |
| 栃木 | 六二 | 一五二 | 二一四 | | |
| 奈良 | 三三一 | 二八 | 三五九 | | |
| 三重 | 九四三 | 二六二 | 一、二〇五 | | |
| 愛知 | 一、五一八 | 二九五 | 一、八一三 | | |
| 静岡 | 一、二七九 | — | 一、二七九 | | |
| 山梨 | 二〇五 | — | 二〇五 | | |
| 滋賀 | 一七七 | 五八 | 二三五 | | |
| 岐阜 | 一、三四〇 | 二六 | 一、三六六 | | |
| 長野 | 七七八 | 一九九 | 九七七 | | |
| 宮城 | 六九 | 一〇 | 七九 | | |
| 福島 | 七五二 | 二四六 | 九九八 | | |
| 岩手 | 三〇五 | 八 | 三一三 | | |
| 青森 | 二二八 | 四〇 | 二六八 | | |
| 山形 | 八七四 | 五 | 八七九 | | |
| 秋田 | 一七〇 | 七〇 | 二四〇 | | |
| 福井 | 一、四七九 | 一 | 一、四八〇 | | |
| 石川 | 一、八三五 | — | 一、八三五 | | |
| 富山 | 一、二二六 | 一二三 | 一、三四九 | | |
| 鳥取 | 四一九 | 七 | 四二六 | | |
| 島根 | 五七一 | 三六二 | 九三三 | | |
| 岡山 | 七三六 | 二三四 | 九七〇 | | |
| 広島 | 一、七四四 | 一、三三四 | 三、〇七八 | | |
| 山口 | 一、一六七 | 一四二 | 一、三〇九 | | |
| 和歌山 | 六七九 | 五五 | 七三四 | | |
| 徳島 | 五八 | 九八 | 一五六 | | |
| 香川 | 四九〇 | 一、〇二七 | 一、五一七 | | |
| 愛媛 | 五六二 | 一一二 | 六七四 | | |

| 道府縣廳及 | 第二表 自明治三十八年至同四十二年 五ヶ年間平均埋火葬人員 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 火葬 | | 土葬 | | 計 |
| 高知 | 一 | 一 | 二 | 一 | 三 |
| 福岡 | 四九九 | 二五 | 五二四 | 一 | 五四〇 |
| 大分 | 四七一 | 一六六 | 六三七 | 一 | 七二三 |
| 佐賀 | 六四 | | 六四 | | 六四 |
| 熊本 | 一九八 | | 二二九 | | 二二九 |
| 宮崎 | 三四 | | 三四 | | 三四 |
| 鹿兒島 | 一 | | | | |
| 沖縄 | 一 | | 一 | | 一 |
| 合計 | 三〇、四六八 | 六、二五五 | 三六、七二三 | | 四五、五四六 |
| 北海道 | 一一、九二〇 | 一八、一三〇 | 三〇、〇五〇 | | 四〇、八三一 |
| 東京 | 二二、八八九 | 三一、九八二 | 五四、八七一 | | 七、七四四 |
| 京都 | 一七、二一六 | 一〇、一〇七 | 二七、三二三 | | 一六、四六八 |
| 大阪 | 四、七一五 | 四〇、八三一 | 四五、五四六 | | 二四、二一二 |
| 神奈川 | 一八、五二一 | 四、八三八 | 二三、三五九 | | 二、二四三 |
| 兵庫 | 二四、六二五 | 一八、九九三 | 四三、六一八 | | 一、一四三 |
| 長崎 | 一三、五八一 | 五、七六六 | 一九、三四七 | | 二、六四三 |
| 新潟 | 一六、五二八 | 二六、六九四 | 四三、二二二 | | 七、四四〇 |
| 埼玉 | 二八、一〇二 | 五五六 | 二八、六五八 | | 一五、九五六 |
| 群馬 | 二〇、六一九 | 一、一八三 | 二一、八〇二 | | 七、二四八 |
| 千葉 | 三〇、五七四 | 一、四七八 | 三二、〇五二 | | 四〇二 |
| 茨城 | 八五〇 | 二六、二九六 | 二七、一四六 | | 二、四三九 |
| 栃木 | 一七、二〇一 | 一、一四三 | 一八、三四四 | | 七、二四〇 |
| 奈良 | 一〇、四五五 | 二、六四三 | 一三、〇八八 | | 一、四八七 |
| 三重 | 一六、七九八 | 七、四四〇 | 二四、二三八 | | 三、九一五〇 |
| 愛知 | 二三、一九四 | 一五、九五六 | 三九、一五〇 | | 二、六四四四 |
| 静岡 | 一九、四九六 | 七、二四八 | 二六、四四四 | | 一、四八七 |
| 山梨 | 一一、〇八五 | 四〇二 | 一一、四八七 | | 一六、四五〇 |
| 滋賀 | 一四、〇一一 | 二、四三九 | 一六、四五〇 | | 二四、二一二 |
| 岐阜 | 一六、四六八 | 七、七四四 | 二四、二一二 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 長野 | 二五、二六三 | 三、〇三八 | 二八、三〇一 | |
| 宮城 | 一七、八七〇 | 八五三 | 一八、七二三 | |
| 福島 | 二二、〇六三 | 一、三五九 | 二三、四二二 | |
| 岩手 | 一五、〇一七 | 八九四 | 一五、九一一 | |
| 青森 | 二三、六八五 | 二、〇五〇 | 一五、七三五 | |
| 山形 | 一一、一二四 | 四、九七五 | 一六、〇九九 | |
| 秋田 | 一六、四六四 | 二、二六七 | 一八、七三一 | |
| 福井 | 四、九三七 | 一一、二〇五 | 一六、一四二 | |
| 石川 | 三〇九 | 一九、一三四 | 一九、四四三 | |
| 富山 | 五〇 | 一七、六八七 | 一七、七三七 | |
| 鳥取 | 八、二九九 | 一、〇九一 | 九、三九〇 | |
| 島根 | 一五、三一五 | 七八九 | 一六、一〇四 | |
| 岡山 | 二三、一六八 | 三、二九七 | 二六、四六五 | |
| 廣島 | 九、一六四 | 二二、一五一 | 三一、三一五 | |
| 山口 | 一三、八七四 | 六、三五八 | 二〇、二三二 | |
| 和歌山 | 一一、二五二 | 三、五八六 | 一四、八三八 | |
| 德島 | 一三、四六〇 | 三、四一四 | 一六、八七四 | |
| 香川 | 八、三二九 | 八、五七〇 | 一六、八九九 | |
| 愛媛 | 一九、三四七 | 二、六五〇 | 二一、九九七 | |
| 高知 | 一三、五五〇 | 一〇六 | 一三、六五六 | |
| 福岡 | 二七、一〇一 | 一〇、四六〇 | 三七、五六一 | |
| 大分 | 一四、七一六 | 三、四八四 | 一八、二〇〇 | |
| 佐賀 | 一三、四二一 | 六八九 | 一四、一一〇 | |
| 熊本 | 二二、三七〇 | 一、三八〇 | 二三、七五〇 | |
| 宮崎 | 九、九七五 | 六四 | 一〇、〇三九 | |
| 鹿兒島 | 二一、二五一 | 四一 | 二一、二九二 | |
| 沖縄 | 七、七一九 | 二九 | 七、七四八 | |
| 合計 | 七一七、九二七 | 三六三、四九二 | 一、〇八一、四一九 | |

## 第三表　自明治三十八年至同四十二年土葬火葬人員表

| 年度別＼種別 | 土葬 | 火葬 | 計 |
|---|---|---|---|
| 明治三十八年 | 七一四、二七六 | 三四八、三四九 | 一、〇六二、六二五 |
| 同　三十九年 | 六八三、八七九 | 三二七、五一七 | 一、〇一一、三九六 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 同四十年 | 七一九、〇九五 | 三六一、九六二 | 一、〇八一、〇五七 |
| 同四十一年 | 七一七、〇〇四 | 三七七、三〇一 | 一、〇九四、三〇五 |
| 同四十二年 | 七五五、三八三 | 四〇二、三二九 | 一、一五七、七一二 |

火葬ハ歐洲ニ於テモ盛ニ行ハレシモノナレトモ耶蘇教ノ勃興ト共ニ行ハレサルニ至レリ歐洲中特ニ火葬ノ多キハ伊多利ナリ獨逸ノ如キハ火葬場ノ數ハ極メテ少ナケレトモ近來稍々其數ヲ增シ大ニ研究シツヽアルモノヽ如シ今海外諸國ニ於ケル火葬場ノ數ヲ上クレハ左ノ如シ

| | | |
|---|---|---|
| 獨逸 | 一二 | |
| 伊太利 | 二六 | |
| 佛蘭西 | 三 | |
| 英吉利 | 一二 | |
| 瑞西 | 四 | |
| 連馬 | 一 | |
| 瑞典 | 二 | |
| 北米合衆國 | 多數 | |
| 伯西爾 | 同 | |
| アルゼンチン | 同 | |
| 智利 | 同 | |
| 那威 | アレトモ未タ用ヰス | |
| 西班牙 | 同 | |
| 露西亞 | 只ペスト患者ノミ火葬ス | |

## 四 技術

一、火葬場ハ人家輻輳ノ地ヲ距ルコト百二十間以上ノ場所タルコトヲ要スル規定ナレハ市町村ノ狀況ニ依リ其ノ行政區畫內ニ設置シ又ハ外部ノ村落若ハ原野ニ設置ス都市ニ於テハ總テ市外ノ村落ニ設ケアリ例之ハ東京市外ノ各火葬場ハ市界ヨリ二十町乃至一里ノ地點ニ設ク而シテ其ノ設置ノ場合ニハ夫々府縣ノ規定ニ依リテ許可ヲ受ケサルヘカラス

二、火葬場ノ構造ハ規模ノ大小ニ依リテ差アリ規模ノ大ニシテ且ツ全國ノ模範ト認ムヘキモノハ東京博善株式會社所屬ノ東京市外町屋火葬場ナリトス即チ上中下各等大小ヲ通シテ二列九十七個ノ竈ヲ備ヘ各竈ハ煉瓦ヨリ成リ前面ハ屍棺ノ挿入口ニシテ後面ニ燃燒口ヲ設ケ每一列ノ各竈ハ上部ニ共通ノ煙道ヲ有シ二列ノ煙道ハ相合シテ煙突ノ下部ニ開口ス此開口部ニハ更ニ燒煙裝置アリテ有臭煙ヲ再燃シテ之ヲ無臭ニナスト同時ニ吸引作用ニ依リテ各竈ノ氣流ヲ催シ燃燒ヲ完全ナラシム、町屋火葬場ノ圖面ハ其原圖ナキヲ以テ茲ニ之ヲ添付シ得サルヲ遺憾トス

從來各地ニ於テ火葬場ヲ新設又ハ改築スルニ當リテハ概ネ範ヲ前述ノ町屋火葬場ニ取ルヲ例トス曩ノ兵庫

縣衞生技師葉若雄次(藥劑師)ナル者簡易火葬爐ヲ考案シ關西地方ノ小市街地又ハ町村等ニ於テ此ノ式ヲ應用スルモノアリ

現時村落等ニ設置セル簡單ナル裝置ハ十坪内外ノ小屋樣ノ建物ヲ設ケ内壁ハ土壁其他不燃物トシ屋上ニ煙突ヲ備ヘ土床ノ中央ニ長方形ノ凹竈ヲ造リ燃料ヲ堆積シテ行ヒ最モ簡單ナルハ天然ノ洞穴ヲ利用シ又ハ原野ニ於テ之ヲ行フモノモアリ

三、火葬ノ方法ハ左ノ如シ

(イ) 古代ニ於ケル火葬ノ狀況

我國ニ於ケル古代ノ火葬法トシテハ先ツ屍體ヲ火葬スルニ當テ豫メ地ヲ點シテ單簡ナル火爐ヲ築キ或ハ柴薪ヲ地ニ敷キ柩ヲ其上ニ載セテ焚燒スルヲ例トセリ又一例トシテハ柩ヲ柴薪ノ上ニ置キ棺蓋ヲ開キテ死體ノ周圍ニ折松柴薪ヲ積ミ其上ニ藁ヲ置キ蓋ヲ覆ハスシテ點火シタルコトモアリ又古代ニ於テハ一般ニ藁ヲ以テ燒料トナセシコト行ハレタルモノナリ

(ロ) 近代ノ火葬方法トシテハ普通一般ニ於テ煉瓦ヲ以テ竈ヲ築キ屍體ヲ燃燒スルニ木材ヲ以テスルヲ普通トナセリ而シテ近來火葬爐ノ設備漸時增加スルト共ニ其設備方法ニ留意スルノ傾キアリトス我國ニ於ケル火葬爐トシテハ一般ニ行ハレツヽアル爐ニハ(一)覗キ口(二)煙道掃除口及扉(三)副煙道(四)焚口(五)爐格子(六)送棺軌條(七)煙筒(八)煙道(九)内扉(十)外扉(十一)塞煙板(十二)空氣入口(十三)風道(十四)防臭裝置(十五)燒煙裝置(十六)防禦凸起(棺ノ側壁ニ密着セサル樣一定ノ空隙ヲ保タシムル爲メニ設ケタルモノ)(十七)灰抑ヘ等ニ意ヲ注キツヽア



リ而シテ其燃燒材料トシテハ重ニ木材ヲ以テシ木材ハ松材ヲ多ク使用セリ松材ハ長二尺内外ニ切リ之ヲ適當ノ大サニ割キ最初棺ヲ爐中ニ容ル、ニ先チ燃材ヲ棺受ケ爐格子ノ下ニ並列シ置キ其上ニ用意サレタル爐格ヲ正置シ棺ヲ爐格子ノ上ニ安置ス準備調フルヤ骨受ケ板ト共ニ爐中ニ納メ第一扉ヲ閉シ次テ第二扉ヲ密閉ス扉ニハ鍵ヲ設ケ依賴主ノ捺印シタル封印ヲナシ其合鍵ハ遺骨拾集ノ時マテ之ヲ保管スルコトノ定アリトス而シテ棺ノ爐中ニ安置セラル、ヤ扉ト反對ノ側ニ於テ設ケラレタル焚口ヨリ常ニ日沒時ヲ期シテ點火ス一度封セラレタル爐ハ猥リニ開扉スルコトヲ許サヽルヲ以テ焚口ノ上部ニ設ケラレタル覗口ヨリ常ニ之ヲ看守シ燒材ノ盡クル等ノ場合ニハ焚口ヨリ順次燒材ヲ押入シテ之ヲ燒及斯ノ如ク爲スコト約三四時ニシテ普通ノ死體ハ大概燃燒シ得ヘシ

燒燃サレタル死體ノ殘骨全部ハ骨受板ノ上ニ殘留ス而シテ我國ニ於テハ普通一般ノ風習トシテ翌早朝ニ骨上ケト稱シ其遺族ノ者拾骨スルヲ例トセリ即チ前日ニ保管シタル鍵ヲ取扱者ニ渡シ骨受臺ヲ引出シ之ヲヨリ別ニ備付アル金板製ノ殘骨蒐集器ニ骨、灰共ニ之ヲ集メ遺族ニ渡ス遺族者ハ箸ヲ以テ精細ニ之ヲ集メ尙細小ナル殘骨ハ篩ヲ以テ篩集メ可成精細ニ拾集スル者アリ又ハ頭骨、齒牙、頸推等主要ナル部分ノミヲ拾集スル者アリ

四、死體ハ三時間乃至四時間ニテ燒盡ス

五、死體ハ常ニ木棺ト共ニ燒燃セラル、モノトス

六、火葬ノ爲メニ特別ノ棺ナシ木棺ニシテ上流者ハ長方形ノ寢棺下流ニ在リテハ短圓筒形ノ坐棺ヲ用ユ

七、火葬爐ニ使用スル燃料ハ薪ノ外重ニ松材ナリ

八、煙又ハ有臭瓦斯ハ完全ナル火葬爐ニ於テハ再ヒ之ヲ燒煙スル裝置アルヲ以テ多ク發生スルコトナシ村落ノ最簡單ナル火葬場ニ在リテハ有臭煙ノ發散ヲ免レス

九、本邦ニハ殆ント各地到ル處ニ火葬場ノ設アルヲ以テ遠方ヨリ死體ヲ火葬場ニ運輸スルノ例ナキモ死體ヲ瀘車ニテ運輸スル條件並ニ其方法左ノ如シ

(一) 死體ヲ托送セントスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其出發時刻ヨリ少ナクトモ六時間前迄ニ中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少ナクトモ十二時間前迄ニ其申込ヲナスヘシ

(二) 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密閉スヘシ

(三) 死體ヲ托送セントスルモノハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

(四) 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

(五) 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但特約ニ因リ特別車ヲ用フル場合ハ此限リニ在ラス

(六) 死體ハ他ノ荷物ト離隔搭載スヘシ

飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ス

(七) 死體搭載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混同列車亦同シ)ニ聯結スヘシ

死體ハ可成到達停車場迄直通列車ヲ以テ運送スヘシ又已ヲ得サル場合ノ外運送中之ヲ轉載スルコトヲ



得ス

(八) 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道局ハ之ヲ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

(九) 死體ノ運賃ハ一哩ニ付金二十錢最低運賃四圓トス

但十二年未滿ノ小兒ノ死體ハ半額トス

(十) 死體到着後六時間以内ニ引取ラサルヨリ生スル費用ハ別ニ之ヲ請求スヘシ

(十一) 火葬骨(箱又ハ壺ノ類ニ納メタルモノ)ノ運賃ハ通常小荷物運賃ノ二倍トス

十、我軍隊ニ於テハ戰死者ノ死體ハ戰地ニ於テ火葬ニ付スルヲ例トスルモ戰地ノ狀況ニ依リ土葬ヲ行フコトアリ戰地ニ於ケル火葬ノ方法ハ左ノ如シ

火葬ノ場所ハ道路市街、村落及軍隊ノ駐在地ヨリ遠隔シ且水源、水流及飲用井泉ヨリ離隔セル所ヲ撰定ス

火葬ノ燃料ハ主トシテ高粱稈薪及石油トス

燃料下敷ノ上ニ死體ヲ置キ更ニ燃料ヲ以テ之ヲ被ヒ石油ヲ灌キ點火ス

獨逸國ノゴータニ於ケルジーメン氏式ノ火葬場ハ高熱ノ瓦斯ヲ以テ屍體ヲ燒燃スルモノニシテ二三時間ニテ充分ニ燒了スルヲ得ルト云フ輓近ニ於テ造ラレタルシユナイデル氏式ノ火葬場ハ高熱瓦斯(一千度)ヲ以テ燒ク者ニテ九十分時ニ燒キ盡スト云フ今其構造ノ大要ヲ述フルニ「コークス」ノ燃燒ニヨリテ瓦斯發生室ニ於テ高熱ノ瓦斯ヲ生シ火葬室ニ入リ死體ヲ燒キ細キ灰ハ「オトシ」ノ下ニ落チ又タ火葬室ノ下底ヨリ煙突

ニ導カレ又「コークス」燃燒ヲ助クルノ空氣ハ火葬裝置ノ壁間ニアル管ヲ通シ溫マリテ瓦斯發生室ニ入ルノ裝置ナリ

## 五　經濟ニ關スル事項

一、火葬場ノ建設費ハ其規模ノ大小ニ依リ大ニ差等アリ町屋火葬場ノ如キ九十七個ノ竈（最上等一個、上等八個、中等十七個、下等七十一個）ヲ有スルモノニ在リテ其ノ建設費（土地ノ代價ヲ除ク）ハ約一萬七千圓（現在ノ時價）ヲ要シ小規模ノモノ例之ハ一二個ノ竈ヲ有スルモノハ僅ニ二三百圓ヲ要スルニ過キス

二、「其支出ノ途如何」市町村立ハ當該市町村費ヨリ支出シ博善株式會社ノ如キハ株主ノ出金ヲ以テ支辨ス

三、一死體ノ火葬ニ要スル燃料ハ町屋火葬場ニ於テハ平均木材七十本乃至百本即チ三十五貫乃至四十貫（二百九十二所、乃至三百三十二所）ヲ要ス而シテ之カ實費ハ現時ノ市價ヲ以テスレハ約一圓七十錢乃至二圓ニ該ル町屋火葬場ノ如キ日々數十死體ヲ火葬スルモ各竈ヲ異ニシ通常日沒後一齊ニ點火シ翌朝迄放置冷却セシムルモノナレハ多クノ死體ヲ火葬スル場合ト雖モ費用ノ節約ヲ見ル能ハス

郡村ニ至リテハ燃料極メテ廉價ナレハ簡單ナル火葬爐ニ於テハ實費僅ニ二三十錢ニテ足ルモノアリ

四、火葬場ニ仕拂フ火葬料ハ東京博善株式會社所屬ノ各火葬場ノ定價表ハ左ノ如シ



### 火葬料定價表

日暮里火葬場內新設

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一金拾八圓 | 最上等大人 | | |
| 一金拾壹圓 | 同六歲未滿小兒 | | |
| 一金九圓 | 上等大人 | | |
| 一金六圓五拾錢 | 同六歲未滿小兒 | | |
| 一金五圓 | 中等大人 | | |
| 一金參圓五拾錢 | 同六歲未滿小兒 | | |
| 一金貳圓七拾五錢 | 並等大人 | | |
| 一金壹圓六拾錢 | 同六歲未滿小兒 | | |
| 一金壹圓 | 同死體分娩 | | |

一　寢棺ハ金壹圓參拾錢ヲ增シ六才未滿ノ小兒ハ其半額ヲ增ス

二　溺死○厚板○二重棺○改葬○以上ノ四點ハ金七拾五錢ヲ增シ但六才未滿ノ小兒ハ其半額ヲ增ス

三　寢棺ハ總テ中等以上トス

四　死體分娩ニシテ中等以上ノ火葬料ハ各小兒ノ火葬料ニ同シ

五　貧困者ハ並等火葬料ノ半額（大人金壹圓貳拾五錢、小兒金七拾五錢）

六　改葬ノ內古骨ニ歸シタル者ハ函方壹尺五寸迄ヲ一死體ノ火葬料トシ方貳尺迄ヲ二死體ノ火葬料トス

明治四十一年四月八日

東京博善株式會社

各火葬場

右ノ料金ニ由リ最近ノ收入並ニ支出決算額ヲ掲クレハ左ノ如シ

第參拾九回　自明治四十五年七月一日　至大正元年十一月三十日　決算書

収入

一金四萬四千八百七拾九圓〇貳錢

内譯

金參萬七千參百七拾六圓六拾錢　火葬料

金參千參百五拾六圓六拾壹錢　骨壺賣上代

金八百拾六圓貳拾錢　燒却料

金八圓八拾五錢　株券記名書換料

金千百八拾貳圓四拾錢　雜收入

金貳千百參拾八圓參拾六錢　預ヶ金利子

支出

一金貳萬參千參百八拾六圓參拾壹錢　收入總額

内譯

金九千參百拾七圓五拾九錢　支出總額

金八百圓　營業費

金千四百貳拾壹圓　重役報酬

金千七百五拾壹圓參錢　社員給料

金五千七百貳拾七圓八拾壹錢　火夫給料

金千貳拾五圓參拾六錢　諸税金

金參千參百七拾圓拾八錢　諸雜費

金百七拾參圓參拾四錢　修繕費

收支差引　借地料

金貳萬千四百九拾貳圓七拾壹錢　純益金

金參千壹圓九拾錢　前期繰越金

計金貳萬四千四百九拾四圓六拾壹錢

配當割合

金千貳百參拾圓　法定積立金

金貳千圓　別途積立金

金貳千百四拾九圓　役員賞與金

金壹萬千貳百五拾圓　株主配當金

但舊株壹株ニ付金貳圓五拾錢　新株壹株ニ付金六拾貳錢五厘

（年一割）

金五千六百貳拾五圓　特別株主配當金

但舊株壹株ニ付金壹圓貳拾五錢　新株壹株ニ付金參拾壹錢貳厘五毛

（年五歩）

金貳千貳百四拾圓六拾壹錢

財産目錄

一金拾萬八百四拾貳圓四拾錢　火葬場敷地　七千六百參拾坪
一金壹萬八千參百參拾貳圓五拾錢　同附屬地　五千八百七拾九坪
一金四萬九千六百六拾六圓四拾六錢　建物　千五百參拾坪四合四勺九才
一金貳千八百七拾壹圓　樹木石材
一金參萬參千七百七拾貳圓拾四錢　火葬竈　貳百拾參個
一金千七百參拾參圓　燒却竈　貳拾壹坪八合六勺六才
一金千貳百貳拾九圓　燒煙竈　七坪九合八勺
一金壹萬四千九百五拾七圓九拾貳錢　煙突　六基
一金千六百壹圓五拾八錢　什器
小計金貳拾貳萬五千圓
一金拾參萬五千圓　未拂込株金
一金千四百七拾七圓九拾六錢　未收入
一金六萬七千參百六拾圓　定期預金
一金貳萬千八百九拾五圓貳拾七錢　當座預金

後期ヘ繰越金



一金五拾壹圓參拾八錢

總計　金四拾五萬七百八拾四圓六拾壹錢

現在金

表照對

| 貸 | | | 借 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 摘要 | 金額 | | 摘要 | 金額 | |
| 未拂込株金 | 壹參五,〇〇〇 | 〇〇〇 | 株金 | 參六〇,〇〇〇 | 〇〇〇 |
| 地所建物什器 | 貳貳五,〇〇〇 | 〇〇〇 | 積立金 | 五七,九參〇 | 〇〇〇 |
| 未收入 | 壹,四七七 | 九六〇 | 別積立金 | 八,〇〇〇 | 〇〇〇 |
| 定期預ケ金 | 六七,參六〇 | 〇〇〇 | 保證金預リ | 參六〇 | 〇〇〇 |
| 當座預ケ金 | 貳壹,八九五 | 貳七〇 | 利益金 | 貳四,四九四 | 六壹〇 |
| 現在金 | 五壹 | 參八〇 | | | |
| 計 | 四五〇,七八四 | 六壹〇 | 計 | 四五〇,七八四 | 六壹〇 |

## 火葬人員表

| 等級 | 場所 | 町屋 | 日暮里 | 砂村 | 龜戸 | 落合 | 代々幡 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 最上等 | 大人 | | | | | | | |
| | 小兒 | | 一 | | | | | 一 |
| 上等 | 大人 | | 一二 | | | | | 一二 |
| | 小兒 | | | | | | | |
| 中等 | 大人 | 三 | 六九 | 二 | 一九 | 三二 | 一三 | 一三六 |
| | 小兒 | 一 | 三 | | | 二 | | 八 |
| 並等 | 大人 | 二四三 | 四七六 | 一八九 | 二四〇 | 七五 | 一、二二五 | |
| | 小兒 | 五八 | 八八 | 四 | 三九 | 五一 | 二六三 | |
| | 死胎分娩 | 一、八三四 | 二、一二二 | 一、〇三三 | 八三八 | 九〇四 | 二七九 | 七、〇一〇 |
| | 小兒 | 八六四 | 一、一四八 | 六五二 | 四九二 | 三八二 | 八七 | 三、六二五 |
| | 大人 | 二四二 | 二二六 | 一九六 | 九二 | 九六 | 二一 | 八七三 |
| 公費 | 大人 | 二六一 | | 六九 | | 四三 | 二 | 三七五 |
| | 小兒 | 四八 | | 二五 | | 二六 | 七 | 一〇六 |
| 貧困者 | 大人 | 一三〇 | 六〇 | 三一 | 一二 | 一九 | 五 | 二五七 |
| | 小兒 | 三六 | 二一 | 三一 | 一六 | 九 | 一 | 一一四 |



次ニ全國各地方ノ料金ハ第四表ノ如シ

## 第四表

| 道廳及府縣 | 火葬料 上等 | 火葬料 中等 | 火葬料 下等 | 火葬料 平均 |
|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 五円〇〇〇 | 一円五〇〇 | 七五〇円 | 二円四一六 |
| 東京 | 九〇〇〇 | 五〇〇〇 | 二七五〇 | 五五八三 |
| 京都 | 三〇〇〇 | 一五〇〇 | 五〇〇 | 一六六六 |
| 大坂 | 三〇〇〇 | 一〇〇〇 | 三〇〇 | 一四三三 |
| 神奈川 | 五〇〇〇 | 二〇〇〇 | 六〇〇 | 二五三三 |
| 兵庫 | 三五〇〇 | 一五〇〇 | 三五〇 | 一七八三 |
| 長崎 | 六〇〇〇 | 二〇〇〇 | 六五〇 | 二八八三 |
| 新潟 | 五〇〇〇 | 三〇〇〇 | 九五〇 | 二九八三 |
| 埼玉 | 一〇〇〇〇 | 三〇〇〇 | 二〇〇〇 | 五〇〇〇 |

| | 死胎分娩 | 大人 | 小兒 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 改葬古骨 | 七 | 六二 | 二二 | 三、七八九 |
| 合計 | 六 | 四、二五四 | 二、〇五二 | 一、七〇二 |
| | 八 | 一 | 一 | 一、八〇六 |
| | 二 | 二 | 二 | 五一六 |
| | 三 | 二六 | 八八 | 四、一一九 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 群馬 | 二・三〇〇 | 一・八〇〇 | 二五〇 | 一・四五〇 |
| 千葉 | 二・五〇〇 | 一・三〇〇 | 六〇〇 | 一・四六六 |
| 茨城 | 五・〇〇〇 | 三・〇〇〇 | 二・〇〇〇 | 三・三三三 |
| 栃木 | 五・〇〇〇 | 三・五〇〇 | 二・五〇〇 | 三・六六六 |
| 奈良 | 三・五〇〇 | 二・〇〇〇 | 二〇〇 | 一・九〇〇 |
| 三重 | 三・〇〇〇 | 二・〇〇〇 | 六〇〇 | 一・八一六 |
| 愛知 | 五・〇〇〇 | 二・〇〇〇 | 二〇〇 | 二・四〇〇 |
| 静岡 | 三・〇〇〇 | 一・七〇〇 | 七五〇 | 一・八六六 |
| 山梨 | 五・〇〇〇 | 三・〇〇〇 | 二・五〇〇 | 三・五〇〇 |
| 滋賀 | 二・五〇〇 | 一・〇〇〇 | 三五〇 | 一・二八三 |
| 岐阜 | 四・〇〇〇 | 一・五〇〇 | 三〇〇 | 一・九三三 |
| 長野 | 八・〇〇〇 | 三・〇〇〇 | 四〇〇 | 三・八〇〇 |
| 宮城 | 二・五〇〇 | — | 一・五〇〇 | 二・〇〇〇 |
| 福島 | — | — | — | — |
| 岩手 | 六・〇〇〇 | 四・〇〇〇 | 二・〇〇〇 | 四・〇〇〇 |
| 青森 | 五・〇〇〇 | 三・〇〇〇 | 一・五〇〇 | 三・一六六 |



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山形 | 四・五〇〇 | 二・〇〇〇 | 二〇〇 | 二・二三三 |
| 秋田 | 三・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 三〇〇 | 一・四三三 |
| 福井 | 一・五〇〇 | 七〇〇 | 一〇〇 | 七六六 |
| 石川 | 一・五〇〇 | 七五〇 | 三〇〇 | 八五〇 |
| 富山 | 三・〇〇〇 | 一・五〇〇 | 二〇〇 | 一・五六六 |
| 鳥取 | 二・一〇〇 | 五〇〇 | 三〇〇 | 九六六 |
| 島根 | 一・五〇〇 | 一・〇〇〇 | 五〇〇 | 一・〇〇〇 |
| 岡山 | 八・〇〇〇 | 二・〇〇〇 | 三〇〇 | 三・四三三 |
| 広島 | 四・五〇〇 | 二・〇〇〇 | 二五〇 | 二・二五〇 |
| 山口 | 一三・〇〇〇 | 三・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 五・六六〇 |
| 和歌山 | 六・五〇〇 | 三・五〇〇 | 四〇〇 | 三・四六六 |
| 徳島 | 一・二〇〇 | 一・〇〇〇 | 七〇〇 | 九六六 |
| 香川 | 四・〇〇〇 | 一・〇〇〇 | 一〇〇 | 一・七〇〇 |
| 愛媛 | 一〇・〇〇〇 | 五・〇〇〇 | 五〇〇 | 五・一六六 |
| 高知 | 二・二〇〇 | — | 一・八〇〇 | 二・〇〇〇 |
| 福岡 | 八・〇〇〇 | 二・〇〇〇 | 八〇〇 | 三・六〇〇 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大分 | 三●〇〇〇 | 二●〇〇〇 | 一●〇〇〇 | 二●〇〇〇 |
| 佐賀 | 五●〇〇〇 | 三●五〇〇 | 二●〇〇〇 | 三●五〇〇 |
| 熊本 | 一〇●〇〇〇 | 四●〇〇〇 | 二●〇〇〇 | 五●三三三 |
| 宮崎 | 七●〇〇〇 | 四●五〇〇 | 二●〇〇〇 | 四●五〇〇 |
| 鹿兒島 | 一二●〇〇〇 | 八●五〇〇 | 七●五〇〇 | 九●三三三 |
| 沖繩 | — | — | — | — |
| 合計 | — | — | — | — |

即チ本邦ノ火葬料ハ最高十八圓ニシテ最低十錢ナリ但多數ノ地方ニ於テハ普通上等四五圓、中等二三圓、下等三四十錢ナリ

五、葬祭ニ要スル費用ハ執行者ノ地位身分ノ高下ニ依リ千差萬別ナルモ通常上等ニ於テ五百圓以上、中等ニ於テ二百圓以上、下等ニ於テ百圓内外ヲ要スヘク、最下等ノ細民間ニ於テハ十圓以下ニテモ之ヲ行フヲ得ヘシ

火葬ト土葬トノ比較ヲ見ルハ頗ル困難ナルモ大體ニ於テ火葬ノ方廉ナリ

六、土葬火葬兩ラ齊場又ハ寺院ニ於テ葬儀ヲ行フ迄ノ準備之ニ要スル費用ニ關シテハ大差ナキモ火葬ニ附スルト之ヲ直ニ墓地ニ土葬スルトノ間ニ於テハ多少ノ差異アリ即チ火葬ニ在リテハ火葬料ヲ要スルモ墓地使用料ノ多額ヲ要セス若シ遺骨ヲ既設墓標下ニ合葬シ又ハ納骨堂ニ藏スル場合ハ全然之ヲ要セサルノミナラス墓標ヲモ省略シ得ヘシ之ニ反シテ土葬ニ在リテハ墓地使用料ノ支出、墓標ノ建設ヲ要スルノ外棺材稍高價ナルヲ免レス之レ土葬用棺ハ一般ニ分厚ノ材料ヲ用ユル例ナルニ因ル

左ニ東京市青山、谷中共葬墓地使用ニ關スル規定ヲ掲ク

共葬墓地使用規則 明治三十二年十月二十八日 市告示第七十八號

第一條　墓地ノ使用ハ戸主ヨリ出願スヘシ但戸主死亡シタル場合ニ於テハ其遺族若ハ緣故アル戸主ヨリ出願スルコトヲ得

第二條　戸主ニ非サル寄留人若ハ止宿人死亡シタルトキハ緣故アル戸主ヨリ出願スヘシ

第三條　墓地使用料ハ左ノ等級坪數ニ應シ各墓地限リ使用許可ノ際一時ニ之ヲ徵收スヘシ

使用料

墓地使用料

| 使用坪數 | 一等地 | 二等地 | 三等地 | 四等地 |
|---|---|---|---|---|
| 一坪以下一坪ニ付 | 六圓 | 三圓 | 一圓五十錢 | 六十錢 |
| 二坪以下一坪ニ付 | 九圓 | 五圓 | 二圓五十錢 | |
| 三坪以下一坪ニ付 | 十二圓 | 七圓 | 三圓五十錢 | |
| 四坪以下一坪ニ付 | 十五圓 | 九圓 | 四圓五十錢 | |
| 五坪以下一坪ニ付 | 十八圓 | 十一圓 | | |

六坪以下一坪ニ付　二十三圓
七坪以下一坪ニ付　二十六圓
八坪以下一坪ニ付　二十九圓
九坪以下一坪ニ付　三十二圓
十坪以下一坪ニ付　三十五圓
十一坪以下一坪ニ付　三十九圓
十二坪以下一坪ニ付　四十二圓
十三坪以下一坪ニ付　四十五圓
十四坪以下一坪ニ付　四十八圓
十五坪以下一坪ニ付　五十一圓
十六坪以下一坪ニ付　五十四圓

右ノ外一坪ヲ增ス毎ニ一等地ハ金三圓二等地ハ二圓三等地ハ金一圓ヲ遞加ス　明治三十三年四月一日市告示第二十九號ヲ以テ本項追加

第四條　增坪使用ヲ請求スルモノアルトキハ前後ノ坪數ヲ通算シ第三條ノ率ヲ乘シ既納金額ヲ控除シタルモノヲ以テ增坪ノ使用料ヲ徵收ス但前後ノ等級同シカラサルモノハ其上級ノ乘率ニ依ル

第五條　墓地使用坪數ハ左ノ制限內ニ於テ一區畫ヲ限リ許可スルモノトス

一等地　二坪以上十六坪
二等地　一坪以上八坪
三等地　半坪以上四坪
四等地　四半坪以上一坪

但シ制限外增坪ノ必要ヲ生シ事實不得止ト認ムルモノハ他ノ區城ニ於テ更ニ本條ノ坪數ヲ限リ許可スルコトアルヘシ其使用料ハ第四條ニ依ル

以上東京市ニ於ケル墓地使用ノ規定ナリ他ノ小市又殊ニ郡部ニ至リテハ墓地ノ使用料低廉ニシテ寺院所屬ノ墓地ニ於テハ多クハ施主ノ任意寄附ニ依ルヲ例トスルカ如シ故ニ身分ニ應シ一坪ニ付十圓ヲ寄附スル者アリ或ハ三圓ヲ寄附スル者アリ細民ニ至リテハ僅ニ數十錢ヲ拂ヒ若クハ全然無料ニテ使用スル者アリ

墓地使用面積ノ大小モ亦其ノ身分ニ依リテ差アリ上流ニ在リテハ一ノ墓ニ付普通四五坪ヲ使用シ中流者ニ在リテモ一家ノ墳墓地トシテ豫メ二三坪ヲ區畫シ置キ其區畫內ニ漸次一家數個ノ墓標ヲ設クル企ヲ爲ス者アリ下流ニ在リテハ多クハ別段區畫ヲ設ケス僅ニ埋葬スルニ足ルタケノ面積約一平方「メーテル」ニテ甘ンスルヲ常トス

參照

近年本邦ニテハ每議會ニ土葬廢止ノ請願出ツ之レ土葬ノ爲メ土地ヲ不經濟ニ使用スルコト多ク各地方ニ於テ漸次墓地ノ擴張又ハ新設アルニ起因スルモノニシテ試ニ全國ノ墳墓地ヲ調査スルニ左ノ如ク十年間ニ於テ官有地ハ五十町歩ヲ增シ民有地ハ千二百町歩ヲ增加セリ

官有地中墳墓地

| | | |
|---|---|---|
| 明治三十年 | (三月三十一日現在) | 一四八・〇二町 |
| 同 三十五年 | (同 ) | 一九四・二一 |
| 同 四十年 | (同 ) | 一九八・〇〇 |
| 民有地免租地中墳墓地 | | |
| 明治三十年 | | 二二・五六三・七町 |
| 同 三十五年 | | 二二・八五七・一 |
| 同 四十年 | | 二三・七七〇・〇 |

東京市内ノ共葬墓地ハ左記ノ如ク却テ減少ヲ示セルモ之レ墓地ノ整理的調査ノ結果ニ外ナラス將來ニ於テハ漸次増加ヲ示スニ至ルヲ免レサルヘシ

東京市内ニ於ケル共葬墓地面積調

| 共葬墓地名 | 面積 二十四年末 | 面積 三十年末 | 面積 四十年末 | 差 増 | 差 減 | 同上差引 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 青山 | 八四、〇五一坪 | 八四、〇五一 | 八三、六四〇 | — | 四一一 | — |
| 立山 | 五、二三三 | 五、二三三 | 五、二二一 | — | 一二 | — |
| 深川 | 三、四一六 | 三、四一九 | 三、四一七 | 一 | — | — |
| 谷中 | 三二、六三五 | 三二、六三五 | 三二、五一二 | — | 一二三 | — |
| 橋場 | 八八五 | 八八五 | 八八六 | 一 | — | — |
| 計 | 一二六、二二〇 | 一二六、二二三 | 一二五、六七六 | 二 | 五四六 | 五四四減 |

備考 右表ニ示ス所ノ差引増減坪數ハ明治貳拾四年末ニ於ケル坪數ト同三十年末ニ於ケル坪數トハ殆ト大差ナク總坪數ニ於テ僅カ三坪ノ増加アルノミナルヲ以テ明治二十四年末ニ於ケル坪數ト同四十年末ニ於ケル坪數トヲ比較シ計算セリ

墓地ノ地目變更ニ關シテハ別段法令ノ規定ナキモ地方廳ノ照會ニ對シ内務省ハ中央衞生會ノ議ニ附シ傳染病死體ノ墓地ハ十年ヲ經サレハ改葬スヘカラス改葬後三年ヲ經過セハ宅地、耕地トナスヲ妨ケス又通常死體ノ墓地ハ改葬後直ニ耕地トナスヲ得ルモ宅地トナスニハ三年ヲ要スヘシト内規ヲ定メ嘗テ各府縣ニ通知セリ

六 殘灰ノ埋葬

一、大體前章ロ)ニ於テ説明セシカ如クナルモ死體ノ燒度ニ付テハ各其死體ノ大小又ハ狀況ニ依リ異ナル處ナルモ要スルニ内臟ノ燒盡セルヲ期スルコト最モ肝要ナリトス多年ノ經驗ニ依リ一定度ノ燒盡ヲ期スルニ三時間乃至四時間ヲ要スルモ常ニ窺口ヨリ竈内ヲ檢査セシメ内臟ノ燒盡サレタルヲ確認シタル後各竈ノ消火辨ヲ閉鎖スルコト、ナセリ

二、殘灰ハ火葬依頼者ニ交付ス

三、拾集シタル殘灰ハ骨灰容器ニ收メ之ヲ木箱ニ容レ之ヲ藏スル塲所ハ遺族ノ任意ナルモ通常有名ナル寺院ノ納骨堂ニ藏シ又ハ各自ノ菩提寺ノ墓地ニ埋葬ス近時石碑ノ下部ニ一小納骨室ヲ設ケ同一墓標（例之ハ野田家代々ノ墓）ノ下ニ數人ノ骨ヲ藏置スル例多ク行ハルヽカ如シ各自ノ自宅ニ永久保存スルカ如キハ極メテ稀ナリ

四、火葬塲ニテハ前ニ述ヘタル如ク鐵製平盤上ニ殘レル骨灰ハ篩ヲ以テ撰別シ遺族ノ望ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ引渡スヲ例トス特別ナル殘灰蒐集器ナルモノヲ要セス唯撰別ノ際使用スル篩ハ一平方吋約百個ノ孔ヲ有スルモノヲ用ユ此ノ際篩ヒ通サレタル木灰其ノ他ノ殘灰ハ火葬塲内ノ一隅ニ予定サレタル空地ノ埋立等ニ使用スルモアリ

五、殘灰ヲ拾集スル容器ハ普通陶器製ニシテ多ク用キラルヽハ白色、灰色、又ハ暗褐色ナリ曲物製ノ小器ハ齒牙頸椎骨等要部ヲ容ルヽニ用ユ美術的裝飾セル容器ハ特別ノ注文ニ依ル塲合ニ限リ通常無裝飾ノ質素ナルモノ用ヰラル容器ノ大サハ大人用ハ上口内徑約八吋高約一呎底部五吋位小兒用ハ上口五吋底部四吋高七吋内外ノモノトス外包ノ木箱ハ内容陶器ノ大サニ應シ調製ス

六、灰容器ノ藏置ハ第三項ニ述ヘタルカ如ク寺院ノ納骨堂又ハ大佛像ノ體内等地上ノ營造物内ニ藏シ又ハ地下ニ埋葬シ若ハ墓碑下部ノ納骨室（殆ント地下）ニ藏ス

七、墓地ニ於テハ土葬ト同樣ノ方法ニ依リ地下ニ埋葬セラル又ハ前述セル如ク既設墓碑下ノ小地下室ニ埋藏ス此ノ方法ハ手數費用ヲ省キ最モ簡便ナリ

八、火葬者ニ於テモ遺骨ヲ墓地ニ埋葬シタル塲合ハ土葬者ト等シク墓標ヲ建ツルモノトス

九、我國ニ於ケル葬儀ニハ神葬及佛葬ノ二法アリ（此外歐州ノ例ニ倣ヒ基督教ノ葬式アリ）而シテ土葬又ハ火葬ヲ行フ迄ノ葬儀ノ順序方式ハ神佛兩式ニ依リ稍趣ヲ異ニス儒教者及貴族中ニハ神葬式ニ依ルモノ多シ

（イ）神葬ハ大體ニ於テ自葬ヲ以テ本體トスルカ故ニ其法ハ大概喪主以下ノ人々一定ノ列ニ依リ柩ヲ奉シテ齋塲ニ至リ（現時柩ヲ奉スルハ喪主以下ニ代フルニ代人ヲ雇ヒ仕丁服ヲ服セシム）齋主タル神官其墓地ノ神ヲ祭リ次ニ棺前ニ諸種ノ供物ヲ供ヘ祭詞ヲ讀ミ次テ喪主以下會葬者香ヲ燒キ或ハ玉串ヲ獻シテ拜禮ヲ行フ通常數名ノ神官式務ニ參與スルヲ例トス而シテ其ノ齋塲ニ至ル間ノ葬儀ノ行列ハ先ツ提燈、次ニ旛、次ニ散米次ニ榊次ニ太麻岐（スサクナド）神次ニ幣（ミテグラ）次ニ宣命次ニ導師（即チ齋主）次ニ喪主タル者導師ノ後ニ烏帽子白衣又ハ肩衣袴ヲ着シ徐ニ徒歩ス次ニ靈柩ヲ進ム柩ノ上ニ氣奴加佐（キヌカサ）ヲ蓋ヒ四方ニ　各々一竿ヲ排列ス次ニ親戚近キヲ先トシ疎キヲ後ニスルヲ例トセリ我國ニ於ケル國葬ハ必ス神葬ニシテ故右大臣正一位岩倉具視ノ國葬以後有栖川宮親王、三條公爵、伊藤公爵ハ此ノ神葬式ニ依レリ

（ロ）佛葬ハ其宗派又ハ地方的風習ニ依リ多少ノ相違アリト雖トモ殆ト大同小異ナリ即チ先ツ死體ヲ莞筵ノ上ニ遷シ倒ニ屏風ヲ立テ廻シ枕頭ニ卓ヲ置キ樒ヲ押シ燈ヲ挑ケ香ヲ焚キ茶湯花菓ヲ供ヘ訃ヲ諸方ニ報ス寺ヨリ僧侶來リテ終夜誦經ス親族知已來リ吊フ次テ入棺前近親ノ者死體ヲ清拭ス俗ニ「ユカン」ト稱ス後日ヲ期シテ行列ヲ整ヘ寺ニ入ル寺ニ入レハ先ツ棺ヲ所定ノ位置ニ据ヘ次ニ遺族親戚會葬者等ノ着席スルヤ打鐘數點ニシテ大衆（僧侶）道塲ニ入リ佛前ノ左右ニ起立整列シ梵語ノ讃ヲ發聲ス大衆之ニ

和ス終テ導師登壇ス次ニ着座シテ漢語ノ讃ヲ唱フ畢リテ導師ハ着座後直ニ光明供ノ修法ニ入リ此早鈸ノ終ルトキニ法則ヲ讀ム法則ノ終ルトキ錫杖師ハ九條錫杖ヲ發聲ス衆之ニ和ス導師ハ續テ光明供ヲ修シ修法終ルトキ錫杖モ終ル如クス次ニ導師壇ヲ下リテ假座ニ着ク此時二名ノ僧起チテ棺前ニ進ミ奠湯奠茶ノ式ヲ行フテ座ニ復ス次ニ二名ノ僧起チテ棺前ニ進ミ起龕鎖龕ノ式ヲ行フテ座ニ復ス導師假座ヨリ起チテ棺前ニ進ミ引導即信ヲ授ク次ニ葬場ニ赴ク此時燒香師ハ棺前ニ進ミテ奠香シ終テ座ニ復ス次ニ歎德師棺前ニ進ミテ歎德文ヲ朗讀ス次ニ導師棺前ニ下炬ノ文ヲ唱フ次ニ遺族親戚會葬者等順序ニ燒香ノ禮ヲ終リ式ヲ終ル

出葬ノ行列ハ地方又ハ家例ニ依リテ小差アレトモ普通ハ先ツ啓行次ニ淨華次ニ彩旛次ニ提燈次ニ白旛次ニ維那次ニ小磬次ニ樂鼓次ニ鐃鈸次ニ衆僧次ニ導師次ニ衣服次ニ供膳次ニ香亭次ニ靈牌次ニ靈龕次ニ天蓋次ニ炬鑊次ニ遺族（喪服ヲ用ユ殊ニ婦人ハ髮飾ヲ除キ純白色ノ衣帶ヲ服スルヲ例トス）親族次ニ會葬者次ニ押護等トス而シテ火葬ニスル場合ニ於テハ一旦右ノ方法ニ依リテ式ヲ了シ後更ラニ火葬場ニ赴クモノトス此ノ場合ニ於テハ殆ト近親者ノミ赴クヲ例トセリ

因ニ記ス高貴ノ葬儀ニハ宮內省ヨリ儀杖兵ヲ派セラル勳三等以上ノ者死亡ノ場合亦願ニ依リ其ノ勳位ニ應シ一定數ノ儀杖兵ノ派遣ヲ許可セラル又神葬佛葬ニ拘ハラス親族知人等ハ或ハ香奠ト稱シテ金品ヲ贈リ又ハ造花、生花、放鳥ノ類ヲ寄贈ス造花、生花、放鳥ノ類ハ葬式行列中ニ加ヘ其ノ行ヲ盛ニス

一、町屋火葬場ニ設ケアル竈數ハ總計九十七個ニシテ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

| | |
|---|---|
| 最上等 | 一個 |
| 上等 | 八個 |
| 中等 | 七個 |
| 並等 | 拾壹個 |
| | 七拾壹個 |

備考　前記ノ如ク竈ニ等級アリト雖トモ一般構造ニ於テ差別ナク單ニ外部ノ體裁等ニ多少ノ差異アルノミナリ。

一、町屋火葬場ノ圖面ハ別紙ノ通リトス（圖面畧ス）

一、町屋火葬場ノ建築費壹萬四千八百八拾圓ニシテ之ヲ時下相場ニ換算スレハ壹萬七千圓內外トス。

一、町屋火葬場ニ於テ一死體ヲ火葬スルニ要スル燃料ハ平均前ニ記述セル木材約七十本乃至百本ヲ要ス即チ三十五貫目乃至四十貫目（二百九十二听乃至三百三十三听）ヲ要ス而シテ之レカ代價ハ其時下ノ相場ニ由ルコト勿論ナルモ平均壹圓七八拾錢乃至貳圓ナリトス。

一、靑山墓地、谷中墓地ノ土葬料ノ概算大體東京市ノ共葬墓地ハ總テ其使用ヲ許可スルコトニ規定サレタリ即チ明治三十二年十月二十八日市告示第七十八號ヲ以テ其手續並ニ使用料ヲ定メタリ即チ已ニ述ヘタル如シ而シテ今土葬ニ關スル費用ヲ計算センニ勿論其葬祭ノ如何ニ由リ千差萬別ナレトモ今假リニ正式ノ葬禮ヲ採リ其葬祭ヲ擧行スルモノトシテ概算スルトキハ上ニ於テ五百圓、中ニ於テ二百圓、下ニ於テ百圓ヲ要ス而シテ其他墓地ノ使用料、埋葬スル壙穴ノ堀鑿費用等ヲ要スルノ計算ナリトス、今參考トシテ火葬ノ

塲合ニ於ケル費用ヲ見ルニ上ニ於テ三百圓、中ニ於テ百五十圓下ニ於テ五十圓内外ナリトス土葬及火葬ニ於テ其費用ノ重ナル相違ハ棺、及墓標等ニシテ例令ハ火葬ノ塲合ニ於ケル棺ハ大凡十六圓内外ニテ調製シ得ルモ土葬ノ塲合ニ於テハ五十圓位ヲ要ス何トナレハ土葬ニ於ケル棺材ハ一般ニ分厚ノ材料ヲ使用スルノ例ナリトス特ニ墓標ニ在リテハ火葬式ノ塲合ニ於テハ普通之ヲ用ヰサルモ土葬式ニ在リテハ必ス之ヲ同時ニ埋葬所ニ建ツルヲ普通ノ禮式トナス而シテ其墓標ニモ種々アリト雖トモ上五十圓中三十圓下十圓内外ニシテ土葬及火葬ノ祭費大約右ノ如シ以上述ヘタル費用ハ東京市ニ於ケルモノヲ掲ケタルモノニシテ各地方ニ於テハ多少差異アルコト勿論ナリトス。

第四表ニ依レハ本邦ノ火葬ハ最高價十三圓ニシテ最低價拾錢ナリトス而シテ低價ノ普通ナルモノハ三十錢内外ナリトス而シテ器械的裝置ヲ有スル火葬塲ニアリテモ中等ノ火葬料普通二圓五十錢ナリトス是ノ如キ廉價ハ火葬ノ開發ニ關シテ有力ナル利便ヲ供スルモノナリ然レトモ一般ノ火葬竈ヲ改良スルトキハ更ニ低廉ナル火葬料ヲ以テ完全ニ火葬スルコトヲ得ヘシ。

（附）

叙上ノ記錄ニ依ルモ火葬ノ土葬ニ優ル點多シト雖已ニ述ヘタル如ク宗教上ノ關係並ニ地方的慣習ノ存スルアリテ火葬ノ施行ヲシテ急進セシムルコト頗ル困難ナルモノアルヲ以テ今茲ニ墓地其他ニ關スル衛生上ニ攻究スヘキ要項ヲ掲ク。

其一、住居トノ距離及墓地ノ位置　其距離ノ最小限ヲ規定スル事甚タ難シ之ニ關スル諸國ノ規定ハ經驗ニ基ケル者アルヘシト雖トモ隨意ニ數字ヲ以テ之ヲ掲ケタルモノ亦之アラン即チ日本ハ六十間（一〇九米突一）以上獨逸ハ二百尺佛蘭西ハ四十米突倫敦府ハ百八十米突墺地利ハ十二 Krafter（一K.ハ凡テ一●九突）ト記セリ蓋シ此距離ハ土地ノ狀況ニ應シテ各地各別ニ定ムヘキ者ニシテ通則ヲ與フヘキ米ニアラス墓地ハ宜シク高クシテ善ク風ヲ通スル處ニ之ヲ擇フヘシ即チ高原最モ之ニ適セリ墓臭速カニ離散スレハナリ斜面ハ不可ナリ是其地早ク涸燥シテ屍體腐敗ノ期ヲ緩フスル爲メノミナラス土崩ノ恐アレハナリ。」

其二、地水及土質ノ關係　屍體ハ鬆疎ニシテ空氣富有ノ土地ニ於テ最モ速ニ朽敗シ終ルト地水上登スルトキハ土中ノ空氣ヲ驅逐スルノミナラス產成物分解ヲ收容シ去ルトヲ以テ能ク此ノ二點ニ注意シテ墓地ヲ選定スヘシ殊ニ意ヲ地水ニ用ヒ其深クシテ昇降ノ度甚シカラサルモノヲ取ルヘシ而シテ地水ト棺底トノ距離ハ平均半米突ヲ以テ最小限トス即チ地水昇リテ最高點ニ達シタルトキト雖トモ死體ハ其毛管水層中ニ沒サルヲ以テ度トナス。

地水ノ高底及昇降ヲ精測シ之ヲ墓穴ノ深サニ照シテ上文ノ則ニ達フトキハ固ヨリ不定當ノ地ナリト雖トモ若シ他ニ之ヲ擇フヘキモノナキトキハ已ムコトヲ得ス之ヲ應用スル手段ヲ取ラサル可ラス即チ深ク土管ヲ埋メテ疎水ヲ營ムカ又ハ礫土ヲ以テ高ク土盛ヲナシ地水ニ遠サカルコトヲ務ムヘキナリ。

屍體水ヲ以テ漚サル、カ又ハ常ニ濕土中ニ在ルトキハ多クハ忽チ鹼樣變質ニ陷リ分解ヲ完フスル期ナシ聊モ此變質タル衞生上ノ一ノ害ヲ見スト雖唯々爲ニ墓地ノ膨脹ヲ要スルヲ以テ憂トナスノミ。

土地ノ化學的成分ハ屍體ノ分解上甚麽ノ關係ヲ有スルカハ未タ詳カナラスト雖其理學的性情ハ以テ其埋

葬ニ適スルカ否ヤヲ判スル、ニ足ル其中殊ニ有力ナルハ土地ノ氣孔性トス是能ク屍體分解ノ爲メニ空氣ト水トヲ供給スルカ故ナリ Reinhardt ニ從フニ礫土及砂土中ニハ分解最速カニシテ細砂及粘土中ニハ晩シ砂礫土中ニ小兒屍ノ分解ヲ終ルマテニハ四ケ年ヲ超ユルコトナク成人體ハ七年以内トス即チ此時ニハ白骨ト天空形ナル豊摩質ヲ遺スノミ腐臭ハ三ケ月ノ後已ニ消失スルヲ常トシ遲クモ一ケ年ノ後ニハ之ヲ聞クコトナシ少許ノ粘土ヲ混シタル石灰粗土ハ一層其ノ期ヲ早ムルニ似タリ維也納府ノ中央墓地ハ實ニ此土質ヨリ成ル而シテ同府區醫ノ報告ニ依ルニ小兒屍ノ朽敗ヲ終フルニハ一年乃至二年以内成人屍ハ三年乃至四年以内ナリト云フ又 Fleck ノ實地試驗ニ徴スルニ朽敗ノ期ハ氣孔ノ期ト殆ト正比例ヲ取リ最モ速カナルハ礫次ハ砂最モ遲キハ肥沃ナル粘土トス故ニ墓地ヲ選定センニハ鬆疎ニシテ空氣ヲ富有スル土質ニ限ルヘシ此土質ニ少量ノ粘土ヲ混スルハ妨ナシ或ハ却テ之ヲ望ム如何ニト云フニ粘土ハ墓水中ノ腐敗產成物ヲ攝收スル性ヲ有スレハナリ而シテ墓地ヲ卑濕ノ地ニ擇フヘカラサルコトハ言ヲ俟タスシテ明カナリ。

其三、塋穴ノ深淺及大小ト塋穴ノ深サハ屍體ノ分解上(地温ノ關係)及屍臭ノ漏逸上ヨリ之ヲ定ムル必要アリ經驗ニ徴スルニ其深サヲ一、八八米突ノ深サニ爲ストキハ漏臭ノ憂ナキカ如シ Pettenkofel 及 Schuster ハ棺上ノ土層ヲ〇、六米突トシ之ニ高サ〇、四米突ノ一ヲ築クトキハ塋穴ノ深サハ一、二米突ニテ已ニ十分ニ其目的ヲ達スト云ヘリ而シテ Riecke ノ案ハ左ノ如シ。

| | |
|---|---|
| 小兒七才マテ | 一、一五米突 |
| 七才以上十四才マテ | 一、四三米突 |
| 成人 | 一、七二米突 |

諸國現行ノ深サヲ調査スルコト左ノ如シ。

| 地名 | 平積 | 幅 | 深 |
|---|---|---|---|
| 日本 | — | — | 六尺(二、二八)以上 |
| ライン洲 Rheinprovinz | — | — | 〇、八 |
| バーデンク Baden | — | — | 一、五乃至二、〇米 |
| ウユルテンベルヒ Württemberg | — | — | 一、九 |
| ヘツセンダルムスタツト Hessen-Darmstadt | — | — | 一、七一 |
| ザクセンク Sachsen | — | — | 二、〇一 |
| バイエルンク Bayern | 三、一七平方米 | — | 一、七一 |
| プロイセン Preussen | 二、七八 | — | — |
| ミユーヘン München | 三、〇三九 | — | 一、七五 |

塋穴ノ廣サハ長サ二米突幅一米突ナルヲ善シトス塋穴間ニハ四方尚大約〇、六米突ノ空地ヲ存スヘシ(Schuster)故ニ各墓ノ廣サ 2.6×1.6=4.16 即チ四、二平方米突ヲ要ス此地積ニハ十才未滿ノ小兒二名ヲ葬ルモノトシテ算ス Riecke ハ各墓ノ地積ヲ左ノ如ク算定セリ。

| | |
|---|---|
| 成人 | 三、七七平方米突 |
| 七才以下 | 一、八四 |
| 七才ヨリ十四才マテ | 一、八三 |

數屍ノ合葬ハ衞生上禁スヘキモノトス其他汚物ヲ以テ飽滿シ遂ニ浸淫沈下シテ地水ヲ溷セハナリ已ムコトヲ得スシテ之ヲ實行シタルトキニハ Nageei ニ從ヒ屍體ノ諸腔ニ食鹽ヲ撒布シ其腐敗ヲ防キ朽敗ヲ促スヘシ。

其四、還葬期及墓地ノ廣袤、還葬期トハ既存ノ窆壇ヲ一ノ無緣塚ト爲シテ屍體ヲ再ヒ此處ニ葬ル期限ヲ云フナリ其短長ハ要求ニ隨ヒ甚タ異ナリ若シ骨ノ朽了ルヲ以テ期トセンカ數百年ヲ經ルモ尙之ニ達セサルコトアラン故ニ其軟部ノ壞了ヲ以テ還葬ノ期ト定メサルヘカラス而シテ其壞了モ亦土質ニ從ヒテ遲速アリ礫砂土ニハ早ク粘土ニハ遲シ今其晩キモノト雖トモ八年乃至十年ノ後ニハ朽了スルヲ常トスルカ故ニ若シ一國又ハ一郡ニ通シテ其期ヲ律セント欲セハ十年乃至十二年トセハ必ス悔ナカラン然レトモ是其宜シキヲ得タルモノニ非ス寧ロ各所ノ墓地ニ就キ其情況ニ應シテ其期ヲ定ムルヲ可トス索遜國區醫ノ檢索ニ依ルニ礫土中ニハ七年粘土中ニハ九年ヲ以テ足ルト云フ諸國現行ノ還葬期ハ左ノ如シ（我陸軍ニ於テハ十年）

| | |
|---|---|
| Frankreich | 五年 |
| München | 六年 |
| Mailand | 九年 |
| Stattgart | 十年 |
| Hanburg | 十五年 |
| Stralsund | 十六年 |
| Gotha | 三十年 |

墓地ノ廣袤ト葬期　各墓地ノ地積及地方（住民）ノ死亡數ニ依リ左式ヲ以テ算定スヘシ

T.G.M＝×

今T.即チ還葬期ヲ十二年トシG即チ墓積ヲ三、八平方米突即チ毎年ノ死數ヲ五百人トスルトキハ 12.×3.8×500＝3800 Q.M 即チ三萬八千平方米突トナル壕道ニ要スル面積ハ經驗上全墓地ノ八分ノ一ニテ足ルヲ以テ前ノ算出面ニ更ニ八分ノ一ヲ加フルトキハ 38000＋4750（＝118）＝42750 Q.M 即チ四萬二千七百五十平方米突ノ墓地トナルナリ然ルニ住民ハ年々增殖シ死亡ハ年々增加シ且ツ殯堂ノ增築ヲ要スルヲ以テ豫メ其設計ヲ立ツヘキナリ。

都市發達シテ墓地ヲ包圍スルニ至ルカ又ハ他ノ原因ヨリシテ之ヲ閉鎖セサルコトヲ得ルトキハ最終ニ葬リタル屍體ノ朽敗ノ終ルマテ之ヲ建築地又ハ耕作地等ニ使用スヘカラス而シテ其一般ニ適用スヘキ期限ヲ定ムルコト亦頗ル難シ若シ地ヲ掘ラスシテ耕作地ト爲スニ於テ兩三年ノ後之ヲ實施スルニ衞生上異論アルコトナシト雖トモ其上ニ住居ヲ築クニ至リテハ輕々シク斷案ヲ下スコトヲ得ス墺國ニ於テ已ニ十年

ノ後ニ之ヲ許シ普國ニ於テハ四十年巴句及索遜ニ於テハ二十年乃至三十年ノ後ニ之ヲ聽セリ。

其五、墓地ノ管理　墓地ニハ其事ニ通曉スルモノヲ選ンテ管理者トナシ嚴重ナル規則ヲ設ケテ之ヲ監督セシメ殊ニ還葬期ノ如キハ一々鬼籍ニ照シテ之ヲ點檢シ苟モ期ニ先ンシテ墓所ヲ發クカ如キコトアラシムヘカラス又能ク死後ノ時間ヲ算シ埋葬期限內ニ於テ屍體ヲ埋葬セシムヘカラス墓地ノ竹木ハ單ニ外飾ニ止マラス其根ハ能ク土中ノ水分ト鑛化物トヲ吸收シテ土地ヲ乾燥シ淸化シ空氣ニ富マシメ以テ屍體ノ分解ヲ催進スル利益アルヲ以テ濫リニ伐材セシメサルノミナラス其培栽ヲ勸誘スヘシ其他墓域內ノ掃除溝渠ノ修繕等ヲ怠ラシムヘカラス。

其六、出柩期　墓地ニ殯堂ヲ置カサル國或ハ之ヲ欠クノ地ニ於ケル死者ヲ家ニ留メテ初メハ尸シ後ニハ歛シ然シテ後葬ルヲ例トス其時限タル各國相同シカラス支那及ヒ朝鮮ハ約六日間日本ハ二十四時間以上伊太利ハ常死二十四時間急死(變死)四十八時間(但第三日ヲ過クルコトヲ得ス)佛蘭西ニ於テハ死亡屆後第一日ニ葬ルコトヲ得ス獨逸聯邦ノ多クハ七十二時間ニシテ Gotha ニ於テハ之ニ附則ヲ設ケテ云ク衞生官ノ特許ナクシテ九十六時間餘ニ遷延スルコトヲ得スト今衞生上ヨリ其時限ヲ定メント欲スルニハ死亡ノ確徵ヲ呈セサルニ先タチテ之ヲ葬ルコト不可ナリ著シク屍臭ヲ發スル迄之ヲ留ムルコトモ亦不可ナリ而シテ夫ノ特徵(死斑)ヲ呈スルハ死後二十四時間以內ニ在ルヲ常トシ又著シキ屍臭ヲ放ツコトハ季節ニ從ヒテ相違アリ寒冷ノ時ニハ死後第三日暑熱ノ候ニハ三十六乃至四十時間前ニ之ヲ放ツコト稀レナリ因ツテ左ノ斷案ヲ下スコトヲ得ヘシ曰ク屍體ヲ葬ムルニハ死後第一日前ニ於テスヘカラス又夏日ハ第三日寒冷ノ季節ニハ第四日ヲ過クヘカラスト禮記尸三日而斂俟其生也トアリ意ノ在ルトコロ亦同シ傳染病屍ニハ固ヨリ特別ノ法令ヲ設ケサル可ス玆ニハ許ス限リノ短少時即チ第一日ヲ過クルヲ待テ直チニ火葬(成シ得ヘクンハ)又ハ埋葬スルヲ可トス若シ殯堂ヲ備フル墓地アルニ於テハ死後早々ニ之ヲ送ルコト勿論ナリトス。

其七、閱死法又ハ死亡檢證法ヲ設クルコト亦須要ナルニ似タリ是其益タル第一ニ以テ假死ヲ葬ルコトヲ防クノミナラス又以テ犯罪ヲ發クヘク僞醫ノ弊ヲ矯ムヘク死亡診斷ノ正否ヲ明カニシ統計ノ原料ヲ精確ニスヘキナリ凡ソ確實ナル醫事統計殊ニ傳染病ノ統計ノ如キハ專門家ヲシテ閱死法ヲ嚴行セシムルニアラテハ到底之ヲ得ルコト能ハサルナリ。

其八、入棺ノ事モ顧慮セサルヘカラス棺ヲ製スルニハ或ハ木材(柏松ノ類)或ハ甕或ハ金屬或ハ石材ヲ用ヰルニ其中木棺ハ空氣ヲ通スト雖他ノ三種ハ大率氣密ナリ氣密ノ棺ハ元ヨリ分解ヲ妨ク其意又屍體ヲ保藏スル腐臭ハ勿論水土ノ汚染ヲ全然防遏スレハナリ屍體ヲ遠路ニ送ルトキ又ハ傳染病死ヲ入棺スルニハ殊ニ欠クヘカラス然トモ已ニ經費ノ點ヨリシテ一般用ト爲シ難シ。

木棺ハ空氣ノ出入流暢ナラサルヲ以テ寧ロ屍體分解ヲ緩ウスルナラント云ヘ屍體ヨリ出ツル液汁ハ棺底ニ溜リ上方ヨリ來ル雨水ハ棺蓋ニテ遮キリ屍體ハ漸ク乾キテ敗壞却テ速カナリトモ云フ未タ孰レカ是ナルヲ知ラスト雖液汁ノ溜ハ遂ニ屍ヲ漚シ寧ロ分解ヲ妨クルモ助クル所以ニ非サルヲ以テ棺底幷ニ四壁ヲ

格子造リト爲スカ若ハ穿孔シテ液汁ヲ攘ヒ兼テ空氣ノ流通ヲ快活ニスヘシト說クモノアリ棺蓋ハ固ヨリ堅密ナル硬木ヲ以テ作リ雨水ノ滲誘ヲ防カサルヘカラス。

死者ノ前ニ傳染病ヲ患ヘタルモノアルカ又ハ死者自ラ傳染病ニシテ其家ハ汚染シタルモノト見做スヘキ塲合ニハ親族ノ同家ニ會集スルコトヲ嚴禁スヘシ。

其九、運柩ニ關シ衞生上ノ注意ヲ要スルハ之ヲ遠キニ致スノトキ傳染病屍ニ在リ共ニ須ラク氣密ノ棺ニ之ヲ納ムヘシ若シ此一事ニシテ達セハ傳染病屍ノ運柩ト雖トモ必スシモ親屬ノ之ニ隨フコトヲ禁セスシテ可ナリ。

其十、永窆ニ就テハ塋穴ノ深淺大小ノ外衞生上別ニ云フヘキモノナシト雖(墓丘)ハ屍臭ノ漏臭ヲ潔ク効アルヲ以テ必ス之ヲ築キ且成ルヘク之ヲ高クスヘシ。

改葬ノ已ムヲ得サルトキハ官醫立會之ニ從事スルモノニモ其近隣ノモノニモ危害ヲ及ホサヽルコトニ努ムヘシ成ルヘク寒冷ノ季節朝間ニ於テ之ヲ行フヲ善シトス已ニ小心注意シテ塋穴ヲ發キ了ラハ漸時空氣ヲ通シタル後棺ヲ檯擧スヘシ。

古昔貴豪家ノ死スル往々之ヲ土中ニ葬ラスシテ洞窟中ニ納メタリ之ヲ窟墓ト云フ今尙此習慣ヲ殘スト雖トモ取ルヘキ法ニ非サルナリ抑屍體ノ朽敗ハ窟墓中ニ於テ其速度砂礫ニ讓ラス或ハ却リテ過カナリト雖換氣十分ナラサルヲ以テ屍氣自ラ鬱滯シ著シク惡臭ヲ放ツノミナラス新死者ヲ追葬セント欲シテ之ニ降ルモノ其毒ニ觸レテ大害ヲ招クコトアレハナリ若シ氣密ノ棺中ニ屍體ヲ納ムルカ又ハ一屍ヲ葬ル每ニ即チ之ヲ密鎖スルニ於テハ復タ間然スルトコロナキナリ。

其十一、殯堂ノ必要ナルコトハ Hufeland 已ニ之ヲ主張セリ一千八百年ニ至リ Meimar ニ於テ其創立ヲ見タリト雖トモ此ニ屍館ハ唯タ假死者ノ收容ニ止マレリ眞正ノ殯堂ハ一千八百五年 Mainr ニ始メテ之ヲ見再後 Müncher Frankfurt a.M.等ニ續キ起レリ然レトモ歐國各墓地普ク之ヲ備フト云フニ非ラスシテ獨逸等ニハ尙之ヲ欠クモノ多シ伊太利ハ殆ト皆備ハルト謂フモ可ナリ。

殯堂ハ傳染病屍ノ爲メニ特ニ其必要ヲ感セン其遺骸ヲ喪家ニ留ムルコト一刻ヲ延セハ一刻ノ危險ヲ增スカ故ナリ又狹隘ノ家ニ住ンテ死者ノ爲メニ別室ヲ設クルコト能ハサル貧民ニ於テハ何等ノ幸福ソヤ獨リ之レノミナラス早ク亡骸ヲ送ツテ眼前ノ刺戟ヲ去ルトキハ悲衰ノ情自ラ輕減シ遺族ノ神身ヲ安シスル益アルヲ以テ切ニ其設置ノ普及ヲ望マサルヲ得ス。

殯堂內ニハ安尸塲ト香祝塲(遺族會集塲)トヲ設ケ安尸塲ニハ自働的ノ蘇生信號裝置ヲ備フヘシ其裝置ノ最便ナルハ一紐ヲ尸ノ手關節ニ結ヒ之ヲ電鈴器ニ通シ其微動モ亦能ク之ヲ守尸人ニ傳フルニ在ルナリ。

千九百十三年佛國カズー著

倫敦、伯林、維世納水道沿革及其現況

## ○倫敦市ノ水道

巴里市ノ水道事業ノ恩人ナルペルグラン博士ノ死後其事業ヲ擔任シタルクーシユ技師カ倫敦市ノ發展ハ同市ノ給水ノ方法如何ニ直接ノ關係ヲ有セリト言明セルハ實ニ至當ノ言ナリト謂ヘシ。

當初ノ倫敦市ハタミーズ河ニ沿ヒタル狹隘ノ地帶ニシテ該地ハ井水ヲ供給スルニ適當ナル地勢ナルヲ以テ該土地ニ用水井ヲ穿ツハ容易ナリシナリ又倫敦市ノ北一面ハ其地質緻密ニシテ硬質ナルヲ以テ水分ニ乏シク恰モ一種ノ障壁ヲ築カレタルカ如ク其發展ヲ沮害セラレ第十世紀ニ至リ比較的遠隔ノ地ヨリ導水工事ノ竣功スルマテハ市ハ該障壁ヲ踰越スル事ヲ得サリシヲ以テ千五百六十年ニ至ル迄ハ主ニ東西ニ發展セリ。

第十八世紀ノ初年ニ於テハ蒸汽機關ハ未タ幼雅ナリシト雖トモ其能力遙ニ水壓機械ニ優レルモノアリシヲ以テ此處ニ始メテチエルシアーニ蒸汽機關ヲ据付ケ以來倫敦市中稍高燥ナル土地ト雖トモ苟モ該機關ヲ以テ給水スルヲ得ヘキ範圍内ハ漸次ニ其發展スルヲ見ルニ至レリ。

千七百五十年ノ頃ニ當タリタミーズ河床ノ上流即チ同市ノ西北ニ當リ現時ノ「ハイド、パルク」ト稱スル邊端ノ地ヲ倫敦市ニ編入シタリ、然レトモ同市ノ北方ハ其地勢傾斜セルヲ以テ該方面ヘノ發展ハ容易ナリシモ居住地帶ハ殆トオツクスフオルド、ストンート及ホルボルヌノ境界ニ止マレリ是レ全ク蒸汽「ポンプ」ノ構造幼雅ニシテ加フルニ當時ノ導水管ハ悉ク木製ナリシヲ以テ高燥地帶若クハ遠隔地ニ對シテモ普ク道水スルヲ得サリシヲ以テナリ然ルニウワツト氏ノ發明ハ蒸汽機關ノ能力ヲ增シ又恰モ同時ニ冶金學ノ進歩ハ鑄鐵管ヲ製造スルノ方法ヲ敎示セルヲ以テ倫敦市ハ用水ノ揚水工場ヲ建設シ木管ヲ鑄鐵管ニ改メタリ爾來倫敦市ハ萬難ヲ冒シ以テ廣大ナル規模ノ給水事業ヲ起シ現時ノ盛況ニ達スル爲メ茲ニ全力ヲ傾注セリト雖今後モ尙其事業ヲ繼續シテ決テ未タ足レリトスヘカラサルナリ。

然レトモ倫敦市ハ未タ水道事業ヲ統一スルヲ得ス第十一世紀ノ初年ニ當タリ英國ノ議會ニ於テ同國ノ都會ニ飲用水ヲ供給セントスル問題ノ起ルヤ議會ハ倫敦市ヲシテ水道事業ヲ經營セシメントノ計劃ヲ立テタリ然ルニ當時倫敦市ハ當然同市ニ與ヘラレタル特權ヲ利用セスシテ直ニ其權利ヲジヤツク第一世ノ周圍ニ出仕セル有名ナル投機業者ニ移シ終ニ新河水會社ヲ組織シタリ而ノ倫敦市ノ發展ニ從ヒ續々他ノ會社勃興シ殆ト監督ノ途ヲ失ヒタリ彼ノ怖ルヘキ「コレラ」ノ流行セル千八百四十九年マデ市民ニ飲用水ヲ供給セル爾來タミーズ河水ハ汚染セラレ病毒ヲ傳播スルノ怖アリトシバツテルシアー及ワーテルロー橋トノ間ニ於テタミーズ河水ヲ汲取ルコトヲ廢止シタリ此ニ於テ從來全ク放任シタル水道事業ノ取締ヲナス爲メ議院内ニ議論紛起シ院内委員ノ指導シタル各種ノ調査ハ總テ法律ヲ以テ水道會社ノ技術及財政監督ノ原則ヲ制定シ公布後ノ經營ニ係ル水道事業ニ對シテハ給水法ノ實行ヲ期シタリ。

千八百五十二年ニ可決サレタル水道會社ニ關スル法律ハ新水道工事ヲ許可シ及飲用水ノ漉過法、貯水場ノ被蓋法及河水ノ汲取若クハ其配水上必要ナル豫防法ヲモ定メタリ前記ノ如キ取締ハ慥ニ個人ノ用水ヲ清淨ナラシムルニ不備ノ點ナカリシヲ以テ該取締法ハ永ク改正スルノ必要ナカリシナリ。

千九百四年ニ至ルマテ倫敦市ノ水道事業ハ八大會社ニ於テ之ヲ經營セリ該會社ハ法律上獨占權ヲ有セサルモノナリト雖トモ競爭者ナカリシヲ以テ實際上獨占權ヲ有シ各給水區域ニ多少ノ廣狹アルモ各自無區域ヲ定メ倫敦市内及其廓外ニ給水セリ而メ其給水面積(三五〇平方哩)ハ倫敦市サル「カウンチー、カウンシル」

ノ管轄ニ屬スル面積(一一九哩平方)ニ比シ遙ニ廣ク該八會社ニシテ其權利ヲ失フタル時ハ總計六、〇二〇、八四五人及八九四、六二一戸ニ用水ヲ供給シタリ即チ左ノ如シ。

| | | 戸數 | 人口 |
|---|---|---|---|
| 一 | 東倫敦會社 | 二〇四、七七八 | 一、三五二、五一二 |
| 二 | 新河川會社 | 一六八、六八四 | 一、一二二、九五九 |
| 三 | スート、ウアーク及ウオクスハール會社 | 一二三、五二三 | 八二八、八三九 |
| 四 | ランベス會社 | 一一五、二一一 | 七一八、九一六 |
| 五 | 西ミツドルセツグス會社 | 八四、九六〇 | 六二八、七〇四 |
| 六 | ラー、ケント會社 | 九三、六七三 | 五六〇、二三八 |
| 七 | 大ジョンクション會社 | 六五、六二〇 | 四二五、二一七 |
| 八 | チユルシア會社 | 三八、四七二 | 二八三、四六〇 |

茲ニ特筆スヘキ事業ハ巴里市ニハ八六、〇〇〇戸ノ家屋アリテ一戸平均三〇人乃至三二人ノ住民ナリシモ倫敦市ニ於テハ其平均數六人乃至七人ニ過キサルナリ是レ實ニ巴里市ヨリ倫敦市ノ給水區域ノ廣大ナルコトヲ示スモノト謂フヘシ。

千九百年ニ於テ右ノ水道會社ヨリ供給シタル總水量ハ七六、七四一、九七四、二六八「ガロン」ニシテ一人一日ノ平均給水量ハ三五「ガロン」三五ニ相當セリ又之等ハ會社ノ收入千九百年ニ於テハ二、三五八、四五一「磅」即チ五九、五五〇、八〇〇「法」ニ達シ其支出ハ一、〇三七、一四一「磅」即チ二六、一八七、八〇〇「法」ニシテ本事業ノ總益高三三、三六三、〇〇〇「法」即チ各人ニ付五「法」五〇餘ナリ。

水道會社ニシテ本事業ヲ經營セル期間ハ市民ノ會社ニ對シ水道ノ改良ヲ要求スルモノナカリシモ各會社ハ漸次政權ニ苦メラレ良質ノ用水ヲ供給スルコトヲ得ス就中該會社ハ全市民ノ用水ヲ供給センコトヲ目的トセリト雖トモ曾テ其目的ヲ遂行セルモノナリ又競爭者現ハルヽモ毫モ顧慮スルトコロナク日々僅ノ水道器具ヲ增置シ貯水場ヲ擴張セルモ敢テ之ヲ改良スルコトナク千八百八十九年即チ倫敦市ノ行政ヲ統一シ倫敦府ヲ創立スル迄ハ何人モ水道事業ヲ總括スル事ヲ企劃セサリシナリ今日ヨリ之ヲ視レハ該事業ヲ統一シタルハ前世紀ナリト謂フヘシ元來タミーズ河ハ倫敦市ノ上流ニ在リテハ海潮ノ影響ヲ受クルヲ以テ倫敦市ノ給水量ノ七五「プロセント」ハ該河ノ不透明ナル水ヲ導水シ殘餘ハレアー河ナル江河ノ谿間若クハ砂地ニ堀鑿セル井水ヲ導水セリ方今タミーズ河ノ北方ニハ十九ケ所又其南方ニハ十八ケ所ニ井戸ヲ設ケタリ「大ジョンクシヨン」會社、「スート、ウアク」及「ウオクスハール」會社及西「ミツドル、セツクス」會社ハハブトンニ於テタミーズ河水ヲ揚水シ「チエルシアー」及ランベス」會社ハ西モルシーニ於テ又東倫敦會社ハサンピユリーニ於テ該河水ヲ揚水セリ然レトモ東倫敦會社ハ必要アル場合ハ其不足ノ水量ヲクアー河ヨリ之ヲ補充セリ。

前記ノ八會社ニ代ハリ設置サレタル新水道局モ亦前記ノ狀態ヲ改メサルナリレアー河ノ谿間ニ於テハ双方ヨリ導水セリ即チ其一ハ河床ヨリ直接ニ導水シ他ニ用水ヲエルト、フォールノ前面一、六〇〇「メートル」

マテ海面ニ突出スル水源地ヨリ導水セリ該水源ハレアー河ニ接シ該河水ト均ク屢々混濁スルヲ見レハ怖ラクハ該河ノ天然ノ支流ニシテ恰モ佛國ノロアール河ノ支流ノロアレノ河ナルカ如シ而シテ該水源ノ湧出水量ハ毎秒二〇〇「リートル」乃至二三〇「リートル」ニシテ該水源ノ水ハレアー河ノ水ト合シ更ニ會社ノ堀鑿セル井水ニ加ハルヲ以テ其水源ノ水質モ其流過中自ラ改良セラルヽナリ。

羅馬市、維也納市及巴里市ノ引用水ノ優質ナルハ全ク其溫度ニ高低ナク且其化學的組織ニ變化ナキカ故ナリト雖トモ倫敦市ノ水ハ其水源前市ノ如クナルヲ以テ一定ノ溫度及化學的組織ヲ保ツ事ヲ得サルナリ然レトモ數年來倫敦市ノ用水ハ白土ヲ過キ青色ノ砂地ニ達スルマデ堀鑿セル井水ハ水源ノ水ニ混合セスシテ別ニ或部分ニ配水セラル、ヲ以テ自ラ透明ナリ其他ノ供給水ハ都テ、濾過シタル後水道溝ニ送ルヲ以テ假令其水質ハ著ク改良セラレスト雖少トモ其外觀ニ於テハ著ク改良セラレタルカ如シ元來巴里人ハ泉水ノ缺乏シタル時ニ非サレハ好テセーヌ河及ロアール河ノ流水ヲ使用セスト雖トモ倫敦市ハ水ハ假令一旦濾過スルモ其水質ハ稍々前記ノ河水ニ似タリ英國人ハ公權ノ行使ヲ縮少セシヲ以テ倫敦市ノ直營事業トシテ水道ヲ經營セリト雖トモ其事業ハ同市ノ一部ニ止マレリ而メ千八百九十年以來倫敦府（カウンチー、ガウンシル）ヲ創立スルヤ始メテ水道事業ノ統一ヲ圖ランコトヲ計劃セリ千八百九十年迄ハ倫敦市民ノ用水ハ全ク清淨ナラサルニ拘ハラス一般ノ市民ハ之ヲ懸念セサリシハ是レ全ク其使用水量ノ少ナクシテ同市民ノ大多數ノ常用飲料ハ麥酒及茶ナリシニアルハ疑フベカラスベルグラン博士曾テ英國ノ一技師ニ倫敦ノ用水ノ水質ノ良否ヲ問ヒシニ答フルニ否ヲ以テス同氏ハ五十年來倫敦市ニ住居モリト雖トモ水道問題ニ關シテハ未タ個人トシテ何等ノ意見ヲ有セサルナリ。

官廳ノ分析ノ結果ニ從フトキハタミーズ河水ノ含有スル有機物ノ總量ハ壹「リートル」中平均二「ミリグランム」八ニシテ多キハ六「ミリグランム」ニ達セリ倫敦市ハ其儘之ヲ市民ニ給水セリレアー河水ハ之ニ優ルモノアリト雖猶ホ平均二「ミリグランム」三ノ有機物ヲ含有シ又其數量四「ミリグランム」四ニ達スル事アリ河水ノ汚染ハ甚タ憂フヘキコトニシテ倫敦市民ハ半世紀以來其改良ヲ渴望セルニモ拘ラス更ニ其混濁ヲ除カサルカ如シ是レ巴里市其他多數ノ都會ニ於テモ頻ニ要求セル所ナレトモ一般ニ河水ヲ飲用ニ供セント欲セハ到底避クヘカラサルコトナリ而メ倫敦市ノ用水取入口ノ上流ニ存在スル町村ハ其沿岸ニ止マラスシテ稍々廣大ナル範圍ニ渉リ各部ヨリノ排水ヲ河中ニ投棄セサル以前ニ於テ清淨ナラシムルヘキ義務ヲ負ハシメタリ而メ其英斷ノ功ヲ擧ケンカ爲メ斷乎トシテ其處分ヲ嚴守セシメタリ然レトモ元來河水ハ濾過シタルト否トニ拘ラス寒暑ノ影響ヲ受クルコト著シク即チ炎暑ノ候ニ於テハ其水溫極メテ高ク氷ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ冷サヽレハ到底飲用ニ供シ難キ一ノ缺點アリ現ニ十二月若クハ一月ニ於テ倫敦市ニ於テ供給ズル飲用水ノ溫度ハ氷點ニ降下シ七月頃ニハ其溫度往々二十二度若クハ二十三度ニ昇騰スルハ決テ稀ナラサルナリ。

然ルニ巴里市ニ於テ供給スル泉水ハ零點以上十一度五乃至十二度五ノ間ニ昇騰セリ此ノ如ク溫度ニ高低ナキハ全ク水道工場ニ於ケル取扱ノ方法其宜シキヲ得タルカ爲メニシテ其飲用水ハ常ニ清冷ニシテ水質腐ノ變敗ヲ生セサルナリ。

以上列記シタル缺點ノ外倫敦市ノ水道事業ニ不規律ノ事績アルコトヲ非難スルヲ憚ラサルナリ倫敦市東區ノ住民ハ冬季ニ至タリ飲用水ノ消費量著ク增加スルコトアルトキハ數日間ノ斷水ノ不幸ヲ見ルコトアリ市民ハ其斷水ヲ憂ヘ千八百八十九年以來都市行政上ノ大事業タル水道ヲ統一シタル倫敦市會ニ數々抗議書ヲ提出セリ蓋 四五、〇〇〇「エクタール」ノ面積內ニ居住スル六百萬以上ノ市民及數十萬頭ノ馬匹其他ノ家畜ニ十分ナル給水ヲナスハ決シテ簡單輕易ノ事業ニ非ラスト言フモ敢テ不當ニアラサルナリ然ルニ倫敦市民ハ巴里市民カ久ク甘ンスルコトヲ得サリシ水道事業ノ不規律ヲ能ク忍ヘルヲ想フヘシ。

倫敦市民ハ會社ノ同額ノ使用料ニ對シ各人每ニ同量ノ飲用水ヲ供給セサル不都合ヲ攻擊シ東區ニ給水スル會社ノ如キ夏季ニ至タレハ數日間全ク華主ニ飲用水ヲ供給セサルコトアリ又甲區ニ供給スル飲用水ハ井水ナルヲ以テ清冷良質ナルモ乙區ニ於テハタミーズ河ノヨク汲取リタル微溫ニシテ疑ハシキ飲用水ノミヲ供給セルヲ以テ其水質ノ不同ヲ攻擊セリ此ニ於テ遠隔ノ水源就中ガール地方ニ存在スル泉源ヲ探索シ水道事業改革ノ設計ヲ立テ之ト同時ニ水道事業ヲ倫敦府會ニ引渡サントスル計劃ヲ立テタリ。

千八百九十七年五月ニ至タリ政府ハ大體ニ於テ該請求ニ對シ不同意ナリシモ其計劃ノ利害得失ヲ研究スル爲メ調査委員ヲ設ケタリ當時倫敦府ノ技師長タリシアー、ビンニー氏ハ至難ナル調査ヲ遂ケタル後引水ノ設計ト水道事務組織ノ改正案ヲ委員會ニ於テ縷々說明スルトコロアリシニ終ニ委員長ロード、ランダツフ氏ハ右ノ請求ヲ棄却シ議會モ亦之ヲ否決シタリ然レトモ議會ハ當時各會社ノ貯水塲ハ全ク孤立セルヲ以テ各貯水塲ニ通スル導水渠ヲ穿チ夏季飲用水ノ缺乏スル地方ヲ救助スルノ必要ナルコトヲ示シタルヲ以テ會社ハ直ニ其事業ヲ實行シタリ何トナレハ會社ハ近キ將來ニ於テ其事業ヲ奪ハレントスル怖アルコトヲ感シタレハナリ現ニ該委員會ニ於テ調査シ議會ニ於テ承認シタル最終ノ結論ハ倫敦市ニ特別ノ官衙ヲ創立シ其役員ノ數ヲ三十名以下トシ又其長官及副長官ハ內務大臣之ヲ任命シ水道事務ハ總テ該官衙ニ移轉セントスル計劃アリシヲ以テナリ該官衙ハ會社トノ協議又ハ仲介者ノ意見ニ從ヒ悉ク水道設備ヲ買收シ其買收及組織ノ改革ニ必要ナル資金ハ三分利附市債ヲ發行シ借入レントスルニアリ若シ其收入ニシテ其費用ヲ支辨スルニ足ラサル時ハ其使用率ヲ增加シ將來ノ計劃ヲ遂行セントセリ右ノ如キ未定ノ事業ハ倫敦府ニ於テ編制サレタル新計劃案ノ贊成者ヲシテ多少畏懼ノ念ヲ懷カシムル所トナリシト雖トモ千九百二年ノ法律ハ倫敦市及其廓外ノ水道事業ヲ首府水道局（Metropolitan Water Board）ニ委任シタリ該法律ハ倫敦市ノ水道工事及其廓外ニ給水スルトッタンハム及アンフイエルドノ水道工事ヲ買收セシメタリ予輩ハ其買收ノ價格及千九百四年六月二十四日及七月二十五日ニ於テ水道事業ヲ全然買收シタル水道局ノ事務ノ組織ヲ左ニ記述セントス。

飲用水販賣ノ方法ハ巴里市ノ方法トハ全然異ナリ契約ニ從ヒテ給水セリ而シテ其水量ハ依然一定セサルヲ以テ之カ統一ヲ計リ且其給水事業ノ改良ヲ計ルノ目的ニテ法案ヲ議會ニ提出シタルモノニシテ先ツ各戶住居者ノ數ニ基キ算出セル容積ノ貯水塲ヲ設ケ豫定ノ時間ニ滿水セシメ給水栓ヨリ規定ノ時間內ニ給水スルナリ然レトモ水ノ代價ハ消費シタル水量ニ據リ計算セスシテ其家屋若クハ建物ノ賃貸價格ヲ標準トシテ算出スルナリ。

會社ハ經營ハ元來利益ヲ目的トシテ起業スルモノナルニ於テハ其事業ノ爲メ損害ヲ蒙ラシムルハ甚タ過酷ナラン而シテ會社ハ再度揚水シタル水ヲ供給シ且其水ノ價格ハ揚水ノ高度ニ從ヒ異ナルカ故ニ其使用料モ亦各區ノ平均水準ニ依リ異ナリ路面ヨリ更ニ高ク貯水塲ヲ設ケタル者ハ今日モ猶ホ餘分ノ使用料ヲ支拂フヘキナリ其高サノ制限ハ會社ニ依リ自ラ異ナルト雖トモ三「メートル」乃至六「メートル」即チ二階若クハ三階ヲ以テ限度トセリ最小及中等ノ住宅ニ就テハ毎年ノ使用料ハ家賃ノ四「プロセント」乃至六「プロセント」ノ間ニ在リ大家屋ニ就テハ一定ノ限度アリト雖トモ其限度以上ハ會社ニ依リ著ク異ナレリ（一〇〇乃至五〇〇磅）右ノ累進率ハ裕富ナル消費者ニ採リテハ利益アルモ高燥ナル地方ニ於テハ更ニ其累進率ヲ高ムベキハランベース地方ニ於テハ五百「法」ノ家賃ノ家屋ニ就テハ其使用料ハ一ケ年家賃ノ七、五〇「プロセント」ナルモ五、〇〇〇「法」及其以上ノ家賃ノ家屋ニ就テハ其家賃ノ五「プロセント」ナリ其外便所浴室用水、手洗水ニ用ヒル分ハ別ニ使用料ヲ支拂フコトナシ其使用料率ハ常ニ家賃ヲ基礎トセリ即チ其使用料率ハ低地ニ於テハ二「法」半乃至七「法」半中等ノ諸區ニ於テハ五「法」乃至十「法」半高地ニ於テハ一二「法」半乃至一八「法」七五ナリ右ハ都テ最初ニ設ケタル水道ノ使用料率ニシテ若シ之ヲ數箇所ニ增設シタルトキハ其使用料率ヲ半減スルナリ。

千九百八年四月一日以來使用料ノ基礎ヲ一定シ使用者ノ住宅ノ賃貸價格ノ五「プロセント」ト定メ便所、浴室若クハ手洗塲ニ於テ使用スル水ノ割增料ハ一切之ヲ廢止シタリ然レトモ以上ノ如キ使用料ハ炊事ニ供スル水ニ關スルモノニシテ蒸汽器械用、船舶引上塲、馬匹、家畜馬車等ノ清洗用ニ供スル水ニ就テハ特別ノ條件ヲ定メタリ。

以上陳述スルカ如クナルヲ以テ倫敦市ノ使用料ヨリモ高率ナルヲ知ルヘシ之ニ反シ倫敦市ノ各戸ノ給水法ハ遙ニ巴里市ニ優ルモノアリ現ニ巴里市内ノ各所ニ於テハ水道栓及瓦斯管ニシテ所定ノ分量ヲ排出セストノ苦情ヲ唱フル者多シ巴里市ニ於テハ最初細管ヲ埋設シタルハ當時ノ使用水量ノ今日ノ如ク多量ナラサリシヲ以テナリ倫敦市民ノ一般ハ水質ニ干シテハ左程留意スルコトナカリシモ水量及屋内ノ水道設備ノ便否ニ就テハ頗ル意ヲ用ヰタリ今倫敦市ノ周圍ナル較々富ナル職工若クハ店員ノ住居スル中流ノ模範住宅トモ稱スヘキ家屋ヲ視ルニ水道及瓦斯ニ關シテハ巴里市ノ住宅ヨリモ遙ニ優レルモノアリ倫敦市ニ於テハ右ノ如キ住宅ハ一、〇〇〇乃至一、五〇〇「法」ノ家賃ニシテ殆ト二階建ニシテ下座敷ニハ寢室食堂、臺所及洗濯塲アリ又階上ニハ二三ノ居室及設備完全ナル浴室ノ設ケアルヲ普通トス。

臺所ニハ必ス湯栓ト水栓トヲ設備ス湯ハ竈ノ傍ニ設ケタル温蒸器内ニ於テ温メラレタル水ヲ極メテ緩速力ヲ以テ約二〇〇「リートル」ヲ容ルヽニ足ルヘキ貯水鑵ヨリ送ラルヽナリ而シテ其温水方法ハ煙突ヨリ排出スル熱氣及火煙ヲ用ヒルヲ以テ何等ノ費用ヲ要セサルナリ既ニ五十年來各地ニ於テ應用サレタル其巧妙ナル設備アルカ爲メ食品調理ノ時刻ニ臨ミ小貯水塲ノ水ハ較々高キ熱度ニ達シ一旦温メラレタル二百「リートル」ノ水量ハ決テ容易ニ冷却セサルナリ。

倫敦市民ハ假令特別ニ湯ヲ沸カスコトナキモ隨時入浴用ノ湯備ハリ主婦及家婢ハ洗濯用若クハ炊事用ノ爲メ常ニ其湯ヲ使用スルヲ得ルナリ又便所ノ設備ハ極メテ巧ニシテ之ト比較スルヲ得ヘキモノハ最モ華美ヲ

極メタル佛國風室内ノ設備ノ外他ニ其類ヲ見ルヲ得サルナリ。

英國水道ノ欠點ハ夏季ニ際シ用水ノ溫度加ハルニアリ水ノミヲ使用スル地方ハ特別ナリト雖トモ元來河水ハ氣候ニ從ヒ其溫度ニ高低アルモ泉水ニハ殆ト其憂ナキヲ以テ倫敦市ノ飲用水ハ概ネ微溫ニシテ冷水ヲ用ヒル地方ハ極メテ稀ナリ是レ即チ倫敦市ニ於テハ其水ヲ使用スルヲ憂ヘ巴里市ニ於テハ純良清冷ナル水ヲ亂用スル又原因ノ一ナリ他ノ欠點ハ甚タ些細ノコトナレトモ一定ノ時間内ニ必ス自宅ノ貯水場ニ用水ヲ充滿セシムヘキコト是レナリ。

以上列記シタルモノハ方今私立會社カ倫敦市民ニ給水スル法則ナリ。

倫敦市水道局ノ技師ハ大ニ其改良策ヲ調査シタリト雖トモ其設備ヲ改良セントスルニハ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ之カ實行ハ不幸ニシテ挫折セシメタリ現ニ諸會社ノ事業ヲ買收スルニ合計四二、九〇六、〇九七「磅」ノ費用ヲ要セリ今「磅」ノ爲換相場ノ平價ヲ二五「法」二〇トセハ右ノ買收費ハ一、〇八一、二三三、六四五「法」トナルナリ又水道局ハ水道會社ノ株主ニ三〇、六六二、三二三「磅」ヲ拂渡セシ外猶ホ法律ハ水道會社ノ事業ヲ其儘水道局ニ移シタルヲ以テ水道局ハ會社ノ發行シタル債券ヲ引受ケ若クハ其會社ノ負債ヲ負擔セサルヲ得ス且水道局ハ新事業ヲ計劃實行スル爲メニ猶ホ負債ヲ募集セサルヲ得サルナリ。

千九百十一年四月一日ニ於ケル水道局負債ノ總額ハ四八、七一七、三三二「磅」ニシテ其毎年ノ利子ハ目下一、四六一、八九八「磅」トナルナリ（一、二二七、六七六、〇〇〇法）其種類ヲ擧クレハ左ノ如シ。

七、二一七、八三八「磅」

水道局ニ引繼キタル舊會社ノ買收スルヲ得ヘキ負債

一 舊會社ノ買收スヘカラサル負債

一九〇四年七月二十二日ヨリ一九〇八年五月七日迄ニ募集ノ水道局負債　六、〇六〇、一六五「磅」

合計　三五、四三九、三二九「磅」

四八、七一七、三三二「磅」

水道局ハ三五、四三九、三二九「磅」ノ負債中ヨリ會社ノ買收代價ヲ支出シタリ。

以上ノ資本運用ノ責任ハ水道事業經營ノ成績如何ニ重大ナル干係ヲ有スルモノニシテ目下假ニ會社ノ定メタル高率ノ使用料率ヲ殆ト其儘ニ襲蹈セリト雖トモ水道局ハ千九百四年六月ニ始マリ千九百五年三月三十一日ニ終ハリタル最初ノ年度ニ於テ九、五五〇「磅」ノ缺損ヲ生シタリ該年度ノ收入總額ハ一、九九一、一三五「磅」ニシテ支出總額ハ二、〇〇〇、六八五「磅」ナリ其内一、一〇〇、四七〇「磅」ハ負債ニ充用シタル額ナリ之ニ反シ水道局ハ千九百六年三月三十一日ニ終ハル第二年度ニ於テハ多少ノ利益ヲ得タリ該年度ノ支出總額ハ二、六五三、〇四五「磅」ニシテ其收入ハ二、六六四、八八二「磅」ニ達セシヲ以テ水道局ハ一一、八三八「磅」ヲ負債ノ償還ニ充テタリ又千九百七年度ニ於テハ其償還資金ヲ九三三「磅」ニ減シタリト雖トモ兩年度共ニ缺損ニ依リ年度ヲ閉鎖シタリ千九百八年度ニ於テハ支出總額ハ二、九〇六、二九五「磅」ニ達シ其缺損額ハ二五、二七九「磅」ナリ又千九百九年度ニ於テハ支出總額ハ二、九〇九、〇九五「磅」ニシテ同年ノ缺損額ハ四六、〇七五「磅」トナリ千九百十年度ニ於テハ缺損額ハ六四、四七九「磅」トナリタリ。

倫敦市ノ水道行政ヲ定メタル千九百二年ノ法律ハ水道事業買收後三ケ年間ハ水道局ハ假ニ會社ノ使用率ヲ採用シタルモノナレハ新法令ヲ發シ使用率ヲ統一スヘキ旨ヲ規定シタリ。

右ノ如ク豫定サレタル法律案ハ議會ニ於テ可決セラル、所トナリ新使用料率ハ少ク其利益ヲ增加シタリト雖トモ今後數年ノ後ニハ其財政上ノ重荷ハ導水事業及原水ノ漉過事業ヲ改良セントスル設計工事ヲ沮害セントスルヤ敢テ疑ナキナリ。

千九百九年度ノ支出總額二、九〇九、〇九五「磅」中單ニ負債ノ爲メ要スル支出ハ一、五六六、六二三「磅」ニシテ之テ類別スレハ左ノ如シ。

| | |
|---|---|
| 一　舊會社ノ株主ニ對スル利子及配當金 | 一、四六七、三一六「磅」 |
| 一　同種ノ年賦償還金 | 九、九〇一「磅」 |
| 一　償還資金ノ分擔額 | 五三、八〇五「磅」 |
| 一　雜費、臨時負債ノ利子等 | 三五、六〇一「磅」 |

右ノ負擔ハ經營費總額ノ五〇「プロセント」ヲ超過スルカ故ニ水道ノ如キ事業ニ採リテハ其負擔ノ割合ハ頗ル莫大ナリト謂フヘシ。

水道局ノ實施セル重要事業トシテ擧示スヘキモノハ其位置不適當ナリシ舊貯水塲ヲ改造シタル工事ニ過キスシテ該所ニハ目下鐵道會社カ貨物停車塲ヲ建設シタリ其他ノ大工事ハ Yiland Barn Reservoir ノ廣大ナル新貯水塲及ウヲルトンノ揚水工塲ヲ建設セルニアリ。

新貯水塲ハツルトン工塲ニ於テタミーズ河ヨリ揚水セル水ヲ以テ供給セラレ其容積ハ九億「ガロン」ニシテ其配水以前ニ於テ漉過サル、ナリ而シテ百七十一箇所ノ漉過地ニ使用スル土地ノ總面積ハ一七〇「アール」ニシテ新貯水塲ノ面積モ亦其中ニ含ムモノトス。

タミーズ河及レー河水並ニ貯水塲ニ貯ヘタル濾過水ノ分析ハ時々施行サル、ナリ。

方今給水ノ面積ハ五三七「哩」平方ニシテ之ヲ使用スル市民ハ約七百萬人ナリ。

倫敦市ノ日々ノ消費高ハ平均二二五、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」(一、〇二二、八五〇「メートル」立方)ニシテ其内一三二、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」ハタミーズ河ヨリ五二、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」ハレー河ヨリ四〇、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」ハ井戸及泉源ヨリ導水セリ夏季ノ數月間ハ平均消費高著ク增加シ千九百十一年七月ニハ二八五、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」八月ニハ二七五、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」又九月ニハ二六一、〇〇〇、〇〇〇「ガロン」ニ及ヘリ給水管ノ延長ハ六、三〇七哩ニシテ河水ノ汲取及配水ニ用ヒル二六四個ノ「ポンプ」及諸機關ノ能力ハ三八、四〇〇馬力ナリ。

右ノ計數倫敦市ノ水道事業ノ盛大ナルコトヲ示スニ餘アルナリ。

公衆ノ衞生ニ最モ關係深キ私立ノ水道事業ハ頻ニ其事業ノ發展ニ力ヲ盡スト雖トモ猶ホ今後數年間ハ巴里市ノ水道ヨリ遙ニ劣レルモノアリ。

空氣ノ濕潤セルト降雨頻繁ナルトハ倫敦市ノ公益事業ノ利益ヲ減少セシメ巴里市ニ於テハ日々汲上ケタル水量ノ大半ハ公道及公園ノ撒水用ニ供スルモ倫敦市ニ於テハ漸クタミーズ河ヨリ揚水セル水量ノ漸ク六

「プロセント」ヲ其用ニ供スルナリ。

倫敦及巴里ノ兩都會ニ於テ水道ノ設備アル家屋ノ割合ハ到底比較スヘカラサルナリ千九百十一年ニ於テ倫敦市ノ百戸中九十六戸ニハ必ス水道ノ設備アルモ巴里市ニ於テハ八六、〇〇〇戸中一五、〇〇〇戸以上ハ未タ全ク水道ノ設備ナク假令其設備アル多數ノ家屋ニ於テモ各居室ニ其設備ナキモノ頗ル多數ナリ。

倫敦市ハ水量少キニ反シ其人口ハ巴里ニ三倍シ空氣重クシテ一天煤煙ノ都會ナルモ巴里市ニ於テハ往々青天白日ヲ見ルコトアリ又氣候ハ倫敦市ヨリ遙ニ温暖ニシテ給水量モ亦倫敦市ヨリ遙ニ豊富ナリ然ルニ倫敦市ノ死亡率ノ巴里市ヨリ少ナキハ予輩ノ既ニ證明セシ如ク英國家庭ノ道義心及其衛生思想ノ巴里市民ニ優レル所以ナリトス。

## ○伯林市ノ水道

伯林市ハ廣漠タル平原ノ中央ニ位シスプレー細流ニ臨ミ往昔ヴアンドノ僻村ナリシカ今ヤ帝國政府ノ所在地タル大都會トナリタリト雖トモ相當ノ飲用水ヲ同市ニ供給セントスルニハ極メテ不便ナル狀態ニ在リテ同市ノ人口激增スルヤ地下水ヲ供給スルノ他ニ方法ナク方今ニ於テモ猶ホ二箇所ノ揚水工場ニ於テ依然其水ヲ汲取スルモ其作業ハ頗ル至難ナリシナリ。

右ノ二箇所ノ工場中最モ古キモノハ伯林市ノ西方ニ當タリテジエール湖ニ臨メル同名ノ地ニ在リテ其規模ノ最モ小ナルモノナリ其主ナル工場ハ市ノ東南ニ當タリスプレー河ノ支流ヨリ成レル湖ニ臨ミムツケルゼーニ在リ從來屢々兩湖ノ疏水ヲ試ミタリト雖トモ方今ニ至タリテハ伯林地方ノ地下水ヲ引用スルコトヽナセリ。

伯林市ノ現時ノ如キ發展ヲ爲セシ以來同市ハ地上ニ面セル洲層ヲ通シ清水ニ富メル廣大ナル井戸ヲ開掘セシメタリ、假令之等ノ井戸ヨリ多量ノ清水ヲ汲取リ殆ト無盡ノ狀況ナリシト雖トモ右ノ清水中ニハ多量ノ鐵分ヲ含有スルヲ以テ同市ノ技師ハ其水ヲ配布セサル以前ニ於テ其鐵分ノ除去ニ關シ頗ル困難ヲ感シタリ然レトモ技師ハ種々調査ノ結果漸ク其困難ヲ凌駕スルコトヲ得タリ然ルニ飲用ニ供セントスル水中ニ幾多量ノ鐵分ヲ含有スル缺點アルヲ以テ一時市氏ノ苦情ノ府トナリタル伯林市會ハ此豊富ナル地下ノ水ヲ捨テ巨萬ノ市民ノ飲用ニ必要ナル水量ヲ悉ク伯林市ノ周圍ニ存在スル湖水ヲ引用セント計畫ヲ立テタリ。

然レトモテゲルゼー湖及ムツケルゼー湖ノ水ハ伯林市ノ廓外ニ存在スル湖ノ溢水ヨリモ寧ロ廣大ナル面積ヲ灌漑セル汚水ノ爲著ク汚染セラレ飲用水トシテ之ヲ消費セシムルハ甚タ不適當ニシテ若シ市民ヲシテ之ヲ消費セシムルトキハ公衆ノ健康ヲ害スルヤ疑ナキヲ以テ再ヒ地下水ヲ飲用スルコトヽナセリ然レトモ其缺點トスルトコハ風味ニ惡臭アルヲ以テ之カ除去ニ關シテハ一層ノ努力ヲ要シタリ。

假令伯林市ノ諸官廳ニハ他ノ大都會ノ官廳ヨリモ其職員多シト雖トモ水道事業ノ現業員ノ數極メテ尠ナキナリ現ニ其長官ハ技師ニシテ他ニ二名ノ技師ヲ置キ中一名ハテゲール工場ヲ經營シ他ノハムツケルゼー工場ノ事業ヲ擔任セリ其他同工場ニ使役セラル、工場長及職工等ハ極メテ少數ナリ。

テーゲル工場ハ地下ノ水ヲ引用セントスル計畫ニシテ二回ニ建設セラレタリ最初ノ工事ハ千八百七十七年

ニ竣功シ該工塲ハ「コンクリート」ニテ固メタル二重壁ノ井戸二十三個ヨリ成リ其深サハ五十「メートル」ニ達シ更ニ約二十「メートル」以上マテ堀鑿セリ。

給水事業ニ着手セシ時既ニ市民ハ該井水ハ多量ノ鐵分ヲ含有スルヲ以テ動モスレハ容器ヲ腐蝕セシムル旨ヲ申立テ頻ニ其水ノ有害ナルコトヲ唱ヘタリ因テ技師ハ種々調査ヲ遂ケタル後モ其多量ノ鐵分ヲ除去スルコトヲ得サリシヲ以テ右ノ給水法ヲ廢止センコトヲ市ニ建議シタリ故ニテゲールノ緩流ヲ「ポンプ」ヲ以テ之カ揚水ニ着手シ五箇年ノ後漸ク同緩流ニ代フルニ湖ノ水ヲ汲取リ荒漉ヲ爲シ市民ニ配水スルコトニ決シタリ然レトモ伯林市會ハ其後幾許ナラスシテ該決議ノ非ナルコトヲ悟リタリ其後伯林市カテゲール湖水引用ノ爲メテゲール工塲ニ增築ヲナシ更ニ廣大ナル濾過塲ヲ設ケ該工塲ノ不足ヲ補フタルハ千八百八十三年ナリ。

右ノ方法ヲ以テ汲取サレタル水モ漸々汚染セラル、所トナリタルヲ以テ伯林市ハ公衆ノ衞生ヲ憂フルノ餘極メテ深キ緩水流ヲ求メ新ニ井戸ヲ穿鑿スルコトニ決シタリテゲール工塲ハ其創設ノ際ハ之ヲ二部ニ區分シ其合計極量日々 八六、〇〇〇立方「メートル」ノ水量ヲ供給スルコトヲ得タリト雖モ湖水揚水ノ爲建設サレタル工塲ハ爾來之ヲ改造シ千八百八十七年以來地下水ヲ揚水スルニ適當ナル設備ニ改造セリ即チ當初ノ設備ニ更ニ木閣ヲ構ヘタル二十三個ノ井戸ヨリ三十二「メートル」ヲ距テ更ニ七十二個ノ井戸ヲ掘鑿シ其深五十「メートル」ニ達セリ二十三個ノ舊井戸ニモ小管ヲ埋メ以テ同一ノ深サニ達セシメタリ伯林市ノ技師ハ吸入管ヲ右ノ深サニ達セシムレハ多量ノ飲用水ヲ供給スルヲ得ヘシト思惟セリト雖トモ水質ノ速ニ破損スルト及ヒ緩流水面ノ降下トニ因リ其成績甚タ不完全ナリシヲ以テ同市ノ技師ハ目下之カ完全ヲ期センカ爲メ曩ニ山林局ヨリ伯林市ニ讓渡シタルサートヴエン、キール森林附近ノ地下ニ水道ヲ敷設セントスル設計ヲ調査セリ。

テゲール工塲ノ機械室ニハ井水ノ揚水用配水用若クハ貯水ノ揚水用「ポンプ」ヲ設備セリ該井水ハ同工塲ヨリシヤルロタンブルグノ貯水塲ニ送水サル、ナリ今其井水ノ取扱方ヲ左ニ說明セントス。

該井水ハ貯水塲ニ達セサル以前ニ鐵分蒸發室内ニ在ル束藁ヲ通過セシメ水ノ奔流ニ依リ漸次其水中ニ含有スル鐵分ヲ除去サル、モノニシテ該井水カ空氣ニ接シ生スル所ノ鐵中ノ酸素ハ其一部ヲ右ノ束藁ニ依リ脈留セラル、ナリ。

而シテ更ニ濾過池ヲ通過シ傾注ノ方法ニ依リ水ノ中ノ有機體及水中酸素ヲ沈澱セシメ傾斜面ヲ流シタル後濾過池ヲ通過シ透明トナリ始メテ貯水塲内ニ送ラル、ナリ故ニ右ノ井水ハ之ヲ清淨透明トナシタル後シヤルロタンブルグノ中間ナル貯水塲ニ送水シ各地ノ給水ニ十分ナル壓力ヲ以テ該井水ヲ伯林市内及主管ヲ布設セル廓外村落ニ供給スルモノトス。

以上陳述シタルカ如ク飲用水ノ貯藏前ノ取扱ニハ多額ノ費用ヲ要セリト雖トモ其處置ハ極メテ有効ニシテ概シテ清淨透明ナル水ヲ供給スルヲ得ヘク且多量ノ鐵分ヲ含有ストノ非難スルモノ甚タ稀ナルニ至レリ。

伯林市内ノ珈琲店ハ勿論料理店ニ於ケル食卓上ノ飲用水ヲ視ルニ多クハ鑛物質ノ水ニシテ普通ノ飲用水ハ稀ナルヲ以テ該食卓上ニ該飲用水ノ一瓶ヲ供セシメセトスルニハ猶ホ一層ノ注意ヲ要スヘシ而シテ今伯林

市ノ水質ヲ問フニ同市民中ニ從前ノ如キ非難ノ聲ナキハ敢テ其水質ノ改良セラレタルカ爲メニ非ラスシテ市民カ鐵分ヲ含有スル飲用水ニ慣レタルカ故ナリト言ヘリ然レトモ予カ同市ニ於テ飲用シタル水ハ清淨ニシテ其風味モ亦佳良ナリ唯數日ヲ經過スルトキハ其外見ニ於テ佛國ノ泉水ト異ナリ透明ナラサルコトヲ認メタリ。

ミユツセルゼーニ設ケタル第二ノ水道工場ハ最近ニ於テ建設セラレタリト雖トモ該工場モ亦當初湖水用ノ爲メ建設セラレタルカ故ニ大工場ノ擴張中ニ改造セラレタリ而シテ大濾過場ヲ設立セハスプレー河ヨリ成レルミユーゼル湖水ヲ改良シ之ヲ清淨ナラシムルニ餘アルモノト思惟シタルヲ以テ其創業ノ際即チ千八百九十三年ニ於テハ其工場ノ組織ハ毫モ間然スル所ナキニ似タリ。

伯林市ハ千八百九十六年ニ當タリ第二ノ設備ニ於テ給水事業ヲ開始セシ後ニ至タリ始メテテゲール工場ト同一ノ缺點ヲ發見セリ一般ニ湖水ハ急速ニ漉過池ヲ通過セシムル時ハ其漉過不完全ニシテ之ヲ飲用ニ供スルノ危險ナルハ水道事業ニ通曉セル衞生家ノ主張スル所ニシテ衞生家カ湖水引用ノ法則ヲ廢止セシメタルハ該工場ノ工事ノ竣功以前ナリシ也因テ伯林市ハ地下水引用ノ爲メ凡テノ工場ヲ改造シ多數ノ完全ナル井戸ヲ開鑿シ「ポンプ」其他ノ設備ヲ完全ナラシメ茲ニ漸ク給水上遺憾ナキヲ得タリ井戸ヲ堀鑿ハ延長九「キロメートル」ニ渉タレリ其井水ノ吸入鐵管ハ幅員二十五「メートル」ノ地帶内ニ布設シ悉ク三個ノ階廊内ニ集メタリ現今ノ井數ハ三百三個ニシテ之ヲ大小數組ニ區分シ最モ小ナルモノト雖トモ八個ノ井戸ヨリ成リ最モ大ナルモノハ十一箇ノ井戸ヲ以テ一組ト爲セリ而シテ各井戸ノ深サ四十「メートル」乃至四十五「メートル」ニ達シ直徑二三「サンチメートル」管ヲ挿入セルモ其下部ノ直徑ハ十五「サンチメートル」ニ過キサルナリ該井水中ノ鐵分ハ概ネ除去サレタリト雖トモ尚一「リートル」中一、一二ノ「ミリグランム」ノ鐵分ヲ含有セリ。

伯林市ノ技師ハ以上陳述シタル飲用水ノ漉過法ハ其功果著ク殊ニ水中ノ鐵分ハ溝渠内及束藻上ニ止マリ更ニ濾過場ニ於テ其井水ヲ清淨ナラシメントスルコトヲ唱ヘタリ然レトモ千九百七年ニ當リ伯林市ニ開催サレタル第十四回衞生及人口統計萬國會議ニ提出サレタル宣言書ニ從フトキハ濾過水中ニハ最初ノ鐵氣分量ノ十「プロセント」以上ヲ含有スルハ甚タ稀ナリト言ヘリ古ヘハミユゲル湖水ハテゲール湖水ニ比シ清淨ナリト認メ其水ヲ供給センカ爲メミユゲルニ水道工場ヲ建設セシカ方今該漉過工場ヲ砂漉場ニ使用セリ。

ミユゲルゼー工場ハ二十四時内ニ一九〇、〇〇〇立方「メートル」清水ヲ供給スルヲ得ヘク又テゲール工場ハ日々八六、〇〇〇立方「メートル」ノ給水力ヲ有スルコトハ既ニ明ナルカ故ニ兩工場ヨリ二十四時内ニ二七六、〇〇〇立方「メートル」即チ一ケ年ニ一〇〇、七四〇、〇〇〇立方「メートル」ノ給水力ヲ有スルナリ然ルニ方今伯林市ノ消費高ハ右ノ給水量ヨリモ少ナク現ニ千九百九年四月一日ヨリ千九百十年三月三十一日ニ渉ル會計年度中ニ伯林市及廓外村落ニ於テ消費シタル水量ハ六六、〇〇九、七三八立方「メートル」ニ過キサルヲ以テ其水量ハ二、一三七、四一〇ノ人口ニ對シ一日一人ニ付三〇、八八「メートル」立方ニ相當スルナリ。

水道工場ハ特ニ約二、一三七、四一〇人ヲ有セル伯林市ニ給水スルノ外尚ワイセンゼー（人口三九、六八二）

ニーダーシエーネワイデ(五、六九四)フリドリツヒスハーゲン(一二、八一八)及バンコーヴ(九、九〇〇)ニモ給水セリ廓外地ニ於ケル水道ノ使用料ハ千九百七年三月三十一日ニ於テハ一二九、〇五五「法」ナリシカ爾來其料金ハ著ク增加セシシテ千九百八年ニハ一、二三「プロセント」千九百九年ニハ一「プロセント」又千九百十年三月三十一日ニハ僅ニ〇、八九「プロセント」ヲ增加セルニ過キサルナリ而シテ其使用者ノ數ハ千九百十年三月三十一日ニ於テ一二九、九七二人ニシテ平均每戸ニ付水栓ヲ以テ通則トナシ伯林市ノ消費量ハ現在ノ供給力ニ比シ著ク少ナシト雖トモ伯林市ハ人口ノ增加ヲ豫想シエイリゲンセーニ新ニ水道工場建設ノ調査ヲ爲セリ。

個人ノ使用料ハ一立方「メートル」ニ付〇、一五「馬克」ニシテ其外水道渠維持ノ爲メ每戸ニ於テ一ケ年四「馬克」ノ賠償金ヲ負擔セリ千九百九年會計年度ノ計算ニ從フトキハ水道ノ收入ハ九、八六九、六四二「馬克」ニシテ其費用ハ七、五一三、八二四「馬克」一八ニ達セリ然レトモ若シ純粹ノ水道ノ收入支出ヲ計算スルトキハ其收入ハ九、四四五、五四六「馬克」ニシテ其費用ハ七、〇八九、七二七「馬克」ナルヲ以テ其殘額二、三五五、八二八「馬克」五四ハ伯林市ノ利益トナリ今其利益ヲ巴里市カ其水道事業ヨリ實收スヲ利益ニ對照スルニ較々比較スルコトヲ得ヘシ。

伯林市ニ於テ決定シタル水道工事ノ計畫及ミューゲルゼー工場ノ供給力ヲ加算スルトキハ同工場ハ更ニ日々二三〇、〇〇〇立方「メートル」ノ水量ヲ使用スルヲ得ヘキナリ伯林市ノ希望スルトコロハ永ク現狀維持シ以テ每人一日一三〇乃至一四〇「リートル」ヲ配水セントスルニ在リ方今羅馬市ニ於テハ約四五〇「リートル」巴里市ニ於テハ二六〇「リートル」倫敦市ニ於テハ一八〇「リートル」及維也納市ニ於テハ一二〇乃至一三〇「リートル」ノ水量ヲ使用セリ。

公衆ノ衞生上ヨリ觀察スルニ湖水ノ引用ヲ斷然廢止セシ以來膃窒扶斯病者ハ著ク減セシハ伯林市ノ水道水ノ良質ナルコトヲ示スニ餘アルカ如シ。

## ○維也納市ノ水道

墺太利國ノ爽快ナル都會ハ就中二十年來著ク發展シ其區域モ亦擴張セラレ方今其面積ハ既ニ二七五〇〇「エクタール」ヲ超過セリト雖トモ其人口ハ之ヲ千九百十一年ノ人口調査ノ成績ニ徵スルニ二百萬ヲ超ユルコト決テ多カラサルヘシ。

元來同市內ハ丘陵所々ニ起伏シ又其中心地ノ人口不同ナルヲ以テ同市內ニ水道ヲ敷設セントスルニ當リテハ伯林、巴里若クハ羅馬ノ水道ト同一ノ條件ヲ以テスルヲ得ス又維也納市ハ其面積ヨリ視ルトキハ最モ倫敦市ニ似タリト雖トモ其水道事業ハ假令主管ヲ延長スルヲ主トセリト雖トモ又之ヲ倫敦市ノ水道ニ比較スルコトヲ得サルナリ。

維也納市ノ水道事業ハ之ヲ三期ニ區分シ千八百四十一年ニ着手シ漸ク千九百十年末ニ竣功セリ方今ノ水道ハ高地ノ水源ヨリ導水スルニナセリ是レ羅馬人カ伊國ノ主ナル都會ニ水道ヲ敷設シタル原則ニシテ給水ニハ複式法ヲ採用セリ即チ源ノ水ハ必ス個人ノ飲用ニ供シテ井水及河水ハ主トシテ灌漑、洗濯及工業用ニ供

シ其兩用ノ水ヲシテ決テ混淆スルコトナカラシメタルモノニシテ該方法ハベルグラン氏カ千八百五十五年ニ調査シタル方法ニシテ巴里市ニ水道ヲ敷設セシムルニ當タリ其方則ヲ採用セシムルコトヲ得タリ。

維也納市ニ清水ヲ供給セントスルニ當タリ技術上ノ問題ハ敢テ復雜ナル事實ニアラス即廣大ナル水源ハ比較的遠隔ノ地ニ在リト雖トモ其所在地高燥ナルヲ以テ同市ノ水道技師ハ新維也納市ノ高臺ナル諸部落ノ各戸ニ普ク給水スルヲ得ヘキナリ高位ノ水源ヨリノ導水ハ技術上ニ於テハ敢テ著キ困難アラスト雖トモ水道管、貯水塲及水道溝渠設置ノ爲メ莫大ナル費用ヲ要スルヲ以テ之カ爲メ納稅者ヲ顧慮セシメ市會ヲ躊躇セシムルコト、ナレリ果シテ其大工事ヲ起サントスルニ當タリ市會ニ異議起リ其後同市カ該事業ヲ完成センカ爲メ更ニ莫大ナル資金ヲ投セントスルニ當タリ愈々市會ノ異論熾盛ヲ極メタリ。

維也納市カ始メテ水道管ヲ敷設セントスルニ當リテハ皇帝ハアルプス山脈ノ水源ヲ導キ之ヲ維也納市ニ供給セラレタルヲ以テ同市會ハ其好意ト膽略トニ奬勵セラレタリ而メ市會ヲシテ第二回ノ水道工事ヲ起スニ際シカール、リユゲル博士ノ非常ナル勢力ハ終ニ何等ノ困難ヲ感スルコトナク市民及市會議員ヲ屈服セシメタリ。

市長ハ第二回ノ水道工事ニ從事シ終ニ其事業ヲ成功シタルハ全ク同市長ノ勤勉努力カ其成功ヲ缺クヘカラサル原動力トナリタルカ故ナリ不幸ニシテ同市長ハ其工事ノ竣工ヲ待タスシテ世ヲ去レリト雖トモ去千九百十年十二月二日ニ即位六十五年紀念祭ヲ擧行セラレタリシカ有名ナル水道工事モ之ト同時ニ成功シ其事業ヲ開始シタルヲ以テカール、リユーゲルノ偉名ハフランソアー、ジヨゼフノ雷名ト均ク永久ニ該事業ト共ニ朽チサルヘシ。

維也納市ノ如キ大都會ニ於テ漸ク近年ニ至タリ重要ナル水道工事ヲ起セシコトヲ聞カハ讀者ハ必ス怪訝ニ堪ヘサルヘシト雖トモ其事業ノ遂行ヲ遲延セシ理由ハ決シテ一ニシテ足ラサルヘシ其主ナル理由ヲ擧クレハ廓外地ヲ維也納市ニ編入セシカ爲メニテ其合併ハ漸ク千八百九十年ニ行ハレ現時ノ維也納市ハ之カ爲メ著ク擴張セラレタリ第十三世紀ノ半ニ築造サレシ舊來ノ城壁ヲ破毀シ新舊兩市ノ境界線ナル廣大ナルリシク街路ヲ敷設シタルハ全ク千八百五十七年以後ナリトス。

千八百七十年萬國博覽會及タニユーブ河底ヲ改修セル大工事ノ後ニ至タリ第二回外廓取毀ノ計劃ヲ定メタルモ其事業ハ漸ク千八百九十年ニ實行シ且同時ニ廓外ナル寒村僻邑ヲ都會ニ編入セシタリ而シテ維也納市ハ十三世紀以來其面積ニ毫モ增減ナク依然七、二三三「エクタール」ニ止マリシモ其面積カ俄然一〇、五五九「エクタール」トナリタルハ全ク千八百九十年以後ニシテ千九百四年ニ九、四九六「エクタール」ノ面積ヲ新ニ市ニ編入シ千九百十年更ニ二七九「エクタール」ヲ同市ニ編入シタリ。

以上ノ如ク近世ノ都會トナリタル維也納市ノ面積ハ殆ト巴里市ノ四倍ニ相當セリト雖モ歐洲ノ大都會ニ比較シ其人口ノ密集セルハ僅カニ中央ノ二三區ニ過キス殊ニ周圍ノ諸區ニ至タリテハ住宅ハ遠ク散在シ住民極メテ尠ナク佛國ノセーヌ縣及セーヌ、エー、オアーズ縣ノ村落ノ人口ニ均キ狀態ナリ而シテ墺國ノ大都會中顯著ナル遊園地、殊ニ廣大ナル花園、廣漠タル不毛地、多數ノ耕地及葡萄園アリテ較々佳良ナル葡萄酒ヲ製造セリ。

西部ノ廓外ハアルプス山ノ支脈ニ達シ有益ナル産物ニ乏シカラス且其地方ニハ舊維也納森林ノ莊嚴ナル紀念林ノ存在スルヲ視ルヘシ新市ノ或區ニ於テハ土地ノ起伏劇クシテ平均ノ高サ百七十「メートル」ナリト雖トモ其實際ノ高サハ百六十「メートル」乃至二百七十二「メートル」ノ間ニ在ルノミナラス市外貯水塲ノ所在地ニ至タリテハ實ニ海拔四百五十「メートル」ヲ超過スルナリ。

維也納市ノ地勢ハ前記ノ如クナルヲ以テ各區ニ渉リ正確ニ給水セントスルニハ歐洲ノ諸都會ニ於テハ嘗テ視サル處ノ困難ニ際會シタリト雖トモ維也納市ノ技師カ其困難ヲ凌キ水道事業ヲ成功シ有終ノ美ヲ修メタルハ全ク果斷ノ處置ヲ採リタルカ故ナリ。

維也納市ハ元ト「セルト」人種ナリシカ羅馬帝國ノ所領時代ニ於テハ同市ハ水道ヲ敷設シ若クハ温泉塲ヲ建設スル程ノ緊要ナル都會ト認メズ隨テ同市ニ古代ノ水道工事ノ遺蹟ノ存在セルヤ如何ヲ知ラサルナリ

第十九世紀ノ半以前ニ於テハ維也納市民ノ未タ水道問題ノ眞意ヲ解セサル觀アリ維也納市ノ地勢ハ一帶ニ凹地ニシテ其屈曲セル周圍ハダニューブ河ニ臨ミ東方ニハ大河滔々ト流レ西方ハヴィネルワルトノ森林附近ニ至タリ其地勢漸ク起レリ同地方ハ頗ル地下ノ緩流ニ富ミ之ヲ汲取スルニ極メテ容易ナリシヲ以テ同地ノ住民ハ久ク井水ヲ以テ飲用トナシ以テ滿足セリ舊維也納人ハ萬事ニ無頓着ナリシヲ以テ莫大ナル資金ヲ投シ多額ノ費用ヲ要スル水道ヲ建設シ之ヲ維持スルノ必要ヲ感セサリシヲ以テ彼等ハ井水ヲ以テ滿足シ都市ノ發展ト共ニ其人口一萬千人以上ニ達スルヲ待チ愈々其數ヲ增加シタリ

人口ノ增加ハ漸ク地下ノ水ヲ汚濁シ井水ハ假令之ヲ濾過スルモ愈々不潔トナレリ千八百三十年ヨリ千八百三十六年ノ間ニ漸次歐州全國ニ傳染病流行シ其害毒ノ傳播セルハ專ラ汚染セル水ヲ消費スルニ原因スルコトヲ認メ茲ニ漸ク水道敷設ノ計畫ヲ立テ千八百四十一年ニ至タリ始メテ給水事業ニ着手シタリ

維也納市ノ附近ニハ良好ナル水源ニ乏シカラサリシニモ拘ハラズ當時地方廳ハ極メテ小規模ノ計畫ヲ立テ其費用ヲ充分ニ節約シ其事業ヲ成功セント欲セシヲ以テ最初ノ水道事業ニハ之等ノ水源ヲ利用セントスル考ナカリシナリ

維也納市ニ於テハ羅馬ノ遺風ヲ遵奉シ水道ヲ當時ノ君主ニ捧ケタリ故ニ最初ノ水道溝ハ甚タ幼稚ナルモノニシテ大ナル名稱ヲ附スルニ足ラサリシト雖モ該水道ヲ稱シテフェルデメン皇帝水道ト稱ヘタリ該水道ノ水ハダニューブ河ノ右岸ニ在リテヴィン細流ノ附近ナル地下水ヲ「ポンプ」ヲ以テ揚水セルモノナリ墺國都會ハ該細流ノ名ヲ採リ維也納市ト稱セリト雖モ該細流ハ殆ト大下水溝トナリ恰モ巴里市ニ在ルビエーヴル河ニ均キ運命トナレリ當初ノ水道ノ揚水方法ハ甚タ拙ナリシヲ以テ其水道ノ水ハ舊維也納市ノ高地ニ達スルコトヲ得サルノミナラズ當時ノ給水量ハ二十四時間一〇、〇〇〇立方「メートル」ヲ超スルコトナク又該水道ヨリ給水セシハ飲用水ノ貯水槽二百十、一ケ年僅ニ住宅七百戸トニ過キスシテ其他水道ノ設備ナキ地方ノ住民カ依然トシテ井水ヲ使用セシハ恰モ當時多數ノ巴里人ハ井水ヲ使用セシカ如シ

以上ノ計畫ハ些細ノ事業ナレトモ維也納市ノ現時ノ水道事業ニ關スル第一期ノ工事ヲ示スモノニシテ其後二回ノ水道工事ハ各々其狀態ヲ異ニセリ

維也納人ト巴里人トノ性格ノ相似タル所ヲ擧示スルハ甚タ好マヽル所ナリト雖モ兩都會發展ノ沿革如何ヲ

顧ミルトキハ其時代ヲ比較スルコトヲ得ヘシ維也納市カ全ク近世式トナリタルハ舊城壁ノ破毀後即チ千八百五十六年後ニシテオースマン男ノ奮勵努力ニ依リ巴里市ノ狀況ヲ一變セシモ亦千八百六十年ナルヲ以テ其時代稍々近シト謂フヘシ

近世ノ都會トナリタル維也納市ハ其後幾許ナラスシテライン河ニ臨ミ建設セラレ新市街ニ建造サレタル高層ノ家屋ニモ清淨ナル飲用水ヲ供給スルノ必要ヲ感シタリ茲ニ於テ始メテ而カモ數百「キロメートル」ヲ隔タリタルアルプス山ノ結氷地帶中最モ維也納市ニ接近シタルシュネーベル水源ノ水ヲ同市ニ導カントスル計畫ヲ定メタリ然レトモ同市ハ該水源ノ開設費ヲ提供スルコトヲ躊躇シタリ然ルニフランソアー、ジョゼフ皇帝ハ其事業ヲ援助サレ忽チ主ナル水源地ト其周圍ノ土地トヲ維也納市ニ下附セラレタルヲ以テ市民モ其事業ヲ躊躇スルノ遑ナク終ニ同市會ハ同水源ヲ採用シテ維也納市ニ高壓ノ水道水ヲ供給スルコト、ナセリ

維也納市會カ水源ノ水ヲ供給セントノ新事工事ノ組織ヲ定メタルハ千八百六十四年ニシテ先キニ維也納市ノ塲未ナル海拔二百四十五「メートル」ナルロザンユーゲルノ高地ニ廣大ナル貯水塲ヲ設ケアルプス地高中シュネーベル及ラッグス地方ニ存在スルカイゼルブルン及スチクザンステンノ水源ノ水ヲ該貯水塲ニ導カントスル計設ヲ議定シタリ同水源ノ水ハ夏季ニ於テハ其湧出量豊富ニシテ冬季ハ其水量減スルヲ以テ其定量ハ恰モ能ク季節ニ適合セリト雖モ唯其水ノ缺點トシテハ水質冷清ニ過キ現ニ其温度ハ五度乃至七度ノ間ヲ昇降スルヲ以テ夏季ニ於テ突然之ヲ飲用スルハ甚タ危險ナリト雖モ一旦貯水塲ニ蓄溜シタレ後之ヲ送下セシムル間ニ於テ多少ノ温度ヲ增加シ且維也納人ノ優遇歡待ハ概ネ外人ヲシテ其水ノ害ヲ避ケシムルニ足ルナリ

假令水道工事ハ鋭意其進行ヲ促セリト雖モ固ヨリ容易ナラサル事業ニシテ其工事中幾多ノ困難ニ際會シタルヲ以テ兩水源ノ水ヲ維也納市ニ導カントスル水道工事ハ千八百七十三年ノ萬國博覽會ノ末ニ至タリ漸ク竣功シ之ヲフランソアー、ジョゼフ皇帝水道ト稱セリ斯ク清冷ナル飲用水ハ續テ市民ノ歡迎スル所トナリ爾來市民カ麥酒、チョコラー若クハ珈琲ヲ飲用シタル後ハ必ス一杯ノ清水ヲ用ヒ口中ヲ清洗スルノ慣習トナレリ其給水事業ニ要セシ費用ニ關シテハ多少ノ異論ヲ免レサリシト雖モ其事業ニ對スル反對說ハ甚タ稀ナリシナリ

スチザンステンノ水源地ノ買收費ハ其カイゼルブルン水源ノ防護上必要ナル土地ノ買收費ヲ合セ漸ク七百萬「クローンヌ」即チ七百三十五萬ニ過キサリシモ水道管ノ埋設及貯水塲ノ建設ノ爲メ要シタル總額ハ豫算ヲ超過シ其費用ニ水道支管ノ工事費及必要ナル雜工事費ヲ合ハストキハ水道費ノ總額ハ約八千三百萬「法」ニ達セリ

斯ク敷設シタル水道ノ延長ハ百五「キロメートル」ニ涉リ二十四時內ニ一三八、〇〇〇立方「メートル」立方ノ水量ヲ供給スルヲ得ヘシ又水道管ヲ以テ海拔二百四十四「メートル」ノロサンユーゲル貯水塲ニ導水シ同所ヨリ各方面ニ給水シ更ニ同所ヨリ三方面ニ向ヒ主ナル水道渠ヲ鑿チ市內ノ高所ニ設ケタル次位ノ三貯水塲ニ送水セリ第一ノ水道ノ通水スル最廣貯水塲ハ其容積一二〇、〇〇〇立方「メートル」其他ノ三ケ所ノ貯

水塲即チシユメール及ニーデルベルヒノ兩貯水塲ノ容積ハ三六、〇〇〇立方「メートル」ラエルベル貯水塲ノ容積ハ僅ニ二七、〇〇〇立方「メートル」ニ過キサルナリ

豫定ノ見積ハ前記ノ兩水源ハ少クトモ日々七五、〇〇〇立方「メートル」ノ水量ヲ產出スヘキ筈ナリシモ冬季ニ於テハ其水量ハ往々著ク豫定ノ水量ヨリ減シ千八百七十三年以後都市ノ發展頗ル劇甚ナルニ從ヒ愈々其水源地ノ水量ノ不足ヲ感スルコトヽナリタルヲ以テ千八百七十七年以來維也納市會ハシユネーベル附近ニ次位ノ水源地ヲ開鑿シ前記ノ水道ヲ經テ日々三六、〇〇〇立方「メートル」ノ水ヲ引用シ其不足ヲ補ハントノ決議ヲ爲シタリ然ルニ其決議ヲ執行セントスルニ當リ水源地ノ附近ノ地主ハ其地方ノ水ヲ都會ニ奪ハレントスルヲ憤リ不服ヲ唱ヘタルヲ以テ之カ爲メ意外ノ困難ニ遭遇シタリ實ニ其水道工事カ漸ク千八百九十四年ニ竣功セシヲ視ナハ以テ地主ノ苦情ヲ鎭壓スルノ至難ナリシヲ知ルヘキナリ

維也納市ハ水源地方及其下流ノ人民ヨリ意外ノ苦情起リ其起工ノ後ルヽヲ目擊スルヤヴィネー、ヌースタート水道ヲ建設セシ谿谷ノ入口ナルポットシャク地方ノ地下水ヲ探リ八ケ所ニ井戸ヲ穿チ日々三萬三千立方「メートル」ノ水量ヲ維也納市ニ導カントスル決議ヲ爲シ更ニ同地ニ揚水工塲ヲ建設シ必要ニ應シ其井水ヲ揚水シ最モ近キフランツアー、ジョゼフ水道ニ送水スルコトヲ得タリ然レトモ其工塲ハ冬季ニ際シ水源ノ水量不足スル塲合ニ限リ之ヲ使用セリ該井水ノ溫度ハ零度以上六度乃至十度ノ間ニ在リテ其水質モ亦稍々佳良ナリシヲ以テ之ヲ源泉ノ水ニ混淆スルモ敢テ不都合ナカリシナリ

フランツアー、ジョゼフ水道ノ高サハ二七五「メートル」四四ナルヲ以テ其水管ハ平均一「キロメートル」毎ニ二「メートル」八〇ノ勾配ニ相當セリト雖モ其勾配ハ頗ル不同ナリシヲ以テ高低アル各地方ニ同量ノ水ヲ送ラントスルニハ其地方ニ適當ナル措置ヲ要セシヲ以テ水道管ノ長サノ十分一毎ニ岩石ヲ穿チ水溜トナシ谿谷ヲ横斷セントスルニハ各地「サイホン」ヲ築造セリ該「サイホン」ノ總延長ハ五八六「メートル」ニシテ其構造ハ實ニ美觀ヲ極メタリ

飲用水ヲ高地ナル貯水塲ニ揚水セルニ拘ラス維也納市中二ケ所ノ高地ニ對シテハ同水壓ヲ以テ給水スルコトヲ得サリシヲ以テ狹小ナル構造ノ再濾過工塲ヲ設備シタリ海拔二二〇「メートル」四〇ノ高サナルブレイタンスノ水道工塲ニ對シテロザンユーゲル大貯水塲ヨリ用水ヲ送リ更ニ該工塲ヨリ其水ヲ海拔二七四「メートル」ナル工塲附屬ノ貯水塲ニ送リ再ヒシャフベルグニ在ル海拔二六七「メートル」五一ナル次位ノ貯水塲ニ注入スルナリ而シテヴイチルベルグ貯水塲ノ用水ノ一部ヲ「ポンプ」ヲ以テ海拔二七〇「メートル」ナルファヴォリットノ大貯水塲ノ高地ニ送水セリ

以上列記シタル源泉ノ總水量ハ時季ニ從ヒ增減シ冬季ニ於テハ六五、〇〇〇乃至六八、〇〇〇立方「メートル」ノ間ニ在リテ夏季ニ至タレハ其水量ハ一〇五、〇〇〇乃至一一〇、〇〇〇立方「メートル」ノ間ヲ昇降シ猶ホ其他ブットシャツク揚水工塲ヨリ日々「ポンプ」ヲ以テ三六、〇〇〇立方「メートル」ノ水量ヲ送水セルヲ以テ其水量ヲ人口ニ割當ツルトキハ源泉ノ消費量ハ毎人一日六〇乃至六八「リートル」ノ平均トナルヘシト雖モ實際ニ於テハ各人ノ消費高ハ一日約五九「リートル」ニ過キサルナリ

以上述ヘタル良質ノ飲用水供給事業ノ外維也納市ニハ各種ノ設備ヲ爲シ公衆用若クハ工業用ノ爲メ日々七

五、〇〇〇乃至八〇、〇〇〇立方「メートル」水量ヲ供給セリ諸雑用水ハ全ク異ナリタル三方ノ水道ヨリ供給セリ即チ先ツ五十ケ所ナル井水用ニ用ヒ次ニ千八百七十三年ノ博覧會ニ際シプラテールニ設置サレタル揚水工場ヨリ「ポンプ」ヲ以テ送水セルヲ使用シ第三ニハ千八百九十一年ニ免許サレタル維也納水道會社ノ水ヲ供給セリ該水道會社ハヴィアン河ノ兩岸ニ於テ一、四三二、〇〇〇立方「メートル」ヲ容ルヘキ貯水池ヲ建設シ該河水ヲ引用シ之ヲ荒漉トナシ一立方「メートル」ニ付〇、一三六「ミリーム」ノ割合ヲ以テ市民ニ販賣ス之レ即チ維也納市ノ第二期水道工事ノ事蹟ナリトス當時ノ水道事業ハ維也納市ノ各方面ヘ給水スル事ヲ得サリシカ千八百九十年ニ廓外地ヲ市ニ編入シ都市ノ區域ヲ擴張セシ以來愈々用水ノ不足ニ堪ヘサリシヲ以テ維也納市ハ屢々新水道事業ノ問題ヲ調査シタリト雖モ漸クカル、リユーゲル博士ノ市長ノ要職ニ就クニ至リ始メテ其事業ノ端緒ヲ開キタリ而シテ同博士ハ終身其職ニ止マレリ

新市長ハ偉大ナル性格ヲ具備シタル敏腕家ニシテ彼ハ都市ノ主宰者トナリ都市行政ニ長シタル其人格ノ特長ヲ縦横ニ發揮シタリ彼ハ極メテ剛氣寛大ナリシモ己レノ理想ヲ實行セントスルニ當タリテハ條理ヲ逸スルコトアリ又他人ト論爭スルニ當タリテハ動モスレハ粗暴ニ渉ルコトアリト雖モ時ニ臨ミ外交上ノ事件ニ至タリテハ飽迄温和手段ヲ利用スルコトヲ知レリ

維也納市民ノ使用スル現在及將來ノ水量ヲ察シ同市ハ最初各人一日ノ消費高ヲ平均百「リートル」ト定ムルヲ至當ナリトセリ即チ飲用及炊事用トシテ四十「リートル」工業用トシテ三十五「リートル」又公共用トシテ二十五「リートル」ヲ要スルコトヽセリ其後維也納市會ニ於テ同市ノ人口ハ漸次增加シ千九百三十年乃至千九百四十年ノ間ニハ其人口ハ三、五〇〇、〇〇〇乃至四、〇〇〇、〇〇〇ニ達スヘキモノト思惟セリ

千九百十一年ノ人口調査ノ成績ニ徵スルニ人口增加率ハ當時ノ市吏員ノ豫想セシ如ク急速ナラス假令其豫想ハ當時ブダペスト市ニ於ケルカ如ク伯林市ニ於テモ反對者ノ冷笑ヲ促セリ雖モ方今ニ至タリテモ猶ホ維也納市ノ廣大ナル平積ヲ參酌スルトキハ人口增加ノ見積ハ少ク早計ニ失セシ嫌アルモ決テ杜撰ニアラスト言フモ敢テ不可ナク就中其見積高ハ建築地ノ面積一「エクタール」毎ニ最多數ヲ五〇〇人ト定メタリシカ其人口ハ歐州ノ大都會ニ於テハ往々視ル所ニシテ譬ヘハ巴里市ノ如キ近世ノ大都會ニ於テハ其人口ノ右ノ割合ヲ超過スルハ決テ稀ナラサルナリ

歐州ノ平和ハ其人民ノ經濟上ノ發展ヲ促進スヘキヲ以テ果テ維也納市ノ人口カ他日四百萬ニ達スヘシトノ見積ヲ不當ナラストセハ余輩ノ視ル所ニ據レハ毎人日々ノ消費水量ヲ百「リートル」ト見積ルハ餘ニ少量ニ失スルモノト謂フヘシ殊ニ方今公共用ノ爲メ費消スル水ノ總量ヲ個人ノ消費量ニ加算セハ愈々其水量ノ足ラサルヤ明ナリ現ニ巴里市ニ於テハ千九百十年ニ於ケル其消費量毎人一日二七五「リートル」ニシテ其中源泉ノ水一〇一「リートル」ハ家事用ニ供シ一七四「リートル」ハ公共用及工業用ニ供セシモノナリ維也納市ニ於ケル最近ノ給水事業ヲ起サヽル以前ニ於テハ源泉ノ消費量ハ毎人六〇「リートル」ニ近カリシナリ然ルニ巴里市ニ於テハ河水ヲ重ニ公共用ニ供セリト言フハ至當ノ言ニシテ暑季ニ至タレハ飲用水ヲ冷サンカ爲メ源泉濫費セリト雖モアルプス支山脈ノ水ハ極メテ清冷ナルヲ以テ維也納市ニ於テハ其濫費ヲ避クルヲ得ヘキナリ維也納市ニ於テハ千九百三十年以前ニ公共用及工業用ノ水量ヲ增加スルヲ要スルヤ敢テ疑ナキカ如

シ

千八百九十七年乃至千九百年間ニ維也納市ハ更ニ水道調査ノ歩ヲ進メ千九百年三月二十七日ニ市長ノ建議ヲ承認シ維也納市ハ其西南ニ當タリ一九一「キロメートル」ヲ距テタルサルザーノ谿間スアーヴノ結氷水源ノ利用方法ヲ調査シタル原案ヲ採用シタリ該水源ハ二十四時間ニ二〇〇、〇〇〇立方「メートル」水量ヲ供給スヘキ豫定ニシテ同水ノ導水費ハ一億「クーロンス」即チ一億五百萬「法」ノ費用ヲ要スヘキナリ

シユネーベル水源ノ水道工事ニ對シ反對論者アリシヲ以テ久ク之カ實行モ延滯セシカ漸ク其反對說ノ破ルヽニ至レルヲ以テサルザー水源地及之ニ附屬セル土地ノ買收ハ千九百二年ニ終了シタリ

維也納市ハ新舊水源地保護ノ目的ヲ以テ其周圍ノ廣大ナル土地ヲ買收シ又最近ニ至リ水道工事ニ關スル設備ヲ監督スル爲メ極メテ廣汎ナル權利ヲ市ニ與ヘ水道ノ保護地帶ヲ定メ其地帶内ニ於テハ總テ水流ヲ埋メントスル工事ヲ禁止シ且其地帶ヲ山林局ノ監督ニ附セントスル法律ヲ議會ニ於テ可決スル所トナレリ（一九一〇年十二月二十二日法律）

新水道ノ設計案ノ大要ヲ擧クレハ左ノ如シ

先ツクラフェルブリュンス、シーベンス、ホルバック、ブリュングラベン、シュレイエー、クランム、及セイセンステンノ六水源ノ水ヲ一ケ所ニ集合セシメ是等ノ水源ヨリノ送水量ハ二十四時内ニ二〇〇、〇〇〇立方「メートル」ニシテ其内ノ主ナル水源即チケラフェルブリュース及シーベンスノ兩水源ハ水量最モ少ナキ時ニ於テモ日々一〇〇、〇〇〇立方「メートル」ノ水量ヲ供給スルナリ第二ニハ延長百六十三「キロメートル」ノ「コンクリート」ノ水道溝二十一「キロメートル」ノ曲管八「キロメートル」ノ各種ノ設備即チ水道橋「サイホン」等ノ設備ナリ之ニ亞クハ十二ケ所ノ貯水塲ノ建設ニシテ其一ハ二八、五〇〇立方「メートル」三ケ所ノ貯水塲ハ約一二、〇〇〇立方「メートル」他八ケ所ノ貯水塲ノ容積ハ五、五〇〇「メートル」乃至三〇〇立方「メートル」ノ間ニ在ルナリ終ニ總計四一「キロメートル」ノ延長ニ渉リ直徑一「メートル」一一乃至一〇「サンチメートル」ナル給水管ヲ埋設セントスル工事ナリ

其後總費用ヲ精算セシニ其費用ハ工事仕樣書ニ記シタル如ク一〇五、〇〇〇、〇〇〇「法」ヲ超過スルコトナク又受負帳ニハ其工事ノ竣功期ヲ千九百十年十月トシ給水事業ヲ千九百十年十二月二日ニ開始スルコトヽセリ假令其事業開始ノ許可指令ハ既ニ千九百六年二月二十三日ニ交付セラレタリト雖モ總テ豫定ノ日限ニ其事業ニ着手ノ準備ヲ爲セリ佛國ニ於テハ同盟罷工ノ災ハ動モスレハ公共事業ノ工廠ニ於テ既ニ豫定シタル事業ノ進行ヲ妨クルコトアルヲ以テ到底前述ノ如キ成績ヲ望ムヘカラサルナリ該新水道モ亦フランソアヽ、ジョゼフ皇帝水道ト稱シ六ケ所ノ水源ヨリ二十四時内ニ供給スルヲ得ヘキ水量ハ二〇〇、〇〇〇「リートル」ナルヲ以テ該水道ハ其水量ヲ導カンカ爲メ設ケタルモノニシテ維也納市ノ廓外ナル海拔三二七「メートル」五〇ナルモーエーニ送水セリ

水道管ノ極端ハ僅ニ二、〇〇〇立方「メートル」容積ナル貯水塲ニ達ス而シテ該貯水塲ハ其容積僅ニ二、〇〇〇立方「メートル」ナリト雖モ方今ニ於テハ該貯水塲ヨリ全市ヘ給水セリ十二ケ所ノ新貯水塲中七ケ所ノ貯水塲ハ其水平較々モーエーノ貯水塲ヨリモ低キヲ以テ該貯水塲ヨリ直ニ給水ヲ爲シ其以前ハロザンユーゲ

ルノ中央貯水塲ヨリ全市ノ給水ヲ爲セリ然レトモ右ノ七ケ所ノ貯水塲ハ著ク高キヲ以テ中央貯水塲ヨリ給水スルコトヲ得サルナリ他ノ五ケ所ノ貯水塲ハモーエーノ首腦貯水塲ヨリモ四三「メートル」乃至一七三「メートル」ノ高サニ在ルヲ以テ勢ヒ該貯水塲ニ給水セントスルニハ水壓「ポンプ」ヲ用ヒ揚水セサルヲ得ス水壓工塲ノ器械ヲ運轉セントスルニ必要ナル水力ハ巧妙ナル設計ヲ用ヒ最モ低キ二ケ所ノ貯水塲ノ餘力ヲ供給セラルヽナリ二ケ所ノ貯水塲ニ在ル直軸水車ハ發電機ヲ運轉セシメ該發電機ヲ以テ極度ノ水壓ヲ原動力トナセル電力ヲ水壓「ポンプ」ノ電氣ハ原動器ニ送電シ以テ五ケ所ノ最高貯水塲ニ用水ヲ供給スルナリ電力ヲ用ヒ遠隔ノ地ニモ水力ヲ傳送シ得ルノ便ヲ利用シ維也納市ノ技師ハ殆ト無代價ニテ四二四馬力ノ勢力ヲ自由ニ使用スルノ便ヲ發見シタリ故ニ蒸汽力ヲ用ヒ該「ポンプ」ヲ運轉セシメントスルニ必要ナル費用ノ四分ノ三ヲ節約セシモノト謂フヘシ

都テ貯水塲ハ二十四時内ノ配水量ノ二倍ヲ容ルヽニ足ルヘキ容積アルモノト定メタルヲ以テロザンユーゲルノ舊貯水塲ハ之ヲ擴張シ中央ノ水道ニハ該貯水塲ヨリ給水スルコトヽセリ

第二回ノ導水工事ノ際ニ敷設シタル水道管ノ大部分ハ舊貯水塲ト新貯水塲トヲ聯絡セシメ第二回水道ノ總水量ノ過半ヲ第一回ノ水道ニ送水セルヲ以テ目的トセリ舊水道管ヲ利用シ且新水道水ノ受水塲ヲ高メタルカ爲メブレイタンス及ファヴォリットノ潴水塲ニ在ル水道工塲ハ不用トナリタルヲ以テ目下同工塲ノ器械ヲ電燈用ニ使用セリ

以上ノ大工事ハ實際上其價値アリシヲ以テ巴里市水道ノ技師長コルメー、ダージュ氏ハ深キ注意ヲ以テ其工事ヲ繼續シ給水事務長ヴィペール氏ヲ實地ニ派遣シ之ニ技術的工事及新水道渠ノ調査ヲ委ネタリ該專門家ハ有益ナル報告書中ニ維也納市ノ改良工事ヲ特筆シ且從來壓力ヲ用ヒタル大水管ハ動モスレハ破烈セラル、憂アリシモ近頃巴里市ノ起セシ工事ハ其憂ヲ除カントスルヤ敢テ疑ナキナリ

維也納市ニ於テハ個人用ノ水量ハ量水器ヲ以テ計リ若シ源泉及河水ヲ算用スルモノアルトキハ同時ニ又各別ニ量水器ヲ設備セリ特ニ工業用ニ供スル河水ハ一立方「メートル」方平ニ付二十「クローヌ」ニテ販賣セリト雖モ若シ其水量多量ナルトキハ其價率ヲ大ニ低減シ七十五「プロセント」迄減スルコトヲ得ヘキナリ

水源ノ水ニ就テハ其價率ハ左ノ如シ

(イ)普通ノ炊水用ニ就テハ毎人一日二五「リートル」ニ付五「クローヌ」即チ一「エクトリートル」ニ付一ケ年五「法」二五トシ其外ニ工事ノ費トシテ一「クローヌ」ノ確定使用料ヲ徴收ス

(ロ)工業用及無届ノ使用高ニ就テハ八「クローヌ」若クハ一ケ年一「エクトリートル」ニ付八「法」四〇トシ猶ホ之ニ一「クローヌ」ノ定額使用料ヲ加フ

(ハ)屆出ナキ餘分ノ使用量ニ就テハ一「エクトリートル」ニ付四「ユーレル」(四「サンチーム」余)

其外ニ水道附屬品ノ貸附料モ甚タ廉ニシテ一般ニ使用セラル、量水器ノ取付料及貸附料トシテハ一ケ年十「クローヌ」乃至二十「クローヌ」トシ最モ高率ノ貸附料ト雖モ一ケ年四〇「クローヌ」ヲ超過スルコトナキナリ

方今維也納市ニ於テハ清淨ナル飲用水ヲ一日ニ(最多量ノ日)三三八、〇〇〇「メートル」立方ヲ使用スルヲ以テ之

ヲ現時ノ人口ニ對比スルトキハ其數量ハ毎人一日一七〇「リートル」ニ相當ス然ルニ一方ニ於テハ最近十年間ニ人口著ク增加シタルモ又一方ニ於テハ假令同市ノ給水料ニ算入セサルモ上文ニ示シタル雜用水八五、〇〇〇「メートル」立方ノ補充水アルヲ以テ其增加率ト補充水トヲ對照スルトキハ比年完成シタル水道事業ハ假令千九百四十年後ニ至ルモ其市民ノ需要ニ應スルニ餘アルヤ明瞭ナルカ如シ現ニ千九百八年度ノ水道ノ消費高ヲ視ルニ炊事用ニ供スル飲用水ノ最多量ノ消費高ハ九二、二〇六「メートル」立方、工業用水ハ一九、二二二「メートル」立方及公道用ノ水量ハ一五、三八二「メートル」立方ナルヲ以テ之ヲ合計スルトキハ其總量ハ約一二七、〇〇〇「リートル」トナリ最近ノ調査ニ對照スルモ其總量ハ一三五、〇〇〇「メートル」立方ニ達セシコトナキヲ以テ改良サレタル維也納市ノ人口ノ增加ハカル、リュゲール博士ノ遠大ナル豫想外ニ出ツニ非ラサレハ千九百五十年ニ至タルモ更ニ水道工事ヲ起スノ必要ナカルヘシ然レトモ如何セン其事實ハ今日ヨリトスルコトヲ得サルナリ

余輩ノ見解ニ據レハベルグラン氏カ市街水道ニ關スル羅馬人ノ法則ノ要領ヲ探知シ千八百五十七年以來巴里市ノ水道事業ニ應用シタル其主意ハ維也納市ニ於テ最後ニ採用シタル水道事業ノ解決ニ大ナル影響ヲ及ホセリ假令巴里市ト維也納市トハ水道工事ノ費用ニ就テハ互ニ比較スルヲ得ヘシト雖モ時代ヲ距テ遠隔ノ地方ニ於テ起シタル異種ノ水道工事ヲ對照スルモ亦敢テ徒勞ニアラサルヘシ唯茲ニ一言セントスルハ巴里市ニ於テ起シタル水源ノ導水工事ハ其費用ヲ維也納市ニ於ケルシユネーベル水源ノ導水工事費ニ比フレハ甚タ低廉ニシテ又其費用ヲ千九百十年末ニ竣功シタル第二回ノ導水工事費ニ比フレハ更ニ著タ低廉ナルコト是レナリ

維也納市ニ於テハ第一回ノ水道工事ノ際ニハ水管一「メートル」ノ費用ハ七三四「法」ニシテ該工事ニ依リ現今ノ水量ノ二倍ヲ送ルヲ得ヘクヤ疑ナク將來ハ現今ノ水源ヲ擴張セスシテ新水源ヲ發見スルヲ得ヘク又最近ノ導水工事ニ就テハ一「メートル」ノ費用ハ五四六「法」トナレリ

巴里市ニ於テ最多額ノ費用ヲ要シタルハアーヴル水道工事ニシテ水道費一「メートル」ニ付其費用ハ三九二「法」ニ相當シヂュイー、アーヴル、ヴァンヌ、ロアンニ及リュヂンノ水道工事ノ平均價格ハ一「メートル」ニ付約二六〇「法」ナリキ今水道ノ敷設費ヲ「メートル」ニ付計算セスシテ巴里及維也納ノ兩市ニ於テ各々其都會ノ貯水塲ニ日々千「メートル」立方ノ水量ヲ導ク爲メ費シタル費用ノ割合ヲ比較スルトキハ維也納市ノ最初ノ導水工事ハ六〇〇「法」第二回ノ工事ハ五二五「法」ニシテ巴里市ノ工事ハ四一九「法」ニ相當セリ

假令兩市ノ水道管、貯水塲ハ勿論大導水渠ニ至ルマテ皆ナ同型ニアラスト雖モ後段ノ比較ハ兩市ニ於テ半世紀間ニ互ニ敷設シタル水道工事ニ「メートル」ノ費用ノ比較ヨリモ較々其當ヲ得タリトスルモ有名ナル統計學者ノ說ハ予輩ヲシテ讀者ニ該計數ハ唯其多寡ヲ示シタルニ過キスシテ其對照ニ餘ニ重キヲ置カサランコトヲ忠告セシムルナリ

又技術家ノ明言スルトコロ果テベルグラン氏ノ學校ニ於テ養成サレタル巴里ノ技師ノ工事ノ維也納市ノ競爭者ノ工事ト均ク羅馬人ノ理想ヲ承繼セシモノトセハ方今ノ水道ノ圖面ハ頗ル正確ニシテ今日ノ工事ハ其用材ヲ節約スルコト殆ト昔日ト比較スルヲ得サル程ナレハ今日ノ工事ハ古代ノ遺跡ヨリモ却テ世人ヲ感激

セシムヘキハ當然ナルニ專門家カ若シ古代ノ水道工事ヲ相當ニ修理保存セハ其堅牢ノ程度及其命脈古人ノ有名ナル工事ハ現時ノ工事ト毫モ異ナル所ナキノミナラス寧ロ之ニ優レルヲ明言シテ憚ラサルコトヲ聽カハ多數ノ所古學者ノ一驚ヲ喫スヘキヤ敢テ疑ナキナリ

前記ノ事實ノ外善良ナル給水事業カ公衆衛生上ニ及ホス効果ノ如何ヲ陳述スルハ敢テ徒勞ニアラサルヘシ現ニ傳染病中人口稠密ノ都會ニ於テ腸窒扶斯病ニ及ホス飲用水ノ影響如何ハ殊ニ其効果ヲ明ニスルヲ要スルナリ何トナレハ該病傳染ノ系統ハ殆ト常ニ飲用水ノ汚染ニ歸着スレハナリ

余ハ巴里市水道事務長ジァツク、ベルチロン博士ノ數年ノ調査ニ基キ其死亡者ノ計數ヲ擧示セントス

千八百六十年前ニ於テ巴里市カ未タセース河及ウールク運河ノ汚水ヲ飲用セシ當時ニ於テハ腸窒扶斯患者ノ死亡率ハ一ケ年平均人口十萬ニ對シ二〇七人ナリシガ(千八百五十四年乃至千八百五十六年)ベルグラン氏カ給水事業ヲ開始セシ以來數年ナラスシテ巴里市ニ於ケル腸窒扶斯ノ死亡者ハ人口一〇〇、〇〇〇ニ付一ケ年平均五六人ニ過キサルナリ最後ニ水源ノ水ヲ引キ夏季ノ炎熱ノ時ニ於テモ多量ナル清水ヲ配布シ且水質ノ水質ハ汲取地ニ於テ顯微鏡的檢査ヲ行ヒ豫メ之ヲ檢査スルノ便ヲ得タル以來巴里人中腸窒扶斯病ノ死亡者ハ更ニ減シ人口一〇〇、〇〇〇ニ付一二人ヲ降リタリ

方今巴里市ノ人口ハ約二、八〇〇、〇〇〇ナルカ故ニ概ネ飲用水ノ爲メ其生命ヲ保全スル者ハ人口一〇〇、〇〇〇ニ付一九五人ナリ之ヲ換言スレハ毎年五、四六〇人ノ巴里人ハ水道ノ爲メ死亡ヲ免カルヘシ又良質ノ飲用水カ腸窒扶斯病ト均ク天然痘猩紅熱等ノ死亡數ヲ減セントスル影響ヲ來タセシヤ事實ナリト雖モ其死亡率ヲ定メントスルニハ甚タ容易ナラサルナリ

伯林市ノ調査モ亦巴里市ト均ク幸福ナル成績ニシテ現今ノ水道事業ヲ企テサル以前即チ伯林人民カ個人ノ井水ヲ使用セシ時代ニ於テハ其水ハ水底淺キ井戸ヨリ汲取ルヲ以テ動モスレハ汚染セラル、カ故ニ腸窒扶斯ノ死亡者ハ毎年人口一〇〇、〇〇〇ニ付百人ニ達セリト雖モ淨水ヲ供給セシ以來其死亡率ハ人口一〇〇、〇〇〇ニ付十一人ニ減シタリ(千八百八十六年乃至千九百年)

維也納市ニ於テモ市民カ井水ヲ捨テ泉水ヲ專ラ飲用ニ供スルコト、ナリシ以來比較的人命ヲ救助スルコトナリ從來人口一〇〇、〇〇〇ニ對スル死亡者ノ比例ハ六十五人ニ當タレリト雖モ毎年ノ腸窒扶斯病ノ死亡率ハ十四人半(千八百八十一年乃至千八百九十年)ニ減シ千八百九十九年乃至千九百年時代ニ至タリテハ更ニ一〇〇、〇〇〇人ニ付六人ニ減シタリ

由是觀之多量ノ清水ヲ大都會ニ供給スル爲メ時々莫大ナル資金ヲ投スルモ著ク人命ヲ救助スルコトヲ顧ルトキハ決テ惜ムニ足ラス又今後モ決シテ惜ムヘカラサルコトヲ明言スルニ憚ラサルナリ



# ○第二回萬國阿片會議

目　錄

第一號　英國代表者一ノ訓諭

第二號　英國代表者ヨリノ報告
第三號　一千九百十三年七月九日ニ於ル最終決議
第四號　サー、エー、ジョンストン氏ヨリサー、エドワード、グレー氏ヘノ上申書

本文ハ一千九百十三年七月海牙ニ於テ開催サレタル第二回萬國阿片會議ニ關スル通信是レナリ、

## 第一號

今マ左ニ掲クル所ノモノハ一千九百十三年六月三十日外務省サー、エドワード、グレー氏ヨリ第二回萬國阿片會議ニ參列スヘキ英國代表者ヘ訓諭シタルモノナリ、

諸君ヨ諸君ハ既ニ御承知ノ如ク我政府ヨリ選拔セラレテ、英國ノ代表者トナリテ來ル七月一日ヨリ海牙ニ於テ開催セラル、第二回萬國阿片會議ニ參列セラル、ノ人ナリ、而シテ其阿片會議タルヤ一千九百十二年一月ヲ以テ開催サレタル萬國阿片會議ノ決議事項ノ承認ノ事ニ關シテ商議セント欲スルモノ是レナリ、

前阿片會議ノ如何ニ困難ナリシヤハ尚ホ諸君ノ記臆内ニ存シテ、忘レラレサルハ亦タ疑フヘカラサル所ナリ、蓋シ前會議ノ困難ナリシハ主トシテ左ノ事實ニ基カスンハアラス、曰ク第一回阿片會議ニ代表者ヲ參列セシメタル國ハ僅カニ十二ケ國ニ過キス、斯ル少數ナル國ノ代表者カ相會シテ萬國會議ノ名ノ下ニ議決シタル事柄ヲ充分ニ實行セシメントスルハ、殆ント不可能ナリト謂フヘキナリ、且ツ此會議ニ代表者ヲ派遣シタル國々ノ其決議事項ヲ愈々實行スルトセンカ、各國ノ德義上トシテ自國ノ商業上ノ利益ヲ犧牲ニ供セサルヘカラス、然ルニ此第一阿片會議ニ代表者ヲ參列セシメサリシ國ハ如何ト云フニ此決議事項ニ關係



セサリシカ故ニ阿片賣買上ノ利益ヲ失フノ必要ナキナリ、事既ニ然リ、サレハ第一回阿片會議ノ議決事項ハ多クノ箇所ニ實行セラレサルモノト云ハサルヘカラス、之ヲ云ヒ換フレハ此等ノ國トハ第一阿片會議ノ目的ヲ無視スルモノト謂ツヘキナリ、今マ第一回阿片會議ニ代表者ヲ派遣セサリシ國々ノ中ニテ、殊ニ土耳其ノ如キハ生阿片ヲ產出シ、ペーリウ及ボリヴ゛ァアノ如キハ「コカイン」ヲ產出スルノ國ニアラスヤ、サレハ此等ノ國々ハ阿片會議ト最モ重要ナル關係ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス、然ルニ此等ノ國々ニシテ第一回阿片會議ニ代表者ヲ參列セシメサリシナリ、且ツ亞米利加及歐羅巴ヲ通シテ第一回阿片會議ノ案內ヲ受ケテ代表者ヲ參列セシメサリシモノ都合三十四ケ國ノ多キニ及ヘリ、此ニ於テカ差シ當リ緊急事件ト云ヘルハ彼ノ決議事項ニ調印シタル列國ヲシテ之ヲ承認セシムルニアラス、彼ノ參列セサリシ三十四ケ國ヲシテ彼ノ決議事項ニ調印セシメ而シテ參列シタル國々ト同一ノ步調ヲ取ラシメンコト是レナリ、

彼ノ第二十三條ニハ左ノ如キコトヲ規定セリ、曰ク彼ノ決議事項ニ對シテ調印センコトヲ促カサレタル國國ニシテ、一千九百十二年十二月三十一日マテニ何タル回答ヲモ爲サ、ル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハネゼルランド政府ハ直チニ左ノ如キ處分ヲナサンコトヲ要ス、曰ク右ノ期限マテニ既ニ調印シタル國々ヘ對シテ、彼ノ決議事項ノ承認如何ヲ確カメル爲メニ海牙ニ參會セラルヘキ代表者ヲ任命セラレ度旨書面ヲ以テ照會センコトヲ要ス、

ネゼルランド政府ハ右ノ規定ニ基キテ外務省ヲシテ我政府ニ左ノ如ク通知セシメタリ、曰ク彼ノ萬國阿片會議ノ決議事項承認ノ件ヲ商議センカ爲メニ來ル六月海牙ニ於テ開會致シ候ニ付、貴國ノ代表者御派遣相

成度云々、且ツ此案内狀ト共ニ彼ノ第二十二條ノ規定中ノ追加規定ニ調印シタル國々ノ一覽表及彼ノ期限マテニ回答セサルカ、或ハ斷然調印スルコトヲ拒ミタル國々ノ一覽表ヲモ差シ越シタリ、

右ノ一覽表ヲ閲スルニ彼ノ追加規定ニ調印センコトノ要求ヲ受ケタル國ハ都合三十四箇國アリ、內實際調印シタルモノ十七ケ國アリ、即チ亞爾然丁共和國。白耳義。ブラジル。コスタリカ。丁抹。ドミニカン共和國。エコードル共和國。ギユアテマラ。ハイチ共和國。ホンジユラス。ルクセンバーグ。墨士哥。巴奈馬。パラガヤ。サルヴァードル。西班牙。ヴヘネヂユラ是レナリ、

又タ昨年末マテニ調印セサリシ國々ヲ擧クレハ左ノ如シ、即チ墺太利匈牙利。ホリヴヤア。ブルガリア。智利。古倫比亞。玖瑪共和國。希臘。モンテネグロ。ニカラガ。諾威。ペーリウ。ルーマニア。セルヴ井ア。瑞典。瑞西。土耳其。ウルガ井是レナリ、

但シ最後ノ十七ケ國ノ內ボリヴ井ア。古倫比亞。玖瑪共和國ノ三ケ國ハ實際調印シタリシナリ、其他ブルガリア。ニカラガア。ウルガヤノ三ケ國ハ調印スルノ意見ヲ有スルコトヲ申告シタリ、

ネゼルランド政府ノ案內狀ハ彼ノ調印ニ關スル列國一覽表ト共ニ我關係部局ヲシテ綴密ナル注意ヲ以テ考慮ヲ費ヤサシメタリ、而シテ我政府ハ左記ノ所說ニ就テ大ニ留意スル所アリタリ、

或ル一面ニ於ル所說ニ曰ク或ル某々國カ好シ彼ノ決議事項ヲ承認セストスルモ、實際印度地方ノ利害ニ對シテ何タル影響ヲ及ホスヘキモノニアラス、又タ東邦ニ於ケル我々ノ殖民地ニ何等ノ影響ヲモ與フヘキモノニアラス、只タ僅カニ彼ノ藥品密輸入ニ際シテ此等ノ國ニ與フヘキ保護ヲ減少セシムルニ過キサルノミ、然レトモ阿片ノ輸入タルヤ由々シキ一大事ナレハ、出來得ヘキ丈ケノ嚴重ナル取締法ヲ設ケサルヘカラス、此ニ於テカ或ル國々カ好シ阿片會議ニ應セサルカ爲メ前路多少阻碍セラル、所アルモ、彼ノ決議事項ハ承認センコトヲ望マシケレ、

又タ他ノ一面ニ於ル所說ニ曰ク歐洲中ニテ最モ重要視セラル、國殊ニ墺太利匈牙利、瑞西及諾威ノ如キ國カ彼ノ會議ノ決議事項ニ贊同セサランカ、其結果トシテ「モルヒネ」及「コカイン」ヲ東邦ニ輸出セシメサラントスル計畫ハ全ク無効ニ歸スヘキナリ、且ツ「コカイン」ニ就テ之ヲ云ハンニ、ペーリウ國カ彼ノ決議事項ニ應セサランカ、歐羅巴諸國カ互ニ聯合シテ該藥品ノ密賣買ヲ禁止セントスルモ其甲斐ナカルヘキナリ、

今マ右ニ列擧シタル國々カ阿片會議ニ關係セサルモノトセンカ、今日ノ狀態ニ於ル阿片會議ハ當初計畫シタル目的ヲ達スルコト能ハサルヘシ、且ツ我政府カ餘議ナク彼ノ決議事項ニ對シテ承認ヲ與フルコトヲ猶豫シタランニハ、指名サレタル列國ヲシテ阿片會議ニ贊同セシムルコト甚ハ困難ナルニ至ルヘキナリ、

阿片會議ニ關係セサル國々ニ於テハ「モルヒネ」及「コカイン」ヲ製造シテ何等ノ制裁ナク之ヲ外國ヘ輸出シ得ヘキナリ、且ツ阿片會議ニ贊同シタル國々ニ於ル現在ノ化學的製造家ハ、恐ラクハ此等ノ會議ニ贊同セサル國ニ於テ其工場ヲ設立シテ利益ヲ得ント欲スルニ至ルヘキナリ、又タ右ノ如ク阿片會議ニ贊同シタル國ノ化學的製造家カ其工場ヲ之ニ贊同セサリシ國ヘ移シ、及其業務ヲ發達セシメ得ルノミナラス、尙ホ其他此等ノ彼ノ會議ニ贊同セサル國々ハ之ニ贊同シタル國ヨリ「モルヒネ」及「コカイン」ヲ輸入シテ何等ノ制

裁ヲモ加ヘラレサリシナリ、殊ニ阿片會議ニ贊同シタル國ノ製造家カ之ニ贊同セサル隣國ヲ仲介者トシテ、其製造品ヲ東方ノ消費者ヘ輸送スルハ最モ容易ナリト云ツヘキナリ、其他我聯合王國ノ製造家ト雖モ尚ホ且ツトラツスト、フェウメ等ヲ仲介者トシテ其製造品ヲ他ニ輸送スルコトヲ得ヘキナリ、

阿片會議ニ贊同セサルペーリウノ事ニ就テ聊カ述ル所アランカ、既ニ前ニモ述ヘタル如ク「コカイン」製造ノ原料ハ大半ペーリウノ產出ニ係ルモノナリ、而シテ同國ニテハ「コカ」葉ノ大ナル分量ヲ壓搾シテ液體トナスモノナリ、斯ク「コカ」葉ヲ壓搾シテ液體トナサンニハ特ニ藥品製造ノ複雜ナル方法ヲ用フルヲ要セス、極メテ單純無造作ノ手續ニテ足ランノミ、然レトモ斯クノ如クシテ得タル液體ノ効力如何ト云フニ、通常使用セラル、「コカイン」鹽ノ成分中重モナル部分ノ十分ノ七ニ相當スヘシト云フ、又タ同國ニ於テ其產出スル分量ニ就テ之ヲ云ハンニ、藥品商ヨリ組織セラレタル會社ノ小工場ニ於テ製出シタル高ハ、全世界ニ於テ消費スヘキ「コカイン」鹽ノ全部ヲ供給スルニ足ルヘキナリ、以テ其製造法ノ容易ナルコト推知シ得ヘキノミ、而シテ「コカイン」ヲ用フル習慣ノ害アルコトハ「モルヒネ」ヲ用フル習慣ノ害ヨリモ尚ホ一層甚タシキモノト云フヘキナリ、故ニ全歐洲ノ列國カ皆ナ悉ク阿片會議ニ贊同スルモ、僅カニペーリウ一國カ否ラストセンカ、斯ル藥品カ何等ノ制裁ナクシテ東邦ニ輸出セラル、ヨリ生スル害惡ハ極メテ甚タシト云ハサルヘカラス、故ニ「モルヒネ」及「コカイン」ノ密賣買ハ嚴重ナル取締法ヲ設ケテ之ヲ禁止セサルヘカラス、乃チ此等ノ藥品ヲ製造スル國々ハ互ニ相聯合シテ之カ取締法ヲ設ケンコトヲ要ス、此等ノ藥品ヲ製造スル國々ハ悉ク皆ナ一致聯合シテ、彼ノ阿片會議ニ議定セラレタル規則ヲ遵奉スルニアラスンハ此等ノ



密賣買ヲ禁止スルコト能ハサルナリ、

今マ我政府ハ或ル國ノ政府カ阿片會議ノ決議事項ニ對シテ、調印スルコトヲ嫌忌スル所以ヲ知リテ、自カラ深ク考慮スル所ナクンハアルヘカラス、是レネゼルランド政府ノ厚意ニ外ナラス、其厚意ニ對シテハ深ク感謝スル所ナクンハアラス、

希臘ハ何タル理由ヲモ示サスシテ單ニ調印スルコトヲ嫌忌シタルモノト思ハル、然レトモ土耳其ハ先キニ經濟上ノ點ヨリ阿片會議ニ參加スルコトカ出來ヌト言明シタリシカ、尚ホ同一ノ理由ヲ以テ調印スルコトヲモ斷リタリ、

瑞西聯邦議會ノ回答ノ要領ヲ擧クレハ左ノ如シ、曰ク阿片會議開催ノ目的ハ人生ノ道義ヲ重ンスルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ、固ヨリ之ニ同情ヲ寄スルハ當然ノ事ニ候得共、瑞西國カ之ニ贊同一致シタルカラトテ何等有用ノ効果モ之レナカルヘシト存シラレ申シ候、因リテ之ニ調印スルコトハ御斷リ申シ候トノ趣意ニ外ナラス、同國カ斯ル意見ニ出テタルハ蓋シ左ノ如キ事實ニ基ケルニ外ナラス、瑞西國ハ阿片ヲ產出スル地ニアラサレハ、無論之ヲ輸出スルノ謂レ之レナク、又タ阿片ヲ誤用スルノ憂ヒ毫モ之レナケレハナリ、尚ホ之ニ附言シテ曰ク瑞西國ニ於テハ阿片、「アルカロキド」及「コカイン」ヲ用フルニ就テハ既ニ嚴重ナル取締法アリテ實行サレツ、アリ、且ツ化學的工場ニ於テ「モルヒネ」及「コカイン」製造業ヲ專ラニスル場合ニハ、地方々々ノ官憲ヲシテ嚴重ニ之ヲ取リ締ラシムルコト、セリ、故ニ今日ノ有樣ニテハ聯邦中央官憲カ此等ノ事ニ關涉スルノ必要ナキナリ、斯ル理由アルヲ以テ阿片會議ノ事ニ調印セサルナリ、

墺太利匈牙利政府ハネゼルランド政府ニ左ノ如ク通告シタリ、曰ク阿片會議ノ決議事項ニ調印スヘキ問題ハ目下尚ホ考慮中ニ有之、且ツ愈ヨ之ヲ實行センニハ更ニ相當ノ法律ヲ設クルノ必要ナクンハアラス、旁旁以テ調印ノ儀幾干カ遲延スルコトヲ免カレス、

瑞典及諾威兩國政府ノ回答ニ曰ク、阿片會議ノ決議事項ニ就テハ更ニ法律ヲ設ケサルヘラカサル事情アルヲ以テ、直チニ調印スルノ運ヒニ至ラスト、又タルーマニア政府ヨリノ通報ニ曰ク調印問題ハ目下相當ノ部局ニ於テ考慮中ニ有之候、

而シテ我英國政府ハ以上掲ケタル列國政府ノ回答ノ理由ノ存スル所ヲ篤ト調査シ、且ツ我政府部内ニ於ル各局課ノ之ニ對スル意見ヲモ聽取シタル上ニテ左ノ如ク決定シタリシナリ、曰ク彼ノ阿片會議ノ決議事項ヲ直チニ承認センコトハ政略上其宜シキヲ得タルモノニアラサルヘシ、然レトモ元來ノ趣意目的ニ從ツテ再ヒ阿片會議ヲ開催セラレタランニハ、我政府ヨリモ相當ノ代表者ヲ派遣セサルヘカラス、是レ至當ノ處分ト謂フヘキナリ、彼ノ墺太利匈牙利、瑞典、諾威等ノ諸政府カ新タニ法律ヲ設ケサルヘカラサル困難アルヲ理由トシテ調印スルコトヲ遲延セントスルハ謂レナキコトニシテ、畢竟スルニ誤解ニ出テタルニ外ナラス、是レ他ナシ阿片會議ノ規則第二十四條ニ左記ノ如キ規定アレハナリ、曰ク彼ノ決議事項承認後九ケ月間ハ阿片會議ニ關スル法律規則ヲ設クルヲ要セスト、其他瑞西國ノ回答ヲ視ルニ彼ノ決議事項ヲ愈ヨ實行スルニ至リタラン場合ハ、萬國一般ニ協同一致ノ步調ヲ取ルノ必要アリトノコトヲ知ラサルニ歸センノミ、尚ホ更ニ阿片會議ヲ開カントスルノ主意ハ第一回阿片會議以後彼ノ決議事項ニ調印シタル國々ヲシテ愈ヨ之ヲ承認セシムル手段ヲ取ルノミニ止マラス、其他彼ノ決議事項ニ調印スルコトヲ嫌忌シ、若クハ今日マテ調印スルコトヲ遲延シタル國々ヲシテ調印セシムヘキ方法ヲ講セントスルコト是レナリ、又タネゼルランド政府ヨリノ案内狀ニ對スル或ル某々國ノ回答ヲ視ルニ、阿片會議ノ主意目的ノ誤解ニ出テタルモノト思ハル、然レトモ斯ル誤解ハ恐ラクハ飜然氷解スルノ塲合アルヘキナリ、而シテ今ヤ既ニ調印シタル列國カ互ニ聯合一致シテネゼルランド政府ノ行動ヲ幇助シ以テ事ヲ成就セシムヘキノ時期到來セリト謂ツヘキナリ、

我政府ハネゼルランド政府ヨリノ案内ヲ快諾シテ代表者ヲ選定シ海牙ニ派遣セシムヘキ旨ネゼルランド外務省ヘ通知シタリ、而シテ予ハネゼルランドノ官邊ヨリ來ル七月一日ヨリ阿片會議ヲ開催スヘキ通知ニ接シタリ、

諸君ニシテ會議ニ列セラレタランニハ尚ホ彼ノ決議事項ニ調印セサル多數ノ列國代表者ノ前ニテ、我英國カ彼ノ決議事項ヲ承認スルノ時期尚ホ未タ熟セサル旨開陳セラレンコトヲ要ス、然レトモ是レ決シテ我政府カ之ヲ承認スルコトヲ嫌忌スルノ意ニアラス、畢竟スルニ承認スルノ時期尚ホ早シト云フニ過キサルノミ、諸君ニ於テ此邊ノ所能ク了解シ置カレンコトヲ望ム、而シテ諸君ニ對シテ最モ盡力セラレンコトヲ望ンテ止マサルモノアリ、他ニアラス、是レマテ種々樣々ノ理由ノ下ニ尚ホ未タ調印セサル國々甚ハタ少ナカラス、諸君ニ於テ此等ノ國々ヲ誘導シテ毫モ遲疑スル所ナク出來得ヘキ丈ケ速カニ調印セシムヘキ樣充分御盡力アランコトヲ望ム是レナリ、斯クテ諸々ノ列國カ調印シタランニハ、我國及他ノ列國カ愈ヨ之ヲ

承認シテ實行セシムルノ運ヒニ至ルヘキナリ、

以下述ヘタル訓諭ハ會議ニ參列セラル、諸君ノ御心得トナルヘキモノ、概要ニ過キス、尚ホ右訓諭中ニ疑ハシキ點モ候ハ、本省ニ就キテ御質問アランコトヲ望ム、

最後ニ臨ンテ附言スヘキ一事ノアルアリ、开ハ他ニアラス、諸君カ會議ニ列シテ或ル議事ニ賛同ノ意ヲ表スヘキ權能ヲ有セラル、コトナルカ、其權能ハ絶對的ニ專斷力ヲ有スルモノニアラス、時ニ或ハ本國政府ノ意見ニ從フテ之ヲ用ヒンコトヲ要スルノ一事是レナリ、

イー、グレー

## 第二號

一千九百十三年十月一日付ヲ以テ第二回萬國阿片會議ヘ參列シタル英國ノ代表者ヨリ外務省サー、エドワード、グレー氏ヘ差シ出シタル書面、

サー、エドワード、グレー閣下今マ吾人ハ閣下ニ一ノ書面ト一ノ書冊トヲ捧呈スルノ光榮ヲ有セリ、即チ其書面トハ第二回萬國阿片會議ニ參列シタル各國代表者カ七月九日海牙ニ於テ調印シタル終結議案タルモノ、又タ其書冊トハ右阿片會議ニ關スル詳細ナル議事錄ナルモノ是レナリ、尚ホ吾人ハ斯ク閣下ニ書ヲ寄スル機會ヲ利用シテ、此阿片會議ノ進行上及其結果ニ就テ聊カ意見ノアル所ヲ述ヘント欲ス、願ハクハ閣下此意ヲ諒セヨ、

抑モ第二回萬國阿片會議ナルモノハネゼルランド政府カ萬國阿片會議規則第二十三條中第二項ノ規定ニ從ツテ召集シタルモノ是レナリ、蓋シ此規定ナルモノハ一千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ列國代表者ノ調印シタルモノニシテ、其規定ノ成文ヲ擧レハ左ノ如シ、曰クネゼルランド政府ヨリ調印セラレンコトノ要求ヲ受ケタル列國中ニシテ、一千九百十二年十二月三十一日マテニ何タル回答ヲモナサヽルモノアランカ、斯ル場合ニ於テハネゼルランド政府ハ直チニ左ノ如キ處置ヲ取ランコトヲ要ス、曰ク右期限マテニ調印シタル列國ヘ對シテ阿片會議ノ決議事項承認ノ事ニ就テ商議センカ爲メ、海牙ニ於テ會議ヲ開キ候間御派遣ノ代表者御選定相成度トノ通牒ヲ發センコトヲ要ス、

此阿片會議召集ヲ促カシタル事情及我英國政府カネゼルランド政府ノ召集案内ニ對シテ快諾ヲ與ヘタル理由ハ、閣下ヨリ吾人ニ賜ハリシ御訓諭ノ主意ニテ既ニ明瞭ナレハ、今更喋々スルノ必要ナシト信ス

第二回萬國阿片會議ハ七月一日ヲ以テ開催セラレタリ、開會ノ挨拶ハネゼルランド政府ノ外務大臣ジョンキアー、デ、ソレース君之ヲ述ヘラル、同君開會ノ挨拶ハ極メテ簡短ナリシモ列國代表者一同ニ歡迎セラレタリ、其挨拶ノ大要ニ曰ク當第二回萬國阿片會議ノ集會タルヤ遺憾ナカラ阿片會議當初ノ主意目的ヲ充分ニ達シ得タルモノト云フヘカラス、蓋シ追加終結議案ニ調印セラレンコトノ要求ヲ受ケタル列國中何タル回答ヲモ爲サヽルモノ居多ナレハナリト、

本會開會ノ時ニ方リテ實際調印シタルモノハ案内ヲ受ケタルモノ三十四ケ國ノ内二十二ケ國ナリシナリ、即チ亞留然丁共和國。白耳義。ボリウヴィア。ブラヂル。智利。古倫比亞。古斯太利加。玖瑪共和國。丁抹。ドミニカン共和國。エコードル共和國。カアテマラ。ハヰチ共和國。ホンジュラス。ルキセンバーグ。墨

士哥。ニカラカア。巴奈馬。パラガヰ。サルヴァードル。西班牙及ヴェネヂュラ。合衆國是レナリ、而シテ此等ノ列國ニ第一回會議ニ參列シタル十二ケ國ヲ加フレハ都合三十四ケ國トナルベキナリ、此等ノ三十四ケ國ハ皆ナ被ノ決議事項ニ調印シタルモノニ外ナラサルナリ、斯クテ尙ホ全ク彼ノ決議事項ニ調印セサルモノハ僅カニ十二ケ國ニ過キサルナリ、即チ墺太利匈牙利。ブルガリア。希臘。モンテネグロ。諾威。ペーリウ。ルーマニア。セルヴィア。瑞典。瑞西。土耳其及ウルガヰ是レナリ、

第一會議ニ於テ調印シタル國々ハ波爾斯亞ヲ除クノ外皆ナ是レ第二阿片會議ニ參集シタリシナリ、又タ追加ノ終結議案ニ調印シタル二十二ケ國ノ内當會議ニ參列セサリシモノハ僅カニ九ケ國ニ過キサルナリ、即チボリヴィア。玫瑰共和國。カウテマラ。ホンジュラス。ニカラガ。巴奈馬。パラガヰ。サルヴァードル及ヴェネヂュラ合衆國是レナリ、斯クノ如キ次第ナルカ故ニ實際當會議ニ代表者ヲ派遣シタル國、及此等ノ國ヲ紹介シテ一千九百十三年七月九日ノ終結議案ニ贊同ノ意ヲ表明シタル國ヲ擧レハ左ノ如シ、曰ク亞丁然丁共和國。白耳義。ブラヂル。智利。支那。古倫比亞。古斯太利加。丁抹。ドミニカン共和國。ネゼルランド。エコードル。佛蘭西、日耳曼、大不列顛。ハヰツ。伊太利。日本。ルキセンバーグ。墨士哥。葡萄牙。露西亞。暹羅。西班牙及亞米利加合衆國是レナリ、之ヲ一回阿片會議ノ參列者ニ比較スレハ恰カモ是レ倍數ニ當レリ、實ニ多數ナリト謂ツヘキナリ、

斯クテ本會議ノ第一集會ノ順序ハ純然トシテ最モ正式ニ執行サレタリ、佛蘭西及日耳曼ノ代表者ハ海牙ニ於ル外交團中ノ年長者タルノ故ヲ以テ當會議ニ於ル列國政府ノ代表者ニ選定サレシカ、今此両代表者ヨリネゼルランドノ代表者クレマー氏ハ衆代表者中ノ年長者タルカ故ニ、本會議ノ議長ニ推選致シタシト發言セシニ滿場一致ヲ以テ可決シタリ、此ニ於テカクレマー氏ハ起チテ一場ノ演說ヲ爲シタリ、其演說ノ大意ニ曰ク本會議ハ之ヲ第一回ノ會議ニ比較スレハ大ニ輕ク且ツ易キヲ覺ヘスンハアラス、是レ他ナシ、第一回會議ニ於テハ阿片、「コカイン」、「モルヒネ」等ノ誤用ヨリ生スル萬國的問題ヲ解決スヘキ原理ヲ構成センカ爲メニ種々ノ困難アリシト雖モ、本會議ニ至リテハ然ラハ、其議事ハ僅カニ承認問題ニ過キサレハナリ、

既ニシテネゼルランド國女皇陛下ヘ電報ヲ以テ本會議開會ノ旨ヲ上奏シ、エム、デ、マレース氏ヲ本會議ノ名譽會長ニ推選シ、書記數名ヲ任命シ、其他本會議ニ關スル公式ノ用語ハ佛蘭西語ト定メラレタリ、但シ其他ノ國語ヲ用フルモ妨ケナシトセリ、故ニ本會議ノ公式ニ關スル諸報告ハ佛文ニテ御承知アランコトヲ乞フ、尤モ書記ノ好意ヲ以テ英文ニ譯シタルモノハ非公式タランノミ、斯クテ習日午後ニ開會スル旨ヲ告ケテ此日ハ閉會シタリ、

第二次ノ會議ニ於テ正式ニ從ツテ夫々報告ヲ爲シタル後、代表者中ヨリ選拔シテ編輯委員會及印刷委員會ナルモノヲ組織シ、玆ニ初メテ實際本會議ノ事業ヲ開始スルニ至リタレハ、議長ハ會議ノ規則第二十三條ノ規定ニ從ツテ、阿片會議ノ決議事項承認ノ事ヲ確カムヘキ旨ヲ告ケ、先ツ其手續トシテ參列セル列國ノ頭字ノ『エ、ピ、シ』順ニ從ツテ其政府々々ノ意見カ直チニ之ヲ承認スルニアルヤ否ナヲ述ヘラレンコトヲ要スト述ヘラル、

右ニ就キ八ケ國ノ代表者カ我々ノ政府ハ無條件ニテ之ヲ承認スル意見ナリト宣言シタリ、即チ支那。古斯太利加。丁抹。エコードル。伊太利。ルキセンバーグ。暹羅及西班牙是レナリ、中ニ就テ伊太利ノ代表者ノ説明ニ曰ク我政府ノ承認ト云ヘルハ、エリースレー。ソマリランド。トリポリー及シレン等ノ植民地ヲモ包含セルモノナリ、

日本ノ代表者信夫君宣言シテ曰ク我政府ハ阿片會議ノ主意ニ就テ異論ナキモノ故固ヨリ之ヲ承認スルノ意見ヲ有セリ、

七箇國即チ白耳義。ブラヂル。智利。ハヰチ。墨士哥。ネゼルランド及亞米利加合衆國ノ代表者ノ宣言ニ曰ク、我々ノ政府ハ之ヲ承認セント欲スルノ意見ナルモ、法律上立法部ノ許諾ヲ得サルヘカラス、

三箇國即チ亞爾然丁共和國。古倫比亞及ドミンカン共和國ノ代表者ハ此議席ニ列セサリキ、本會議ヲ組織スルハ都合二十四箇國ナルカ、其内右ニ掲ケ來レル列國ヲ除キタランニハ、自餘ノ國ハ僅カニ五ケ國ニ過キス、然レトモ其内ニハ日耳曼。佛蘭西。大不列顛及葡萄牙ノ如キ著明ナル國々ナルカ、此等ノ國ノ代表者ハ種々樣々ノ理由ノ下ニ目下差シ當リノ所阿片會議ノ決議事項ヲ承認スルヲ欲セサル旨宣言シタリ、

佛蘭西ノ代表者其意見ヲ述ヘテ曰ク、我政府ノ意見ノアル所ヲ説明センニ、佛蘭西本國丈ケニ關シテハ彼ノ阿片會議ノ決議事項ヲ承認スヘキ意嚮ナリト雖モ、海外ニ於ル佛領印度支那ニ至リテハ然カスル能ハサル事情ノ存スルアリ、我政府ハ一面ニ於テハ或ル國ノ最後ノ決心如何ヲ見定メント欲スルノ所存ナリ、所謂ル或ル國トハ阿片及「コカ」ヲ著シク産出スル地ニシテ、尚ホ未タ彼ノ決議事項ニ調印シ居ラサルカ故ニ我政府ハ此等ノ國ノ最後ノ決心如何ヲ見定メント欲スルモノナリ、又タ我政府ハ其他ノ一面ニ於テハ支那政府ノ態度如何ヲ仔細ニ視察セント欲スルモノナリ、支那政府ハ阿片ノ耕培ヲ禁遏シ又タ支那ト佛領印度支那ト隣接セル境土ニ於テ阿片ノ密賣買ヲ防止セント宣告シタリシカ、其宣言ハ如何ナル程度マテ之ヲ實行シ得ルヤヲ精密ニ見極メント欲スルモノナリ、其後ペレット氏ハ第四回目ノ會議ニ於テ前述シタル意見ノ追加トシテ本國政府ヨリノ電報文ヲ朗讀シタリ、其大意ニ曰ク彼ノ支那ト佛領ト隣接セル地方ニ於テ尚ホ阿片ノ密賣買行ハレ居ル有樣ナレハ、印度支那地方ハ目今ノ所彼ノ決議事項ニ調印スルコト能ハス、然レトモ支那政府ト協商謀議シテ阿片ノ使用ヲ防止スルニ就テ適當ノ處置ヲ取ラント欲スル所存ナリト、佛蘭西政府カ極東ニ於ル其所領ノ爲メニ右ノ如ク宣言シタルハ、畢竟スルニ止ムヲ得サルニ出テタルモノト思ハル、是レ吾人カ承認セント欲スル意見ヲ有スル列國中ヘ、佛蘭西國ヲ加フルコトヲ躊躇シタル所以ナリ、

日耳曼ノ代表者ムーラー氏ハ先ツ第一回ノ阿片會議ノ案内ヲ受ルモ代表者ヲ派遣セサリシ國々ヲシテ彼ノ決議事項ニ調印セシムヘキ理由、及既ニ調印シタルモノヲシテ更ニ承認セシムヘキ理由ヲ述ヘテ後自家ノ意見ヲ宣言シテ曰ク、日耳曼政府ハ彼ノ決議事項ヲ承認スルハ列國中利害ノ關係アル一小部分ニ過キサルナリ、斯クテハ到底充分ノ目的ヲ達スルコト能ハスト思惟スルノ外ナシ、故ニ遺憾ナカラ目下ノ所阿片會議ノ決議事項ヲ承認スルコト能ハス、

既ニシテ英國政府ノ阿片會議ノ決議事項承認ニ關スルノ意見如何ト訊問サレタルニ依リ、吾人ハ閣下ヨリ賜ハリシ御訓諭ノ主意ニ基キテ左記ノ如ク宣言シタリ、曰ク我英國政府ハ目下差シ當リノ所彼ノ決議事項

ヲ承認スルコト能ハス、或ル國即チ墺太利匈牙利。諾威。ペーリウ及瑞西ノ如キハ尚ホ未タ調印セス、是レ畢竟スルニ「モルヒネ」及阿片ヲ東邦ヘ輸出スルコトヲ禁遏スル方策ノ影響如何ヲ知ラサルニ歸センノミ、其他調印シタル列國ノ領内ニ於テ問題ノ藥品ノ製造及賣買等ニ關シテ極メテ嚴重ナル取締法カ勵行サレタランニハ、自然ノ結果トシテ調印セサル國ニ於テ此等ノ藥品ヲ製造スル工場カ新設サレ、或ハ之ニ關スル從來ノ工場カ一層盛ンニナルヘキナリ、是レアリ得ヘカラサルコトニハアラサルナリ、且ツ其上調印セサル國ハ如何ナル制裁ヲモ受ルコトナクシテ、此等ノ藥品ヲ自國ヘ輸入スルコトヲ得ヘク、又タ其海港ヨリ東方地方ヘ向ケテ此等ノ藥品ヲ密輸出スルコトヲ得ヘキナリ、蓋シペーリウ國ノ阿片會議ニ贊同セサルハ是レ取リモ直サス「コカイン」取締規則ヲ無効ニ歸セシムルニ足ランノミ、事既ニ斯クノ如クナルカ故ニ我英國政府ハ終ニ左記ノ如キ結論ヲ爲スニ至リタリ、曰ク「モルヒネ」及「コカイン」ヲ製造シ若クハ製造スルカ如クニ見做サル、國々ハ一ヲモ餘サス、悉ク皆ナ阿片會議ノ決議事項ニ贊同セシメサルヘカラス、否ラスンハ「モルヒネ」及「コカイン」ノ密賣買ヲ禁遏スルノ方策ヲ勵行スルコト能ハサルナリ、故ニ我英國政府ノ意見ニテハ列國ヲシテ彼ノ決議事項ヲ承認セシムヘキ事ハ左マテ急ヲ要スヘキモノニアラス、好シ承認セシメタカラトテ其承認シタル事ヲ實行スルコト能ハサルヲ如何セン、今第一ニ着手スヘキ緊急事件ト云ヘルハ既ニ調印シタル列國ヲシテ協同一致セシメ以テ種々ノ理由ノ下ニ調印スルコトヲ嫌忌シ、或ハ躊躇決セサル國々ヲシテ一ヲ殘サス悉ク皆ナ調印セシムヘキ樣力ヲ盡サシメンコト是レナリ、又タ或ル國ヨリ調印ヲ嫌忌スル回答ヲ寄セタルヲ篤ト調査スルニ、是レ畢竟スルニ阿片會議ノ目的主意ヲ誤解シタルニ基カスンハアラス、蓋シ此等ノ誤解ハ充分ニ說明ノ勞ヲ取リタランニハ自カラ氷解スルニ至ランノミ、吾人カ斯ク開陳スレハトテ我國政府ハ決シテ承認スルコトヲ嫌忌スルノ意ヲ有スルモノニアラス、只タ承認スルコトヲ延期セント云フニ止マレリ、我英國政府ハ時期到來次第出來得ヘキ丈ケ速カニ承認センコトヲ欲スル旨ヲ述ヘ、且ツ御訓諭ノ趣旨ニ則トリ本會議ニ參列シタル列國互ニ協同一致シテ、種々ノ理由ノ下ニ尚ホ未タ調印セサル國々ヲ勸誘シテ調印セシムヘキ樣力ヲ盡シ居レリ

葡萄牙ノ代表者宣言シテ曰ク我政府ノ承認ハ他ノ政府ノ調印ヲ俟チテ然ル後ニ決セサルヘカラス、既ニ調印シタル列國ハ人生ノ德義仁道ヲ重ンシテ自國經濟上ノ利益ヲ犧牲ニ供シタリト自カラ證述シタリ、然レトモ或ル國々カ斯ク利益ヲ犧牲ニ供シタルカラトテ、他ノ國モ亦タ之ニ傚ハサルヘカラストノ理由アルナシ、即チ阿片、「モルヒネ」及「コカイン」ノ賣買ヲ爲シテ利益ヲ得ヘキ國ヲシテ其利益ヲ失ハシムヘキ理由アルナシト信ス、

露西亞ノ代表者其意見ヲ說明シテ曰ク我政府ハ目下差シ當リノ所彼ノ決議事項ヲ承認セサル意見ナリ、而シテ之ヲ承認セサル理由ハ先キニ述ヘラレタル英國代表者ノ意見ト同一ナリト御承知アランコトヲ乞フ、此ニ至リテハ議場何トナク混亂ノ狀況ヲ現出セリ、是レ他ナシ、本會議ニ參列シタル列國ノ大多數ハ彼ノ決議事項ヲ承認セントスルノ意見ナリト雖モ、之ヲ承認セサル國ナクンハアラス、承認セサル國ハ小數ナレトモ皆ナ是レ著名ナル國ニシテ何シロ目下差シ當リノ所承認スルコト能ハスト宣言シタレハナリ、此時ニ際シテ議長ハ自己ノ意見ヲ吐露シテ曰ク、苟クモ承認セント欲スル意志アル列國政府ハ他政府ノ然カク

決心スルマテ待ツヲ要セス、須ラク承認スルノ手續ヲ結了セラルヘキナリ、然レトモネゼルランド政府カ彼ノ規則第二十三條ノ規定ニ從ツテ彼ノ決議事項ニ調印セラレンコトヲ要求シタリシニ、之ニ對シテ何タル正式ノ回答ヲモ爲サスシテ、却ツテ承認ノ手續ヲ爲サントセラル、向アリ、斯ル政府ニ對シテハ本會議ニ於テ何トカ議決スルニアラスンハ、ネゼルランド政府ニテハ如何トモ處分スルコト能ハサルナリト、斯クテ第四回ノ會議ニ於テ滿場一致ヲ以テ此問題ヲ結了スルコト、ナレリ、即チ先ツ調印セサルモノニテモ直チニ承認スルコトヲ申シ出テ妨ケナキコト、ナレリ、事既ニ斯クノ如クナルカ故ニ既ニ調印シタル國ニシテ承認セント欲スル意志アルモノハ海牙ニ於テ承認ノ手續ヲ結了スヘク、又タ調印セサルモノモ承認ノ事ヲ申シ出ルヲ得ヘキナリ、

再ヒ第二回ノ會議ニ立チ返リテ聊カ述ル所アラントス、即チ此會議ニ於テ代表者ノ全部カ直チニ承認スル事ノ出來得ヘキヤ否ナニ就キテ其政府々々ノ意見ヲ宣言シタル後、議長ノ發議ニ從ツテ或ル非公式ノ協議會ヲ開キタリ、抑モ此協議會ナルモノハ大不列顛。佛蘭西。日耳曼。ネゼルランド。露西亞及亞米利加合衆國都合六箇國ノ代表者ヨリ組織セラル、モノニシテ、其目的トスル所如何ト云フニ、英國代表者ノ發言カ本會議ノ採用スル所トナリタルニ依リ、此等ノ六ケ國カ互ニ協同一致シテ是レマテ種々ノ理由ノ下ニ彼ノ決議事項ニ調印セサリシ國々ヲシテ調印セシムヘキ手段方法ヲ講究セント欲スルニアリ、即チ非公式ノ集會ニシテ此等ノ各代表者カ其手段方法ニ就テ互ヒニ意見ヲ交換セント欲スルモノ是レナリ、今マ吾人ノ意見ヲ以テスレハ此事タルヤ本會議中ノ最モ重要事件ト云ハサルヘカラス、故ニ當ニ六箇國ノ代表者ノ協議ノミニ止マラス、此協議ノ結果ヲ具體的成案トナシテ全會議一致ノ賛同ヲ得サルヘカラス、實ニ此問題ハ本會議ノ價値効力ノ繫ル所ト謂ツヘキナリ、故ニ此問題ニ就テハ歐羅巴列國互ニ結ンデ一團體トナリ、且ツ南米諸國殊ニペーリウヲ合同セシメ、以テ全會議一致トマテ行カサルモ責メテ大多數ヲ得セシメサルヘカラス、而シテ此問題ニ就テ六箇國ノ代表者ハ云フヲ要セス、他ノ代表者ニ考慮スヘキ充分ノ時ヲ與ヘンカ爲メニ、活版摺ニシタル主意書ヲ配布シテ會議ヲ二日間休憩スルコト、ナシタリ、

右ノ如ク六箇國ノ代表者カ非公式ノ協議會ヲ開キテ議決シタル結果、即チ問題ノ目的ヲ達スルニ就テ各々懷抱スル所ノ最良法ヲ吐露シ、以テ其適當ナルモノヲ採リテ具體的ニ編成シタリ、其詳細ナルコトニ至リテハ會報ニ依テ御一覽アランコトヲ乞フ、斯クテ此問題ヲ解決センカ爲メニ吾人ハ先ツ第一着手ニ如何スヘキヤト云フニ、尙ホ未タ調印セサル各國政府ヨリ如何ナル回答ヲナシ來リシヤヲ調査セシト欲ス、即チ其回答ナルモノハネゼルランド政府ヨリ回送サレタルモノ是レナリ、而シテ其回答ノ意味カ(一)阿片會議ノ主意及規定ノ誤解ニ基ツケル形跡ナキカヲ視察シ、(二)果シテ誤解ノ形跡アリタラン塲合ニハ如何ナル方法手段ヲ回ラシテ之ヲ融解スヘキヤ講究セント欲スルモノナリ、

調印セサル十二箇國ヨリ差シ越シタル回答ノ概要ハ會報開卷第一ニ記載シアレハ之ニテ御一覽アランコトヲ乞フ、然レトモ瑞典ニ係ル一事ニ就テハ左ニ申シ上ケ候、同國ヨリノ回答ハ好シ正シト云フト雖モ尙ホ未タ完タシト云フヲ得ス、吾人カ非官邊ヨリ得タル報告ニ據レハ瑞典ノ態度ハ墺太利伊太利及諸威ノ其レノ如ク先ツ新タニ法律ヲ設クルノ必要アリト假定シタルニ基ケルモノ、如シ、

吾人ハ以上ノ十二箇國ヲ三團體ニ大別シテ夫々論述セント欲ス、

一、此團體ニ屬スル列國ハ實際彼ノ追加議案ニ調印スルコトヲ嫌忌スルモノニアラスシテ、兎ニ角阿片會議ノ決議案ニ對シテ速カニ調印スルコト能ハスト辨明セリ、而シテ其理由トスル所ハ之ニ調印センニハ新タニ法律ヲ設ケサルヘカラス、新法律ノ制定セラル、マテハ調印スルコトヲ得スト云フニアリ、墺太利匈牙利。諾威及瑞典ノ三箇國ハ此團體ニ屬ス、

二、之ニ屬スル國ノ調印ヲ嫌忌シタル理由ニ曰ク、阿片、「モルヒネ」及「コカイン」ノ製造及販賣ニ就テハ既ニ我國ノ法律ヲ以テ最モ嚴重ニ取リ締リ居レリ、故ニ我國ノ賛同ハ實際不必要ナリト、此團體ニハ獨リ瑞西アルノミ、

三、(イ)、何タル理由ヲモ附セスシテ單ニ調印スルコトヲ嫌忌シタル國ヲ希臘及土耳其トシ、(ロ)、調印スルコトヲ約束シナカラ實際然カセサル國ヲブルガリア及ウルガヰトシ、(ハ)、調印問題ニ就テハ考慮中ナリト回答シ置キテ尚ホ何レトモ決答セル國ヲルーマニアトシ、(ニ)、全ク回答セサル國ヲモンテネグロ。ペーリウ及セルヴ＃アトス、

斯クテ會議ハ左ノ如キ事ヲ議定シタリ、曰クネゼルランド政府ヨリ右ニ列擧シタル列國ヘ對シテ更ニ照會書ヲ發スヘキ事、但シ其照會書ノ主意ハ既ニ到達シタル回答ノ趣ニ從ツテ夫々多少ノ差異アランコトヲ要ス、

斯クテ吾人ノ意見ニリ之ヲ考フルニ右三團體中ノ第一ニ屬スル墺太利匈牙利。諾威。瑞典ノ三箇國ヘ對シテ、ネゼルランド政府ヨリ發スル照會書ノ主意ハ左記ノ如クニシテ然ルヘキコト、思ハル、曰ク先キニ御回答相成リ候文面ニ據レハ阿片會議ノ規定ニ對シテ調印セント欲セハ、新タニ法律ヲ設ケサルヘカラストノ御主意ニ相見ヘ候カ、抑モ阿片會議ノ主意ハ決シテ左樣窮屈ノモノニ之レナク、直チニ御調印相成リ候テ更ニ妨ケナキ次第ニ御座候、今マ其次第順序ヲ申シ述ヘンカ、先ツ第一ニ之ニ調印シ、次ニ之ヲ承認シ而シテ阿片會議ノ決議事項ヲ愈ヨ實行センハ右承認ヨリ三箇月後ニシテ然ルヘキナリ、又タ阿片會議ノ規定ニ從ツテ法律及規則等ヲ設ケンハ夫レヨリ尚ホ六箇月ノ後ニテ妨ケナカルヘキナリ、蓋シ斯ル法律及規則等ヲ制定スヘキ時日ハ訂盟列國ノ協賛ヲ經テ定メンコトヲ要ス、然ルニ今日ノ實況ヲ視察スルニ既ニ調印シタル列國ノ大半ハ墺太利匈牙利。諾威及瑞典ノ三政府ト同一ナル考慮ヲ有セラル、モノ、如シ、是レ實ニ謂レナキモノト謂ツヘキナリ、

又瑞西政府カ調印スルコトヲ嫌忌サレタル理由トシテ回答サレタル所ヲ視ルニ、是レ畢竟スルニ阿片會議ノ目的主眼ヲ誤解サレタルニ歸セスンハアラス、試ミニ見ヨ各國カ夫々法律規則ヲ設ケテ「モルヒネ」及「コカイン」ノ密賣買ヲ防遏セント欲スルモ、世界萬國カ協同一致ノ步調ヲ取ルニアラスンハ決シテ其効力ナカルヘシ、サレハ瑞西ノ理由トスル所ハ全ク誤解ニ出テタルモノト云ハサルヘカラス、又タ瑞西政府ハ調印セサル理由トシテ聯邦政府及地方官憲ニテ工場ノ監督取締上甚ハタ困難ナリト說明シタリ、斯ル問題ハ第一回ノ阿片會議ニ於テ日耳曼ノ代表者ヨリ提出サレタリシカ、其當時此困難ナル問題ハ衆議ニテ解決セラレタリ、故ニネゼルランド政府カ此意ヲ以テ充分ニ說明スル所アリタランニハ、瑞西政府モ恐ラクハ飜然

トシテ前非ヲ悟リテ調印スルニ至ルヘキナリ、是レ協議會ニ關係セル六箇國代表者ノ意見ノ一致スル所ナリ、

右ニ掲ケタル內第三團體ニ關シテハ吾人ハ左ノ如ク議決シタリ、曰ク此團體中ニ包括セラル、所ノ諸國ノ態度ハ皆ナ是レ同一ニ出テタルモノニアラス、然レトモ何タル格段ナル理由ヲ示サスシテ調印シタルハ皆ナ同一ニ出テタルモノアリ、或ハ調印セント約束シナカラ實際然カク爲サ、ルモノアリ、或ハ阿片會議ノ問題ニ就テ何タル調査ヲモ爲サ、ルモノアリ、又タ全ク何タル回答ヲモ爲サ、ルモノアリ、吾人ハ斯ル諸國ノ政府ニ對シテハネゼルランド政府ヲシテ左ノ如キ處置ヲ取ラシメント欲スルニ過キス、曰クネゼルランド政府ハ此等ノ政府ニ對シテ再ヒ通知ヲ發シ阿片會議ハ貴國政府ノ調印セラレンコトヲ如何ニ熱望シ居ルヤヲ示シ、且ツ貴政府ノ事ヲ等閑ニ付セラル、ハ調印シタル列國カ遂行セント欲スル事業ニ對シテ如何ニ偏見ナルカヲ指示スルコト是レナリ、

吾人ハ閣下ヨリ賜ハリシ訓諭ノ主意ニ基キテ左ノ如キ意見ヲ會議ニ提出シタリ、曰ク此會議ニ關スルネゼルランド政府ノ行動ハ須ラク調印シタル列國ノ協同一致シタル行動ニ依リテ幇助セラレンコトヲ要ス、而シテ此等ノ行動カ本會議ニ依リテ是認セラレタリトセンカ、是レ取リモ直サス海牙ニ參集シタル列國ノ協同一致シタル商議ノ結果トシテ大ニ重キヲ置カルヘキモノナリ、而シテ此等ノ意見ハ會議ニ提出シテ佛蘭西。日耳曼。ネゼルランド。露西亞及亞米利加合衆國ノ各代表者ノ賛同ヲ得タリ、斯クテ此等ノ各代表者ハ左ノ如キ意見ニ一致同意ヲ表シタリ、曰ク未タ調印セサル列國ニ對シテネゼルランド政府ヨリ調印センコトヲ要求スル照會文ヲ發送シタル時、斯ル要求ヲ受ケタル列國ノ首府ニ駐在セル外國使臣中ニ既ニ調印シタル列國ノ使臣アラハ、此等ノ使臣ヲシテ該國ノ調印スル事ニ就テ斡旋ノ勞ヲ取ラシメンコトヲ要ス、是レネゼルランド政府ノ照會事件ヲ一層重カラシムル所以ナリ、此ニ於テカ既ニ調印シタル列國ノ使臣ニシテ彼ノ調印ノ催促狀ヲ受ケタル國ニ駐在セル者ヘ斡旋ノ勞ヲ取ランコトヲ要求スヘキモノトス、而シテ此等ノ文案ノ起草ハ本會議ノ編輯委員會ヘ一任スルコト、ナレリ、

右ノ如ク六箇國ノ代表者ノ定メタル決議案ナルモノハ列國ノ代表者全部ヘ回送シタル後、第三回ノ集會ニ於テ正式ニ從ツテ本會議ニ提出シタリシカ、滿場一致ヲ以テ歡迎セラレ更ニ異論ヲ唱フルモノナク直チニ可決セラレタリ、

斯クテ吾人ハ第三回ノ集會ノ劈頭ニ於テ支那代表者ノ一人ナルドクトル、ウージン、テー氏ノ爲シタル演說ニ對シテ、注意ヲ拂フヘキ價値アルモノト信ス、即チドクトル、ウー氏ノ爲シタル演說ノ主意ヲ述レハ概ネ左ノ如シ、曰ク凡ソ阿片會議ノ決議事項ニ調印シタル列國ハ皆ナ速カニ承認セラレンコトコソ願ハシケレ、支那政府ハ彼ノ決議事項ニ調印セシ以來阿片取締上ニ關スル方法手段ヲ施コシテ好結果ヲ奏シタルコトハ事實自カラ證明スル所ナリ、殊ニ阿片會議ノ決議條項タルヤ支那國ニ適用スヘキモノ居多ナレハ、支那國ハ極メテ速カニ承認スルノ必要ナクンハアラス、且ツ阿片會議ノ規則第十八條ノ規定ヲ見ヨ、支那ニ於ル外國ノ租借地、殖民地及居留地等ニ現存セル生阿片若クハ精製阿片ノ販賣店ヲ減少セシムヘキ手段方法ニ關シ、其他此等ノ箇所ニ於ル阿片小賣商業取締法ニ關シテハ、列國ハ須ラク支那政府ト協商シテ同

一ノ歩調ニ出テンコトヲ要ストアルニアラスヤト、且ツ同氏ハ上海ノ萬國殖民地及天津ノ佛蘭西居留地等ニ現行セラレツヽアル阿片商業ノ實例ヲ掲ケ來リテ、阿片取締規則ノ片時モ忽ニセニハヘカラサル所以ヲ述ヘタリ、吾人ハ支那政府カ阿片政策ニ關シ如何ニ熱心切實ナルヤヲ斯ク證明セリト雖モ、或ハ之ヲ確認シ或ハ之ト論爭スヘキ地位ニアラサルナリ、支那代表者ノ斯ル所說ヲ耳ニシタルヨリ吾人ハ單ニ左ノ如キ意見ヲ述ヘンノミ、曰ク既ニ調印シタル列國政府ノ取ルヘキ行動ハ、彼ノ決議事項ノ承認及實行期ヲ俟ツヲ要セス、自カラ善シト信スル方向ヲ指シテ進ンテ可ナリ、

是レマテ調印セサル列國政府ヲシテ調印セシムヘキ方法手段ヲ取ラントノ決議案既ニ採用セラレタル以上ハ、本會議ノ重モナル事業ハ既ニ成シ遂ケラレタルモノト謂ツヘキナリ、好シ自餘ノ議スヘキ事アリトスルモ畢竟スルニ是レ瑣々タル細末ノ事ニ過キサルノミ、然レトモ議長ノ述ヘラレタル所ニ從ヘハ稍ヤ重要視セラル、問題ナクンハアラス、曰ク彼ノ尙ホ未タ調印セサル列國政府ヘ對シテネゼルランド政府ヨリ調印セラルヘキ樣夫々照會狀ヲ發スヘキコトハ既ニ一定シタル所ナルカ、然ルニ若シ斯ル手續ヲ爲シタルニモ拘ラス好結果ヲ奏セサル塲合、即チ斯クテモ尙ホ且ツ或ル政府カ調印スルコトヲ嫌忌シタル塲合アラハ如何、斯ル塲合ナシトモ測リ知ルヘカラス、サレハ既ニ調印シタル列國側ニ於テ斯ル塲合ニ際シテ如何ニ處分スヘキカヲ豫カシメ決定シ置クノ必要ナクンハアラスト、斯ル議長ノ意見ニ就テ種々議論生シタリシカ、中ニ就テ支那代表者一ノ意見ヲ述ヘテ曰ク、吾人カ召集サレタルハ阿片會議規則第二十三條ノ規定ニ據ルニアラスヤ、サレハ今日吾人ハ彼ノ決議事項承認如何ノ問題ニ就テハ、積極的カ消極的カ二者ノ中何レヲカ擇ヒ採ルノ責任アリト云ハサルヘカラス、然ルニ代表者中或ハ承認スヘシト宣言シ或ハ承認スルコトヲ得スト宣言シ其意見個々別々ニシテ、尙ホ未タ纏マリタル決定ヲ見ルニ至ラス、斯クテハ吾人尙ホ未タ第二十三條ニ規定サレタル吾人ノ責任ヲ盡シタルモノト云フヲ得ス、兎ニ角目下ノ所ニテハ既ニ議決シタル主意ニ從ツテ速カニ尙ホ未タ調印セサル列國ヘ調印ノ催促狀ヲ差シ出サヽルヘカラス、而シテ此等ノ列國ヨリ回答ノ來ルマテ會議ヲ延期シテ然ルヘシト、合衆國ノ首席代表者ドクトル、ハミルトン、ラヰト氏ハ右支那代表者ノ所說ニ贊成シ且ツ彼ノ調印勸誘狀ノ結果カ何トカ確カメ得ラル、マテハ決シテ本會議ヲ解散セサルコトヲ望ム旨ヲ述ヘタリ、然レトモ斯ル發言ハ代表者過半數ノ意見ニテ破ラレタリ、蓋シ此際列國カ承認スヘキ態度ヲ示セルコトハ既ニ充分取リ調ヘラレタリ、且ツ是レマテニ調印セサル列國ノ回答ヲ得ルマテ待タント云ヘル說ハ支那、亞米利加等ニシテ少數ニ過キサルハ明ラカナル事實ナリ、又タ調印セサル列國中ニハ戰爭ニ關係シテ他事ヲ顧リミルニ餘地ナキモノモ之レアリト知ルヘシ、

而シテ今マ吾人ハ左ノ如キ意見ヲ述ヘント欲ス、曰ク彼ノ第二十三條ニ規定サレタル事柄ハ既ニ事實ノ上ニ表明セラレタルモノト云ツヘキナリ、試ミニ見ヨ既ニ調印シタル列國ハ他ニ調印セサルモノアルニ係ラス、互ニ相會合シテ承認シ得ヘキヤ否ヤヲ調査シタリシナリ、故ニ第二十三條ノ規定ハ最早成シ盡サレタルモノト謂ツテ妨ケナカルヘシ、此ニ於テカ第二十三條ヲ改正スルカ或ハ其意義ヲ一層擴大ニスヘキ必要起ラスンハアラス、乃チ吾人ハ左ノ如キ決議案ヲ提出シタリ、曰ク、

既ニ滿塲一致ヲ以テ議定サレタル終結議案ナルモノヲ編輯委員會ヘ回シテ第四回ノ集會ヘ提出セシムル

コト、シ、且ツ第二十三條ノ規定ヲ改正セント欲ス、抑モ此改正ノ主意タルヤ彼ノ決議事項ニ調印シタル多數ノ列國ト否ラサル若干數ノ列國トニ適應セシメント欲スルモノ是レナリ、

斯クテ吾人ノ提出シタル決議案ナルモノハ或ル討論ノ後採用セラレタレハ、之ヲ具體的成案タラシメンカ爲メニ編輯委員會ノ方ヘ回送スルコト、ナシ、同委員會カ其責任ヲ果スマテ休會スルコト、ナリタリ、

右編輯委員會ナルモノカ彼ノ終結議案ヲ編成スル理由如何ハ第四回ノ集會ニ於テ、同委員會々長デウハンター氏カ充分ニ能ク說明シタリ、但シ此終結議案ノ主意ハ豫シメ之ヲ印刷ニ付シテ第四回ノ集會開會前各代表者ノ手元ニ送付シ置キ熟讀セシムルノ餘地ヲ與ヘタリ、

右第四回ノ集會ニ於テ支那代表者ヨリ一ノ決議案ヲ提出シタリ、即チ其主意ハ左ノ如シ、

『當第二回萬國阿片會議ニ參列シタル各代表者ハ銘々本國政府ヲシテ承認セシムヘキ樣忠告センコトヲ要ス、』

右決議案ナルモノハ是レヨリ先キ既ニ各代表者ノ許ヘ送付サレタルモノナリ、吾人ハ之ヲ見テ逸早ク內々支那代表者ニ向ツテ注意スル所アリタリ、其大意ニ曰ク斯ル決議案ニ對シテ或ル代表者ハ不同意ヲ唱フヘシ、又タ既ニ承認センコトヲ宣言シタル政府ニ取リテハ全ク贅タルニ過キサルヘシ、尙ホ且ツ其他ノ國ノ有樣ニ就テ之ヲ云ハンカ、其國ノ代表者カ既ニ其政府ノ訓令ニ基キテ我政府ハ目下差當リノ所彼ノ決議事項ヲ承認スルコトヲ得スト宣言シ、其後政府ノ決心ヲ動カスニ足ルヘキ事件起リタルニアラスンハ、其前說ヲ飜カヘスコト能ハサルヘシト、支那代表者ハ吾人ノ忠言ヲ容レテ右決議案ヲ撤回シ、更ニ一ノ決議案提出ノ動議ニ同意スヘキ旨ヲ述ヘタリ、即チ其決議案ナルモノハ既ニ前ニモ述ヘタルカ如ク『今日ノ場合ニ於テ彼ノ決議事項ヲ承認スヘキ事ヲ決定シ置カン』トノ主意ナリシカ、滿場異議ナク可決シタリ、

次ニ編輯委員會ヨリ阿片會議規則第二十三條ノ修正案ヲ提出シタリ、其修正案ヲ擧レハ左ノ如シ、

『本會議第二十三條第一項ノ規定ニ從ツテ調印センコトヲ促カサレタル列國ニシテ一千九百十三年十二月卅一日マテニ調印セサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハネゼルランド政府ハ直チニ既ニ調印シタル列國ヘ對シテ代表者ヲ選定シ之ヲ海牙ニ派遣シテ一千九百十二年一月廿三日ニ於ル萬國阿片會議事項實行ノ能否ヲ調査セシメンコトヲ要ストノ通牒ヲ發スヘキモノトス、』

編輯委員會々長エム、ヴァン、デヴェンター氏此修正ニ就テ說ヲ述ヘテ曰ク、本來規則第二十三條第二項ニハ調印スヘキ期間ヲ一ケ年間延ハスコト、ナリ居リ、且ツ本年末ニ至ルモ調印ヲ促カサレタル列國ニシテ調印セサル場合ニハ、承認ノ能否ヲ調査センカ爲メニ、更ニ會議ヲ召集センコトヲ要ストアリシカ、此承認問題ハ既ニ落着シタルカ故ニ、彼ノ決議事項實行ノ能否ヲ調査センカ爲メニ會議ヲ召集センコトヲ要スト、是レ同條修正ノ要點ナリ、

右修正說ニ關スル討論中支那代表者ドクトル、ウー、レン、テー氏一ノ意見ヲ述ヘテ曰ク調印スヘキ期間ヲ六ケ月トスルハ餘リニ長キニ失スルカト思ハル、故ニ之ヲ短縮シテ一ケ月間乃至二ケ月間トナサンコトヲ要スト、然レトモ代表者中此意見ニ贊成スルモノ一人モ之レナキヲ以テ自然消滅ニ歸シタリ、

右編輯委員會ヨリ提出セラレタル規則修正議案、其他ノ議案整理ニ關スル件等皆ナ是レ既ニ議場ノ採用ス

・ル所トナリ、而シテ終結議案ハ滿場異議ナク通過シタリ、

斯クテ七月九日第五回ノ集會ヲ開催セシカ、是レ取リモ直サス最終ノ會議ニシテブラヂル及古倫比亞ノ一代表者ヲ除クノ外代表者全部カ終結議案ニ調印シタリ、但シ右二代表者ハ萬止ヲ得サル事故アリテ缺席シタルニ過キサルカ故ニ、其後二者共ニ調印シタリ、

佛蘭西ノ代表者エム、ベレット氏及亞米利加ノ代表者ロ井ド、ブラキス氏ハ共ニ簡短ナル演說ヲ爲シタリ、其演說ノ主意ハ訂盟列國ヨリネゼルランドノ女皇陛下ニ對シテ感謝ノ意ヲ表シ奉ル事、懇篤ナル待遇ニ對シテネゼルランド政府ノ厚意ヲ謝スル事、其他會務ヲ統治料理スル上ニ於テ熱心、耐忍及公平ナル事ニ對シテ我カ議長クレマー氏ニ謝意ヲ表スル等是レナリ、而シテクレマー氏ハ之ニ答ヘテ會期中諸事都合好ク進行シテ茲ニ無事閉會ヲ告クルニ至レルハ決シテ自分ノ力ニアラス、ネゼルランド外務大臣ニシテ我名譽會頭タルエム、ヴハン、スウヰンドレン氏ノ御指導ノ宜シキヲ得タルニ歸セスンハアラス、

次ニエム、ヴワンス、ウヰンドレン氏ハ簡短ニ挨拶ヲ述ヘテ曰ク、阿片會議ノ目的ヲ達セシムヘキ方針ニシテ著シク進ミタルハ代表者諸君ノ爲メニ賀スヘキナリ、又タネゼルランド政府カ此阿片會議ノ爲メニ新タニ負ハサレタル任務ハ適當ニ之ヲ果サント欲ス、然レドモ其之ヲ果サンニハ既ニ調印サレタル列國ノ幫助ヲ仰カサルヲ得ス、今マ茲ニ謹ンテ本會議ノ閉會ヲ告ク、

今マ淺薄皮相ノ觀察家ノ眼ヨリ之ヲ視ンカ、第二回萬國阿片會議ハ殆ンド何事ヲモ成シ遂ケサリシト云ハンノミ、然レトモ深ク其眞相ヲ觀察シ來リタランニハ決シテ然ラサルヲ視ルヘキナリ、試ミニ第一回萬國阿片會議終末ノ有樣ト今日ノ有樣トヲ比較シ見ヨ、其差異果シテ如何ソヤ、第一回萬國阿片會議ノ終末ニ於テハ阿片、「モルヒネ」、「コカイン」ニ關スル商業取締上ノ決議案ニ調印シタルハ僅カニ十二ケ國ニ過キサリシナリ、十二ケ國ハ斯ク調印セシト雖モ尙ホ且ツ之ト同時ニ左ノ如キ決議ヲ爲スニ至レリ、曰ク此會議ニ參列セサリシ列國少ナカラス、此等ノ列國政府ノ贊同如何ヲ先ツ確カメサルヘカラス、否ラスンハ吾人ハ本會議ノ決議事項ヲ實行スルノ意志ヲ有セサルモノナリト、然ルニ第二回會議ニ於ル今日ノ有樣如何ト云フニ大ニ異ナル所ナクンハアラス、世界列國ノ大半ハ既ニ調印シ內數者ハ承認スヘキ意志アルコトヲ示シタリ、此外尙ホ未タ調印セサル列國政府ノ贊同如何ヲ視ンカ爲メニ承認スルコトヲ延期セント欲シタル列國ナキニアラス、然レトモ此等ノ國ハ僅カニ少數ナルノミ、

第一回萬國阿片會議ノ行動ニ關シテ吾人ヨリ報道シタル中ニ左ノ如キ意見ヲ述ヘ置キタリ、曰ク抑モ阿片會議ノ主義目的タルヤ世界萬國ノ人道德義ヲ重ンセント欲スルノ意ニ出テタルニ外ナラス、即チ彼ノ人生ヲ害スル藥品賣買ノ取締法ヲ設ケント欲スルニ就テハ、或ル格段ナル國カ其臣民ヲ保護スルノミノ手段ヲ以テ足レリトスヘキモノニアラス、斯ル藥品賣買ニ關シテハ萬國共通ノ取締法ヲ設ケサルヘカラス、而シテ斯ル取締法ヲ設ケテ以テ他國ノ行動ヲモ幫助セサルヘカラス、尙ホ其他吾人ハ左ノ如キ事件ノ必要ナルコトヲ認メタリ、曰ク阿片會議ノ主義目的ヲ充分實行セシメント欲セハ、之カ方法手段ニ對シテ世界列國中贊同スルモノ實際幾干アルヤヲ確カムルノ必要之レナリト、然ルニ今日ニ至リテハ列國同意ノ方面ニ於テ長足ノ進步ヲ爲セルモノト謂ツヘキナリ、第二回萬國阿片會議ハ以テ之ヲ證スルニ足ルヘキナリ、

吾人ノ受ケタル訓令ノ主意ハ左ノ如シ、曰ク是レマテ種々ノ理由ノ下ニ未タ調印セサル國アリ、此等ノ國ヲシテ最早猶豫スルコトナク速カニ調印セシムルコトニ力ヲ盡スヘク、既ニ此等ノ國ニシテ調印シタランニハ我政府モ承認スルニ至ルヘキナリ、蓋シ是レマテ調印セサル國ヲシテ調印セシメンニハ、代表者ノ意見ニテ最モ適當ナリト思惟スル方法手段ヲ用ヒテ可ナリ、是レ訓令ノ大要ナリ、而シテ彼ノ終結議案ヲ通覽セラレタランニハ訓令ノ主意カ會議ノ成文トナリテ現出シタルコト自カラ判明スヘキナリ、抑モ我政府カ承認スルコトヲ嫌忌シタルハ代表者ノ多數ヲシテ大ニ失望セシメタリ、是レ事實ナレハ言ヒ替ヘント欲スルモ由ナカルヘシ、然レトモ此事ニ就テ左ノ如ク說明シタリ、曰ク我政府ノ意見ハ畢竟スルニ承認ヲ延期セサルヘカラスト云フニ過キス、單ニ承認ヲ嫌忌スルノ意義トハ異ナル所ナクンハアラスト、

本會議召集後ナルモ實際開會前ニ際シテ智利及ニカラガアハ調印シタリ、又タ開會中ニウルガヰヨリ調印スル意見ナリト申シ來リタレトモ事實尙ホ未タ然カセス、ベーリウノ調印ヲ嫌忌セルハ「コカイン」賣買ノ取締上惡結果ヲ生スヘキ次第ナルカ、恰カモ閉會前ニ際シテ調印シタル旨ネゼルランド政府ヨリ通告シタリ、尙ホ最近ニ至リテ諾威。瑞典ノ兩國モ亦タ調印シタリ、此ニ於テ全ク調印セサル國ハ減少シテ九ケ國トナレリ、即チ墺太利匈牙利。ブルガリア。希臘。モンテネグロ。ロウマニア。セルヴヰア。瑞西。土耳其及ウルガヰ是レナリ、而シテ內六ケ國ハ有害ナル藥品取締法ヨリ尙ホ一層緊急重大ナル問題ニ關係シ居ルハ琨カナル事實ナリ、

エム、ヴヮン、スウヰンドレン氏ハ其最後ノ演說中左ノ如キ事ヲモ述ヘタリ、曰ク阿片會議ノ主義目的タルヤ人生ニ取リテ最モ必要ノ事ナルニ、是レマテ列國政府中或ハ疑團ヲ抱キタルモノ之レアリシカ、今ヤ其疑團モ全ク氷解シタルニ相違ナカルヘシト信ス、且ツ阿片會議ノ主張スル事業ハ所謂ル文明的事業ニシテ最モ廣キ範圍內ニ實現セラルベキナリト、吾人ハスウヰンドレン氏ノ所說カ早晩事實トナリテ現ハルヘキヲ信シテ疑ハサルモノナリ、然レトモ此事業ノ前路ニハ失望障碍等多クアルヘシ、之レハ之ト奮鬪セサルヘカラス、或ル國ノ如キハ彼ノ決議事項ヲ實行スルニ先ンシテ之ヲ承認スルノ必要アリ、或ハ之ニ關スル法律規則ヲ制定スルニ就テ困難ナクンハアラス、結局此等ノ法律規則ヲ實行スヘキ時日ヲ定ムルニ就テ困難アルヘキナリ、兎ニ角斯ル法律規則ノ實施セラル、マテハ尙ホ幾多ノ時日ヲ費ヤサヽルヘカラス、今マ吾人ハ濫リニ樂觀スルヲ好マスト雖モ、責メテ左ノ如キ事ハ之ヲ明言スルヲ憚カラサルナリ、曰ク吾人ハ今マ單ニ進ムアルヲ知リテ退クコト能ハサルノ地點ニ達シタルモノナリ、是レ各方面ヨリ觀察ヲ下シタルノ結果ニ外ナラス、吾人カ斯クノ如ク進ミタランニハ終ニ其大目的ヲ達スルニ相違ナカルヘキナリ、

吾人ハ今マ此報告ノ終末ヲ告ケントスルニ臨ミテ再ヒ茲ニネゼルランド政府ノ一方ナラサル盡力ニ對シテ最モ深ク感謝スル所ナクンハアルヘカラス、蓋シ人道德義ヲ重ンスルヲ主義目的トセル阿片會議開催ニ就テハ、列國政府カネゼルランド政府ニ負フ所決シテ尠小ナラサレハナリ、ネゼルランド政府ハ啻ニ阿片問題討議ノ爲メ吾人ヲシテ一ケ所ニ會合セシムルノ機會ヲ與ヘシノミナラス、彼ノ決議事項ニ調印セシムルノ勞ヲ再ヒ取ルヲ吝マサルニアラスヤ、世界ノ文明列國カ人生ノ安寧ヲ保持スヘキ萬國阿片會議ニ重キヲ置キ、從ツテ之ニ贊同スルモノ益々多キヲ加ヘンハ吾人ノ深ク信シテ亦タ疑ハサル所ナリ、是レ皆ナ誰レノ

賜モノソヤ、世界萬國ハ須ラクネゼルランド政府ニ對シテ最モ深ク感謝スル所ナクンハアルヘカラス、

タブリユー、ヂー、マッキスミウラー

ウキリアム、ゼー、コーリンス



## 第三號

一千九百十三年ニ開催セル第二回萬國阿片會議ノ終結議案、

ネゼルランド政府ハ萬國阿片會議ノ規則第二十三條ノ規定ニ從ツテ第二回萬國阿片會議ヲ召集シ一千九百十三年七月一日海牙ナル「ゼ、ホール、ヲフ、ゼ、ナキト」ニ於テ開會ス、

各國ヨリ選定サレテ本會議ニ參列シタル代表者ノ氏名ヲ掲クレハ左ノ如シ、

日耳曼ノ代表者エム、ハァリッキス、ヴオン、ミユーラー君、君ハ同國ノ樞密顧問官ニシテ海牙會議特命全權大使、

亞米利加合衆國ノ代表者、ドクトル、ハミルトン、ラ井ト君、君ハ同國內務省特別委員ロキド、ブラ井ス君、君ハ海牙會議特命全權大使。グラ井ト、ジョン、コーレン君、君ハ數學博士ニシテホープ大學ノ名譽校長、

亞爾然丁共和國ノ代表者、ドクトル、フランコキス、デ、ヴヘーガ君、

白耳義ノ代表者、男爵アルベリック、フハロン君、君ハ海牙會議特命全權大使、

ブラジル合衆國ノ代表者、エム、ゼー、グラカ、アランハ君、君ハ海牙會議特命全權大使、

智利ノ代表者、エム、ゼオーゼ、フーニウス君、君ハブラッセル及海牙特命全權大使、

支那ノ代表者、エム、エン君、君ハ伯林特命全權大使ニシテ今會議代表者首席。ドクトル、ウー、レン、テー君、君ハ醫學博士(ケムブリッヂ大學)ニシテ外務省醫務局長、

古倫比亞ノ代表者、ロッケルダムノ議官エム、ヒスチェモーラー君、

古斯太利加ノ代表者、エム、マンウル君、君ハ巴里及海牙特命全權大使

ドミニカン共和國ノ代表者、ドクトル、ジョーゼ、ラマルチェ君、君ハ特命全權大使、

エコードルノ代表者、エム、ゼオーゼ、フーニウス君、君ハブラッセル及海牙駐劄智利特命全權大使、

西班牙ノ代表者、エム、マニウル、ガーシア君、君ハ海牙駐劄外交官、

佛蘭西ノ代表者、エム、マーセリン、ペレット君、君ハ海牙會議特命全權大使、

大不列顛ノ代表者、ウ井リアム、クレンフヘル、マッキス、ミウラー君、君ハ大使館ノ評議官。サー、ウ井リアム、コーリンス君、君ハ前ノ倫敦府會議長、

ハイチノ代表者、エム、ステニオ、ヴ井ンセント君、君ハ海牙駐劄外交官、

伊太利ノ代表者、マーキユキス、アレキサンダーコムバンス君、君ハ海牙駐劄外交官、

日本ノ代表者、信夫淳平君、君ハ海牙駐劄外交官、

ルクセンバーグノ代表者、男爵アルベリック、フハロン君、君ハブラッセル及海牙駐劄特命全權公使、

墨土哥合衆國ノ代表者、エム、フレデリコ、ガムボカ君、君ハブラッセル及海牙駐劄特命全權公使、

ネゼルランドノ代表者、エム、ゼー、チー、クレユー君、君ハ前殖民大臣。ネゼルランド商業會議所前所長、州會第一局ノ議員ニシテ代表者ノ首席。ドクトル、シー、デヴハンター君、君ハ州會第一局ノ議員。エム、エー、エー、デ、ジョンフ君、君ハ蘭領印度阿片專賣局ノ前監督長官。ドクトル、ゼー、ヂー、スケウラー君、君ハ州會第二局ノ議員、

葡萄牙ノ代表者、エム、アントニオ、マリア君、君ハ海牙駐劄特命全權公使、

露西亞ノ代表者、エム、エー、スウュツチーネ君、君ハ海牙駐劄特命全權公使。博士スタニスラス、ブリヂビラツク君、君ハ聖伯德斯堡醫科大學ノ校員、

暹羅ノ代表者、フヒア、サッドハム、メートリー君、君ハ倫敦、ブラッセル及海牙特命全權公使。ウヰリアム、ゼー、アーチェアー君、君ハ倫敦及海牙公使館ノ評議員、

斯クテ一千九百十三年七月一日ヨリ開催サレタル本會議ノ進行中、一千九百十二年一月廿三日開會サレタル萬國阿片會議ニ於テ議定サレル規則第二十三條第二項ニ從ツテ夫々起リタル問題ヲ調査シ以テ左ノ事項ヲ議決シタリ、

一、目今夫々承認ヲ與ヘンコトヲ要ス、

二、滿場一致ニテ左ノ決議案ヲ採用シタリ、

一千九百九年上海ニ於テ開催サレタル萬國阿片委員會、及一千九百十二年海牙ニ於テ開催セラレタル第一回萬國阿片會議ニ於テ阿片、「モルヒネ」、「コカイン」及此等ノ物質ヲ原料トシテ製出サレタル藥品ニ關スル取締上ノ事ヲ論議シタリシカ、此等ノ事ニ就テハ世界萬國皆ナ共同一致ノ步調ヲ取ルノ必要アリ、且ツ然カナスコトノ相互ノ利益タルコト一層明カナル事實トナレリ、此ニ於テカ第二回萬國阿片會議ハ前阿片會議等ノ徑路ニ從ツテ進行センコトヲ欲シ左記ノ事ヲ決議セリ、

(一)、ネゼルランド政府ハ墺太利匈牙利。諾威及瑞典ノ三ケ國ニ對シテ左記ノ如キ通知ヲ發センコトヲ要ス、曰ク彼ノ決議事項ニ調印スル事、之ヲ承認スル事、之ニ關スル法律ヲ編成スル事及之ヲ實行セシムル事ハ本會議ノ四大要件ナリトス、故ニ彼ノ追加議案ニ就テハ速カニ調印アランコトヲ乞フ

又タ阿片會議規則第二十三條及二十四條ニハ左ノ如キ事ヲ規定セリ、曰ク阿片會議ニ於テ議定サレタル法律規則等ヲ編成シテ愈ヨ之ヲ實行スルマテニハ尙ホ六ケ月間ノ猶豫ヲ與フヘキ事、且ツ同規則第二十四條第二項ニハ左ノ如キ事ヲ規定セリ、曰ク訂盟列國ハ彼ノ決議事項承認ノ後、之ニ關スル法律制定ノ時日ニ就テ協議ヲ遂クルモ妨ケナキモノトス、尙ホ其他左ノ事柄ニ就テハ注意シ置カサルヘカラス、曰ク墺太利匈牙利、諾威及瑞典ノ三ケ國カ彼ノ決議事項ニ關スル法律ヲ制定スルニ就テハ爾カ〳〵ノ困難ナクンハアラスト豫期シタリシカ、斯ル懸念ハ啻ニ此等ノ三國ノミニ止マラス、既ニ調印シタル各國代表者中ニモ亦タ之レナクンハアラス、即チ訂盟十二ケ國ノ調査問題トナリ既ニ調印シタル列國ノ殆ント全部カ以上掲ケタル諸國ト同一ノ有樣ニアルカ故ニ、議決サレタル方法手段ヲ尙ホ未タ具體的トナスニ至ラス、

(二)、ネゼルランド政府ハブルガリア、希臘、モンテネグロ、ペーリウ、ルーマニア、セルヴヰア、土

耳其、ウルガ井ノ各政府ヘ對シテ左ノ決議案ヲ通知センコトヲ要ス、

『本會議ハ貴國政府ノ決議事項ニ調印スルコトヲ嫌忌セラレタル(若クハ怠リタル)ヲ遺憾トス、今マ本會議ノ意見トシテ之ヲ云ハンニ、貴國政府等ノ斯ク調印セラレサル所以ハ、畢竟スルニ本會議ノ主意ノ人道博愛ニ出テタルヲ知ラサルニ歸セスンハアラス、一タヒ此主意ニシテ御了知相成ランカ、直チニ御調印相成ルヘシ、是レ本會議ノ確信シテ疑ハサル所ナリ、

(三)、ネゼルランド政府ハ瑞西政府ヘ對シテ左ノ如キ事ヲ通告センコトヲ要ス、曰ク阿片會議ニ御贊同相成リ候事ハ貴國ニ取リテ毫モ價値ナシトノ貴國政府ノ御回答ニ有之候カ、右ハ全ク誤解ニ出テタルモノニ外ナラスト存シラレ申候、即チ一千九百十二年十月二十五日附ヲ以テ御差シ越シニ相成リ候貴聯邦議會ヨリ御書面ノ趣右ノ次第ニ御座候カ、今マ本議會ノ意見ニテハ全ク然ラスト考ヘラレ申候、瑞西國ハ阿片會議ニ御贊同下サレ候事ハ最モ必要ナリト云ハサルヘカラス、若シ貴國ニ於テ阿片會議ニ御贊同之レナシトセンカ、好結果ヲ收ムルコト能ハサルヘキナリ、但シ貴聯邦議會ノ御意見ノ如キハ第一回阿片會議ノ際ニモ矢張リ一ノ難問題ト相成リ候ヒシカ、最早今日ニテハ其誤解釋然トシテ氷解致シ候右ノ次第ニ付貴國ニ於テモ御贊同御調印ノ程希上候、

(四)、既ニ調印シタル列國政府ヲ勸誘シテ外國ヘ派遣シアル使臣ニ命シテ右ノ如クネゼルランド政府ノ提供シタル主意ヲ助成セシムヘキ事、

三、左ノ如キ決議ヲ爲シタリ、



規則第二十三條第一項ノ規定ニ從ツテ調印センコトヲ促カサレタル列國ニシテ、若シ一千九百十三年十二月三十一日マテニ調印セサル塲合アリトセンカ、斯ル塲合ニ於テハネゼルランド政府ハ直チニ左ノ如キ處置ヲ取ランコトヲ要ス、曰ク既ニ調印シタル列國ヘ通牒ヲ發シ夫々代表者ヲ選定シテ海牙ニ參集シ一千九百十二年一月廿三日ニ於ル阿片會議ノ決議事項ノ實行如何ヲ調査セシムルコトヲ要求スルコト是レナリ、」

右ハ一千九百十三年七月九日海牙ニ於テ議定サレタル終結議案ニシテ、之ニ參集シタル列國代表者夫々此議案ニ調印シタリ、而シテ此書類ノ本書ナルモノハネゼルランド政府ノ官文書保管所ニ藏メテ永ク保存スルコト、シ、之カ謄本ヲ作成シテ其正確ナルヲ證明シ、外交機關ヲ經由シテ調印シタル及非調印ノ列國ヘ送付スルコト、セリ、今マ之ニ調印シタル列國代表者ノ氏名ヲ擧クレハ左ノ如シ、

日耳曼ノ代表者、

エフ、デ、ムーラー氏、

亞米利加合衆國ノ代表者、

ハミルトン、ラキト氏、

ロ井ド、ブラ井ス氏、

ガーリツト、ゼー、コーリン氏、

亞爾然丁共和國ノ代表者、

フランク、デ、ヴューガ氏、